

令和7年度第3回朝霞市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進会議

次 第

日 時 令和8年3月25日（水）
午前10時から午前11時30分まで
会 場 朝霞市役所 全員協議会室

1 開 会

2 議 題

《報告事項》

(1) 第10期計画策定のための各種アンケート調査の結果について

資料1 第10期 朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けたアンケート調査結果報告書【暫定版】

(2) 第10期計画策定のためのヒアリング調査・ワークショップの結果について

資料2 第10期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に係るヒアリング調査結果概要

資料3 第10期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に係る市民ワークショップ結果概要

(3) 令和8年度における介護保険制度及び高齢者施策の予定について

資料4 令和8年度における介護保険制度及び高齢者施策の予定について

(4) 令和8年度機構改革について

資料5 令和8年4月行政組織機構改革 組織図比較表

(5) 令和8年度のスケジュール及び審議内容について

資料6 令和8年度のスケジュール及び審議内容について

3 閉 会

第10期 朝霞市
高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けた
アンケート調査結果報告書
【暫定版】

令和8年3月

朝 霞 市

目 次

I 調査概要 -----	1
1 調査目的.....	1
2 調査方法及び回答状況.....	1
(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズについてのアンケート調査.....	1
(2) 在宅介護実態調査.....	1
(3) 介護保険第2号被保険者向けアンケート調査.....	2
(4) 在宅生活改善調査.....	2
(5) 居所変更実態調査.....	2
(6) 介護人材実態調査.....	3
3 圏域別回収率.....	3
4 集計上の留意点.....	3
II 調査結果【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】 -----	4
問1 あなたのご家族や生活状況について.....	5
問2 からだを動かすことについて.....	8
問3 食べることについて.....	14
問4 毎日の生活について.....	17
問5 地域の活動について.....	28
問6 たすけあいについて.....	33
問7 健康について.....	45
問8 認知症について.....	50
問9 成年後見制度について.....	60
問10 人生会議（アドバンス・ケア・プランニング／ACP）について.....	65
問11 介護予防について.....	72
III 調査結果【在宅介護実態調査】 -----	78

A票（対象者：介護を受けている方）	79
B票（対象者：介護をしている家族、親族）	90
IV 調査結果【介護保険第2号被保険者】 -----	94
問1 あなたのご家族や生活状況について.....	95
問2 地域の交流について.....	97
問3 あなたが介護をする場合について.....	100
問4 将来、あなたに介護が必要となった場合について.....	114
問5 認知症について.....	115
問6 成年後見制度について.....	125
問7 高齢者福祉の支援等について.....	127
問8 人生会議（アドバンス・ケア・プランニング／ACP）について.....	130
IV 調査結果【在宅生活改善調査】 -----	137
【事業所票】	137
【利用者票】	139
V 調査結果【居所変更実態調査】 -----	146
VI 調査結果【介護人材実態調査】 -----	151
【事業所票】	151
【訪問系職員票】	156

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、令和9年度を初年度とする「第10期朝霞市 高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定するに当たり、高齢者福祉サービス等に対する御意見、ニーズ等の把握を目的に実施したものです。

2 調査方法及び回答状況

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズについてのアンケート調査 (以下「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」という。)

本調査は、市内在住の満65歳以上の方（要介護1～5の方を除く。）の中から、無作為で抽出した5,000名を対象として、高齢者の生活状況や生活支援のニーズなどを把握し、今後の高齢者等支援施策の検討に向けた基本資料を得ることを目的に実施したものです。

調査方法：返信用封筒を同封したアンケート調査票の郵送配布

回答方法：返信用封筒によるアンケート調査票の返送又はWEBによる回答

実施時期：令和7年12月

配布数	回収件数	回収率
5,000件	3,405件（うちweb回答462件）	68.1%

(2) 在宅介護実態調査

本調査は、在宅で生活している直近1年以内に要介護・要支援認定を受けている市内在住の方1,300名を対象に、「高齢者の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続の実現」に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的に実施したものです。

調査方法：①要介護認定者 900件

担当の居宅介護支援事業所のケアマネジャーによる聞き取り

②要支援認定者 400件

返信用封筒を同封したアンケート調査票の郵送配布

回答方法：①担当の居宅介護支援事業所によるアンケート調査票の提出

②返信用封筒によるアンケート調査票の返送又はWEBによる回答

実施時期：①令和7年10月～12月

②令和7年12月

配布数	回収件数	回収率
1,300件	1,056件（うちweb回答27件）	81.2%

(3) 介護保険第2号被保険者向けアンケート調査

本調査は、市内在住の40歳から64歳までの方の中から、無作為で抽出した1,300名を対象として、生活状況や生活支援のニーズなどを把握し、今後の高齢者等支援施策の検討に向けた基本資料を得ることを目的に実施したものです。

調査方法：返信用封筒を同封したアンケート調査票の郵送配布

回答方法：返信用封筒によるアンケート調査票の返送又はWEBによる回答

実施時期：令和7年12月

配布数	回収件数	回収率
1,300件	757件（うちweb回答425件）	58.2%

(4) 在宅生活改善調査

本調査は、居宅介護支援事業者、小規模多機能型居宅介護事業者を対象に、現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者の実態を把握し、地域に不足する介護サービス等を把握することを目的に実施したものです。

調査方法：調査票のメール配布

回答方法：メールによる調査票（Excelファイル）の返送又はFAXによる回答

実施時期：令和7年11月～令和8年1月

配布数	回収件数	回収率
36件	28件	77.8%

(5) 居所変更実態調査

本調査は、介護施設等の事業者を対象に、過去1年間の新規入居・退去の流れや、退去の理由を把握することで、住み慣れた住まい等で暮らし続けるために必要な機能等を検討することを目的に実施したものです。

調査方法：調査票のメール配布

回答方法：メールによる調査票（Excelファイル）の返送又はFAXによる回答

実施時期：令和7年11月～令和8年1月

配布数	回収件数	回収率
34件	30件	88.2%

(6) 介護人材実態調査

本調査は、介護事業者を対象に、介護人材の実態を把握することにより、介護人材の確保に向けた必要な取組等を検討することを目的に実施したものです。

調査方法：調査票のメール配布

回答方法：メールによる調査票（Excelファイル）の返送又はFAXによる回答

実施時期：令和7年11月～令和8年1月

配布数	回収件数	回収率
85件	66件	77.6%

3 圏域別回収率

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び介護保険第2号被保険者向けアンケート調査における圏域（担当地域包括支援センター）ごとの内訳は、以下のとおりです。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では第1圏域、介護保険第2号被保険者向けアンケート調査では第5圏域からの回答が最も多くなっています。

単位：人・%

	第1圏域 (内間木苑)		第2圏域 (つつじの郷)		第3圏域 (モーニング パーク)		第4圏域 (ひいらぎの里)		第5圏域 (朝光苑)		第6圏域 (あさか中央)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ニーズ調査 (3,405人)	576	17.2	562	16.7	569	16.9	558	16.6	560	16.7	536	15.9
2号調査 (757人)	129	17.1	122	16.2	128	17.0	129	17.1	131	17.4	114	15.1

※ニーズ調査…介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、2号調査…介護保険第2号被保険者向けアンケート調査

※圏域不明の回答者：ニーズ調査44人、2号調査4人

4 集計上の留意点

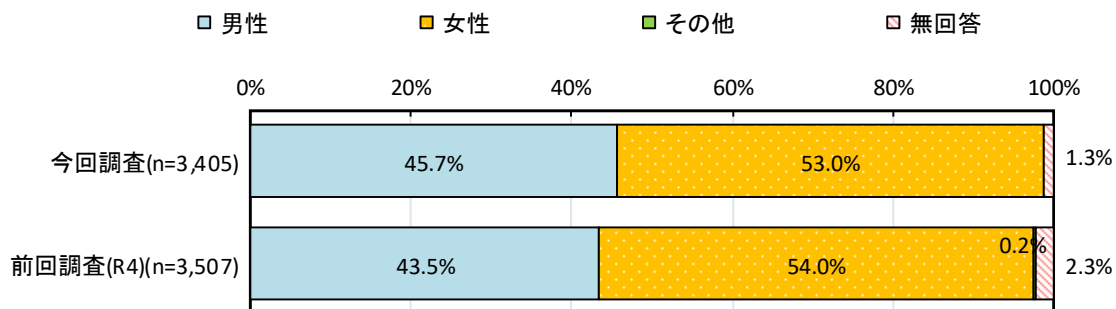
- (1) グラフ中の「n=」は、母数となるサンプル数(回答者数)を示している。
- (2) 集計結果は百分率で算出し、四捨五入の関係上、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の場合は、回答者実数より多くなっている場合がある。
- (4) 回答者が無い場合の設問では一部集計表・グラフを省いている。

II 調査結果【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】

【回答者の属性】

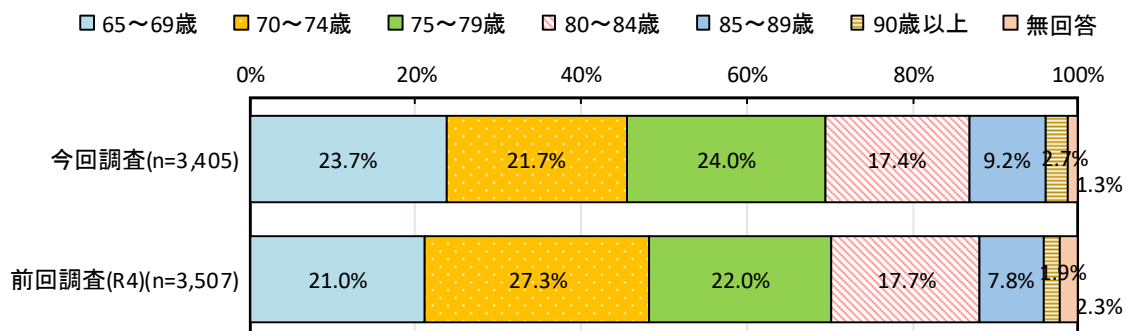
【性別】

全体では、「男性」45.7%、「女性」53.0%となっている。



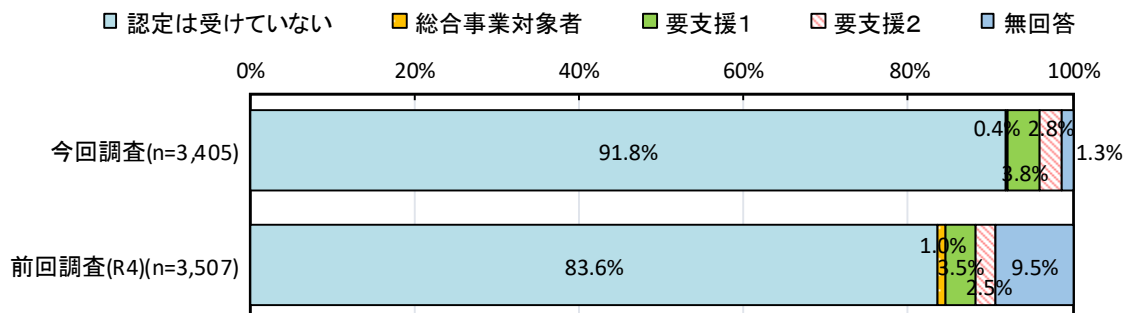
【年齢】

全体では、「75～79歳」24.0%が最も高く、次いで「65～69歳」23.7%、「70～74歳」21.7%となっている。



【要支援認定】

全体では、「認定は受けていない」91.8%が最も高く、次いで「要支援1」3.8%、「要支援2」2.8%となっている。



問1 あなたのご家族や生活状況について

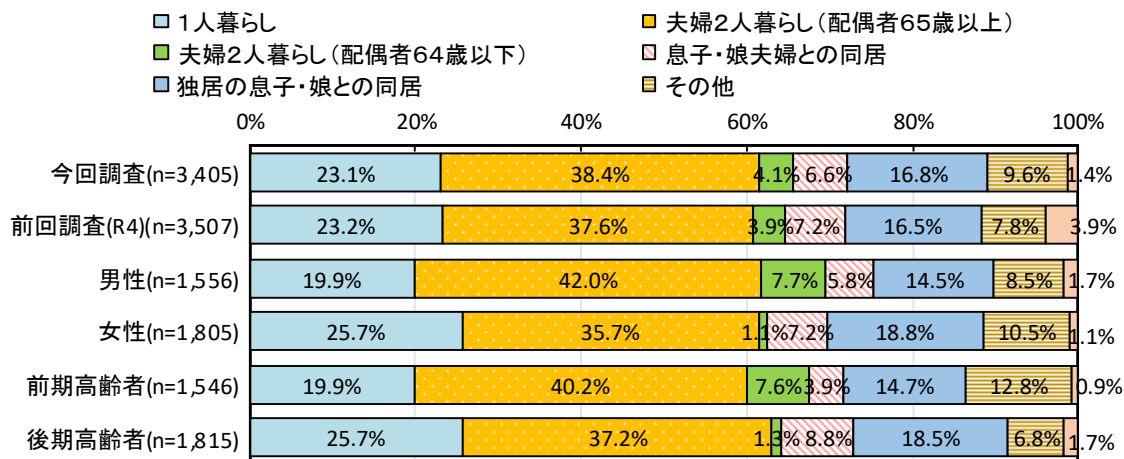
(1) 家族構成を教えてください。(〇は1つ)

全体では、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」38.4%が最も高く、次いで「1人暮らし」23.1%、「独居の息子・娘との同居」16.8%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合は男性42.0%、女性35.7%と男性が女性を6.3ポイント上回る。

年代別でみると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合は前期高齢者40.2%、後期高齢者37.2%と最も高くなっている。



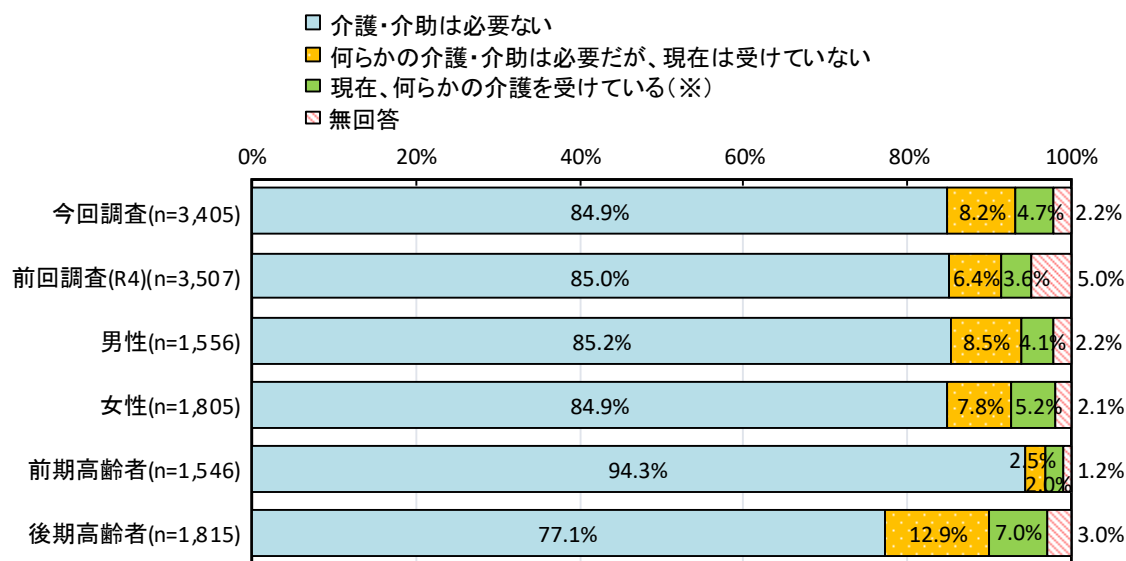
(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(〇は1つ)

全体では、「介護・介助は必要ない」84.9%が最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」8.2%、「現在、何らかの介護を受けている」4.7%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、「介護・介助は必要ない」の割合は前期高齢者94.3%、後期高齢者77.1%と前期高齢者が後期高齢者を17.2ポイント上回る。



※現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む。)

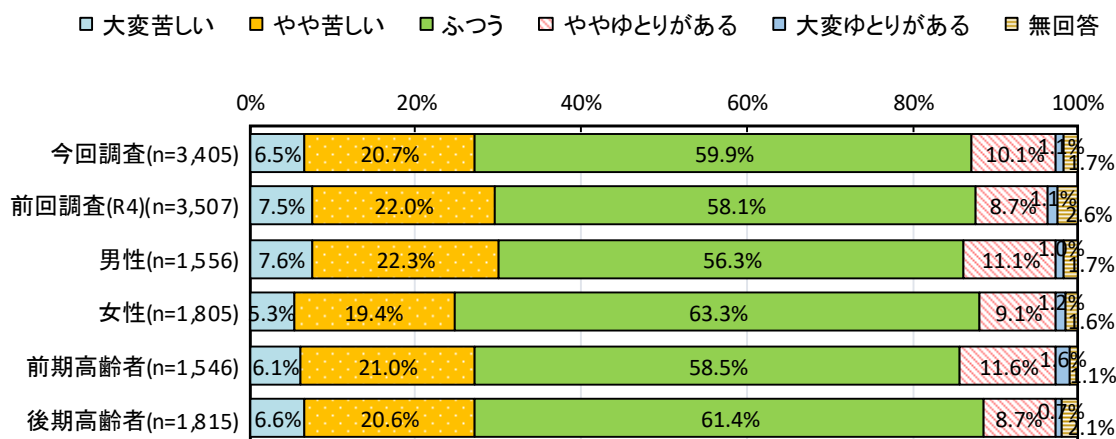
(3)現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(〇は1つ)

全体では、「ふつう」59.9%が最も高く、次いで「やや苦しい」20.7%、「ややゆとりがある」10.1%となっている。『苦しい』（「大変苦しい」+「やや苦しい」）の割合は27.2%を占める。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、『苦しい』の割合は男性29.9%、女性24.7%と男性が女性を5.2ポイント上回る。

年代別でみると、『苦しい』の割合は前期高齢者27.1%、後期高齢者27.2%となっている。

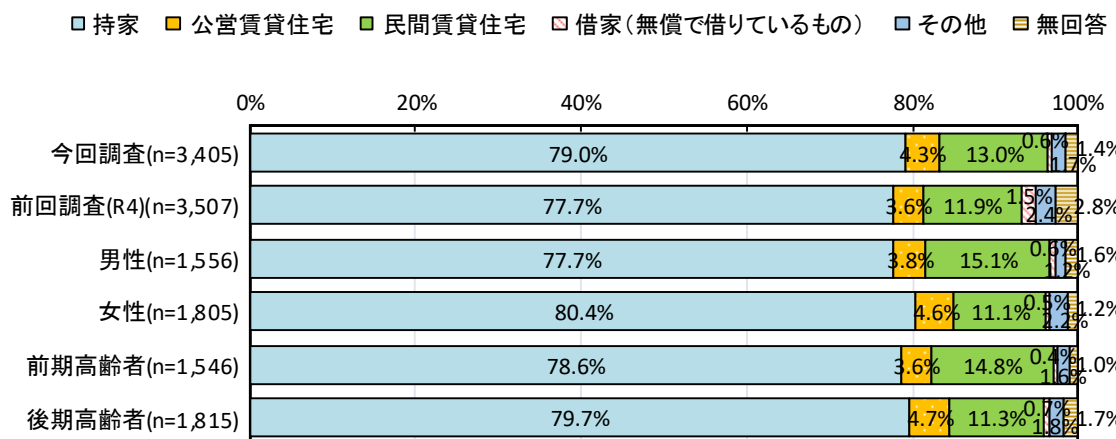


(4)あなたのお住まいは、次のうちどれですか。(〇は1つ)

全体では、「持家」79.0%が最も高く、次いで「民間賃貸住宅」13.0%、「公営賃貸住宅」4.3%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別、年代別でみると、大きな差異はみられない。

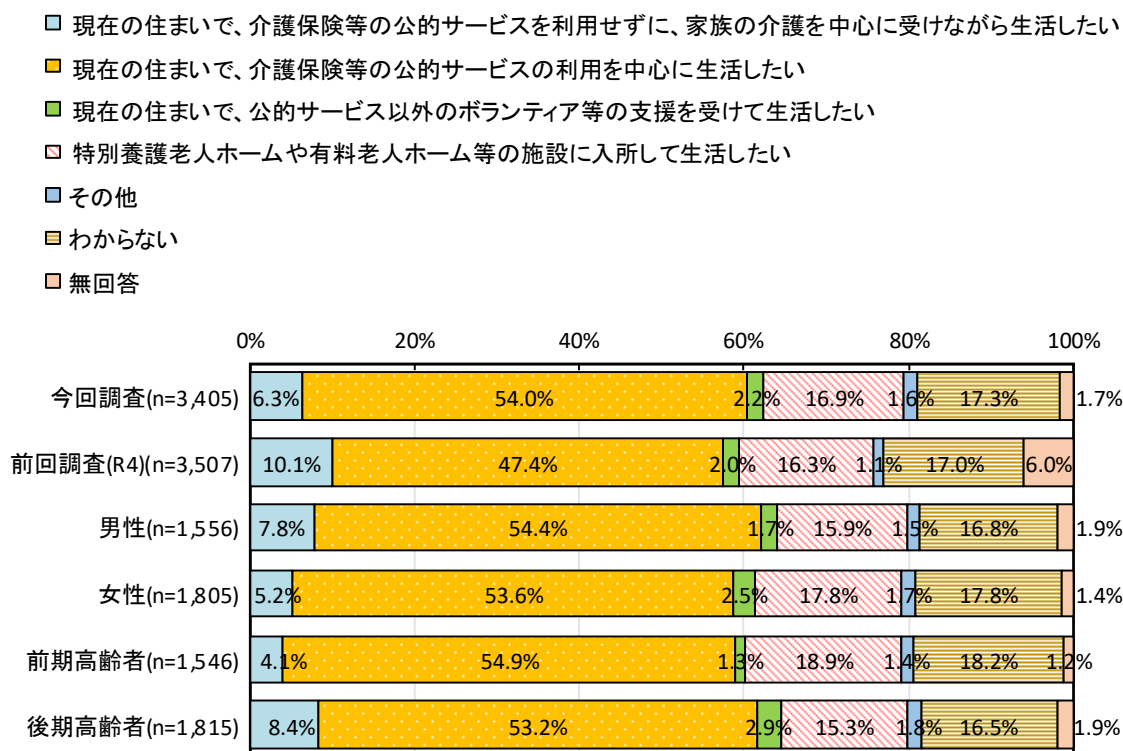


(5)あなたが介護を必要とする状態となった場合に、どのような生活を希望しますか。(〇は1つ)

全体では、「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」54.0%が最も高く、次いで「わからない」17.3%、「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設に入所して生活したい」16.9%となっている。

前回調査と比較すると、「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」は6.6ポイント増加している。

性別、年代別でみると、大きな差異はみられない。



問2 からだを動かすことについて

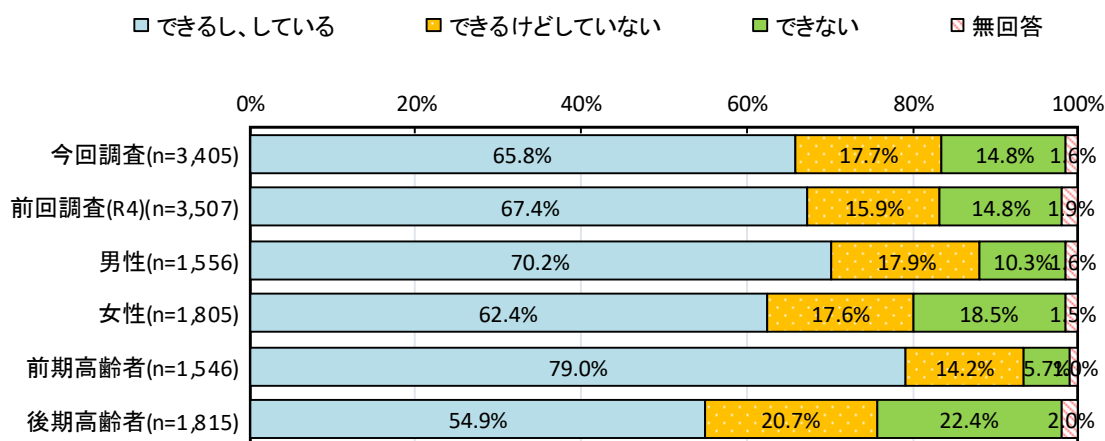
(1)階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○は1つ)

全体では、「できるし、している」65.8%が最も高く、次いで「できるけどしていない」17.7%、「できない」14.8%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、「できるし、している」の割合は男性70.2%、女性62.4%と男性が女性を7.8ポイント上回る。

年代別で見ると、「できるし、している」の割合は前期高齢者79.0%、後期高齢者54.9%と前期高齢者が後期高齢者を24.1ポイントと大きく上回る。



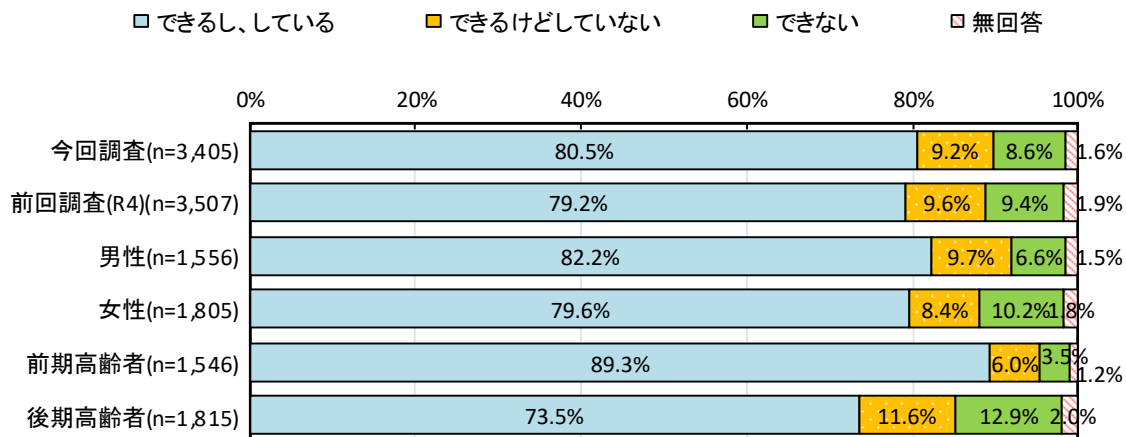
(2)椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つ)

全体では、「できるし、している」80.5%が最も高く、次いで「できるけどしていない」9.2%、「できない」8.6%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年代別で見ると、「できるし、している」の割合は前期高齢者89.3%、後期高齢者73.5%と前期高齢者が後期高齢者を15.8ポイントと大きく上回る。



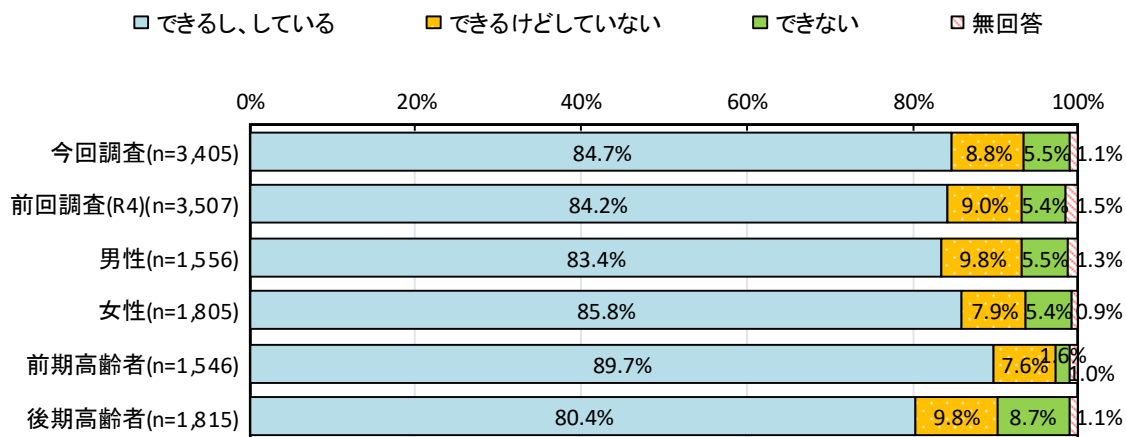
(3)15分位続けて歩いていますか。(○は1つ)

全体では、「できるし、している」84.7%が最も高く、次いで「できるけどしていない」8.8%、「できない」5.5%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年代別で見ると、「できるし、している」の割合は前期高齢者 89.7%、後期高齢者 80.4%と前期高齢者が後期高齢者を9.3ポイント上回る。



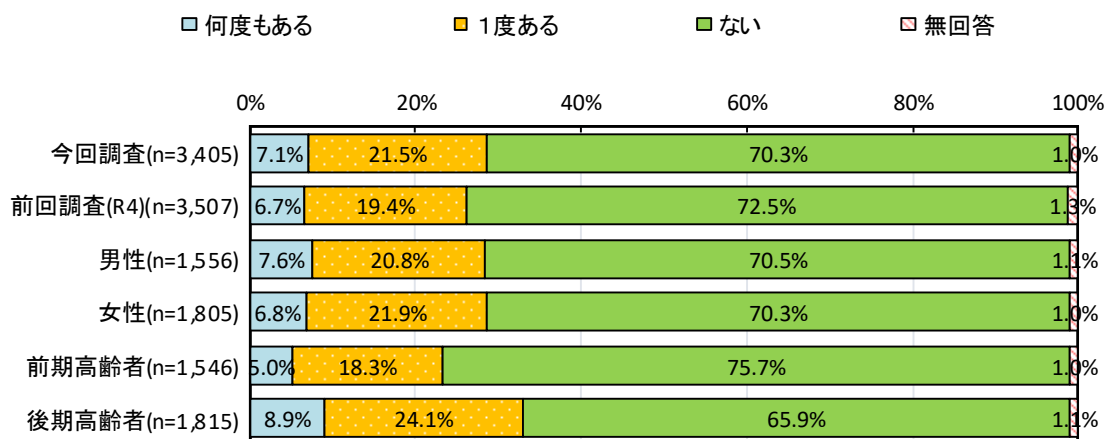
(4)過去1年間に転んだ経験がありますか。(○は1つ)

全体では、「ない」70.3%が最も高く、次いで「1度ある」21.5%、「何度もある」7.1%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年代別で見ると、「ない」の割合は前期高齢者 75.7%、後期高齢者 65.9%と前期高齢者が後期高齢者を9.8ポイント上回る。



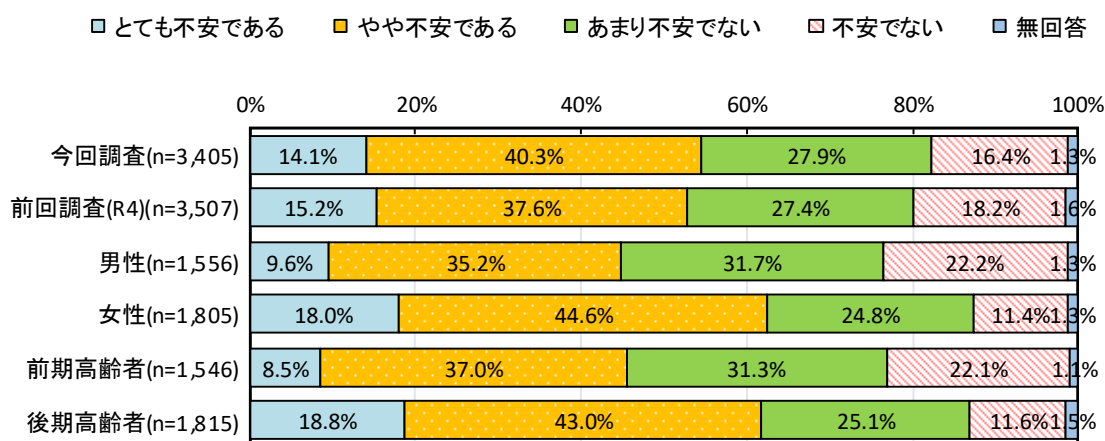
(5)転倒に対する不安は大きいですか。(○は1つ)

全体では、「やや不安である」40.3%が最も高く、次いで「あまり不安でない」27.9%、「不安でない」16.4%となっている。『不安である』（「とても不安である」+「やや不安である」）の割合は54.4%を占める。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、『不安である』の割合は男性44.8%、女性62.6%で女性が男性を17.8ポイントと大きく上回る。

年代別でみると、『不安である』の割合は前期高齢者45.5%、後期高齢者61.8%で後期高齢者が前期高齢者を16.3ポイントと大きく上回る。



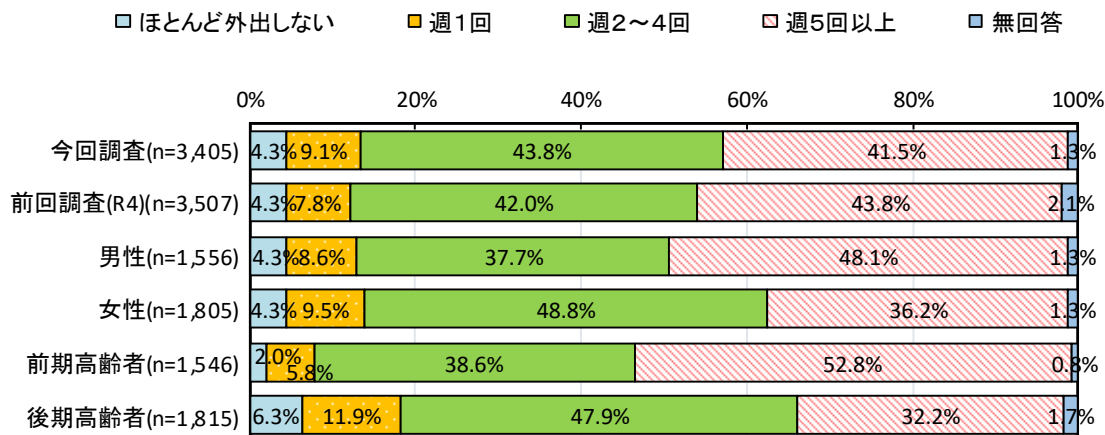
(6)週に1回以上は外出していますか。(○は1つ)

全体では、「週2～4回」43.8%が最も高く、次いで「週5回以上」41.5%、「週1回」9.1%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、『週2回以上』（「週2～4回」+「週5回以上」）の割合は男性85.8%、女性85.0%といずれも8割以上を占める。

年代別でみると、『週2回以上』の割合は前期高齢者91.4%、後期高齢者80.1%と前期高齢者が後期高齢者を11.3ポイント上回る。



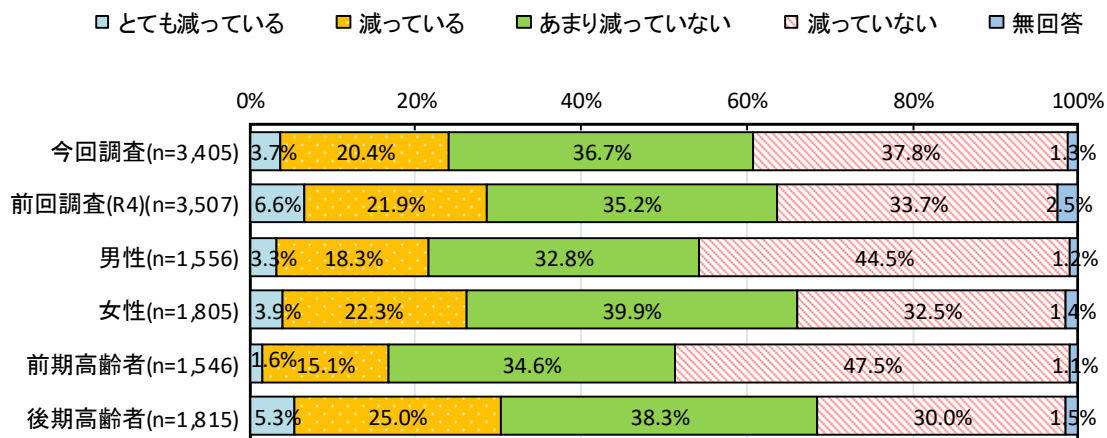
(7)昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(○は1つ)

全体では、「減っていない」37.8%が最も高く、次いで「あまり減っていない」36.7%、「減っている」20.4%となっている。『減っている』（「とても減っている」+「減っている」）の割合は24.1%を占める。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、『減っている』の割合は男性21.6%、女性26.2%と女性がやや高くなっている。

年代別でみると、『減っている』の割合は前期高齢者16.7%、後期高齢者30.3%と前期高齢者が後期高齢者を13.6ポイント上回る。



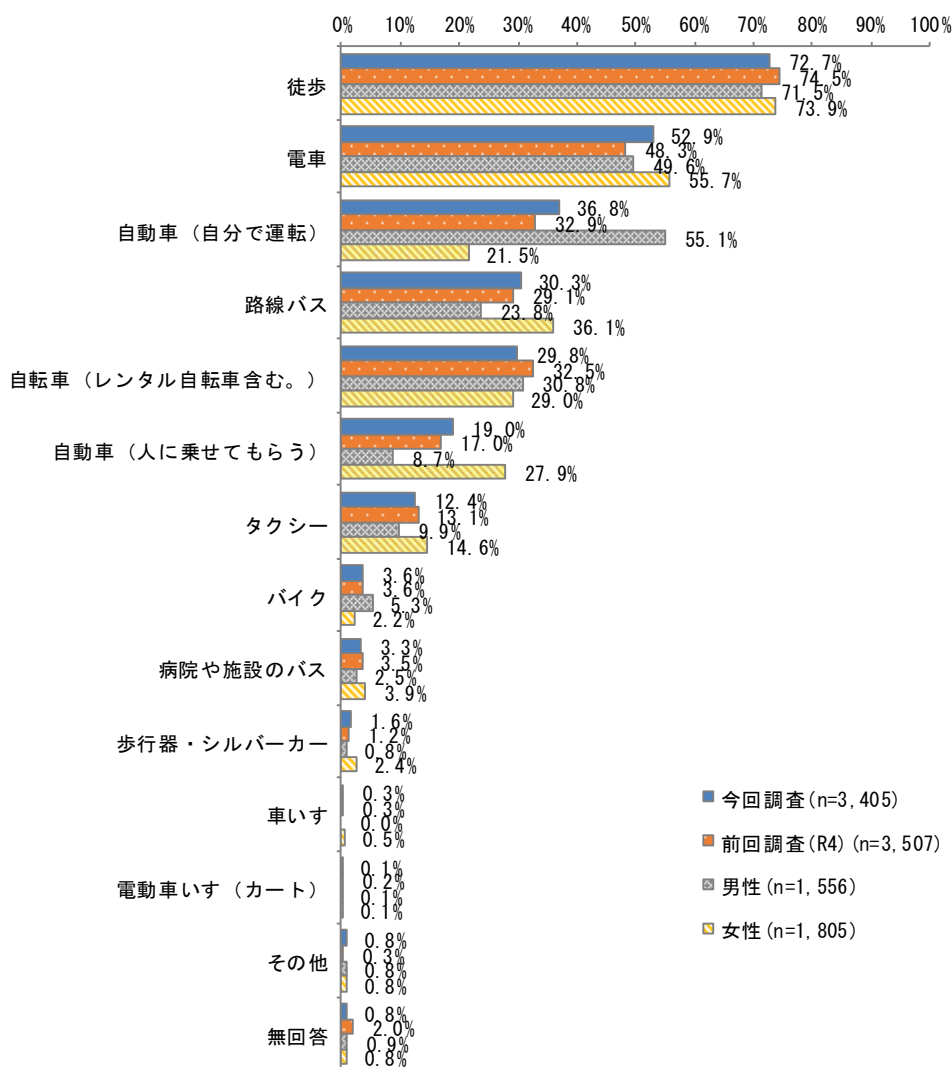
(8)外出する際の主な移動手段は何ですか。(いくつでも)

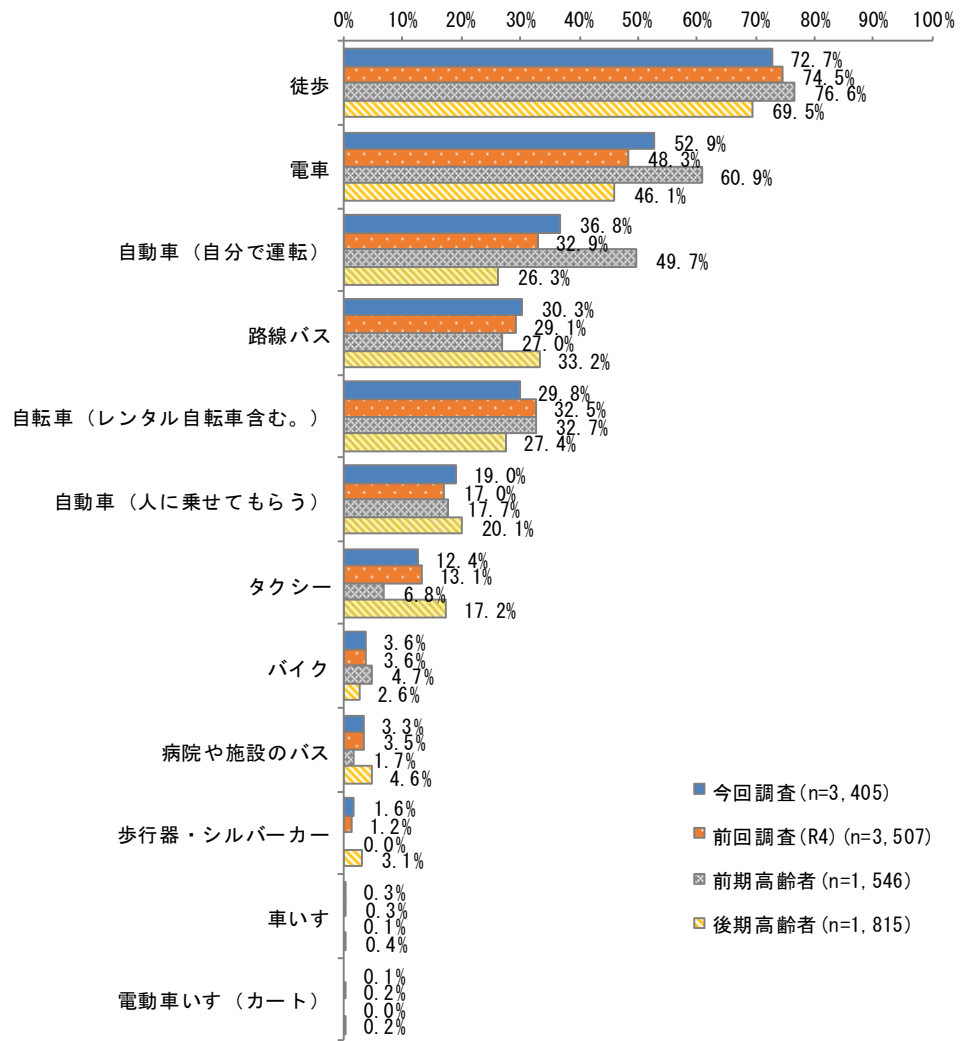
全体では、「徒歩」72.7%が最も高く、次いで「電車」52.9%、「自動車（自分で運転）」36.8%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、「自動車（自分で運転）」では男性が女性を33.6ポイントと大きく上回る。一方で、「電車」、「路線バス」、「自動車（人に乗せてもらう）」ではいずれも女性が男性を上回り、「自動車（人に乗せてもらう）」は19.2ポイント高くなっている。

年代別でみると、「徒歩」、「電車」、「自動車（自分で運転）」、「自転車（レンタル自転車含む。）」ではいずれも前期高齢者が後期高齢者を上回り、特に「自動車（自分で運転）」では23.4ポイント高くなっている。一方で、「路線バス」、「タクシー」ではいずれも6.2ポイント以上後期高齢者が前期高齢者より高くなっている。





問3 食べることについて

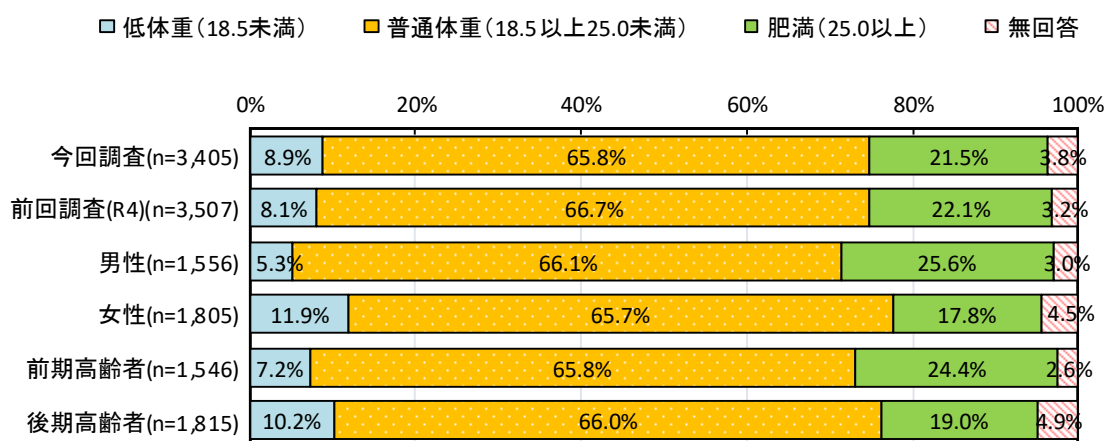
(1)現在のあなたの身長・体重を教えてください。

身長及び体重から算出したBMIについて全体では、「普通体重（18.5以上25.0未満）」65.8%が最も高く、次いで「肥満（25.0以上）」21.5%、「低体重（18.5未満）」8.9%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、「低体重（18.5未満）」の割合は男性5.3%、女性11.9%と女性が男性を6.6ポイント上回る。

年代別でみると、「肥満（25.0以上）」の割合は前期高齢者24.4%、後期高齢者19.0%と前期高齢者が後期高齢者を5.4ポイント上回る。



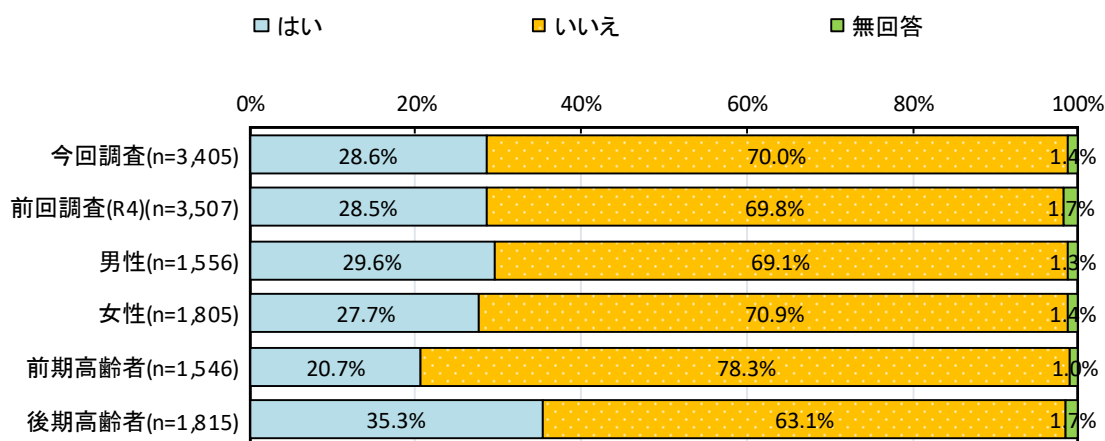
(2)半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○は1つ)

全体では、「はい」28.6%、「いいえ」70.0%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、「はい」の割合は前期高齢者20.7%、後期高齢者35.3%と後期高齢者が前期高齢者を14.6ポイント上回る。

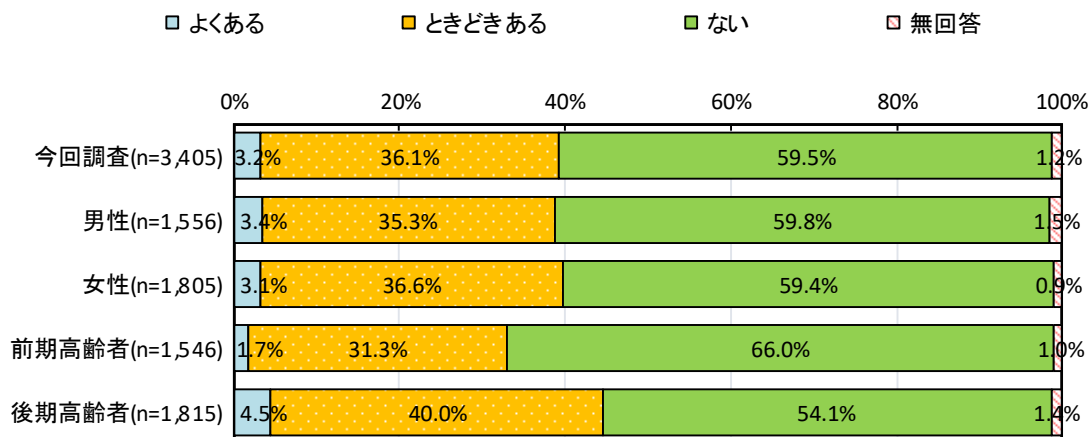


(3)お茶や汁物等でむせることがありますか。(〇は1つ)

全体では、「ない」59.5%が最も高く、次いで「ときどきある」36.1%、「よくある」3.2%となっている。『ある』（「よくある」＋「ときどきある」）の割合は39.3%を占める。

性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、『ある』の割合は前期高齢者33.0%、後期高齢者44.5%と後期高齢者が前期高齢者を11.5ポイント上回る。

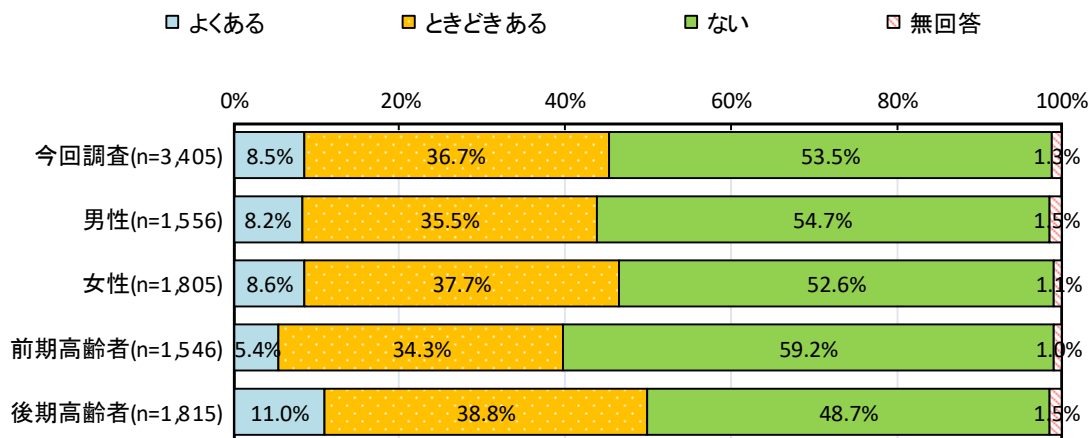


(4)口の渇きが気になりますか。(〇は1つ)

全体では、「ない」53.5%が最も高く、次いで「ときどきある」36.7%、「よくある」8.5%となっている。『ある』の割合は45.2%を占める。

性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、『ある』の割合は前期高齢者39.7%、後期高齢者49.8%と後期高齢者が前期高齢者を10.1ポイント上回る。



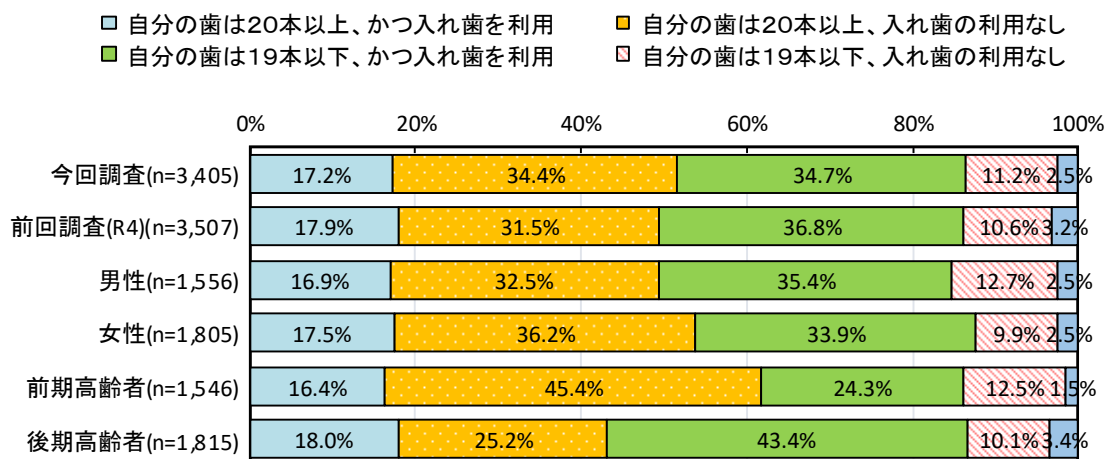
(5) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(〇は1つ)
 (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。)

全体では、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」34.7%が最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」34.4%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」17.2%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、大きな差異はみられない。

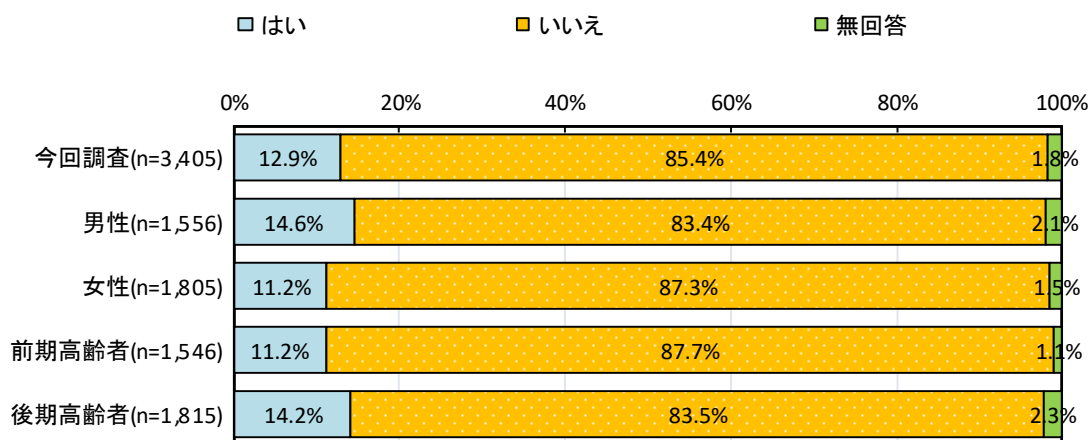
年代別でみると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合は前期高齢者が後期高齢者を20.2ポイント上回る一方で、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合は後期高齢者が前期高齢者より19.1ポイント高くなっている。



(6) 6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか。(〇は1つ)

全体では、「はい」12.9%、「いいえ」85.4%となっている。

性別、年代別でみると、大きな差異はみられない。



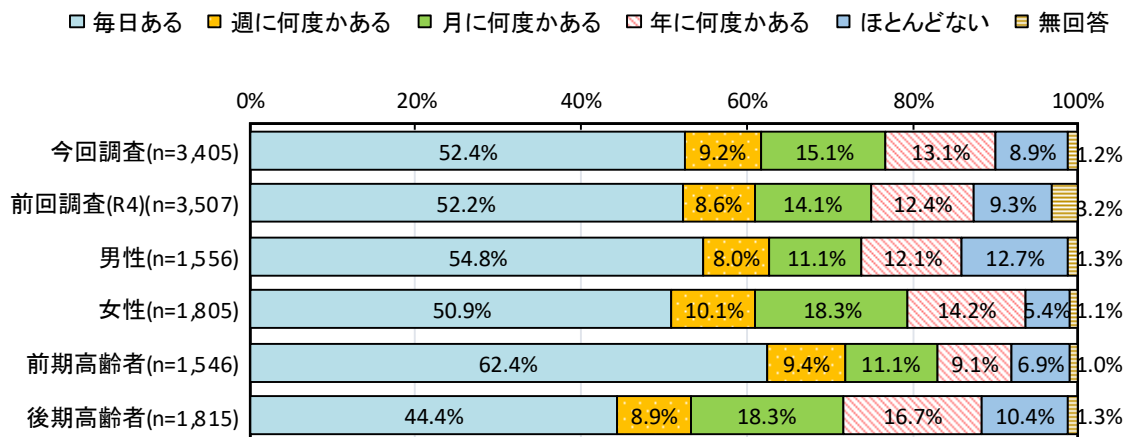
(7)どなたかと食事を共にする機会がありますか。(〇は1つ)

全体では、「毎日ある」52.4%が最も高く、次いで「月に何度かある」15.1%、「年に何度かある」13.1%となっている。『ある』（「毎日ある」+「週に何度かある」+「月に何度かある」+「年に何度かある」）の割合は89.8%を占める。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、『ある』の割合は男性86.0%、女性93.5%と女性が男性を7.5ポイント上回る。

年代別でみると、『ある』の割合は前期高齢者92.0%、後期高齢者88.3%と前期高齢者がやや高くなっている。



問4 毎日の生活について

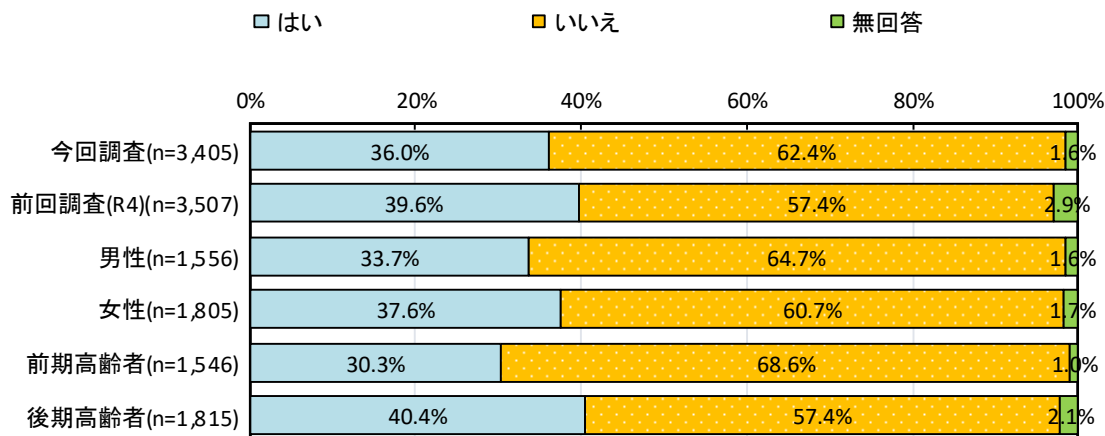
(1)物忘れが多いと感じますか。(〇は1つ)

全体では、「はい」36.0%、「いいえ」62.4%となっている。

前回調査と比較すると、「いいえ」は5.0ポイント増加している。

性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、「はい」の割合は前期高齢者30.3%、後期高齢者40.4%と後期高齢者が前期高齢者を10.1ポイント上回る。



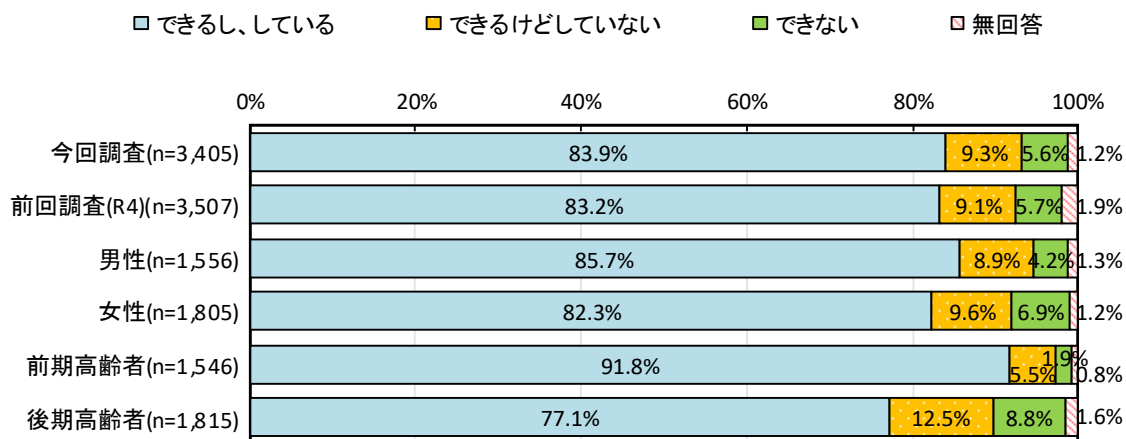
(2)バスや電車、自家用車などを使って、1人で外出していますか。(○は1つ)

全体では、「できるし、している」83.9%が最も高く、次いで「できるけどしていない」9.3%、「できない」5.6%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年代別で見ると、「できるし、している」の割合は前期高齢者 91.8%、後期高齢者 77.1%と前期高齢者が後期高齢者を 14.7 ポイント上回る。



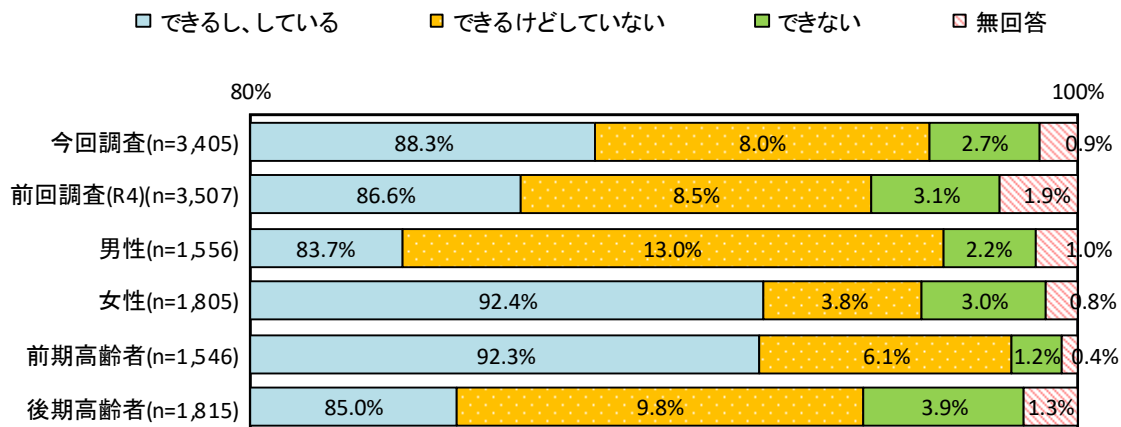
(3)自分で食品・日用品の買い物をしていますか。(○は1つ)

全体では、「できるし、している」88.3%が最も高く、次いで「できるけどしていない」8.0%、「できない」2.7%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、「できるし、している」の割合は男性 83.7%、女性 92.4%と女性が男性を 8.7 ポイント上回る。

年代別で見ると、「できるし、している」の割合は前期高齢者 92.3%、後期高齢者 85.0%と前期高齢者が後期高齢者を 7.3 ポイント上回る。



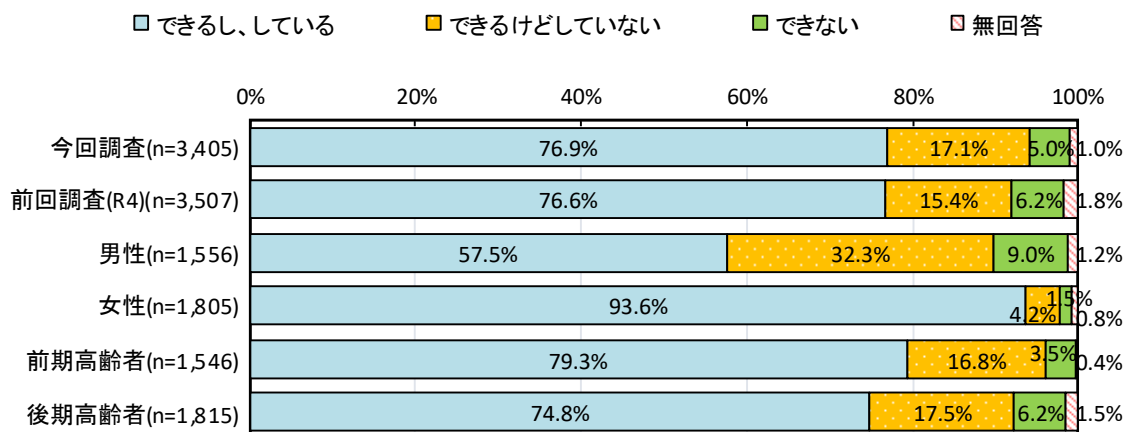
(4)自分で食事の用意をしていますか。(〇は1つ)

全体では、「できるし、している」76.9%が最も高く、次いで「できるけどしていない」17.1%、「できない」5.0%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、「できるし、している」の割合は男性57.5%、女性93.6%と女性が男性を36.1ポイントと大きく上回る。

年代別で見ると、「できるし、している」の割合は前期高齢者79.3%、後期高齢者74.8%と前期高齢者がやや高くなっている。



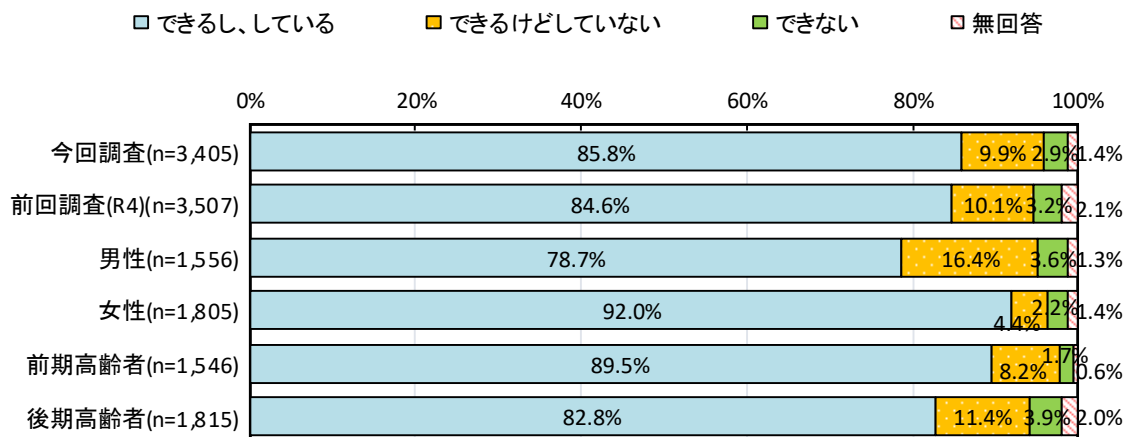
(5)自分で請求書の支払いをしていますか。(〇は1つ)

全体では、「できるし、している」85.8%が最も高く、次いで「できるけどしていない」9.9%、「できない」2.9%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、「できるし、している」の割合は男性78.7%、女性92.0%と女性が男性を13.3ポイント上回る。

年代別で見ると、「できるし、している」の割合は前期高齢者89.5%、後期高齢者82.8%と前期高齢者が後期高齢者を6.7ポイント上回る。



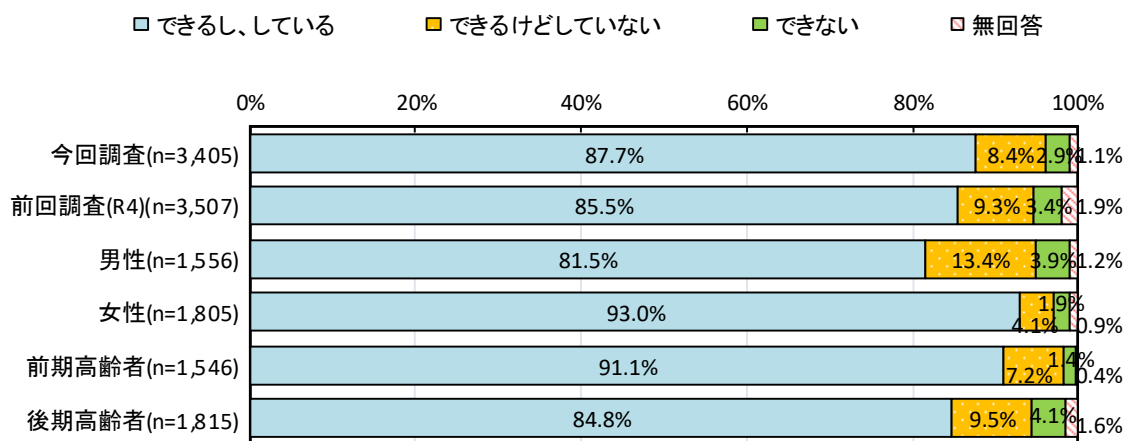
(6)自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○は1つ)

全体では、「できるし、している」87.7%が最も高く、次いで「できるけどしていない」8.4%、「できない」2.9%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、「できるし、している」の割合は男性81.5%、女性93.0%と女性が男性を11.5ポイント上回る。

年代別でみると、「できるし、している」の割合は前期高齢者91.1%、後期高齢者84.8%と前期高齢者が後期高齢者を6.3ポイント上回る。



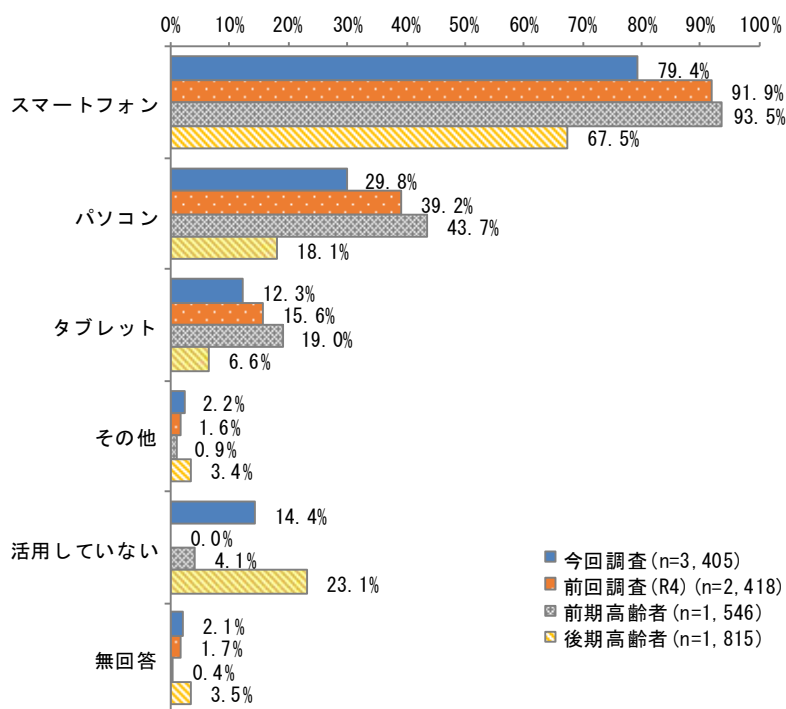
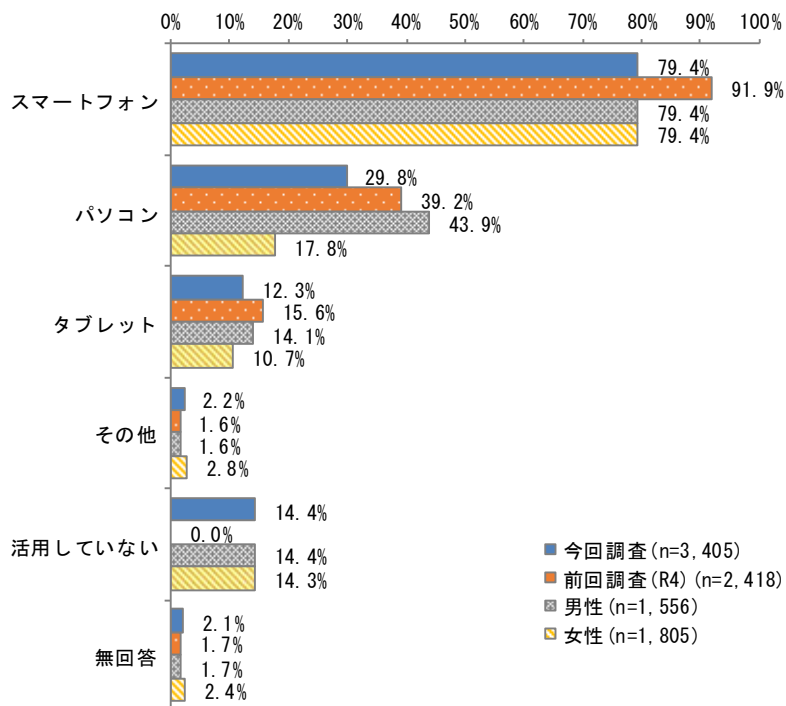
(7)スマートフォン、パソコンなどで日常的に活用しているものはありますか。(いくつでも)

全体では、「スマートフォン」79.4%が最も高く、次いで「パソコン」29.8%、「活用していない」14.4%となっている。

前回調査と比較すると、「スマートフォン」、「パソコン」はいずれも9.4ポイント以上減少している。

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年代別で見ると、「タブレット」では12.4ポイント、「スマートフォン」、「パソコン」ではいずれも25.6ポイント以上前期高齢者が後期高齢者より高くなっている。

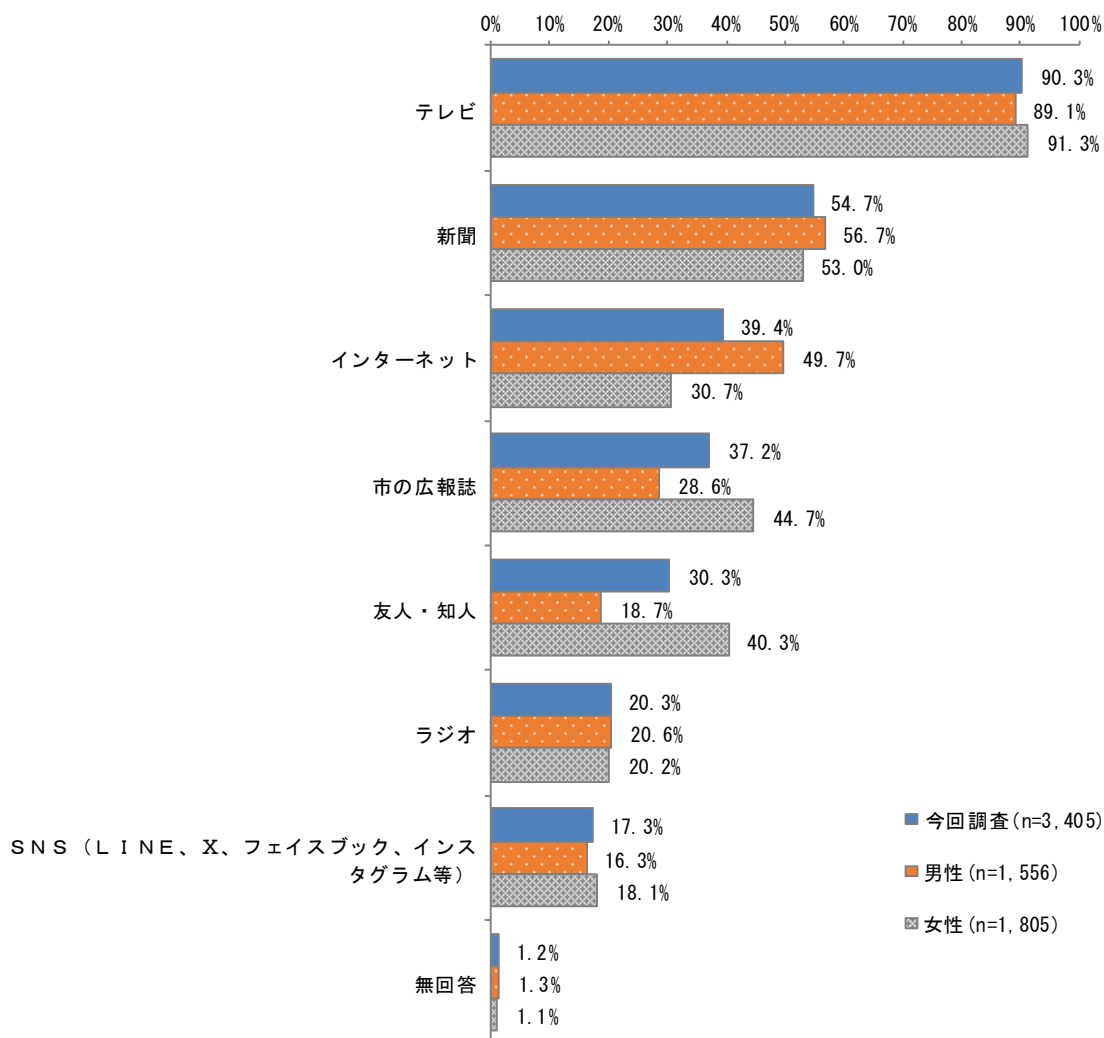


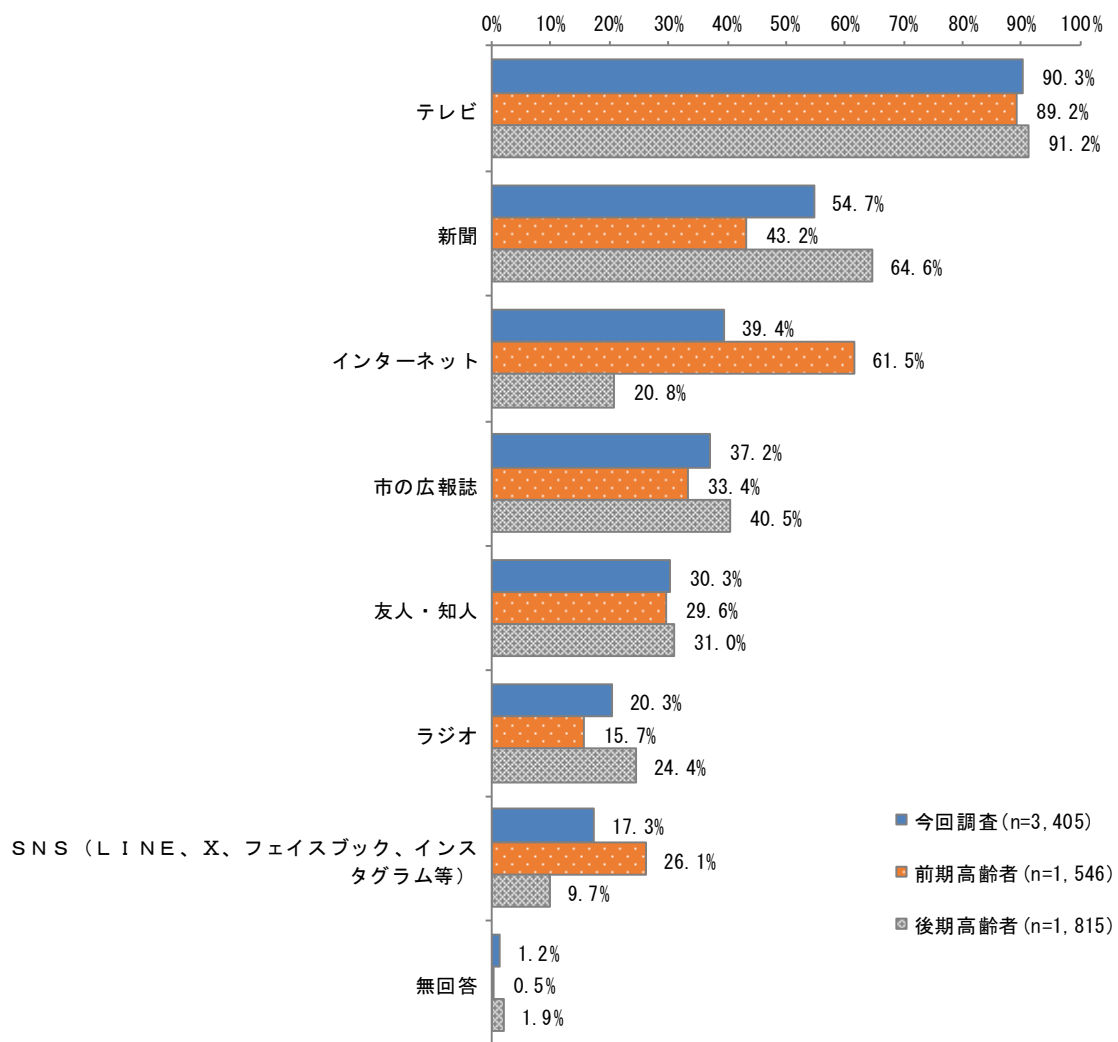
(8)ニュースやイベント等の情報を、何から得ていますか。(いくつでも)

全体では、「テレビ」90.3%が最も高く、次いで「新聞」54.7%、「インターネット」39.4%となっている。

性別で見ると、「市の広報紙」、「友人・知人」ではいずれも女性が男性を16.1ポイント以上上回る。一方で、「インターネット」では男性が女性より19.0ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「インターネット」では40.7ポイント、「SNS（LINE、X、フェイスブック、インスタグラム等）」では16.4ポイント、前期高齢者が後期高齢者を上回る。一方で、「新聞」では21.4ポイント、「ラジオ」では8.7ポイント、後期高齢者が前期高齢者より高くなっている。





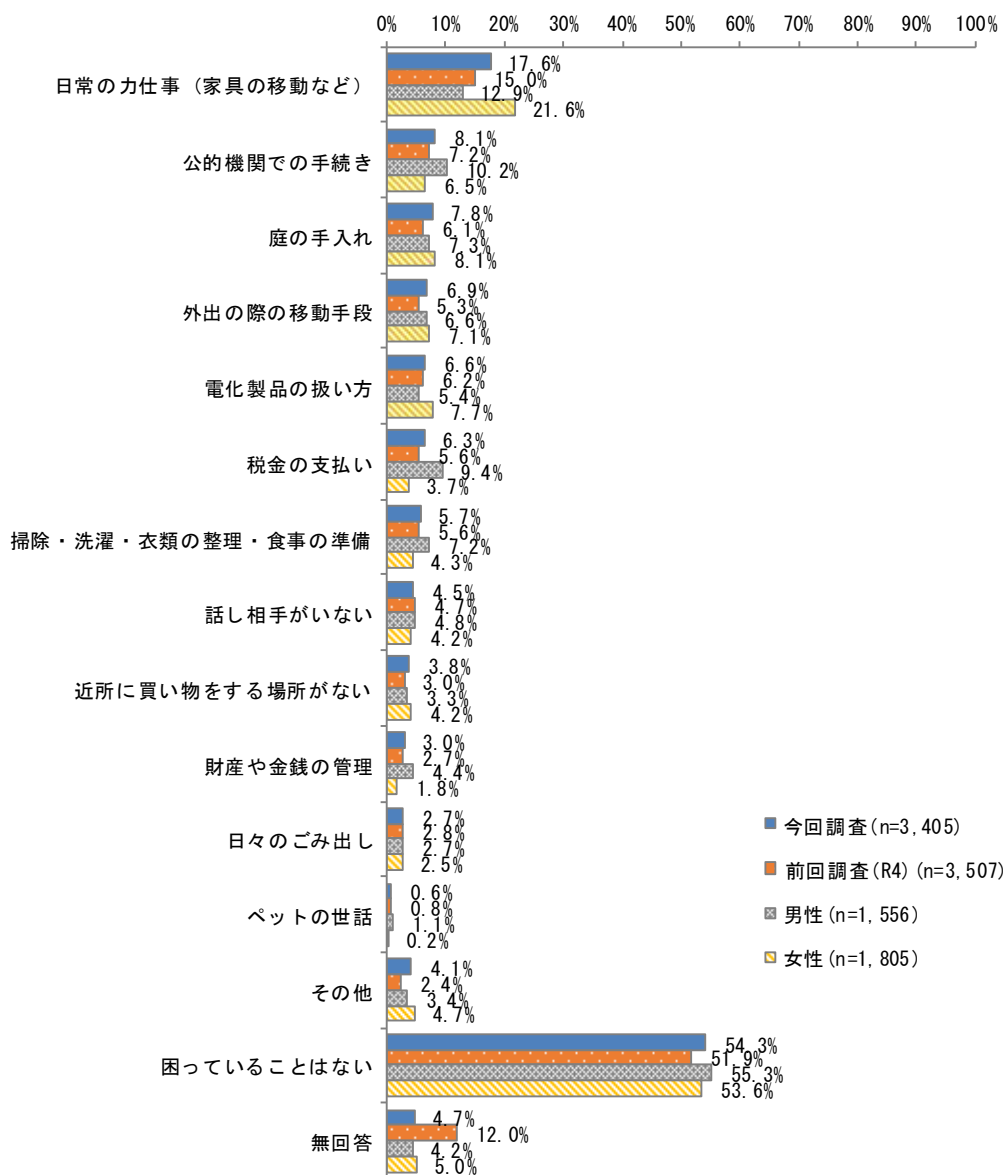
(9)あなた自身の日常生活の中で困っていることはありますか。(いくつでも)

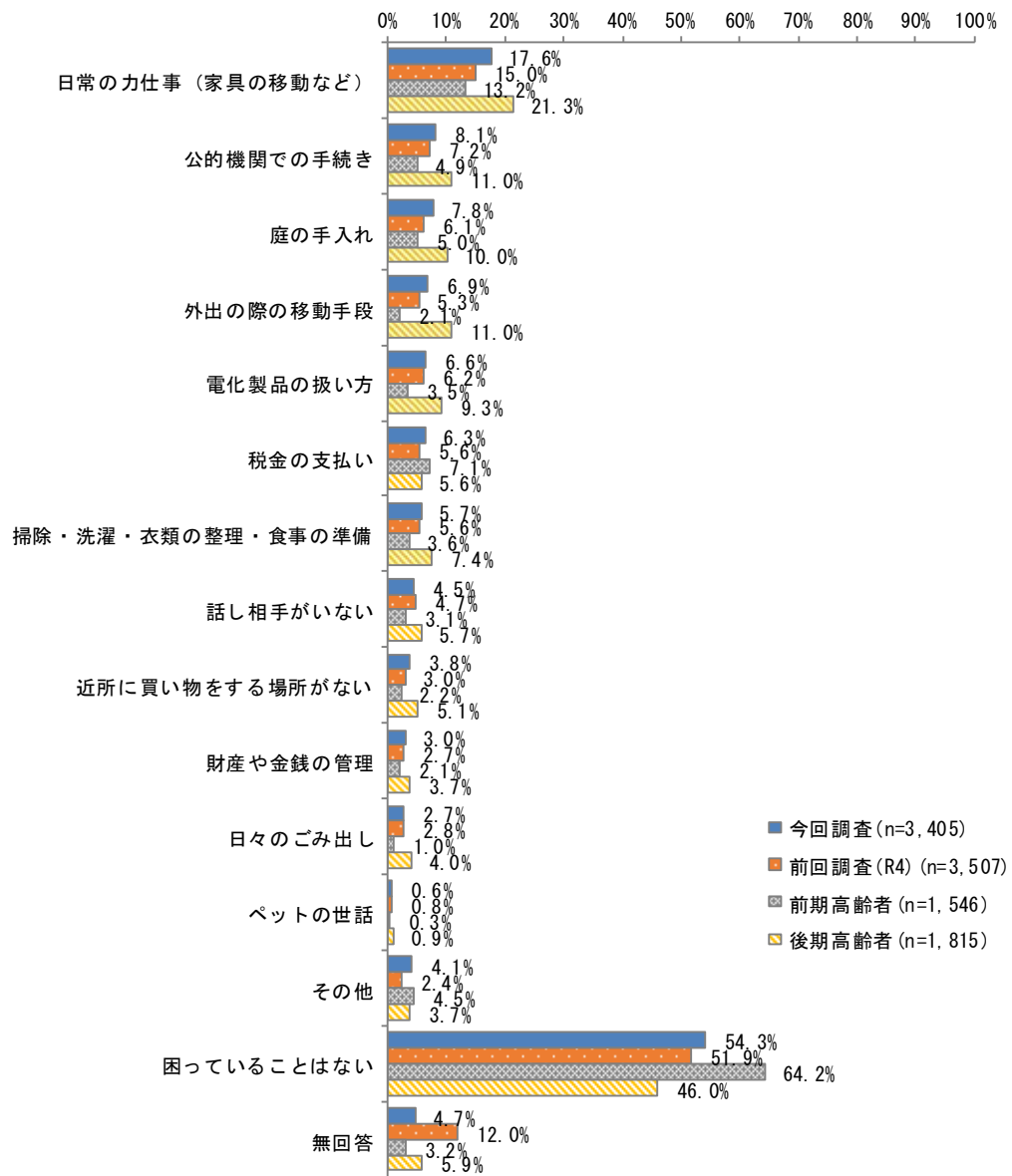
全体では、「困っていることはない」54.3%が最も高く、次いで「日常の力仕事（家具の移動など）」17.6%、「公的機関での手続き」8.1%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、「日常の力仕事（家具の移動など）」では女性が男性を8.7ポイント上回る。一方で、「税金の支払い」では男性が女性より5.7ポイント高くなっている。

年代別でみると、年代で差がある項目の中でも、「日常の力仕事（家具の移動など）」、「外出の際の移動手段」でいずれも8.1ポイント以上後期高齢者が前期高齢者を上回る。





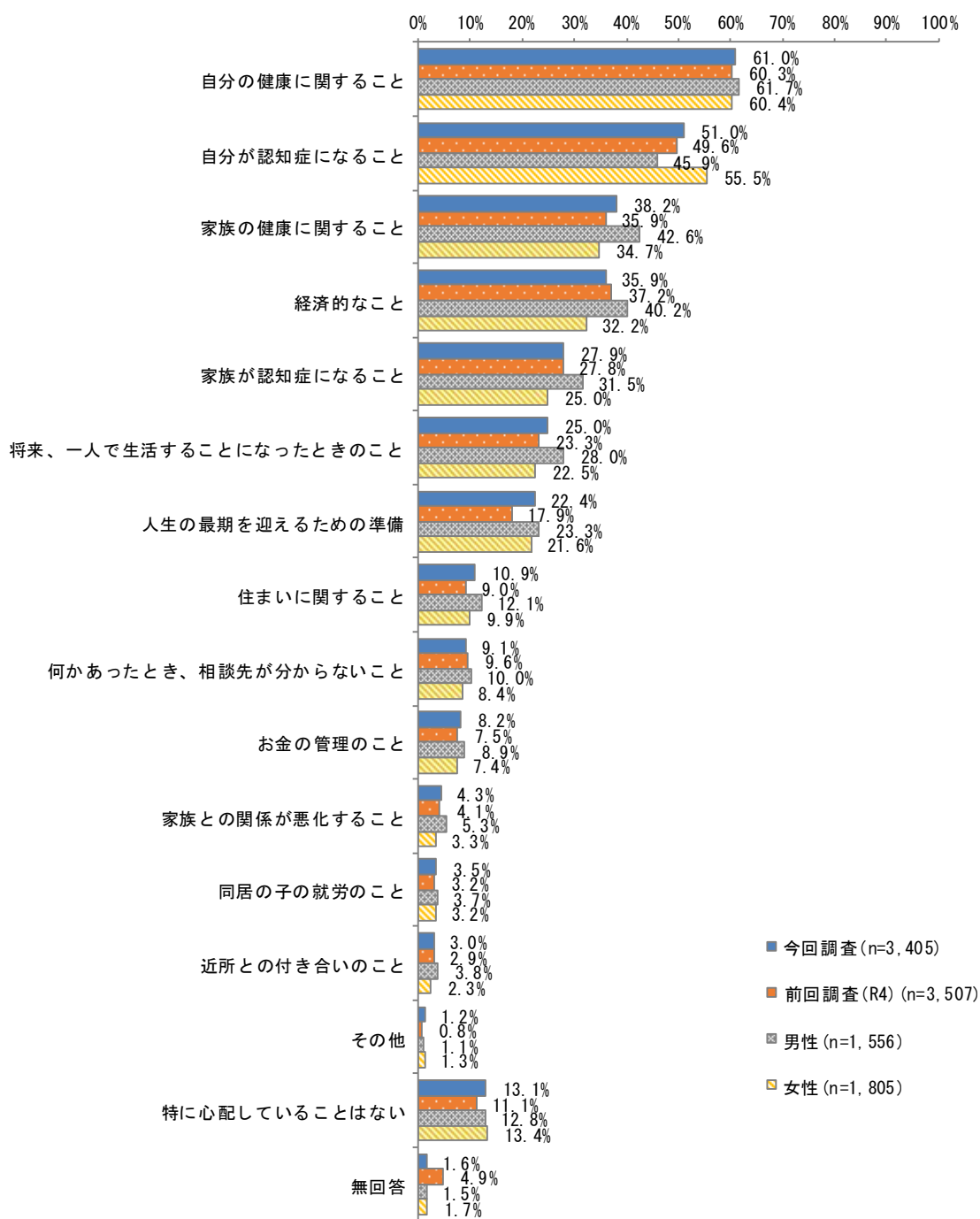
(10)将来の生活で心配や不安なことはありますか。(いくつでも)

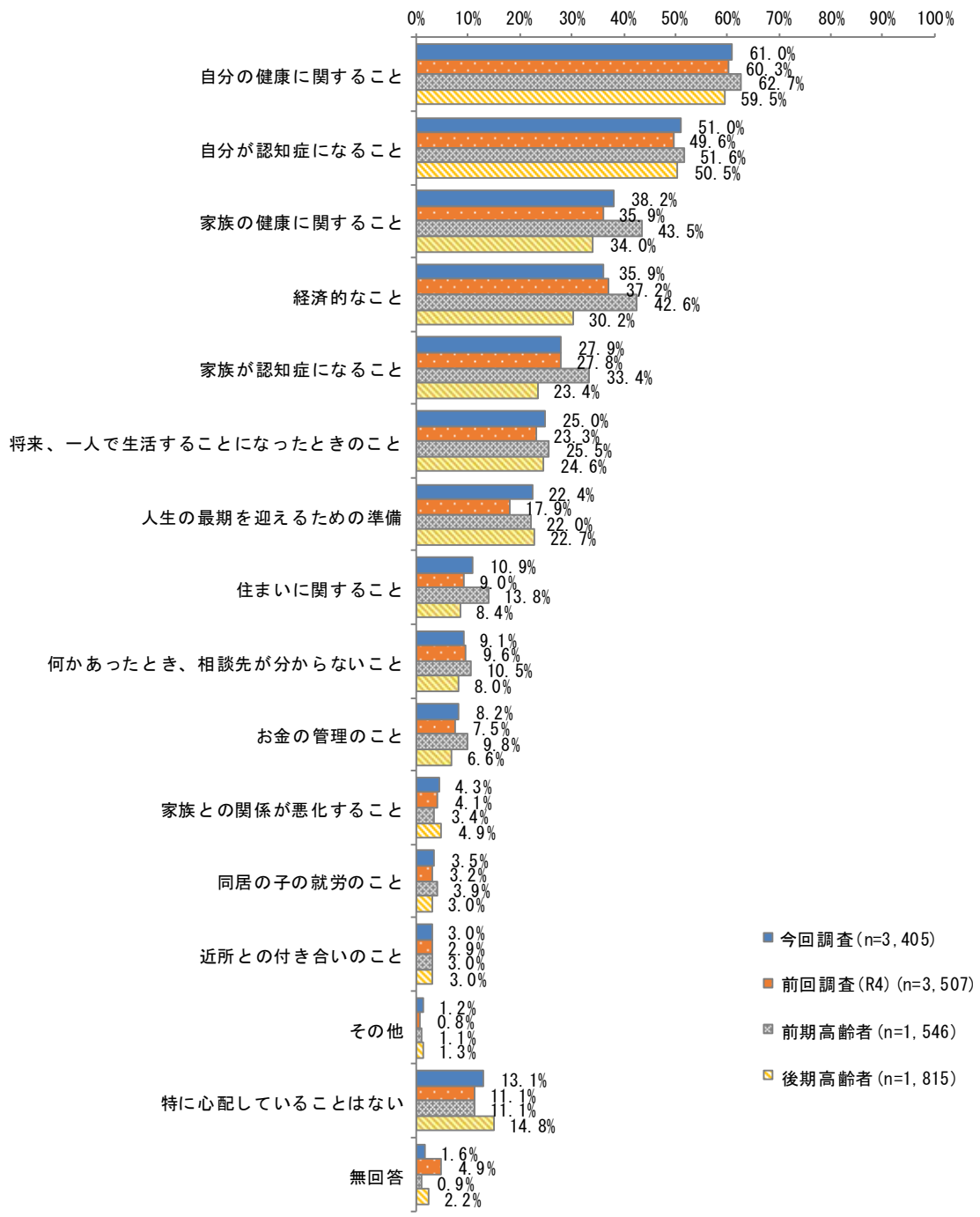
全体では、「自分の健康に関すること」61.0%が最も高く、次いで「自分が認知症になること」51.0%、「家族の健康に関すること」38.2%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、「家族の健康に関すること」、「経済的なこと」、「家族が認知症になること」、「将来、一人で生活することになったときのこと」ではいずれも男性が女性を5.5ポイント以上上回る。一方で、「自分が認知症になること」では女性が男性より9.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、「家族の健康に関すること」、「経済的なこと」、「家族が認知症になること」ではいずれも前期高齢者が後期高齢者を9.5ポイント以上上回る。





問5 地域の活動について

(1)以下のような会・グループなどにどのくらいの頻度で参加していますか。

※①～⑧それぞれに回答してください。

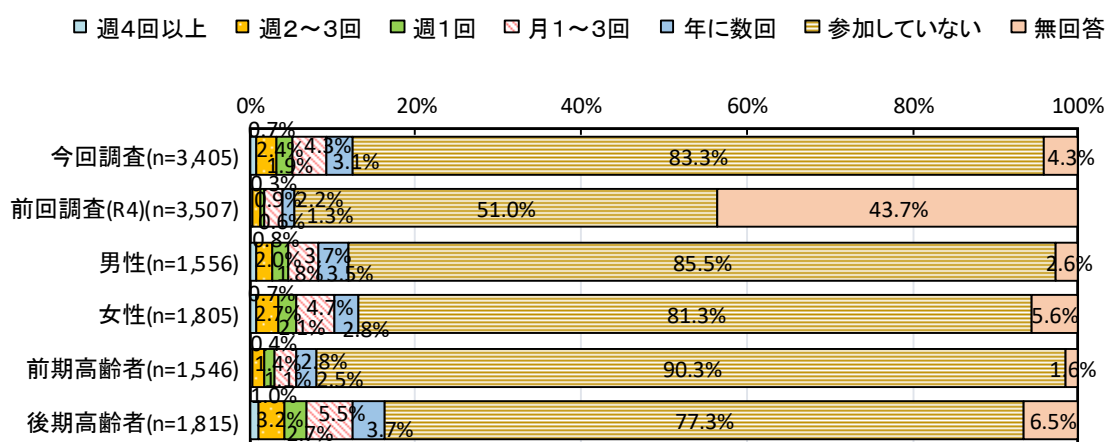
①ボランティアのグループ (〇は1つ)

全体では、「参加していない」83.3%が最も高く、次いで「月1～3回」4.3%、「年に数回」3.1%となっている。『参加している』(「週4回以上」+「週2～3回」+「週1回」+「月1～3回」+「年に数回」)の割合は12.4%を占める。

前回調査と比較すると、『参加している』は7.1ポイント増加している。

性別でみると、『参加している』の割合は男性11.8%、女性13.0%となっている。

年代別でみると、『参加している』の割合は前期高齢者8.2%、後期高齢者16.1%と後期高齢者が前期高齢者を7.9ポイント上回る。



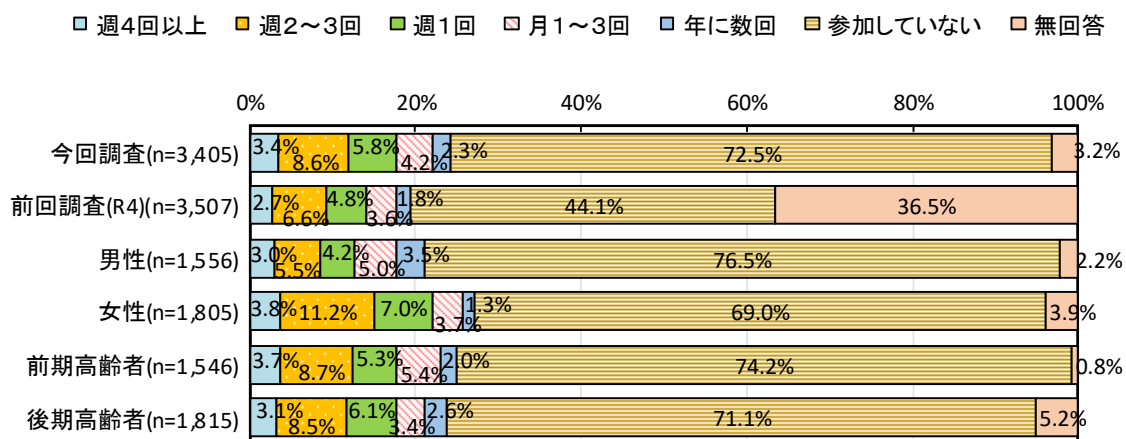
②スポーツ関係のグループやクラブ (〇は1つ)

全体では、「参加していない」72.5%が最も高く、次いで「週2～3回」8.6%、「週1回」5.8%となっている。『参加している』の割合は24.3%を占める。

前回調査と比較すると、『参加している』は4.8ポイント増加している。

性別でみると、『参加している』の割合は男性21.2%、女性27.0%と女性が男性を5.8ポイント上回る。

年代別でみると、『参加している』の割合は前期高齢者25.1%、後期高齢者23.7%となっている。



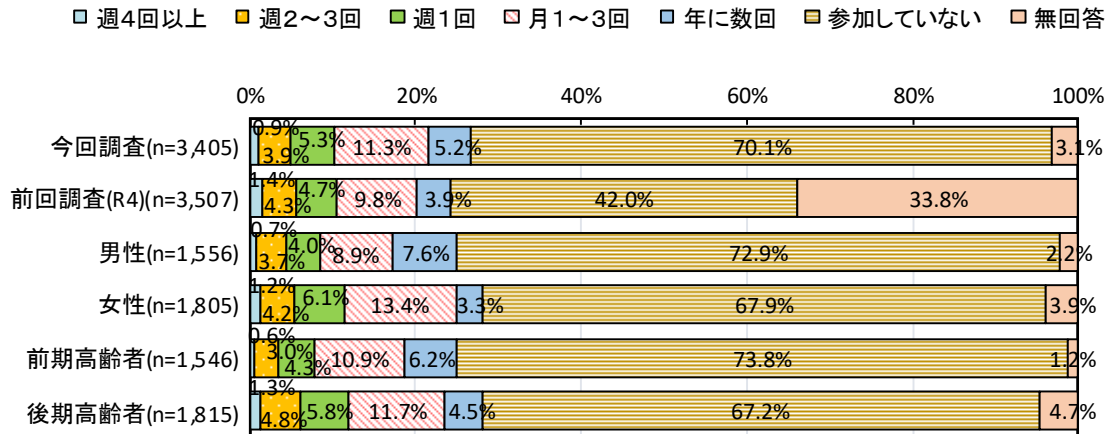
③趣味関係のグループ（○は1つ）

全体では、「参加していない」70.1%が最も高く、次いで「月1～3回」11.3%、「週1回」5.3%となっている。『参加している』の割合は26.6%を占める。

前回調査と比較すると、『参加している』では大きな差異はみられない。

性別で見ると、『参加している』の割合は男性24.9%、女性28.2%と女性がやや高くなっている。

年代別で見ると、『参加している』の割合は前期高齢者25.0%、後期高齢者28.1%と後期高齢者がやや高くなっている。



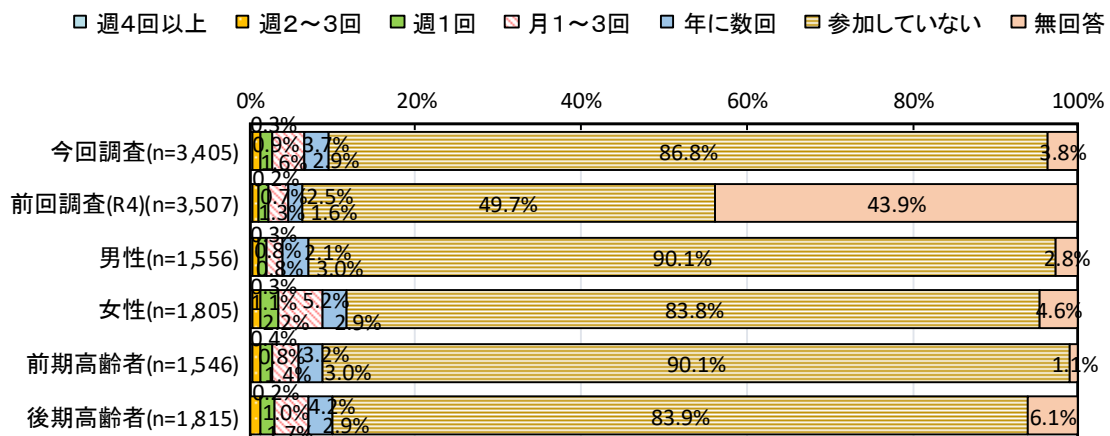
④学習・教養サークル（○は1つ）

全体では、「参加していない」86.8%が最も高く、次いで「月1～3回」3.7%、「年に数回」2.9%となっている。『参加している』の割合は9.4%を占める。

前回調査と比較すると、『参加している』では大きな差異はみられない。

性別で見ると、『参加している』の割合は男性7.0%、女性11.7%と女性がやや高くなっている。

年代別で見ると、『参加している』の割合は前期高齢者8.8%、後期高齢者10.0%となっている。



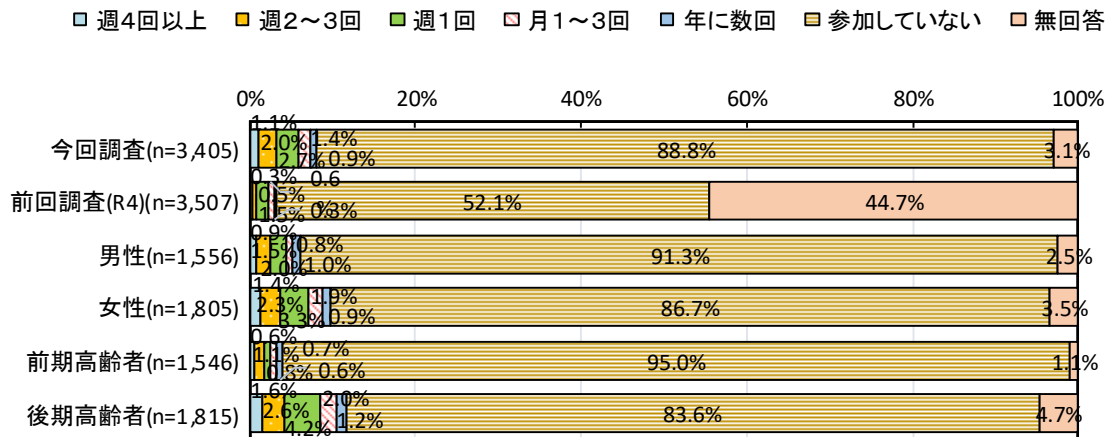
⑤介護予防のための通いの場（〇は1つ）

全体では、「参加していない」88.8%が最も高く、次いで「週1回」2.7%、「週2～3回」2.0%となっている。『参加している』の割合は8.1%を占める。

前回調査と比較すると、『参加している』は4.9ポイント増加している。

性別で見ると、『参加している』の割合は男性6.2%、女性9.8%と女性がやや高くなっている。

年代別で見ると、『参加している』の割合は前期高齢者3.8%、後期高齢者11.6%と後期高齢者が前期高齢者を7.8ポイント上回る。



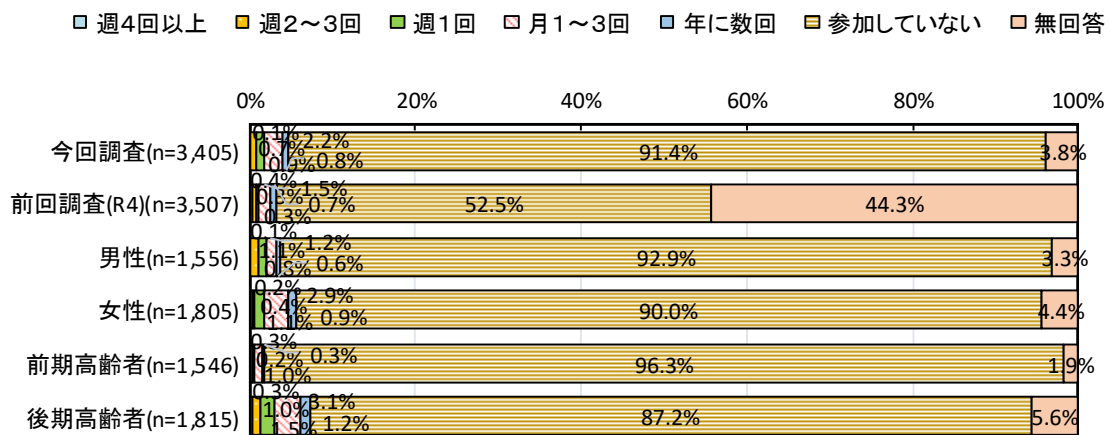
⑥シニアクラブ（〇は1つ）

全体では、「参加していない」91.4%が最も高く、次いで「月1～3回」2.2%、「週1回」0.9%となっている。『参加している』の割合は4.7%を占める。

前回調査と比較すると、『参加している』では大きな差異はみられない。

性別で見ると、『参加している』の割合は男性3.8%、女性5.5%となっている。

年代別で見ると、『参加している』の割合は前期高齢者1.8%、後期高齢者7.1%と後期高齢者が前期高齢者を5.3ポイント上回る。



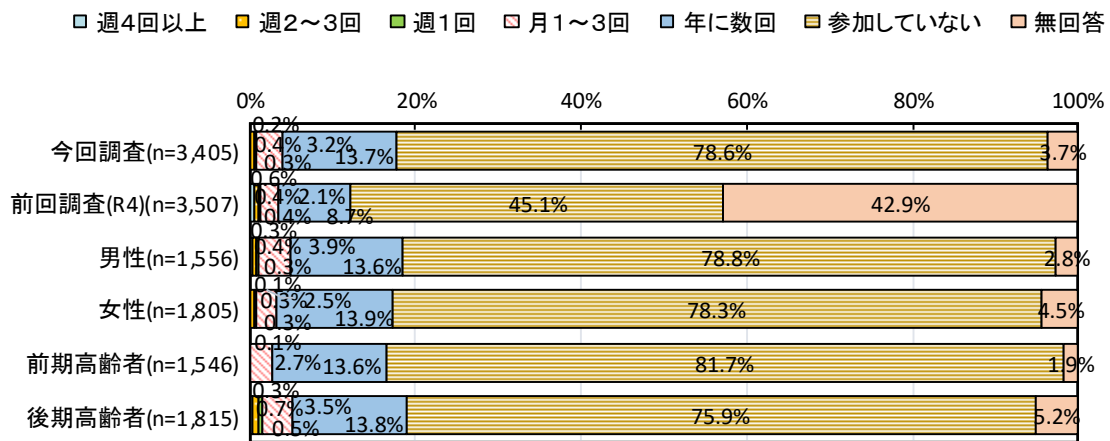
⑦町内会・自治会（〇は1つ）

全体では、「参加していない」78.6%が最も高く、次いで「年に数回」13.7%、「月1～3回」3.2%となっている。『参加している』の割合は4.7%を占める。

前回調査と比較すると、『参加している』は5.6ポイント増加している。

性別でみると、『参加している』の割合は男性18.5%、女性17.1%となっている。

年代別でみると、『参加している』の割合は前期高齢者16.4%、後期高齢者18.8%となっている。



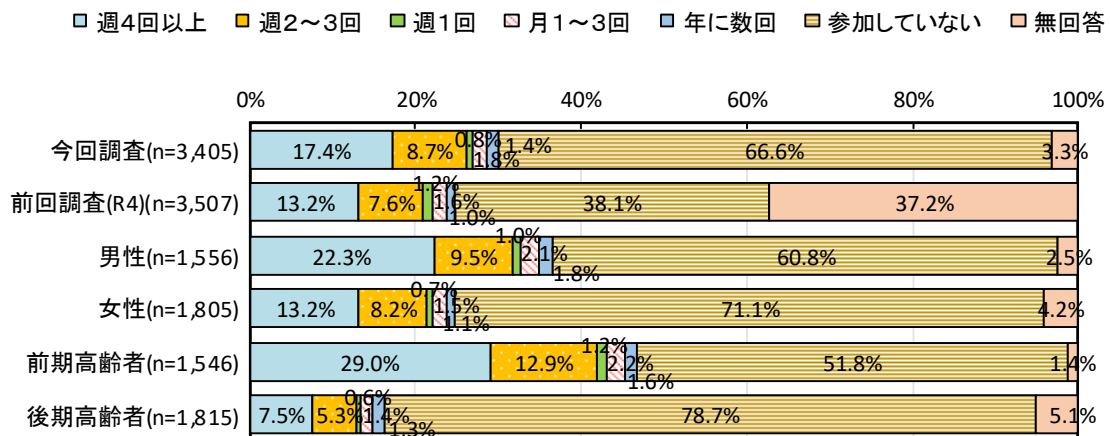
⑧収入のある仕事（〇は1つ）

全体では、「参加していない」66.6%が最も高く、次いで「週4回以上」17.4%、「週2～3回」8.7%となっている。『参加している』の割合は30.1%を占める。

前回調査と比較すると、『参加している』は5.5ポイント増加している。

性別でみると、『参加している』の割合は男性36.7%、女性24.7%と男性が女性を12.0ポイント上回る。

年代別でみると、『参加している』の割合は前期高齢者46.9%、後期高齢者16.1%で前期高齢者が後期高齢者を30.8ポイントと大きく上回る。



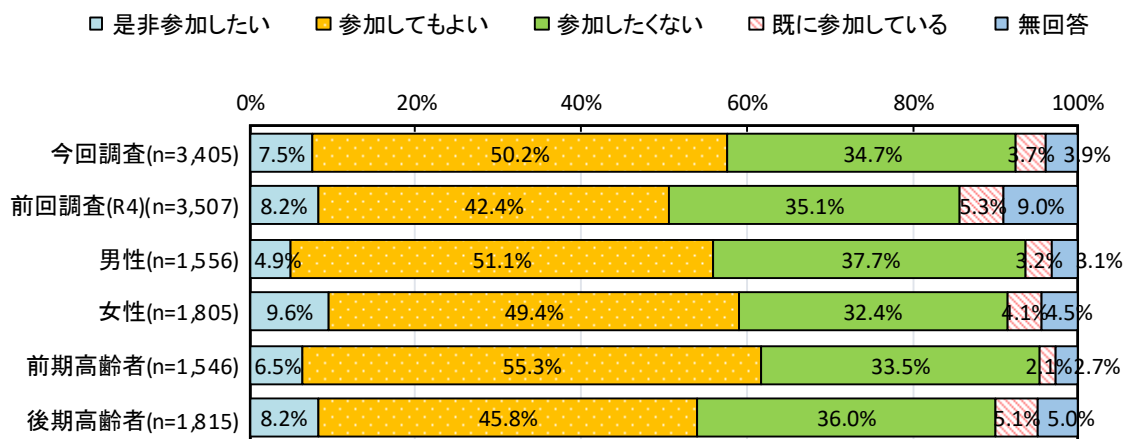
(2)地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)

全体では、「参加してもよい」50.2%が最も高く、次いで「参加したくない」34.7%、「是非参加したい」7.5%となっている。『参加意欲がある』（「是非参加したい」＋「参加してもよい」）の割合は57.7%を占める。

前回調査と比較すると、『参加意欲がある』は7.1ポイント増加している。

性別でみると、『参加意欲がある』の割合は男性56.0%、女性59.0%と女性がやや高くなっている。

年代別でみると、『参加意欲がある』の割合は前期高齢者61.8%、後期高齢者54.0%と前期高齢者が後期高齢者を7.8ポイント上回る。



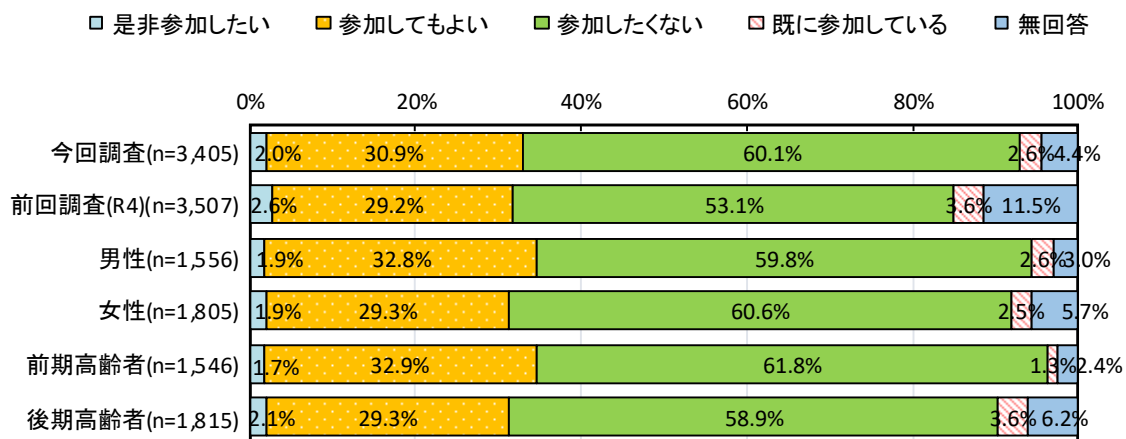
(3)地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)

全体では、「参加したくない」60.1%が最も高く、次いで「参加してもよい」30.9%、「既に参加している」2.6%となっている。『参加意欲がある』の割合は32.9%を占める。

前回調査と比較すると、『参加意欲がある』に大きな差異はないものの、「参加したくない」は7.0ポイント増加している。

性別でみると、『参加意欲がある』の割合は男性34.7%、女性31.2%と男性がやや高くなっている。

年代別でみると、『参加意欲がある』の割合は前期高齢者34.6%、後期高齢者31.4%と前期高齢者がやや高くなっている。



問6 たすけあいについて

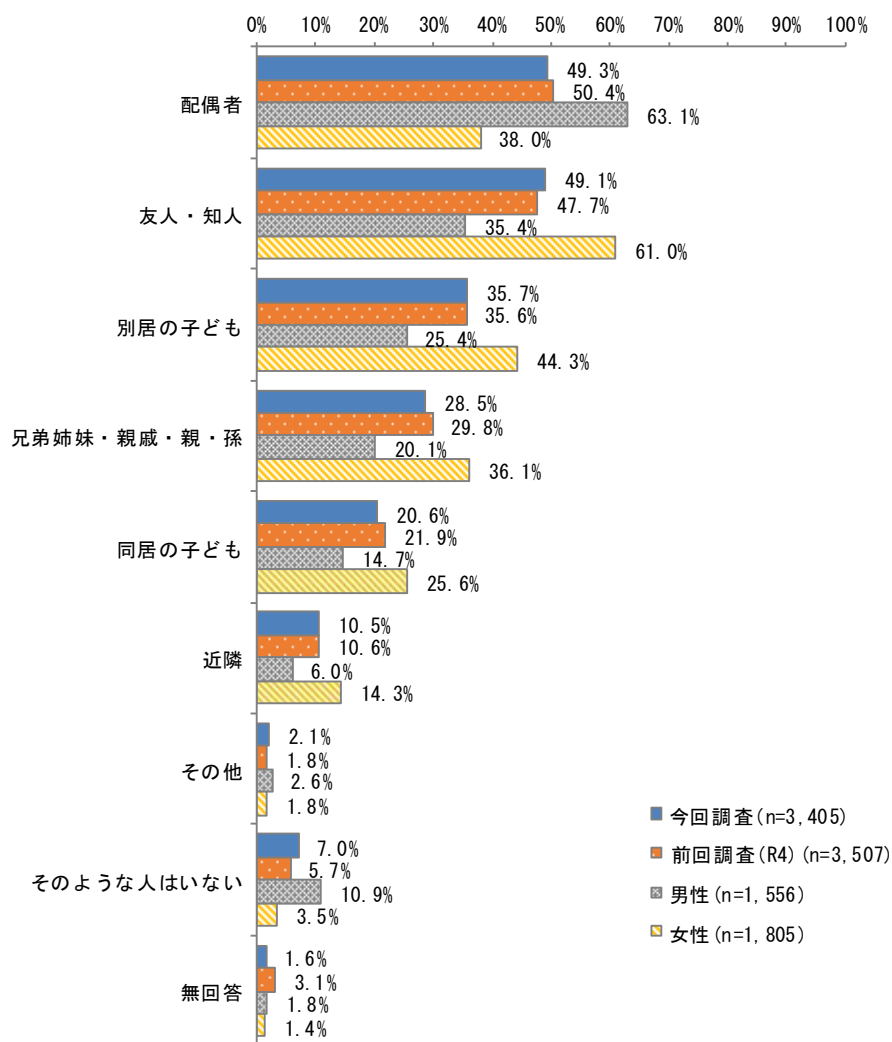
(1)あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人はいますか。(いくつでも)

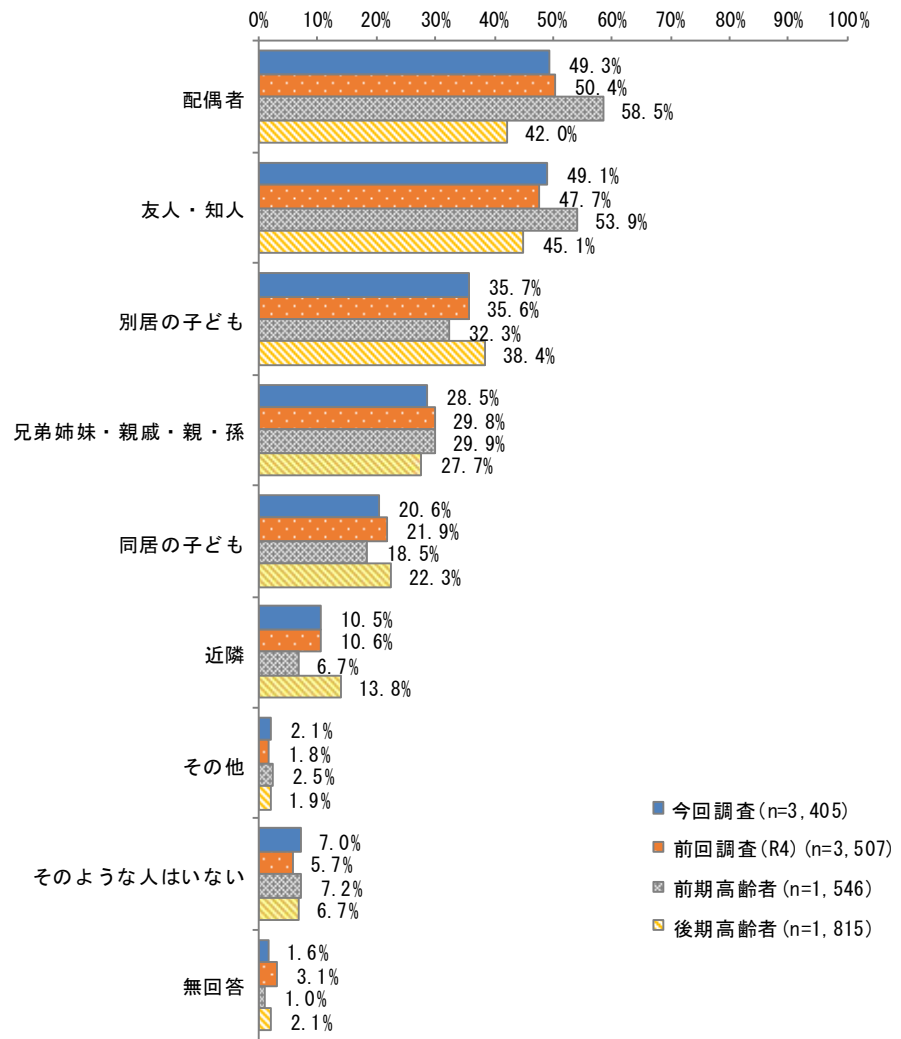
全体では、「配偶者」49.3%が最も高く、次いで「友人・知人」49.1%、「別居の子ども」35.7%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、女性が男性を上回る項目が多くみられる一方で、「配偶者」では25.1ポイント、「そのような人はいない」では7.4ポイント男性が女性を上回る。

年代別で見ると、「配偶者」では16.5ポイント、「友人・知人」では8.8ポイント前期高齢者が後期高齢者を上回る一方で、「別居の子ども」、「近隣」ではいずれも6.1ポイント以上後期高齢者が前期高齢者より高くなっている。





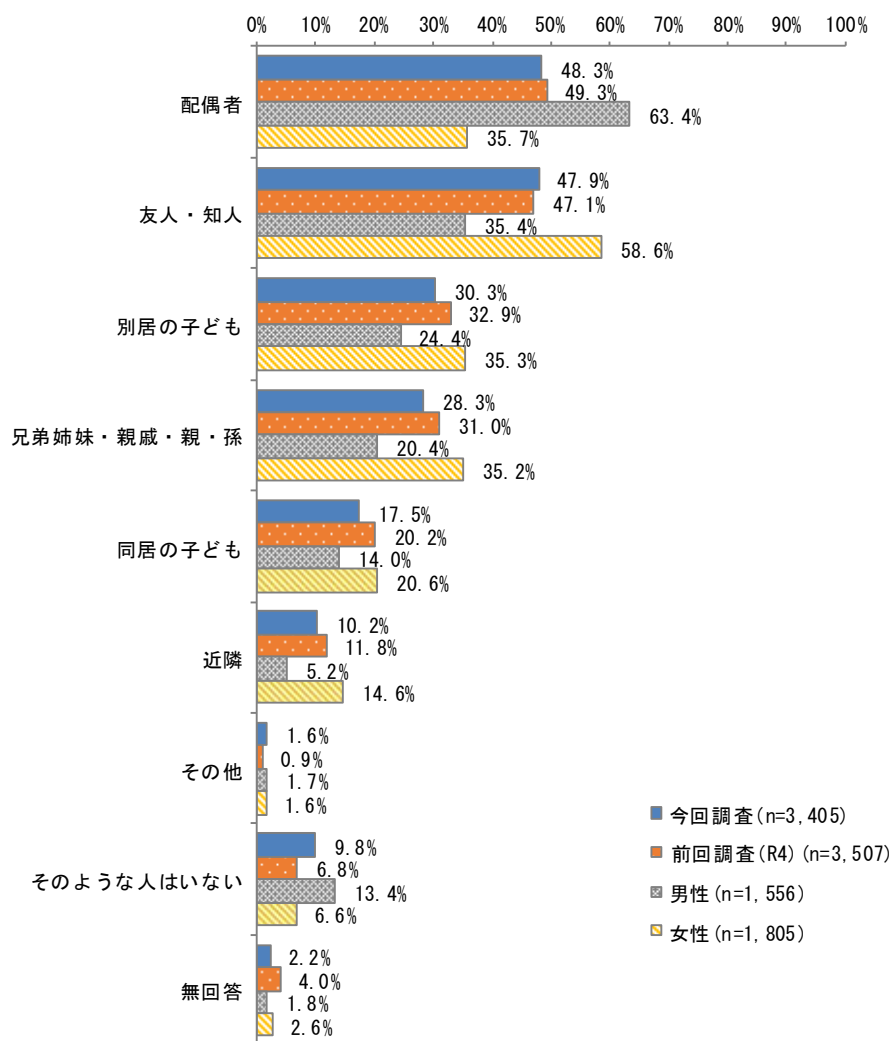
(2)あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人はいますか。(いくつでも)

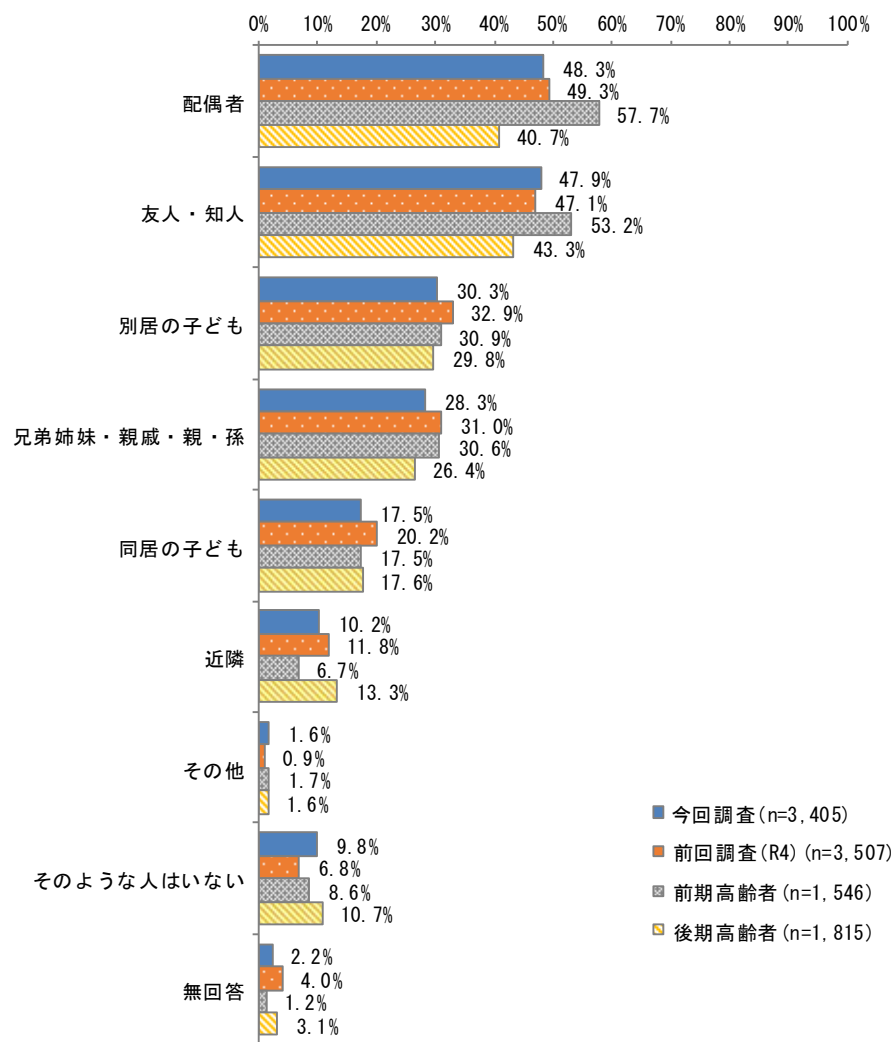
全体では、「配偶者」48.3%が最も高く、次いで「友人・知人」47.9%、「別居の子ども」30.3%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、女性が男性を上回る項目が多くみられる一方で、「配偶者」では27.7ポイント、「そのような人はいない」では6.8ポイント、男性が女性より高くなっている。

年代別でみると、「配偶者」では17.0ポイント、「友人・知人」では9.9ポイント前期高齢者が後期高齢者を上回る一方で、「近隣」では6.6ポイント後期高齢者が前期高齢者より高くなっている。





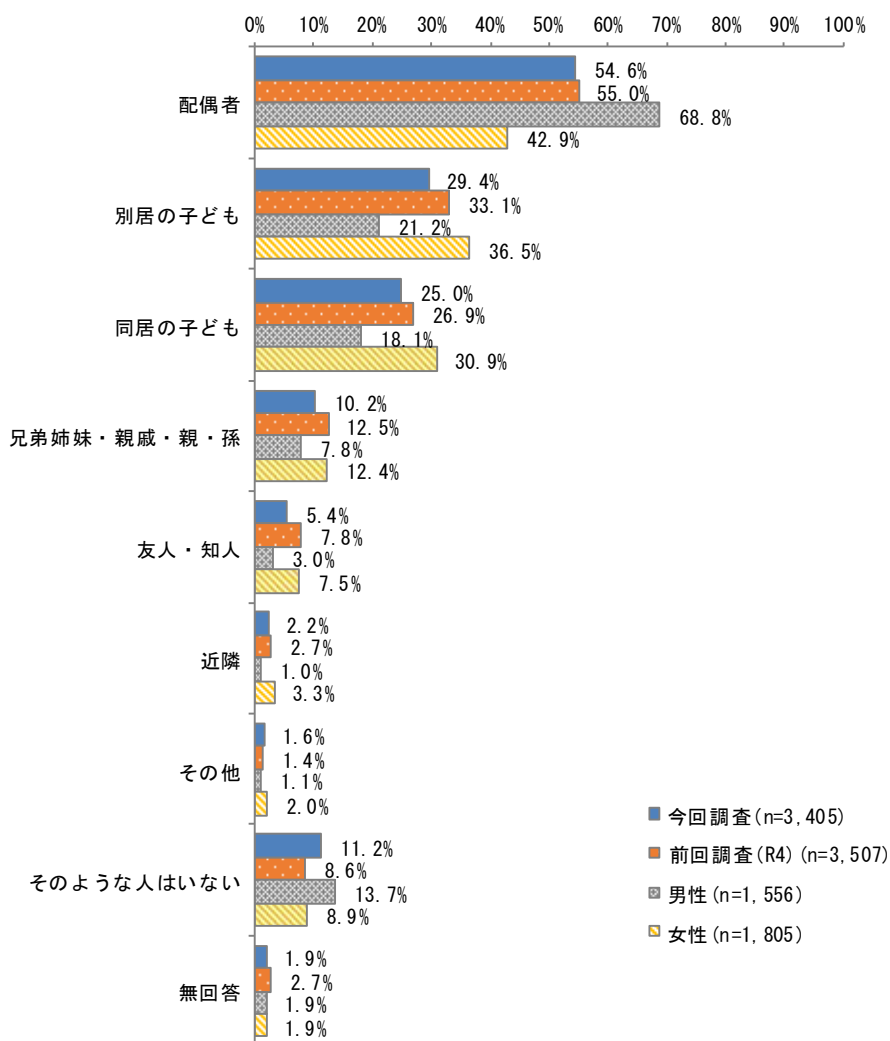
(3)あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか。(いくつでも)

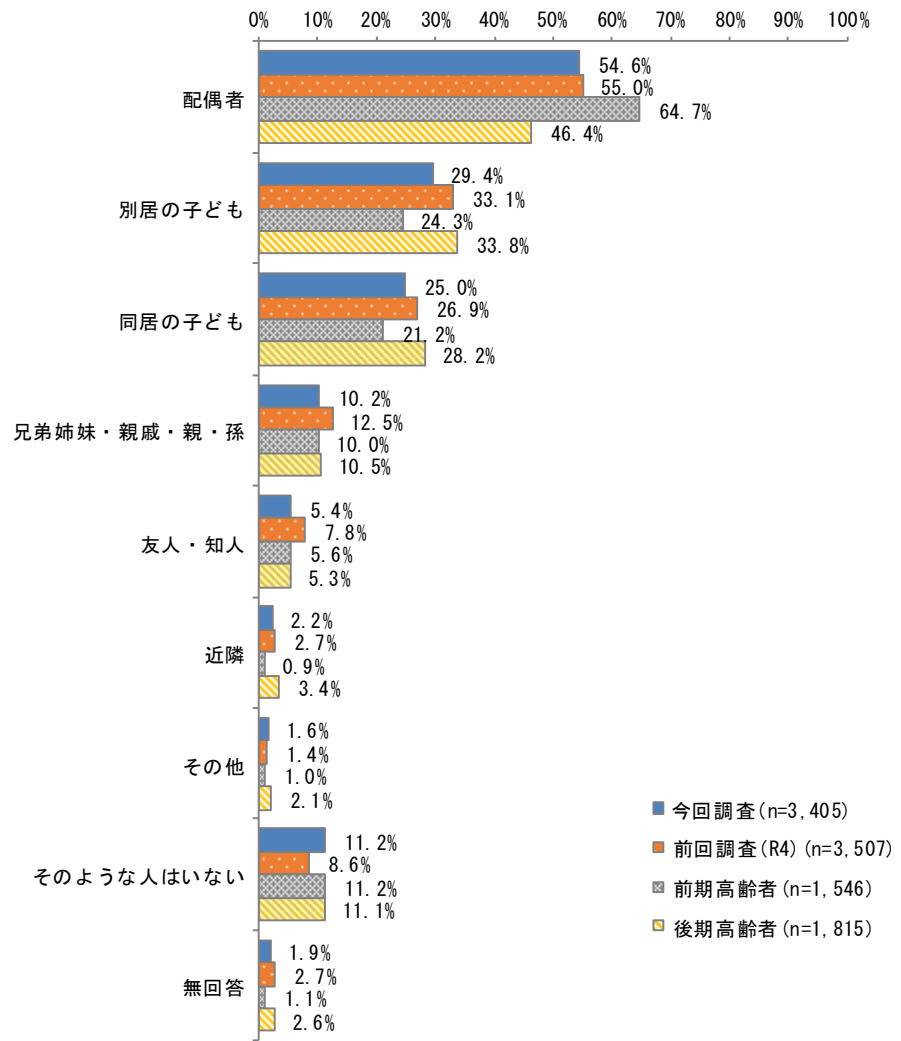
全体では、「配偶者」54.6%が最も高く、次いで「別居の子ども」29.4%、「同居の子ども」25.0%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、「配偶者」では男性が女性を25.9ポイントと大きく上回る。一方で、「別居の子ども」、「同居の子ども」ではいずれも12.8ポイント以上女性が男性を上回る。

年代別でみると、「配偶者」では18.3ポイント前期高齢者が後期高齢者を上回る一方で、「別居の子ども」、「同居の子ども」ではいずれも7.0ポイント以上後期高齢者が前期高齢者より高くなっている。





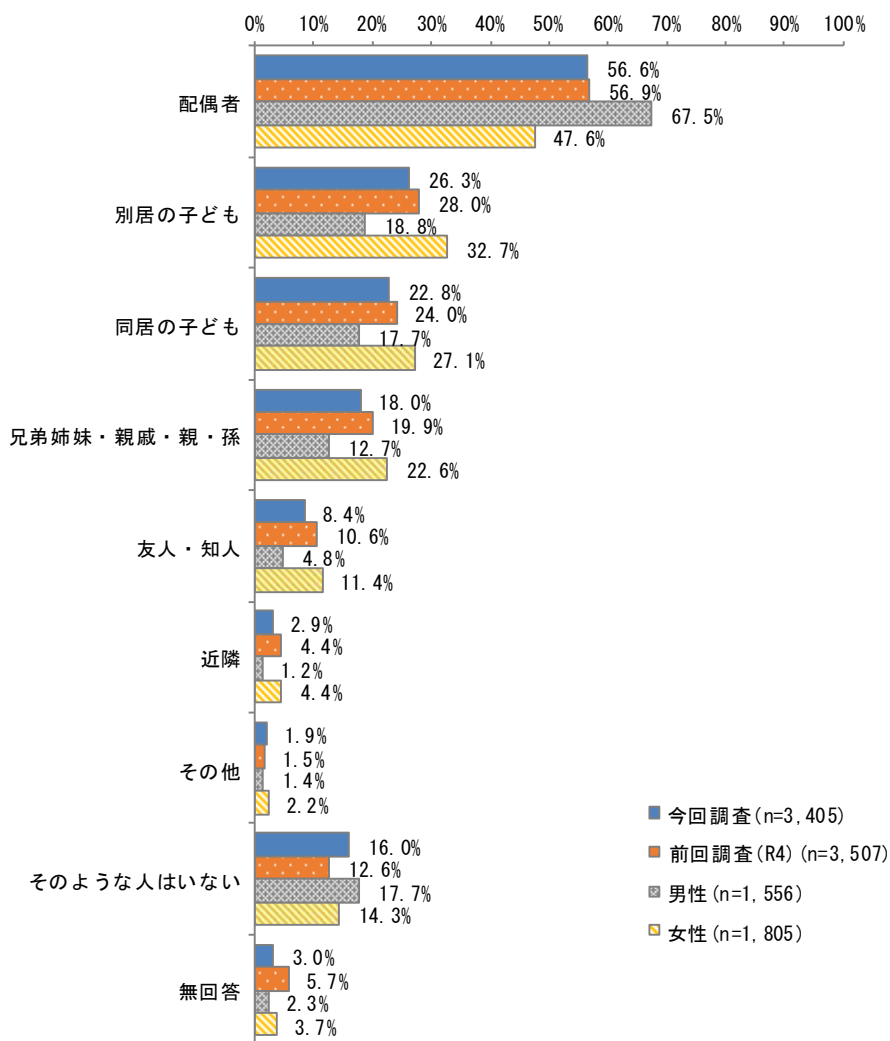
(4)あなたが看病や世話をしあげられる人はいますか。(いくつでも)

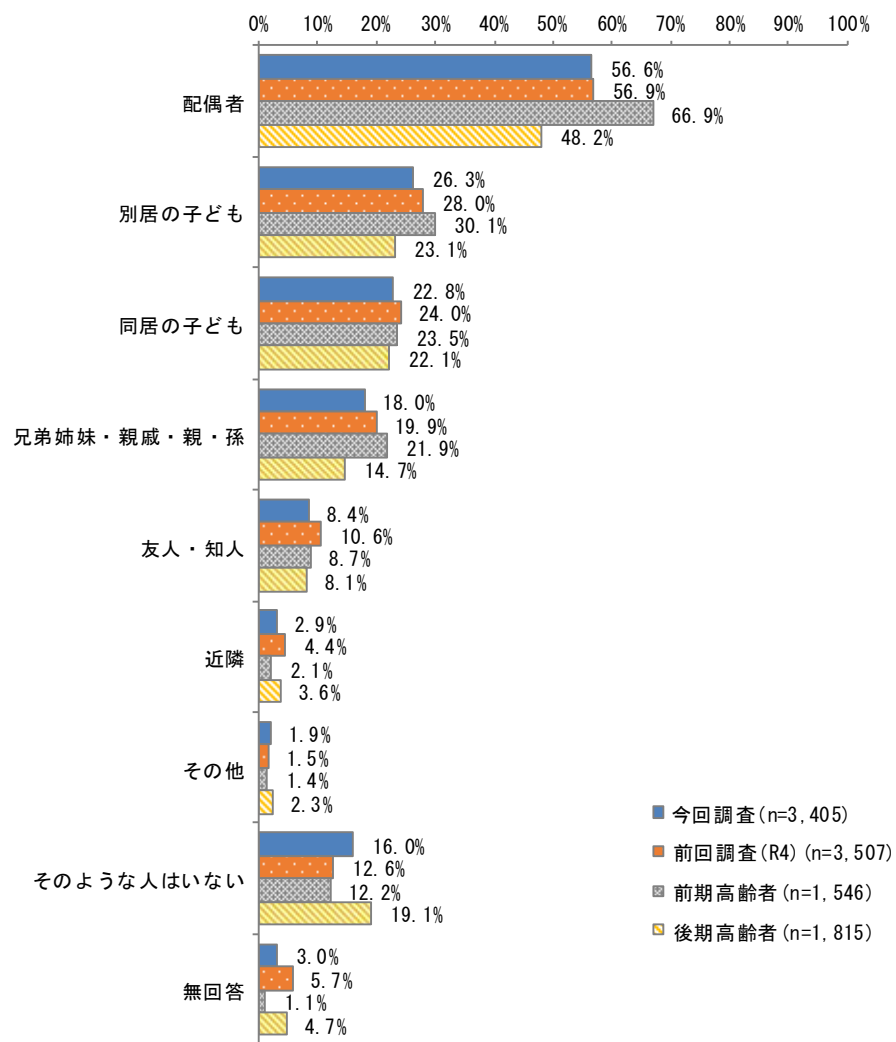
全体では、「配偶者」56.6%が最も高く、次いで「別居の子ども」26.3%、「同居の子ども」22.8%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、女性が男性を上回る項目が多くみられる一方で、「配偶者」では19.9ポイント男性が女性を上回る。

年代別でみると、「別居の子ども」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」ではいずれも7.0ポイント以上、「配偶者」では18.7ポイント前期高齢者が後期高齢者を上回る。一方で、「そのような人はいない」では6.9ポイント後期高齢者が前期高齢者より高くなっている。





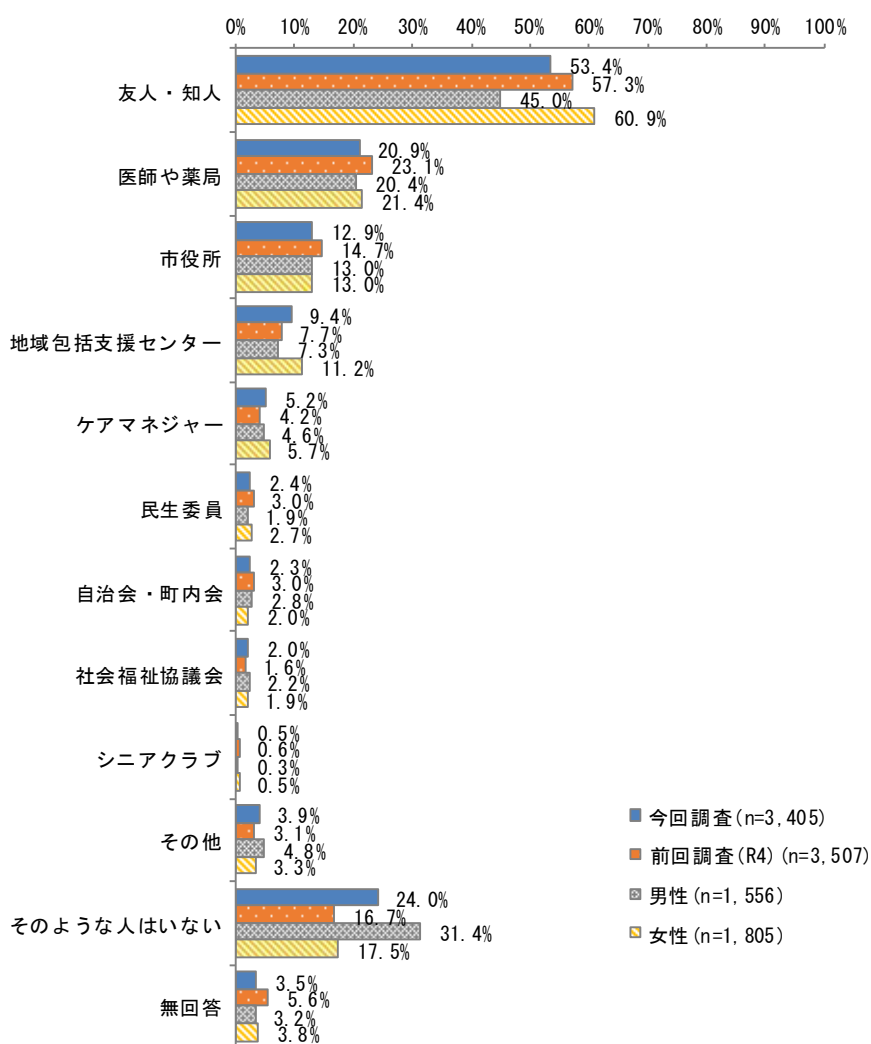
(5)家族以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(いくつでも)

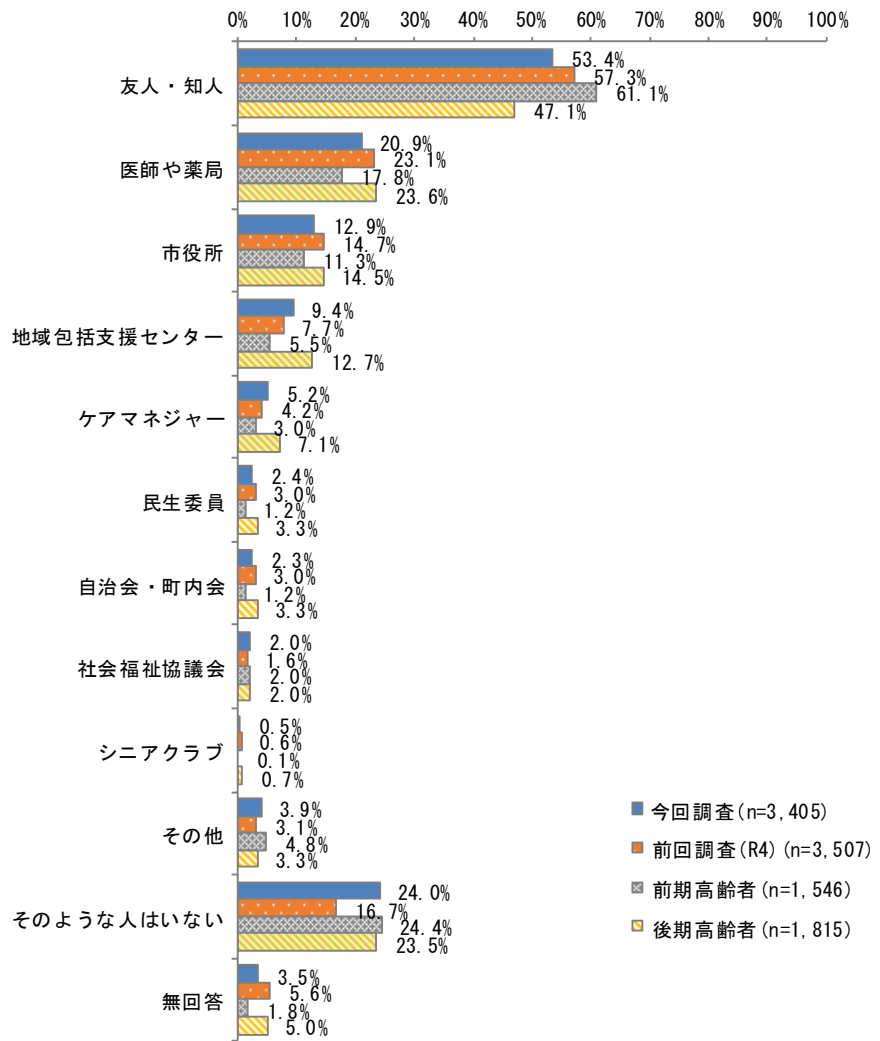
全体では、「友人・知人」53.4%が最も高く、次いで「そのような人はいない」24.0%、「医師や薬局」20.9%となっている。

前回調査と比較すると、「そのような人はいない」は7.3ポイント増加している。

性別でみると、「友人・知人」では女性が男性を15.9ポイント上回る。一方で「そのような人はいない」では男性が女性より13.9ポイント高くなっている。

年代別でみると、「友人・知人」では14.0ポイント前期高齢者が後期高齢者を上回る一方で、「医師や薬局」、「地域包括支援センター」ではいずれも5.8ポイント以上後期高齢者が前期高齢者より高くなっている。





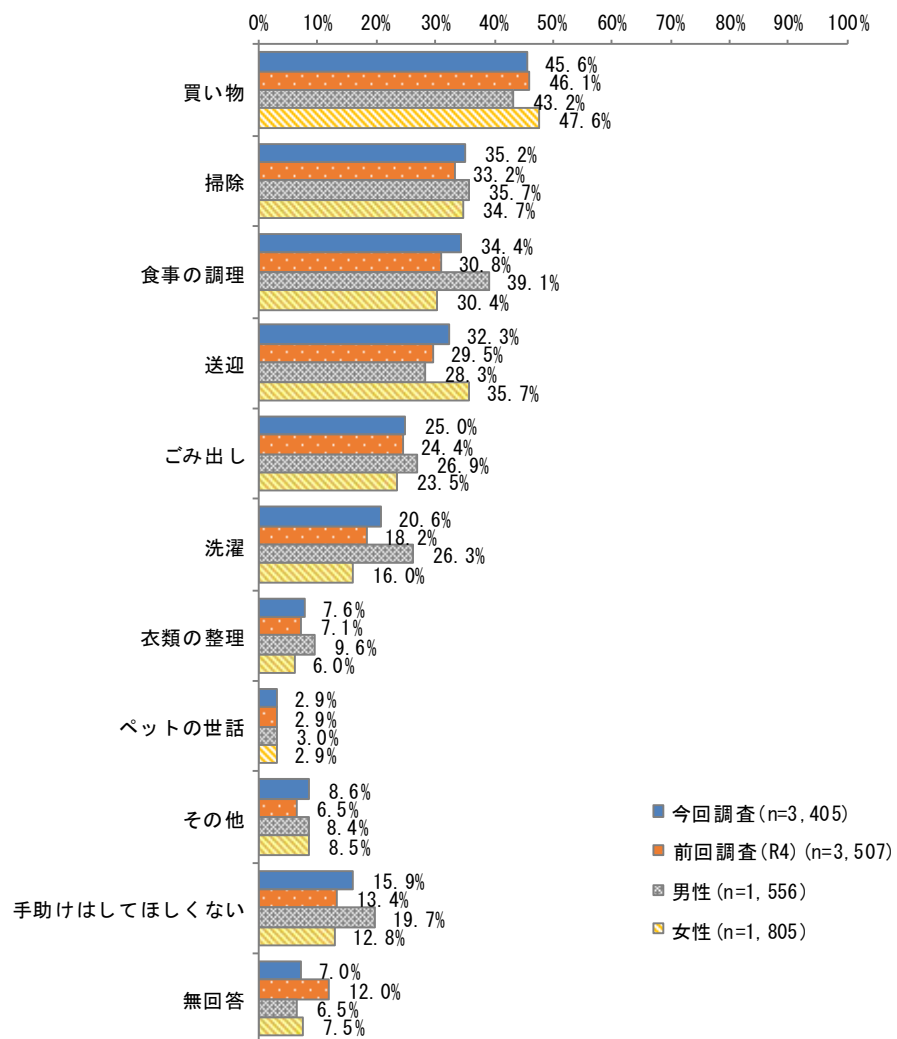
(6) 将来、あなたが日常生活で支援を必要とする状態となったときに、有償ボランティアの団体等に手助けをしてもらいたいことはありますか。(いくつでも)

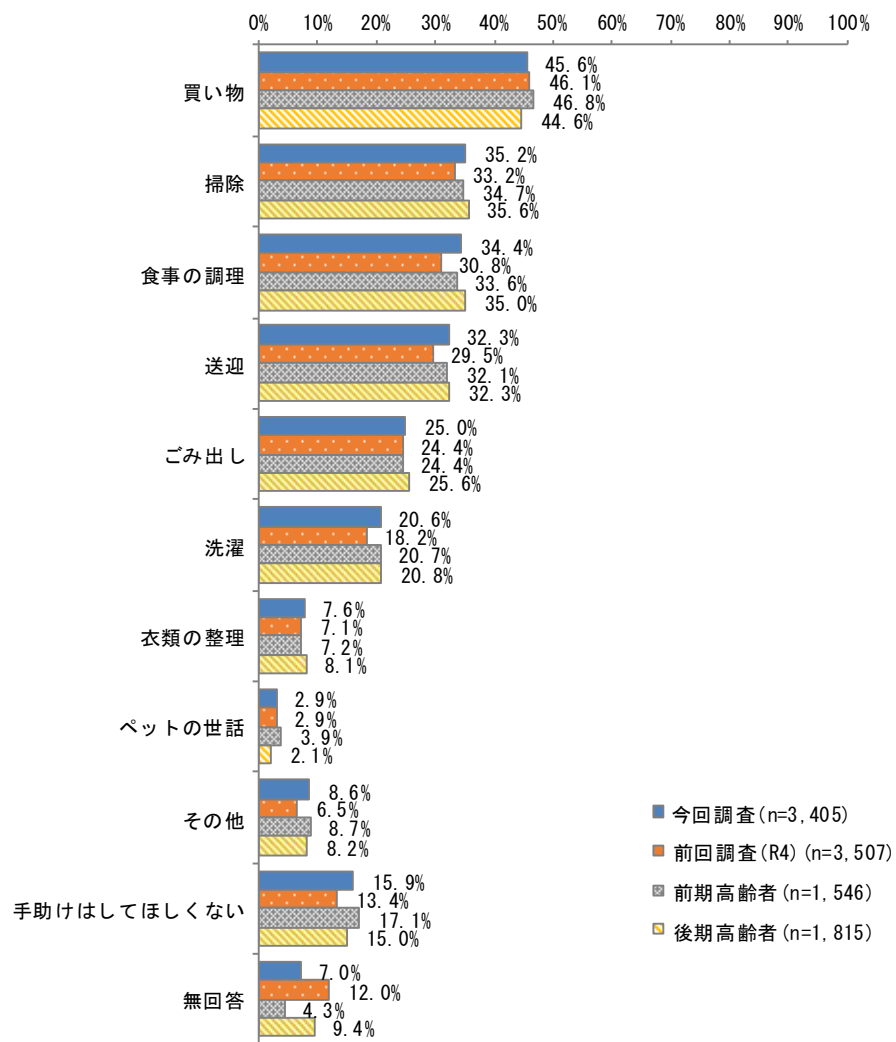
全体では、「買い物」45.6%が最も高く、次いで「掃除」35.2%、「食事の調理」34.4%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、「食事の調理」、「洗濯」、「手助けはしてほしくない」ではいずれも6.9ポイント以上男性が女性を上回る。一方で、「送迎」では7.4ポイント女性が男性より高くなっている。

年代別でみると、大きな差異はみられない。





問7 健康について

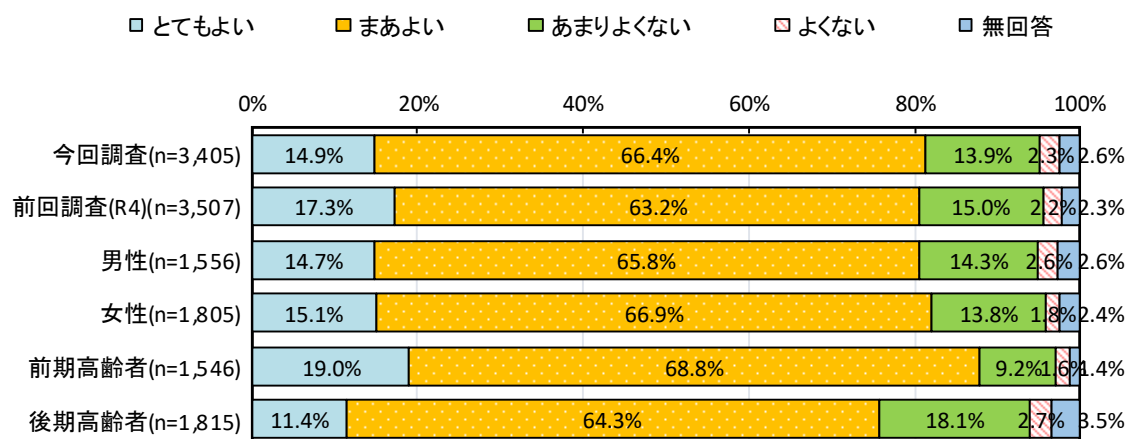
(1)現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

全体では、「まあよい」66.4%が最も高く、次いで「とてもよい」14.9%、「あまりよくない」13.9%となっている。『よい』（「とてもよい」＋「まあよい」）の割合は81.3%を占める。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、『よい』の割合は男性80.5%、女性82.0%となっている。

年代別でみると、『よい』の割合は前期高齢者87.8%、後期高齢者75.7%と前期高齢者が後期高齢者を12.1ポイント上回る。



(2)あなたは、現在どの程度幸せですか(○は1つ)

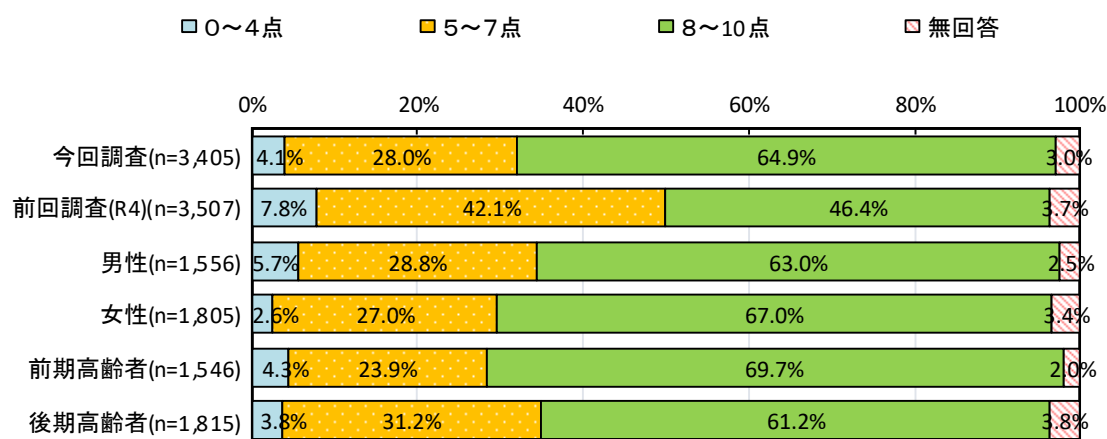
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数に「○」をしてください。)

全体では、「8～10点」64.9%が最も高く、次いで「5～7点」28.0%、「0～4点」4.1%となっている。

前回調査と比較すると、「8～10点」は18.5ポイント増加している。

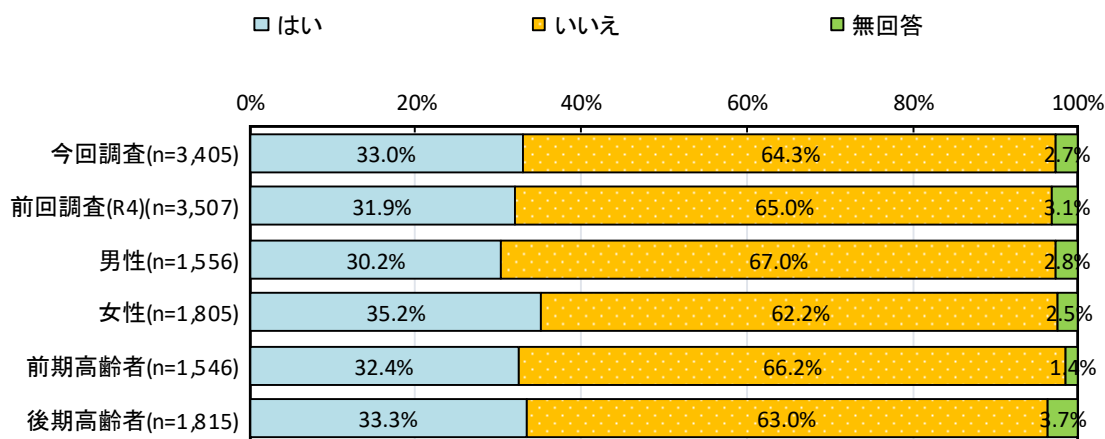
性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、「8～10点」の割合は前期高齢者69.7%、後期高齢者61.2%と前期高齢者が後期高齢者を8.5ポイント上回る。



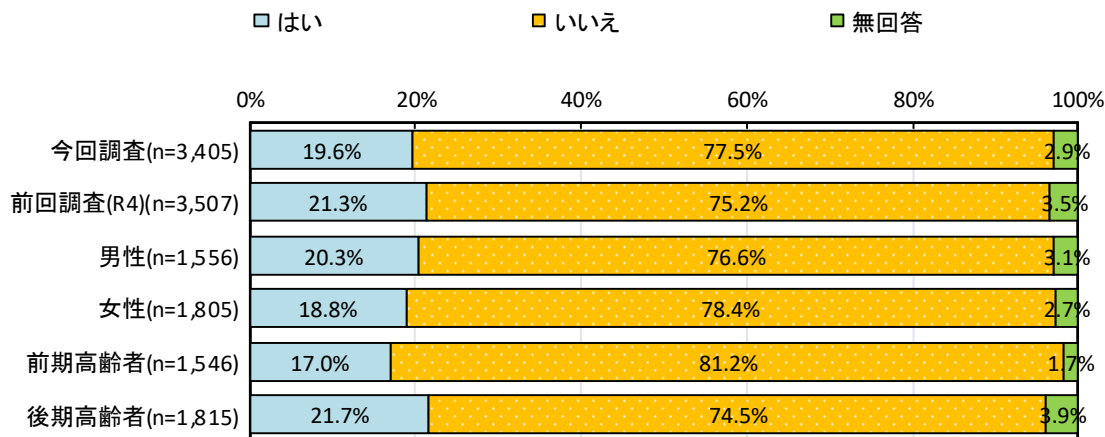
(3)この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。
(○は1つ)

全体では、「はい」33.0%、「いいえ」64.3%となっている。
 前回調査と比較して大きな差異はみられない。
 性別でみると、「はい」の割合は男性30.2%、女性35.2%と女性が男性を5.0ポイント上回る。
 年代別でみると、大きな差異はみられない。



(4)この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(○は1つ)

全体では、「はい」19.6%、「いいえ」77.5%となっている。
 前回調査と比較して大きな差異はみられない。
 性別でみると、大きな差異はみられない。
 年代別でみると、「いいえ」の割合は前期高齢者81.2%、後期高齢者74.5%と前期高齢者が後期高齢者を6.7ポイント上回る。



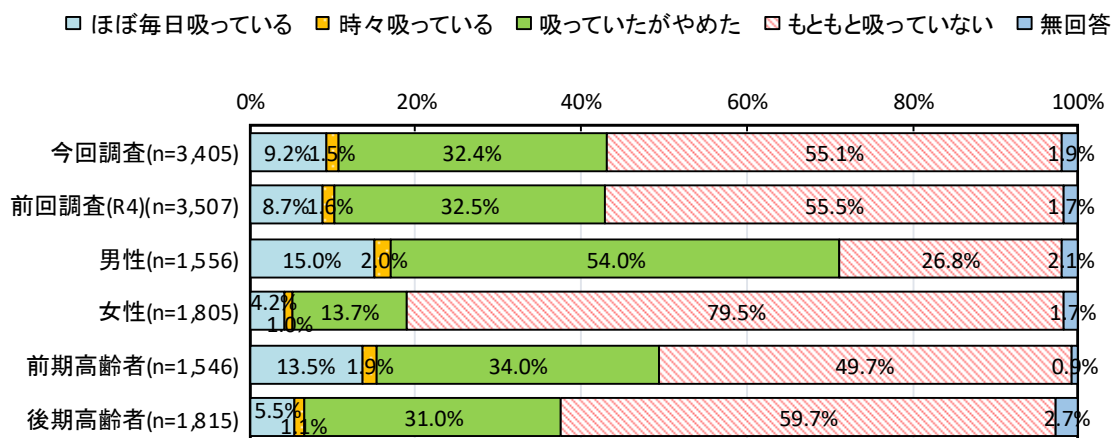
(5)タバコは吸っていますか。(〇は1つ)

全体では、「もともと吸っていない」55.1%が最も高く、次いで「吸っていたがやめた」32.4%、「ほぼ毎日吸っている」9.2%となっている。『吸っている』（「ほぼ毎日吸っている」+「時々吸っている」）の割合は10.7%を占める。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、『吸っている』の割合は男性17.0%、女性5.2%と男性が女性を11.8ポイント上回る。

年代別でみると、『吸っている』の割合は前期高齢者15.4%、後期高齢者6.6%と前期高齢者が後期高齢者を8.8ポイント上回る。

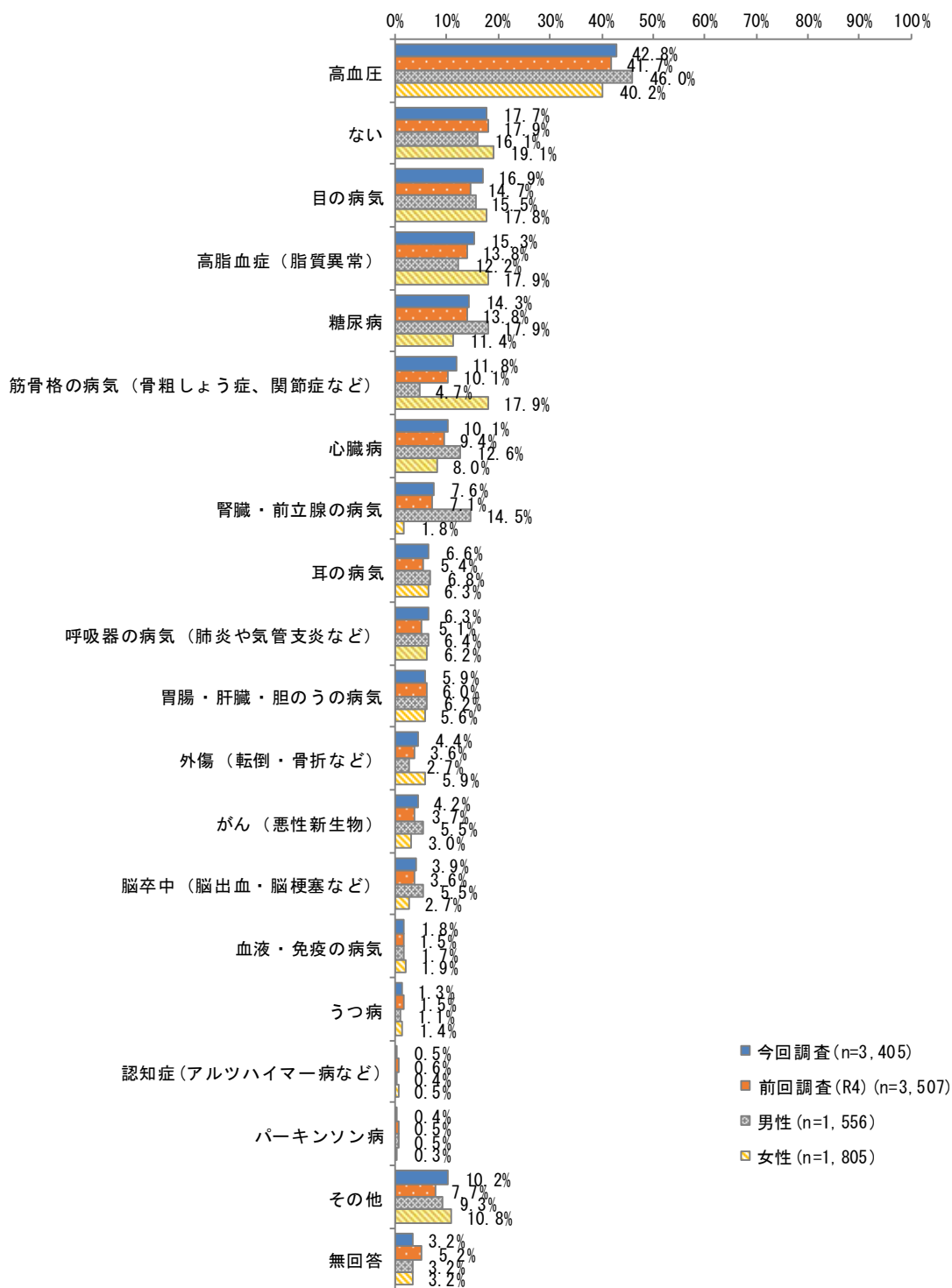


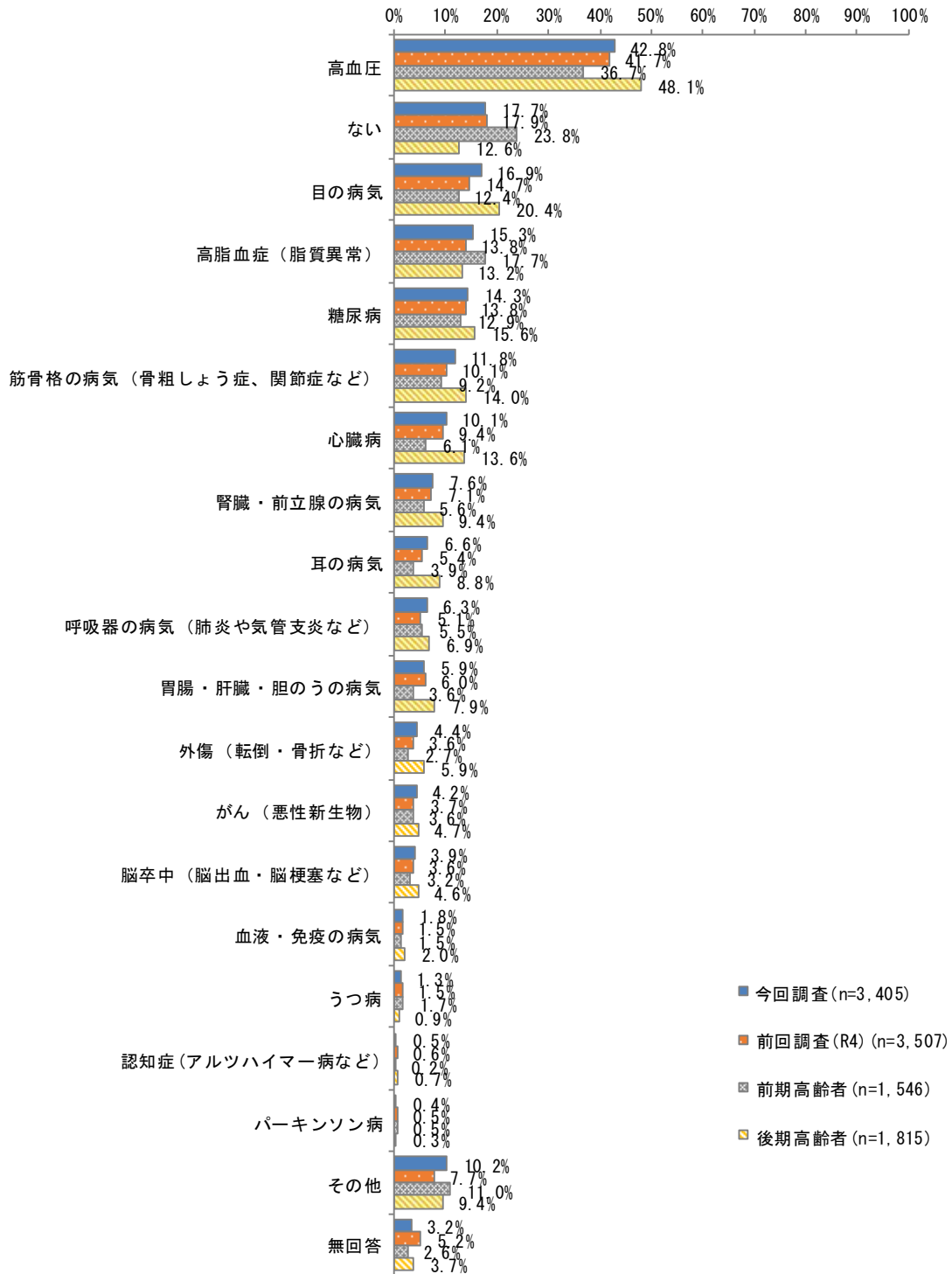
(6)現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)

全体では、「高血圧」42.8%が最も高く、次いで「ない」17.7%、「目の病気」16.9%となっている。前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症など）」では女性が男性を13.2ポイント上回る。一方で、「腎臓・前立腺の病気」では12.7ポイント男性が女性より高くなっている。

年代別でみると、「高血圧」では11.4ポイント、「目の病気」では8.0ポイント、「心臓病」では7.5ポイント後期高齢者が前期高齢者より高くなっている。





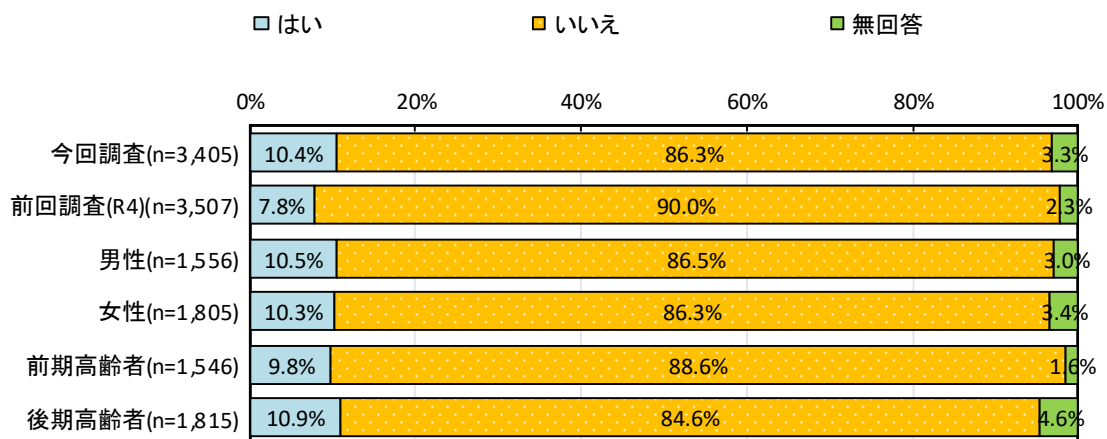
問8 認知症について

(1)ご自身に認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(○は1つ)

全体では、「はい」10.4%、「いいえ」86.3%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別、年代別でみると、大きな差異はみられない。



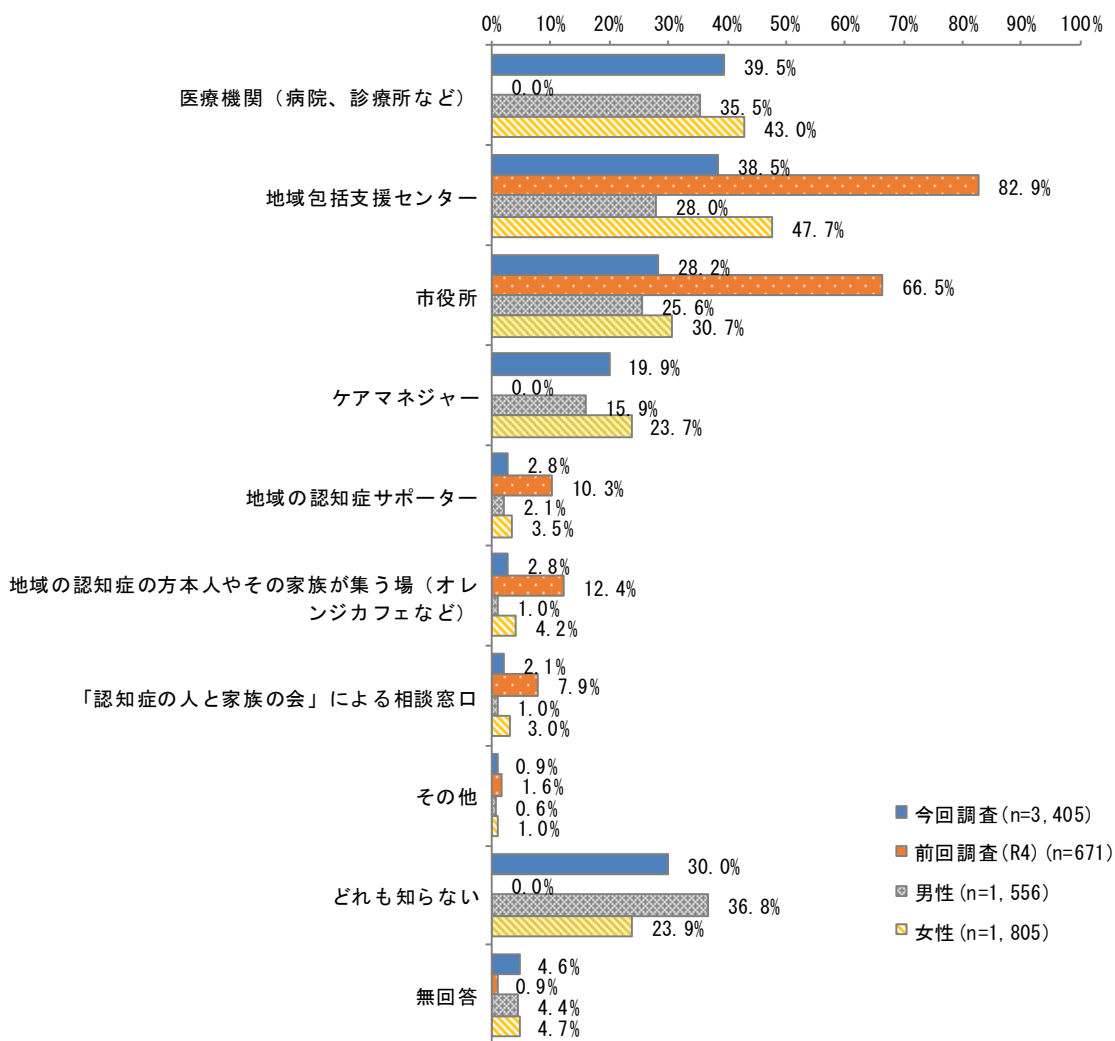
(2)認知症に関する相談ができる相手のうち、知っているものはありますか。(いくつでも)

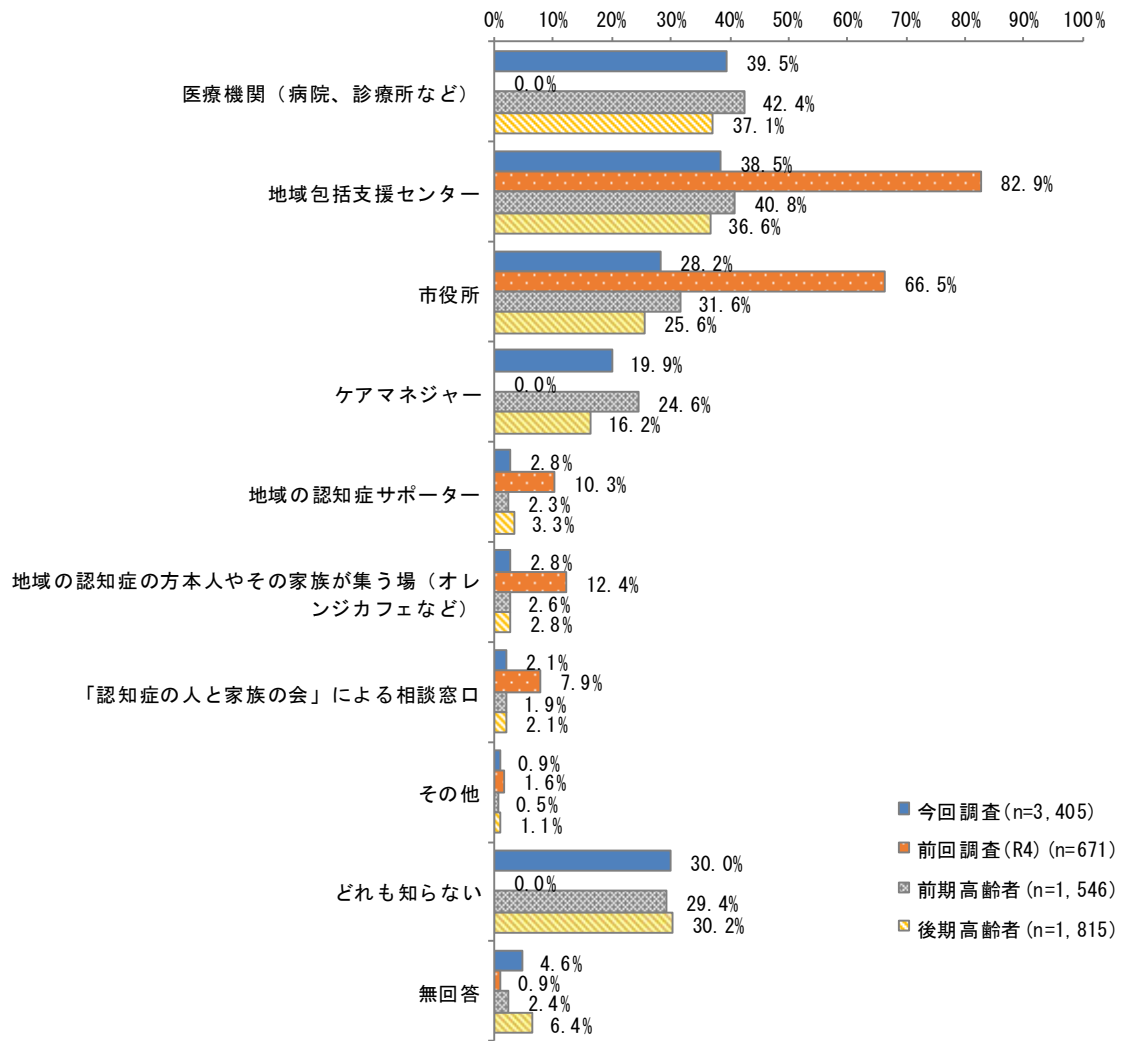
全体では、「医療機関（病院、診療所など）」39.5%が最も高く、次いで「地域包括支援センター」38.5%、「どれも知らない」30.0%となっている。

前回調査と比較すると、「地域包括支援センター」、「市役所」の割合は大きく低下している一方で、「医療機関（病院、診療所など）」、「ケアマネジャー」などに回答が分散し、相談先の認知が広がっていることがうかがえる。

性別でみると、「どれも知らない」では男性が女性を12.9ポイント上回る。一方で、「地域包括支援センター」では19.7ポイント、「ケアマネジャー」では7.8ポイント女性が男性よりいずれも高くなっている。

年代別でみると、「ケアマネジャー」では8.4ポイント前期高齢者が後期高齢者よりも高くなっている。





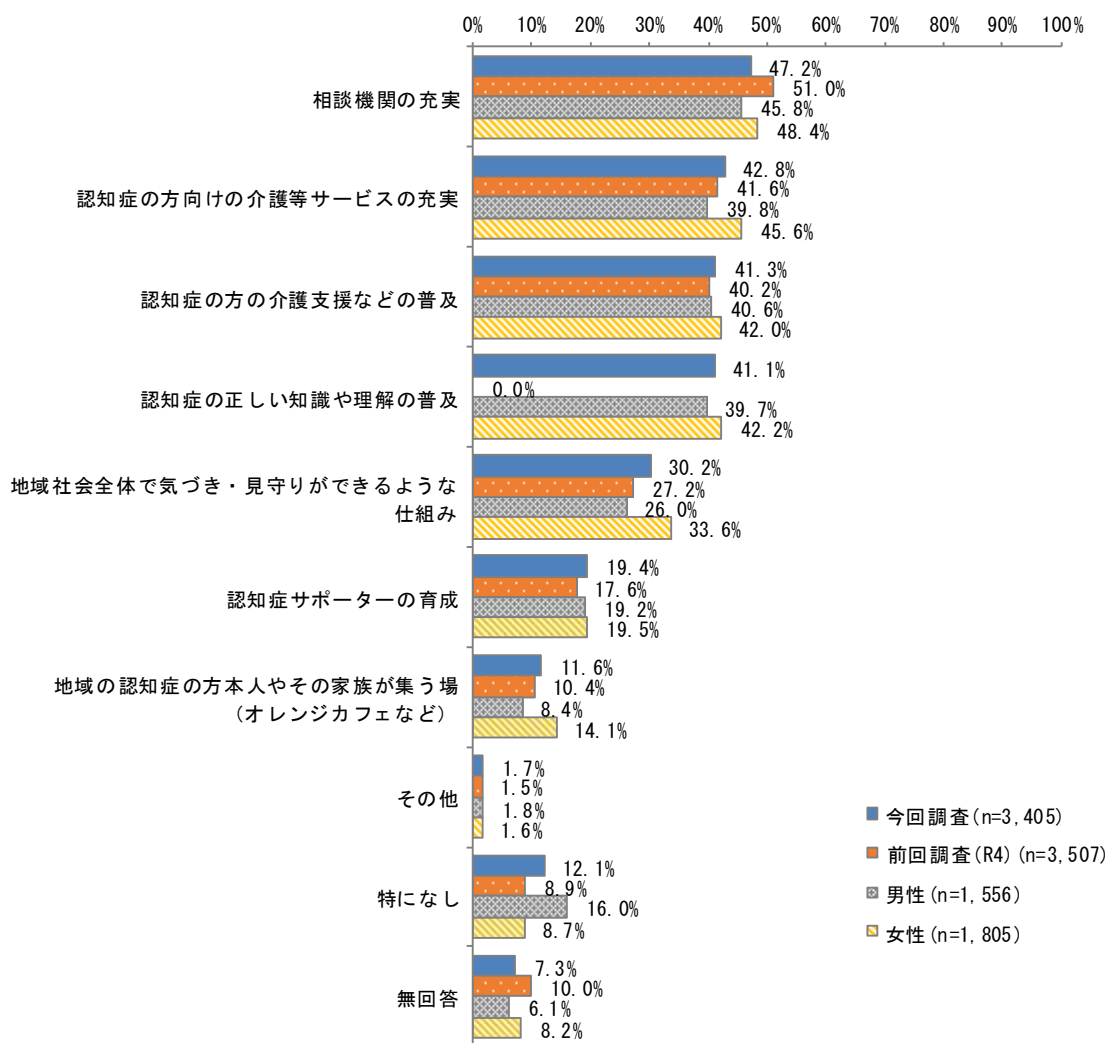
(3)認知症に対する取組として、必要だと思うことはありますか。(いくつでも)

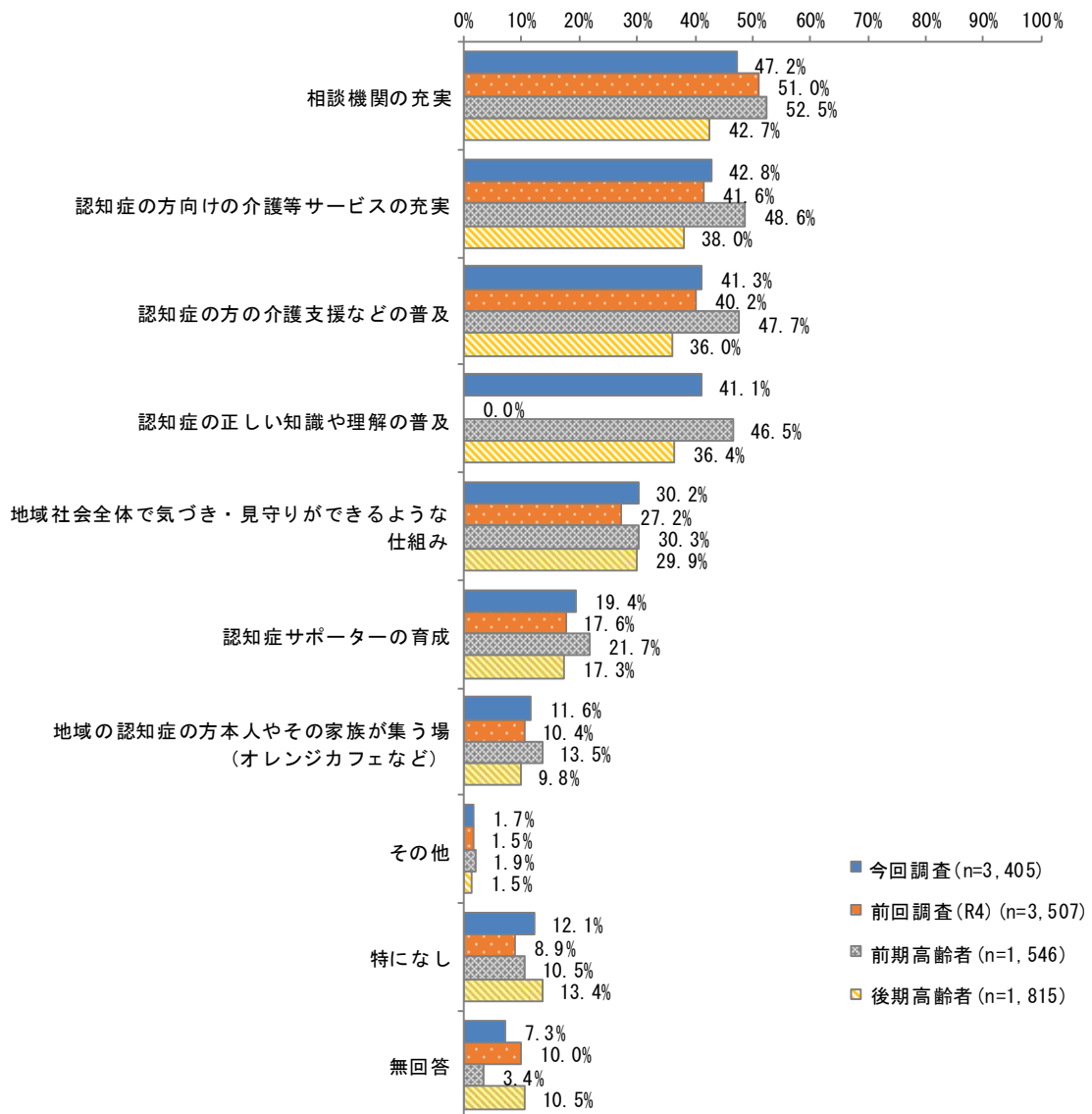
全体では、「相談機関の充実」47.2%が最も高く、次いで「認知症の方向けの介護等サービスの充実」42.8%、「認知症の方の介護支援などの普及」41.3%となっている。

前回調査と比較すると、今回新たに追加された「認知症の正しい知識や理解の普及」は41.1%を占め、その他の項目はいずれも大きな差異はみられない。

性別でみると、「認知症の方向けの介護等サービスの充実」、「地域社会全体で気づき・見守りができるような仕組み」、「地域の認知症の方本人やその家族が集う場（オレンジカフェなど）」はいずれも5.7ポイント以上女性が男性を上回る。

年代別でみると、「相談機関の充実」、「認知症の方向けの介護等サービスの充実」、「認知症の方の介護支援などの普及」、「認知症の正しい知識や理解の普及」ではいずれも9.8ポイント以上前期高齢者が後期高齢者より高くなっている。



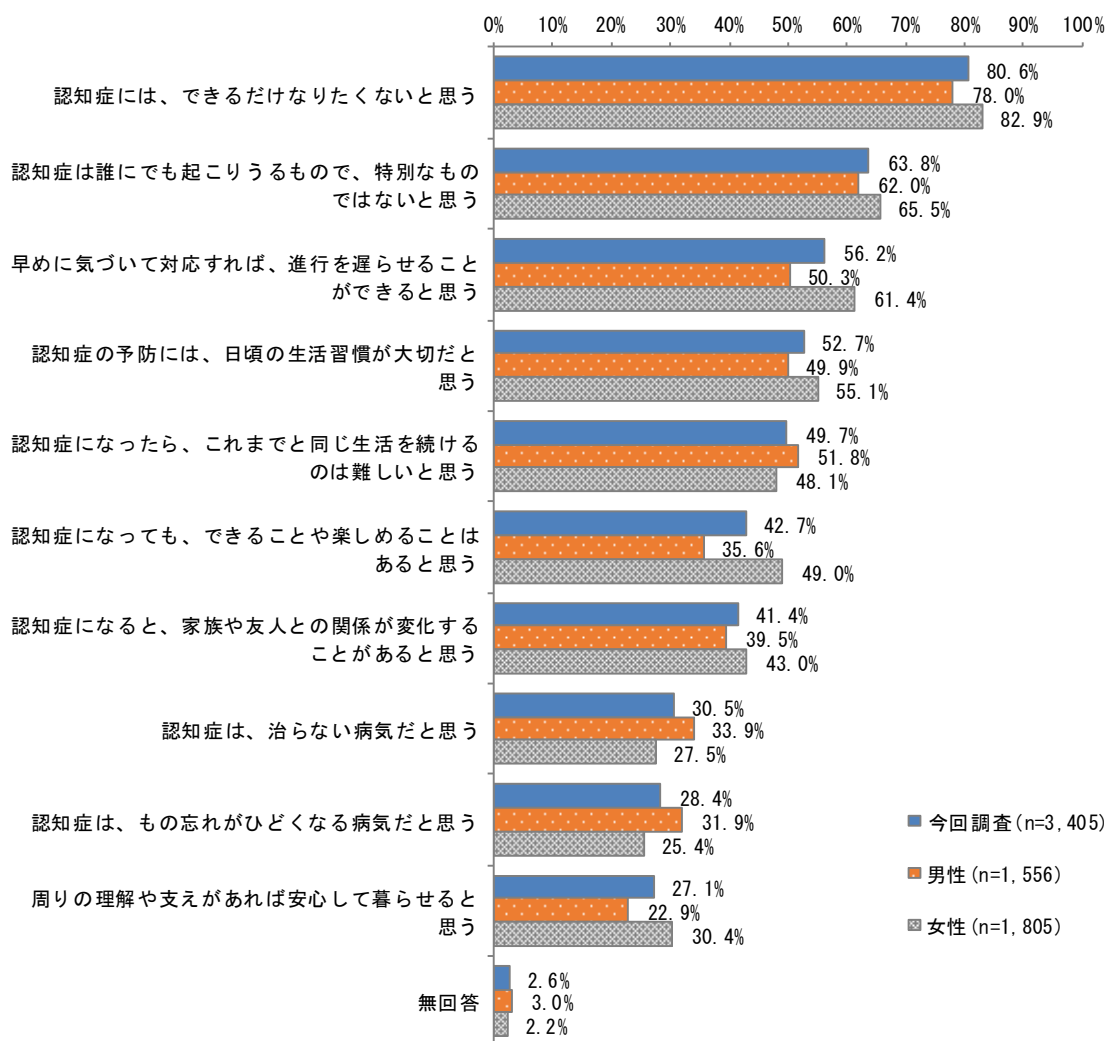


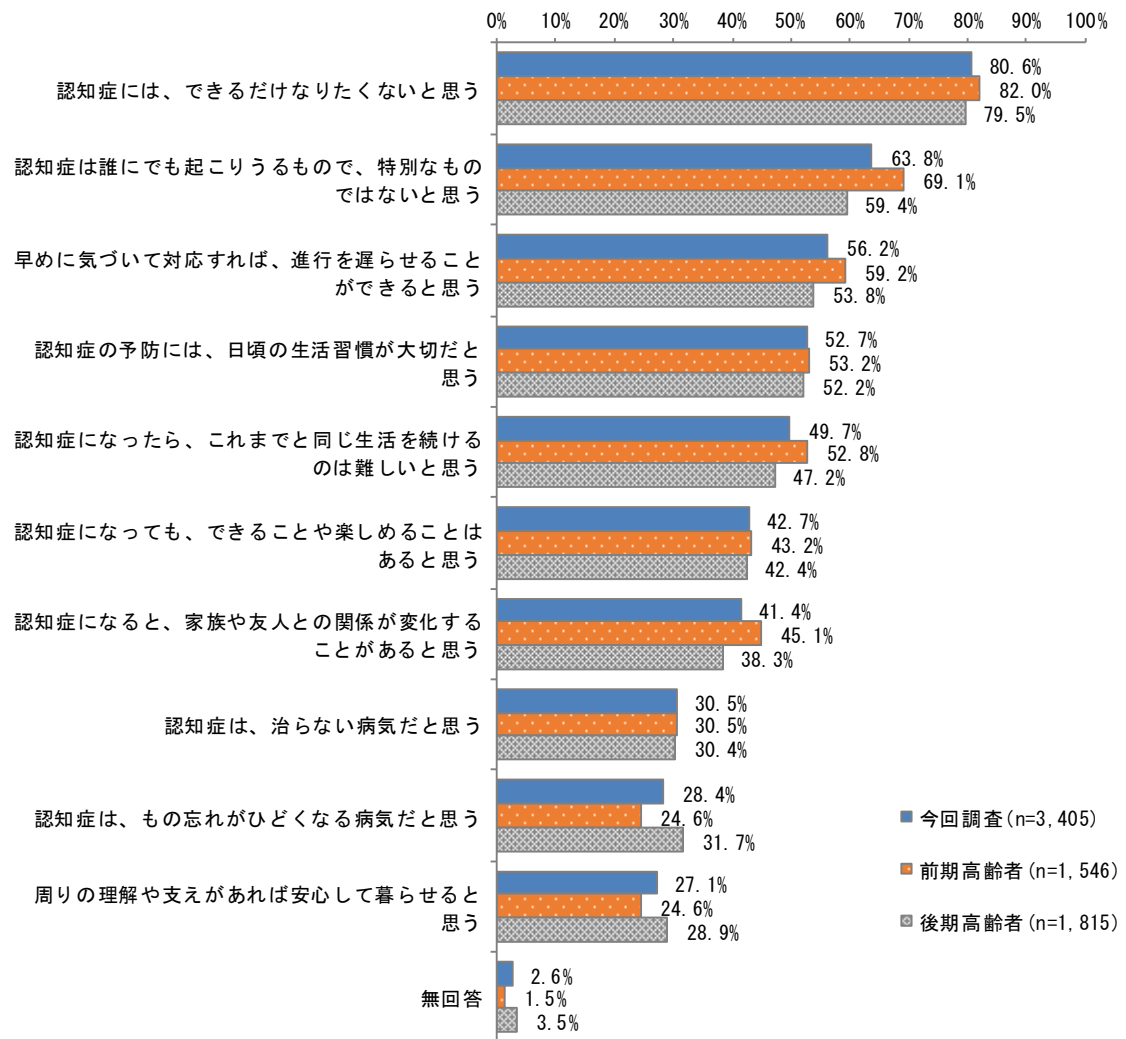
(4)あなたは認知症をどのように思いますか。(いくつでも)

全体では、「認知症には、できるだけなりたくないと思う」80.6%が最も高く、次いで「認知症は誰にでも起こりうるもので、特別なものではないと思う」63.8%、「早めに気づいて対応すれば、進行を遅らせることができると思う」56.2%となっている。

性別で見ると、予防や前向きな認識に関する項目で女性が男性を上回る傾向がみられ、「早めに気づいて対応すれば、進行を遅らせることができると思う」、「認知症になっても、できることや楽しめることはあると思う」ではいずれも11.1ポイント以上女性が男性より高くなっている。

年代別で見ると、前期高齢者が後期高齢者を上回る項目の中でも、「認知症は誰にでも起こりうるもので、特別なものではないと思う」は9.7ポイント高くなっている。



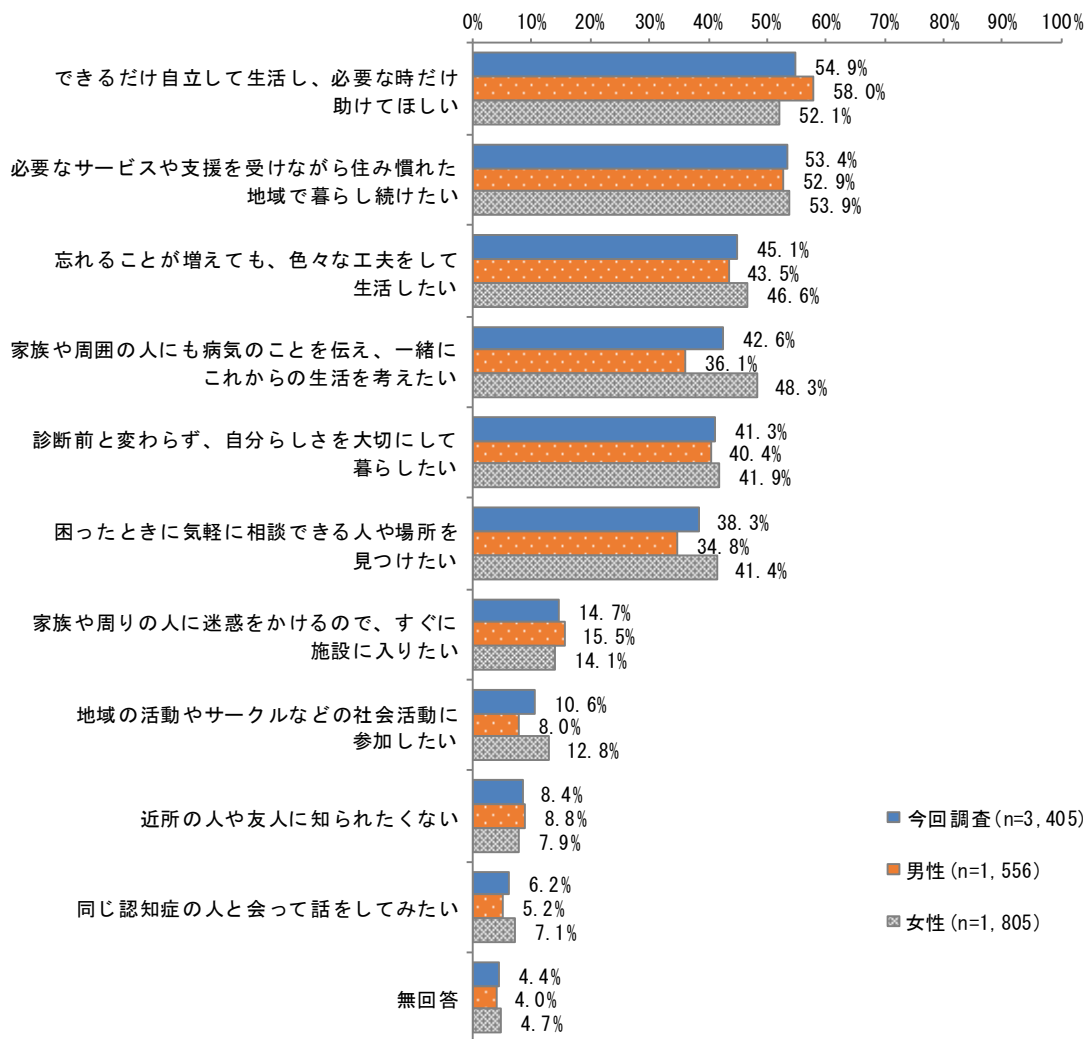


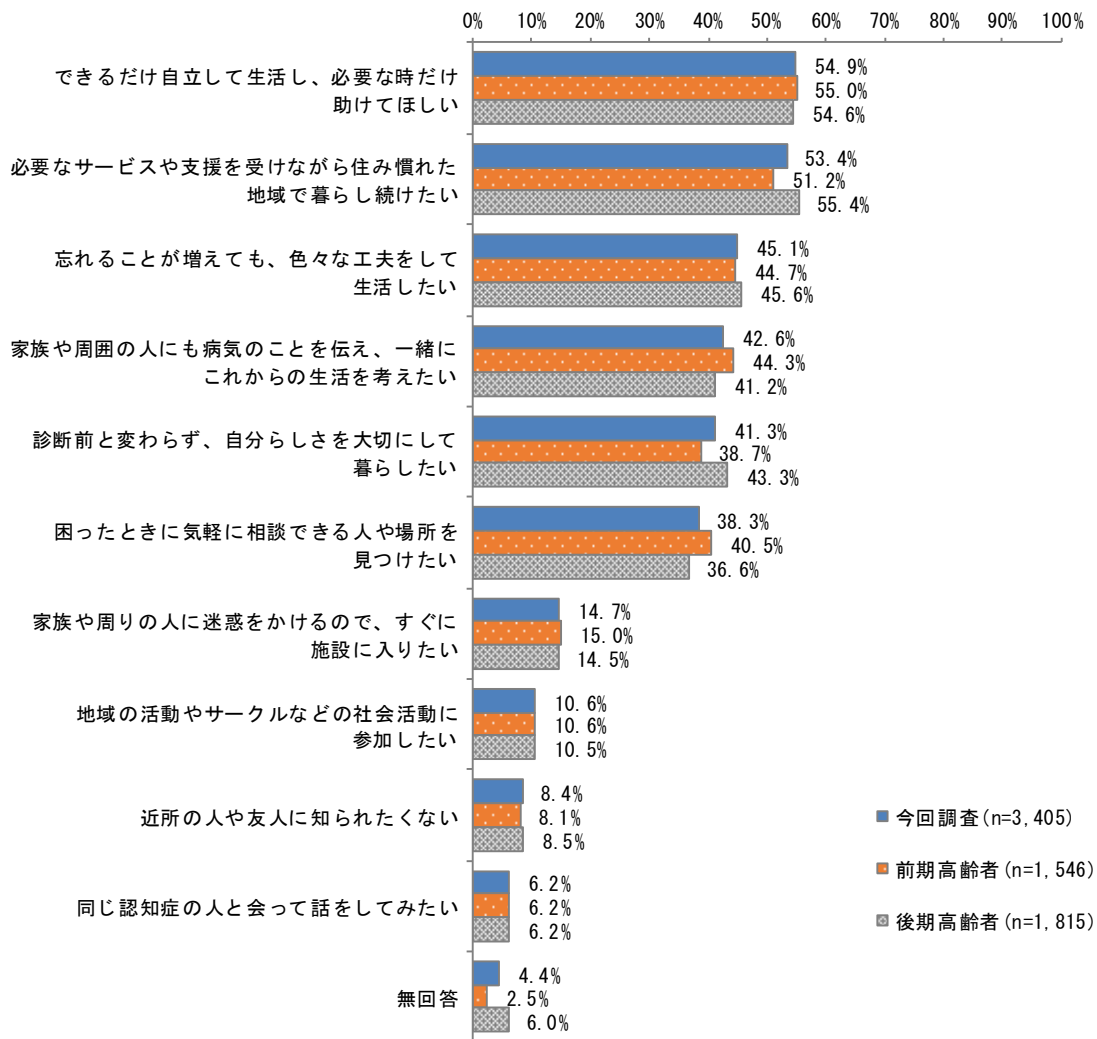
(5)あなたは認知症と診断されたら、その後どのように生活したいですか(いくつでも)

全体では、「できるだけ自立して生活し、必要な時だけ助けてほしい」54.9%が最も高く、次いで「必要なサービスや支援を受けながら住み慣れた地域で暮らし続けたい」53.4%、「忘れることが増えても、色々な工夫をして生活したい」45.1%となっている。

性別でみると、「家族や周囲の人にも病気のことを伝え、一緒にこれからの生活を考えたい」で12.2ポイント、「困ったときに気軽に相談できる人や場所を見つけたい」で6.6ポイント女性が男性を上回る。一方で、「できるだけ自立して生活し、必要な時だけ助けてほしい」では5.9ポイント男性が女性より高くなっている。

年代別でみると、大きな差異はみられない。



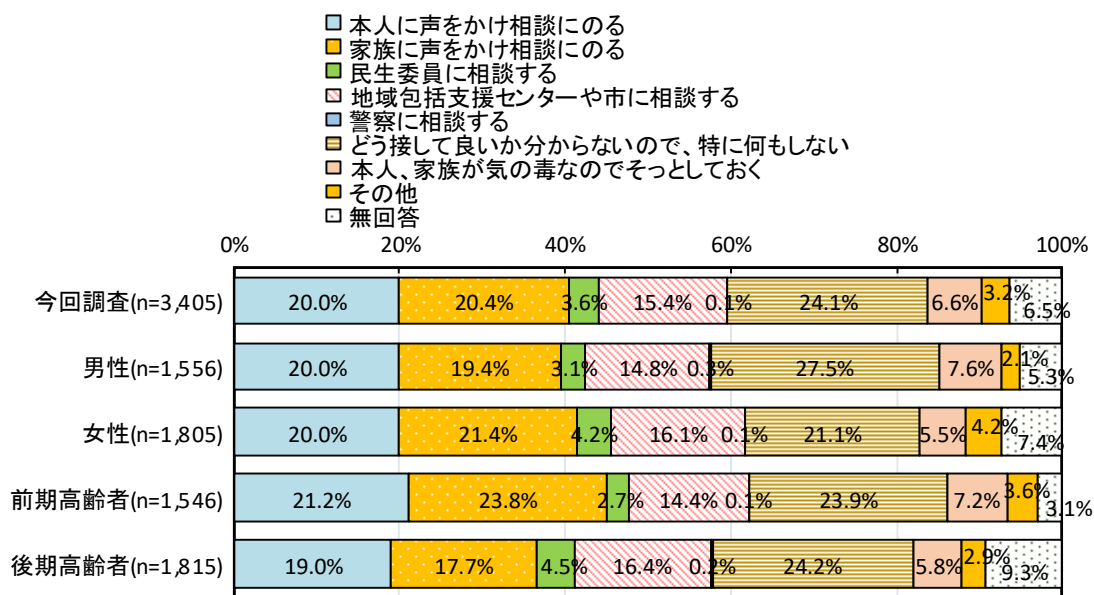


(6)あなたは、もし認知症と思われる方が知り合いにいたら、まずはどのように対応したいと思いますか(○は1つ)

全体では、「どう接して良いか分からないので、特に何もしない」24.1%が最も高く、次いで「家族に声をかけ相談にのる」20.4%、「本人に声をかけ相談にのる」20.0%となっている。

性別で見ると、「どう接して良いか分からないので、特に何もしない」の割合は男性27.5%、女性21.1%と男性が女性を6.4ポイント上回る。

年代別で見ると、「家族に声をかけ相談にのる」の割合は前期高齢者23.8%、後期高齢者17.7%と前期高齢者が後期高齢者を6.1ポイント上回る。

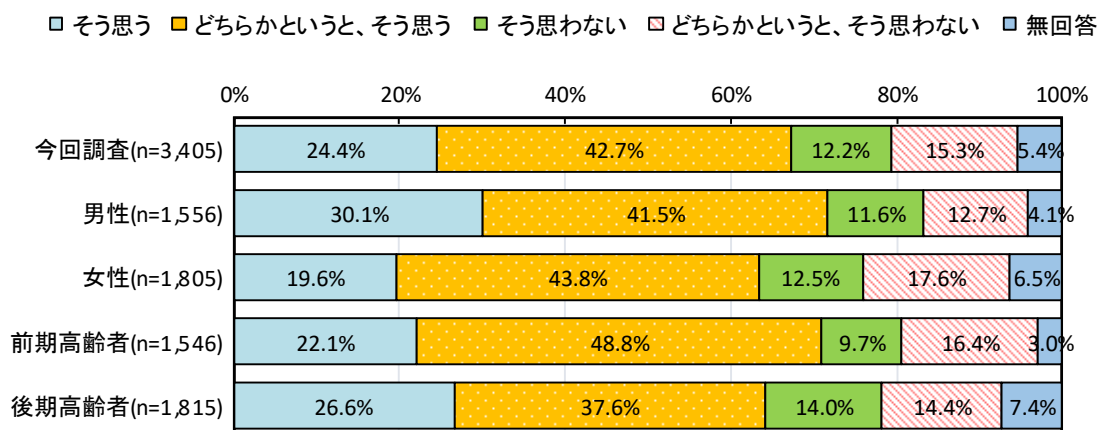


(7)あなたは、認知症になってからも住み慣れた地域で暮らし続けることができますか(○は1つ)

全体では、「どちらかという、そう思う」42.7%が最も高く、次いで「そう思う」24.4%、「どちらかという、そう思わない」15.3%となっている。『そう思う』(「そう思う」+「どちらかという、そう思う」)の割合は67.1%を占める。

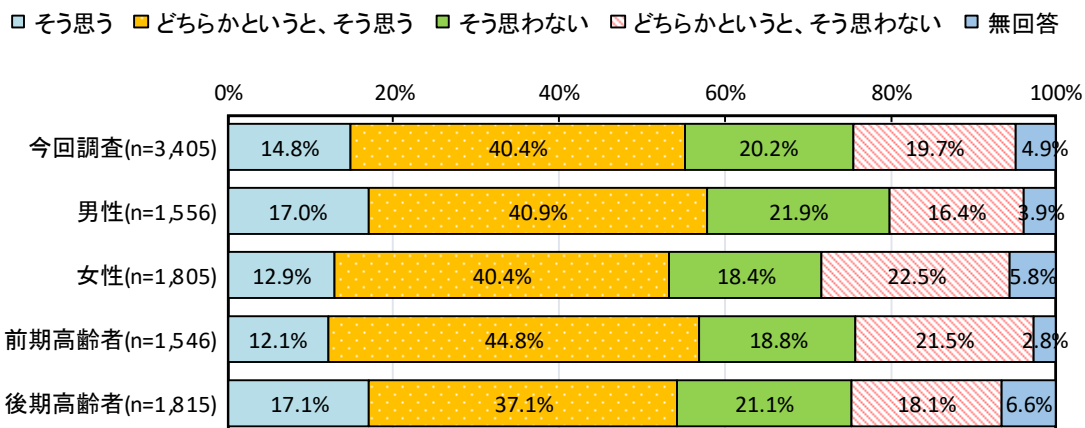
性別で見ると、『そう思う』の割合は男性71.6%、女性63.4%と男性が女性を8.2ポイント上回る。

年代別で見ると、『そう思う』の割合は前期高齢者70.9%、後期高齢者64.2%と前期高齢者が後期高齢者を6.7ポイント上回る。



(8)あなたは、認知症になってからも希望を持って自分らしく暮らし続けることができますか(○は1つ)

全体では、「どちらかという、そう思う」40.4%が最も高く、次いで「そう思わない」20.2%、「どちらかという、そう思わない」19.7%となっている。『そう思う』の割合は55.2%を占める。性別で見ると、『そう思う』の割合は男性57.9%、女性53.3%と男性がやや高くなっている。年代別で見ると、『そう思う』の割合は前期高齢者56.9%、後期高齢者54.2%となっている。



問9 成年後見制度について

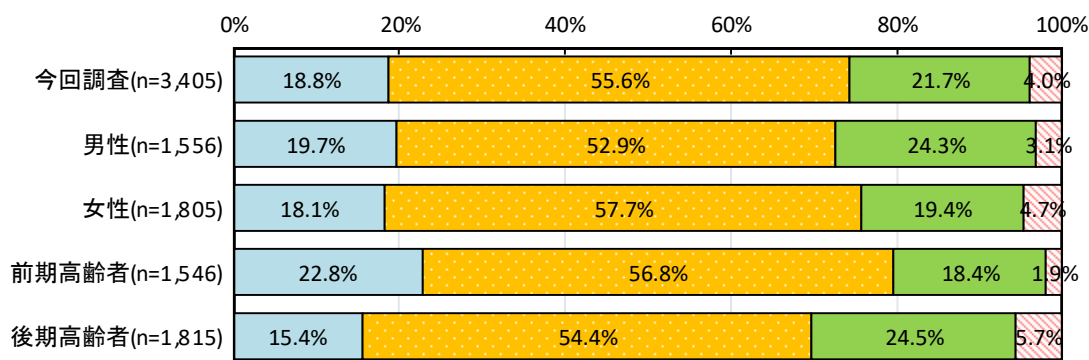
(1)成年後見制度について、知っていますか。(○は1つ)

全体では、「聞いたことはあるが、よく知らない」55.6%が最も高く、次いで「知らない」21.7%、「よく知っている」18.8%となっている。

性別で見ると、「知らない」の割合は男性24.3%、女性19.4%と男性が女性を4.9ポイント上回る。

年代別で見ると、「よく知っている」の割合は前期高齢者22.8%、後期高齢者15.4%と前期高齢者が後期高齢者を7.4ポイント上回る。

□ よく知っている □ 聞いたことはあるが、よく知らない □ 知らない □ 無回答

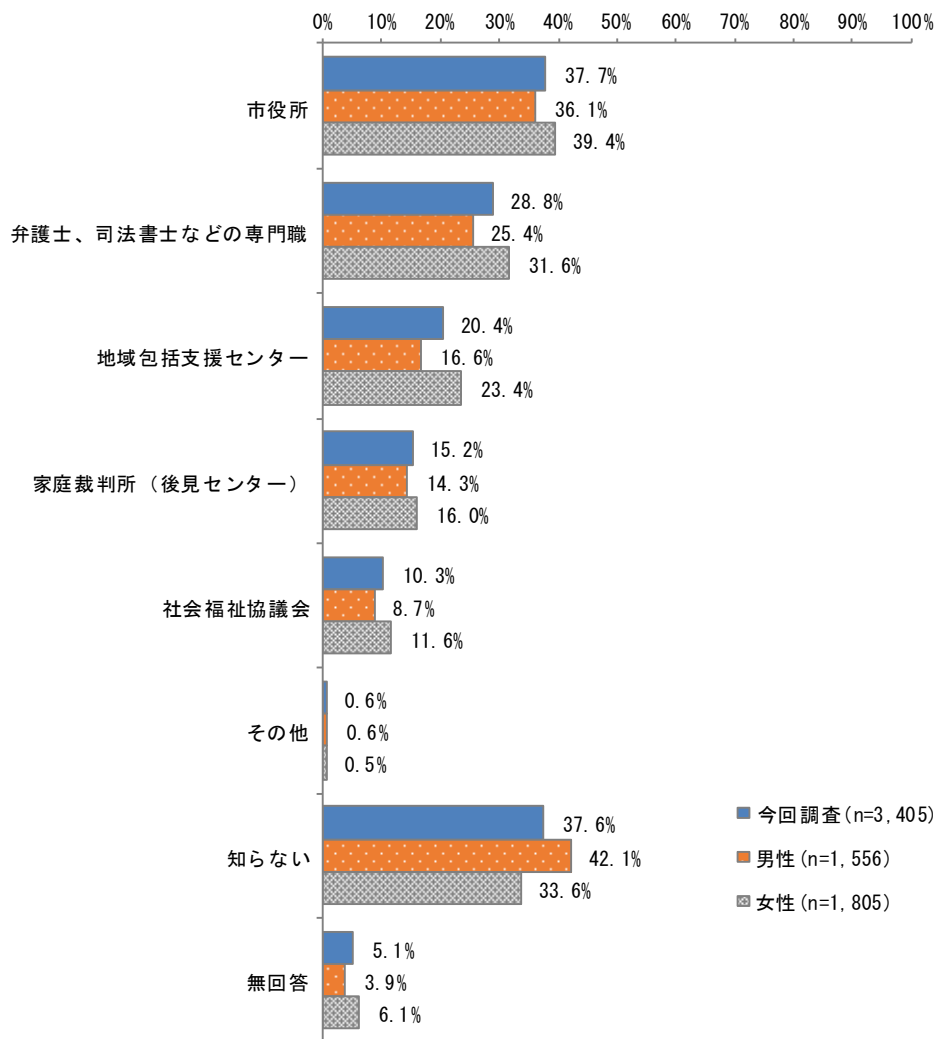


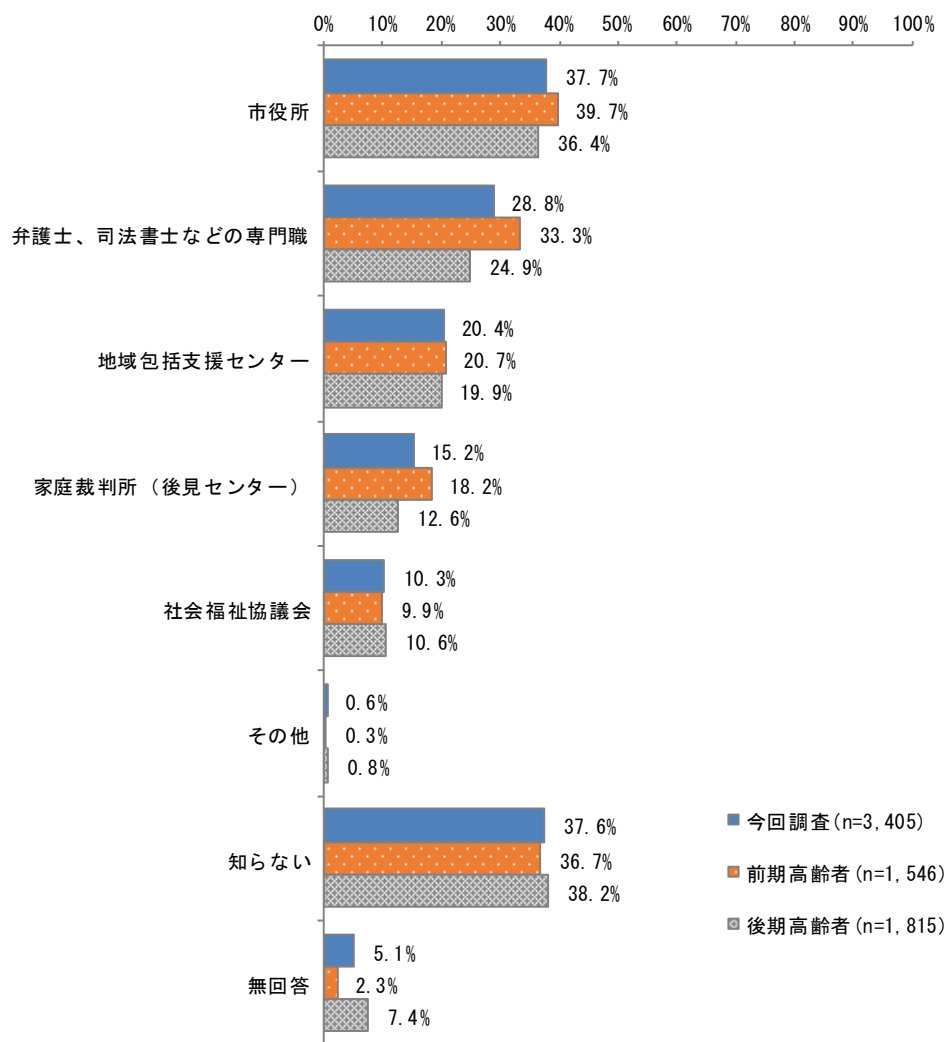
(2)成年後見制度に関する相談窓口のうち、知っているものはありますか。(いくつでも)

全体では、「市役所」37.7%が最も高く、次いで「知らない」37.6%、「弁護士、司法書士などの専門職」28.8%となっている。

性別で見ると、「知らない」では8.5ポイント男性が女性を上回る。一方で「地域包括支援センター」、「弁護士」ではいずれも6.2ポイント以上女性が男性よりも高くなっている。

年代別で見ると、「家庭裁判所（後見センター）」では5.6ポイント、「弁護士、司法書士などの専門職」では8.4ポイント前期高齢者が後期高齢者よりも高くなっている。





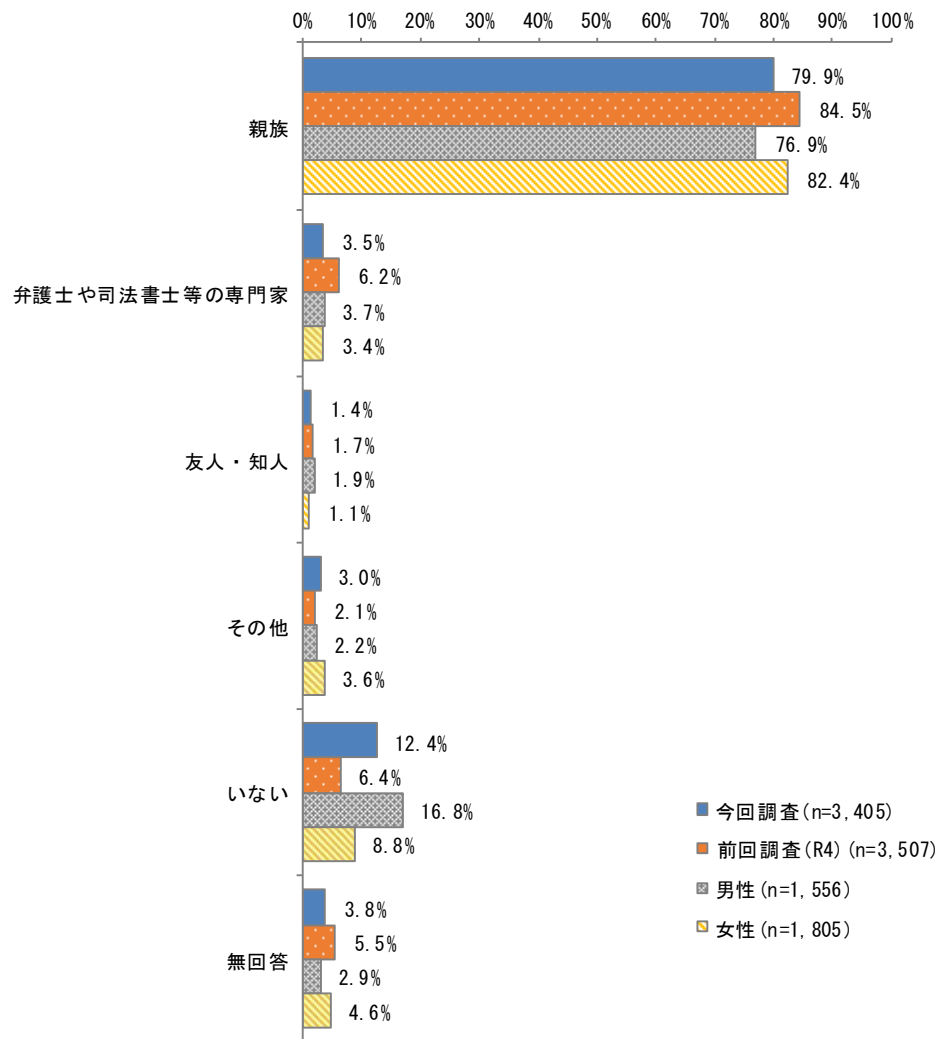
(3)意思判断能力を失った場合に備えて、金銭管理や各種契約手続きを任せられる(任せている)方はどなたですか。(いくつでも)

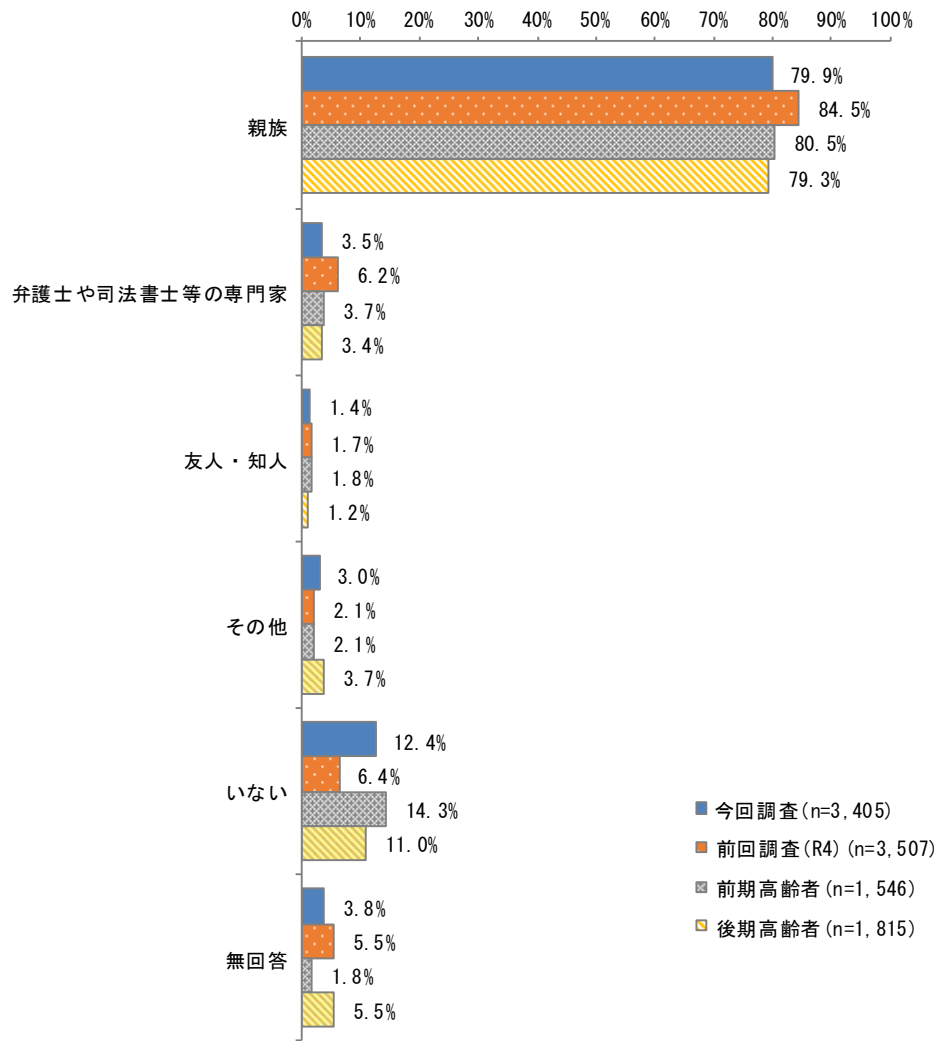
全体では、「親族」79.9%が最も高く、次いで「いない」12.4%、「弁護士や司法書士等の専門家」3.5%となっている。

前回調査と比較すると、「いない」は6.0ポイント増加している。

性別でみると、「いない」では男性が女性を8.0ポイント上回る。

年代別でみると、大きな差異はみられない。





問10 人生会議（アドバンス・ケア・プランニング／ACP）について

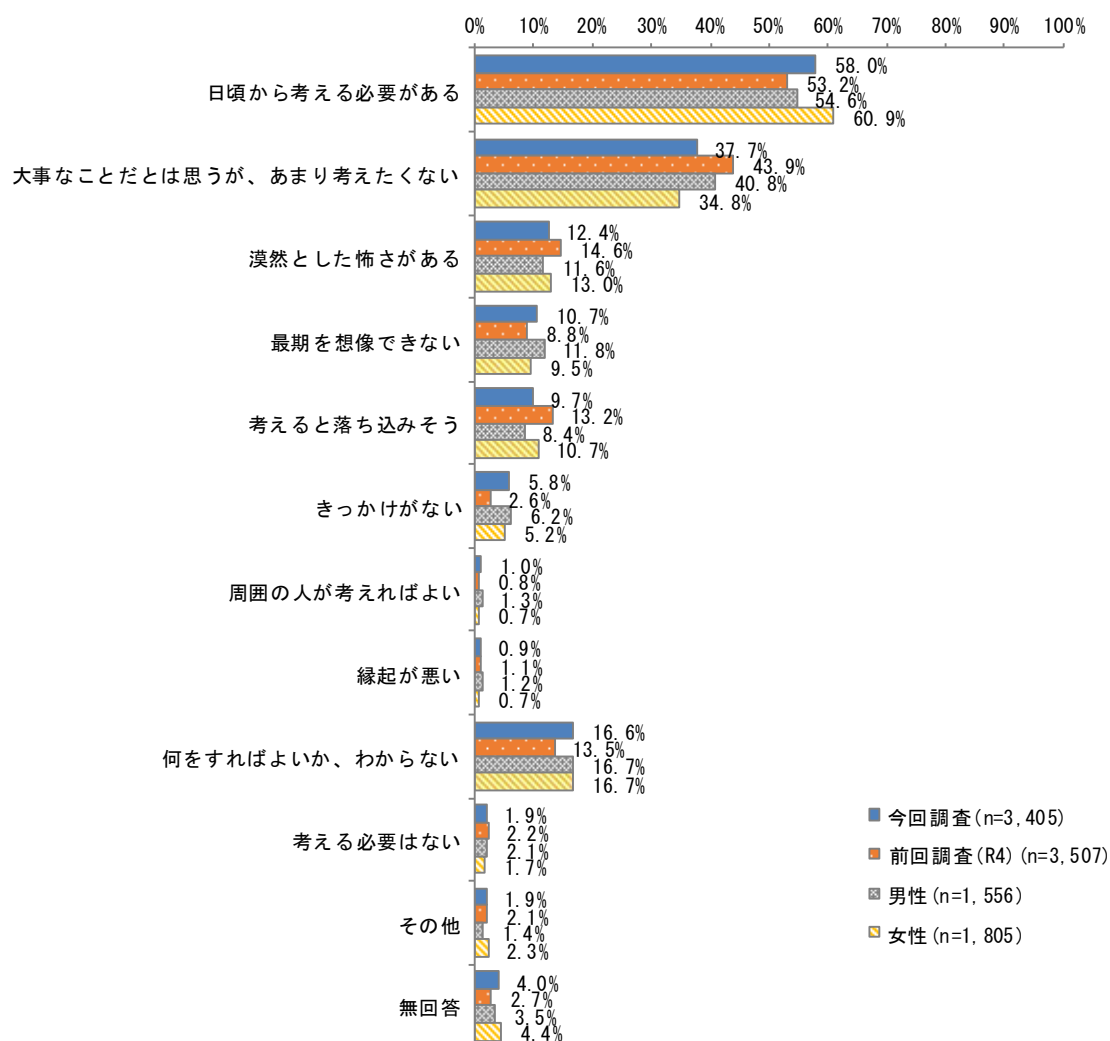
(1)あなたが、ご自身の人生の最期を早い段階から考えることについて、どのように思いますか。
(いくつでも)

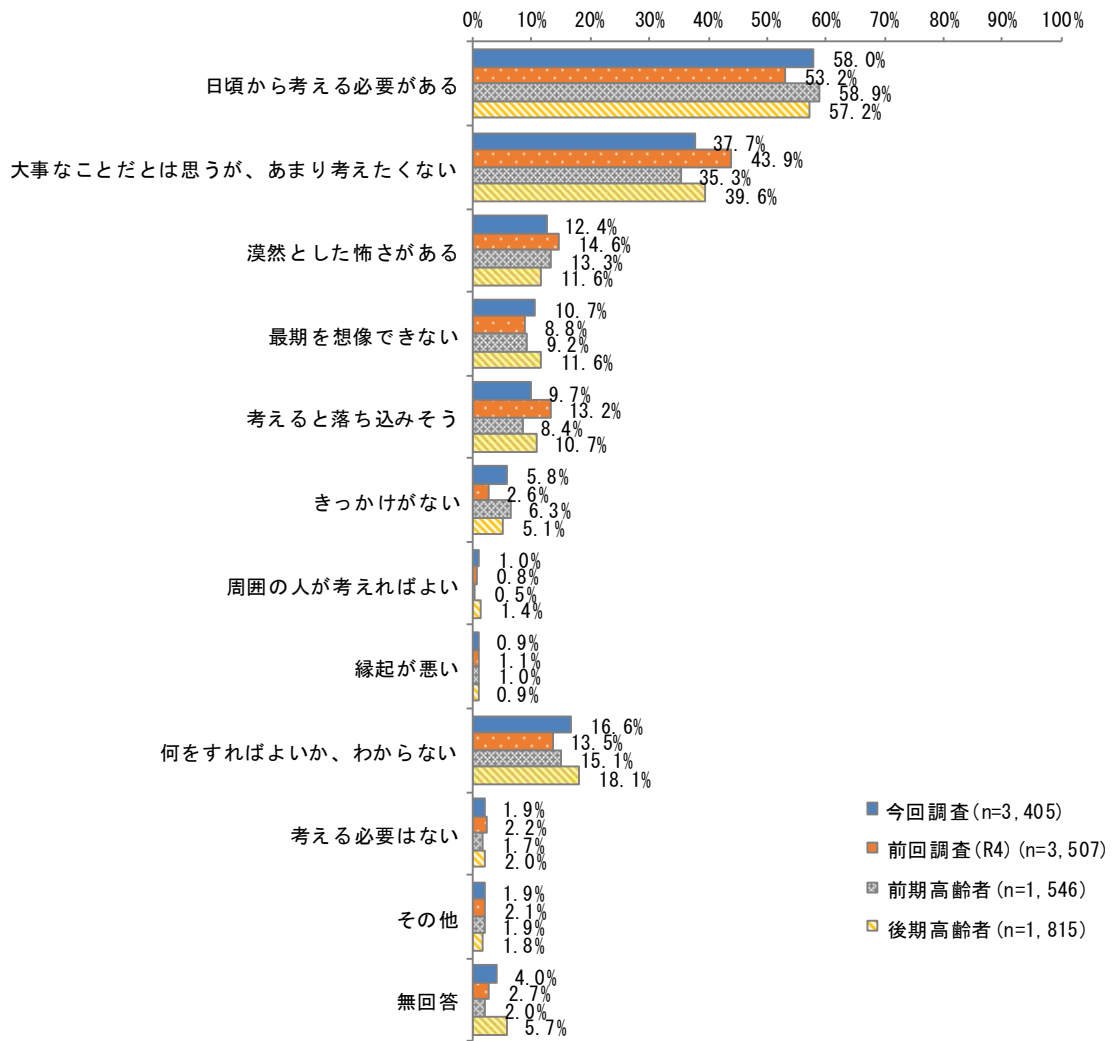
全体では、「日頃から考える必要がある」58.0%が最も高く、次いで「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」37.7%、「何をすればよいか、わからない」16.6%となっている。

前回調査と比較すると、「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」は6.2ポイント減少した一方で、「日頃から考える必要がある」は4.8ポイント増加している。

性別でみると、「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」では6.0ポイント男性が女性を上回る。一方で、「日頃から考える必要がある」では6.3ポイント女性が男性より高くなっている。

年代別でみると、大きな差異はみられない。



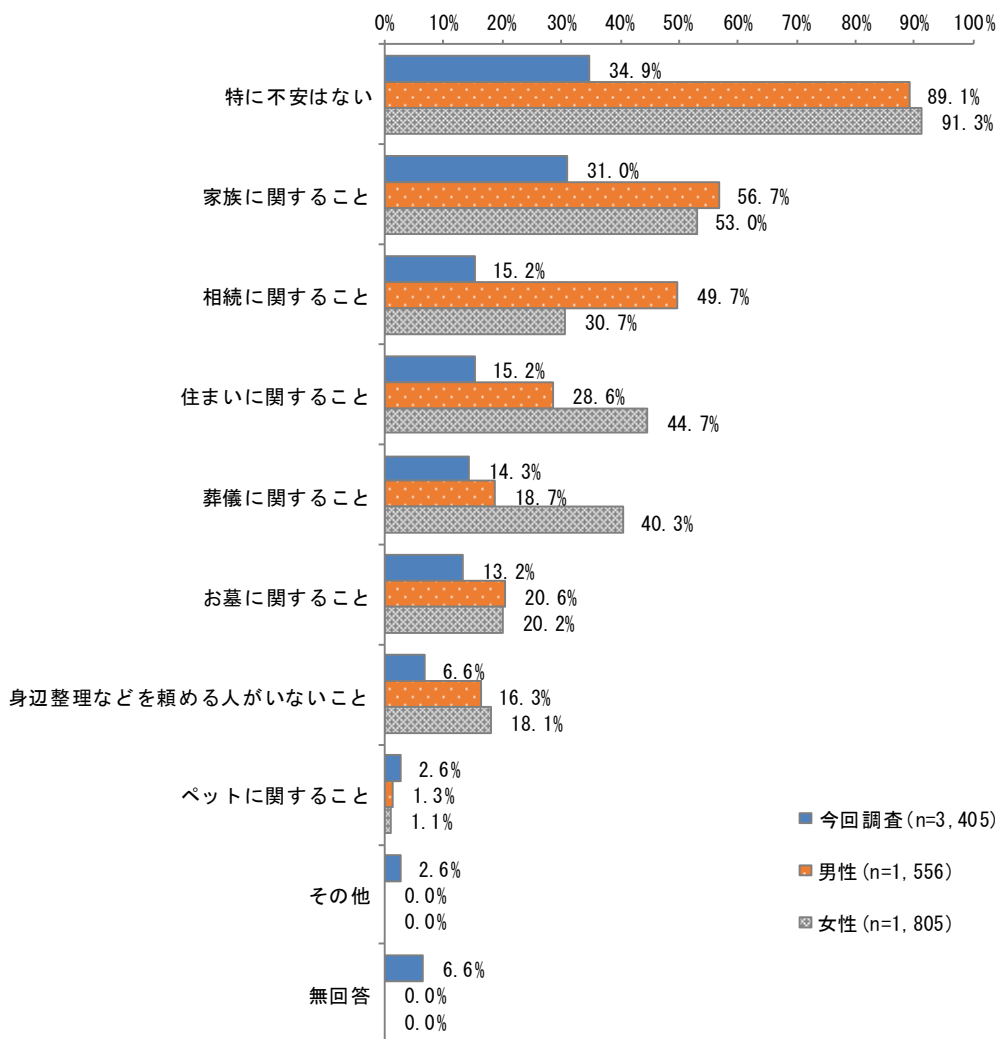


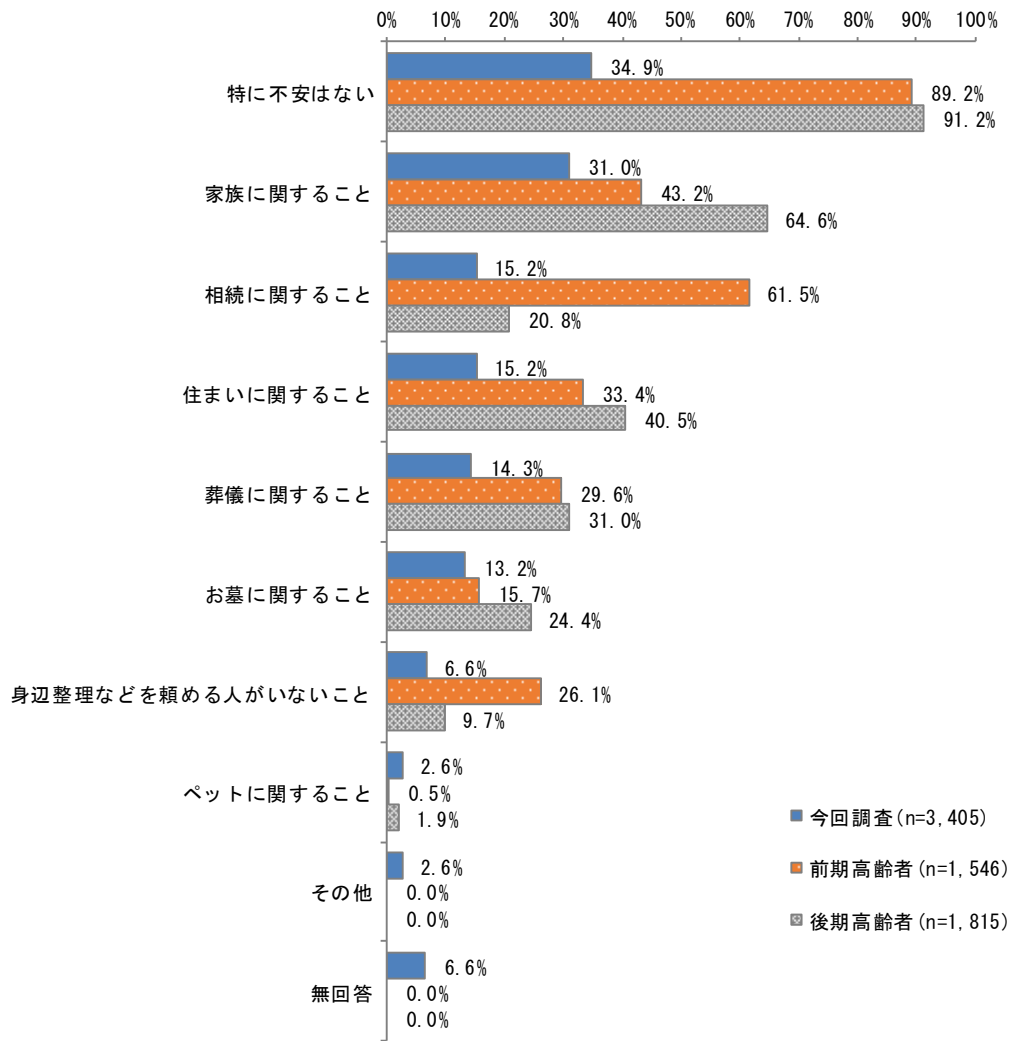
(2)あなたが人生の最終段階を考えたとき、どのようなことが不安ですか。(いくつでも)

全体では、「特に不安はない」34.9%が最も高く、次いで「家族に関すること」31.0%、「相続に関すること」、「住まいに関すること」がいずれも15.2%となっている。

性別で見ると、「相続に関すること」では19.0ポイント男性が女性を上回る。一方で、「住まいに関すること」では16.1ポイント、「葬儀に関すること」では21.6ポイント女性が男性より高くなっている。

年代別で見ると、「家族に関すること」では21.4ポイント、「住まいに関すること」、「お墓に関すること」ではいずれも7.1ポイント以上後期高齢者が前期高齢者を上回る。一方で、「相続に関すること」では40.7ポイント、「身辺整理などを頼める人がいないこと」では16.4ポイント前期高齢者が後期高齢者より高くなっている。



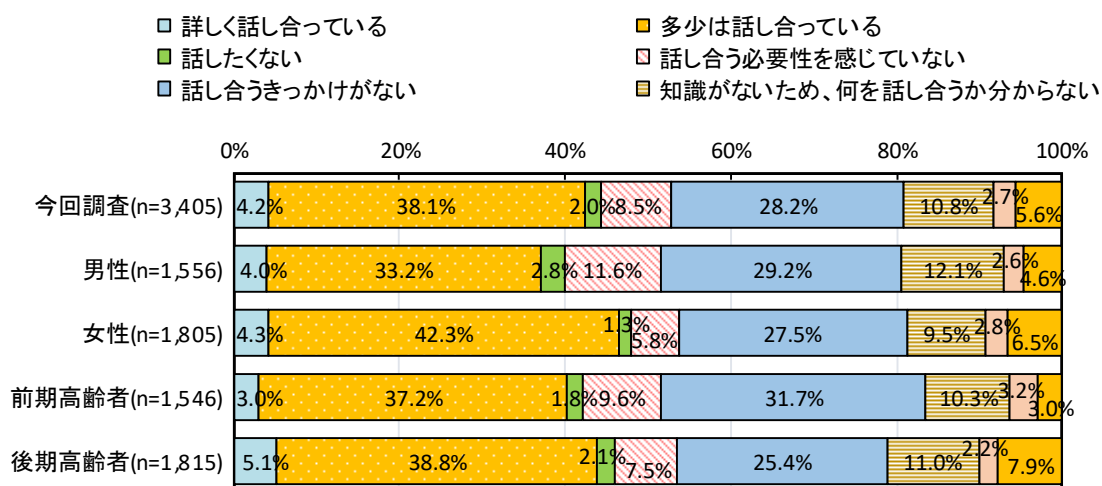


(3)あなたが人生の最終段階で受けてい、もしくは、受けたくない医療・ケアについて、ご家族等や医療・介護従事者と話し合っていますか。(〇は1つ)

全体では、「多少は話し合っている」38.1%が最も高く、次いで「話し合うきっかけがない」28.2%、「知識がないため、何を話し合うか分からない」10.8%となっている。『話し合っている』（「詳しく話し合っている」＋「多少は話し合っている」）の割合は42.3%を占める。

性別で見ると、『話し合っている』の割合は男性37.2%、女性46.6%と女性が男性を9.4ポイント上回る。

年代別で見ると、『話し合っている』の割合は前期高齢者40.2%、後期高齢者43.9%と後期高齢者がやや高くなっている。

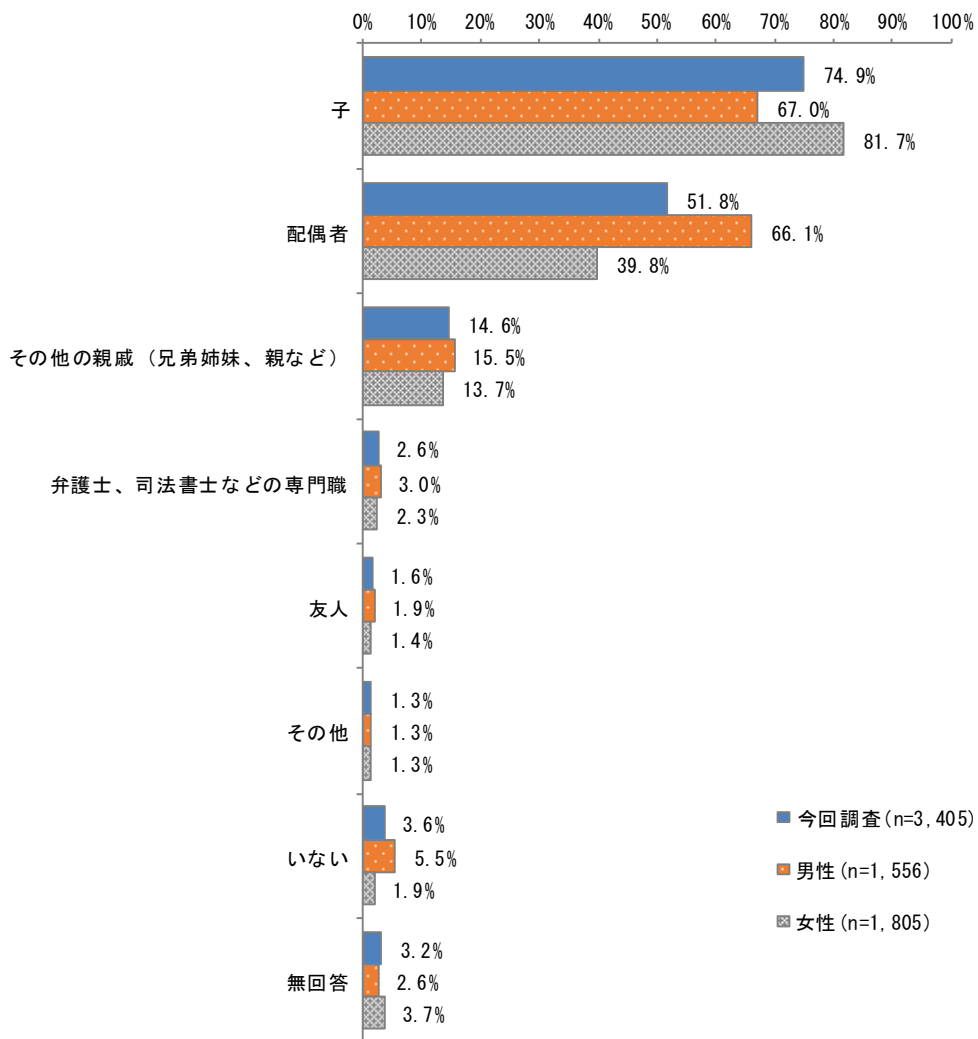


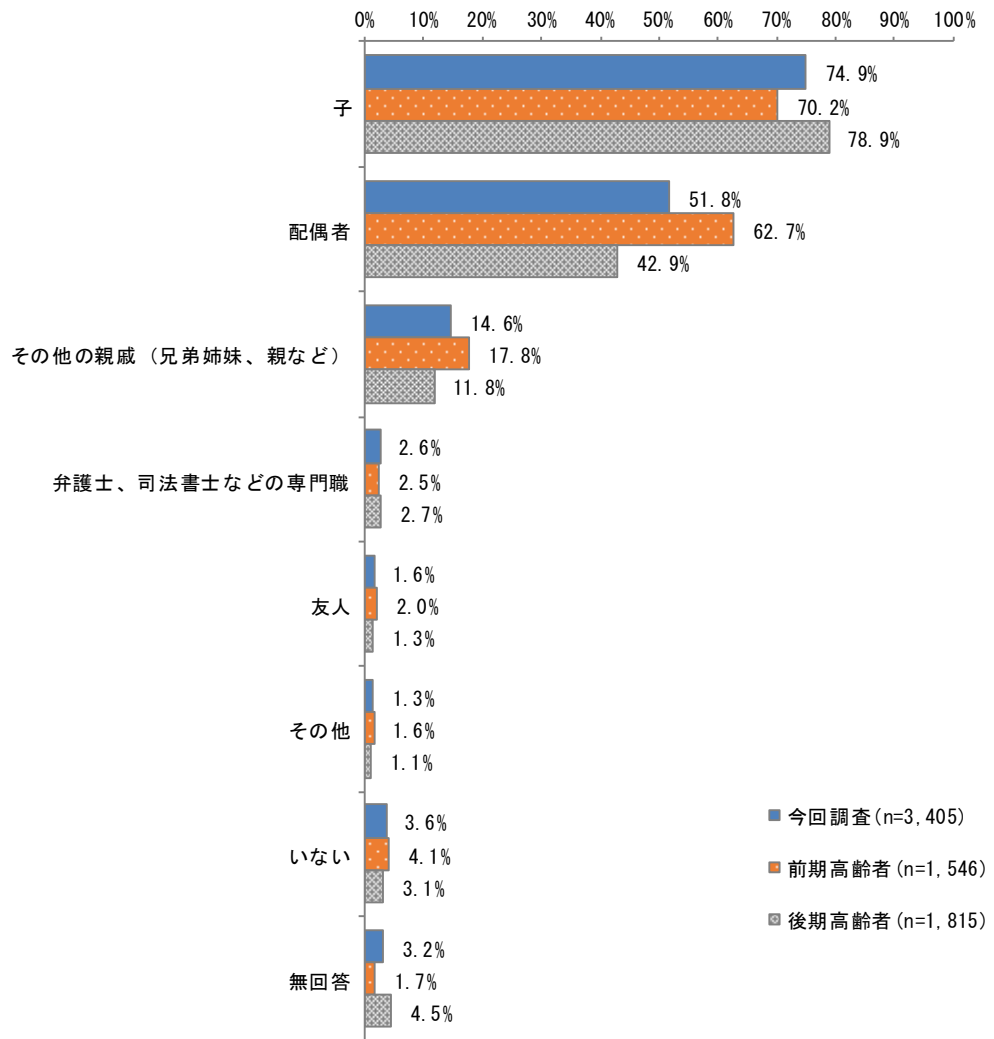
(4)ご自身の死後のことを任せられる人は、どなたですか。(いくつでも)

全体では、「子」74.9%が最も高く、次いで「配偶者」51.8%、「その他の親戚（兄弟姉妹、親など）」14.6%となっている。

性別で見ると、「子」では14.7ポイント女性が男性を上回る。一方で、「配偶者」では26.3ポイントと男性が女性より高くなっている。

年代別で見ると、「子」では8.7ポイント後期高齢者が前期高齢者を上回る。一方で、「配偶者」では19.8ポイント、「その他の親戚（兄弟姉妹、親など）」では6.0ポイント前期高齢者が後期高齢者より高くなっている。





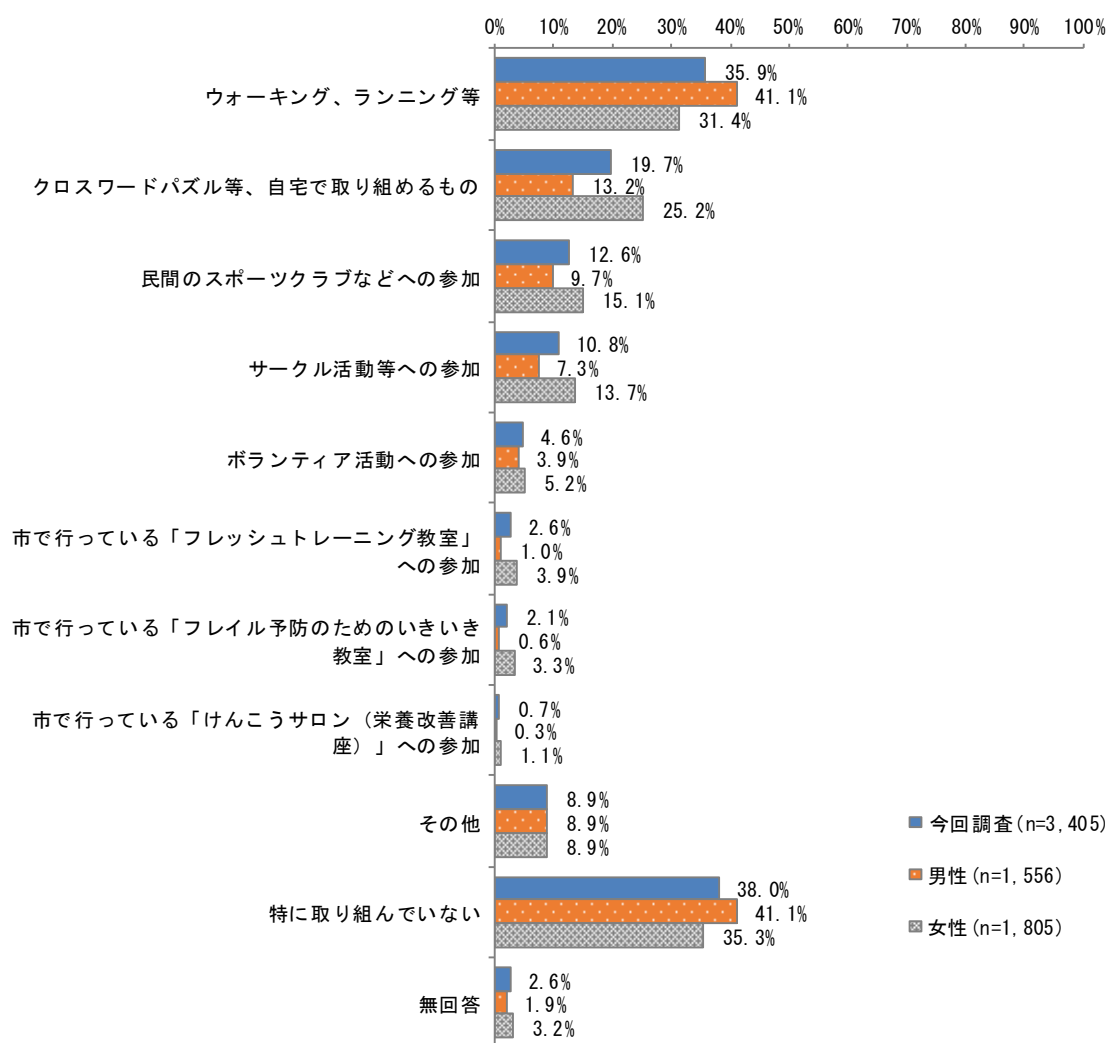
問11 介護予防について

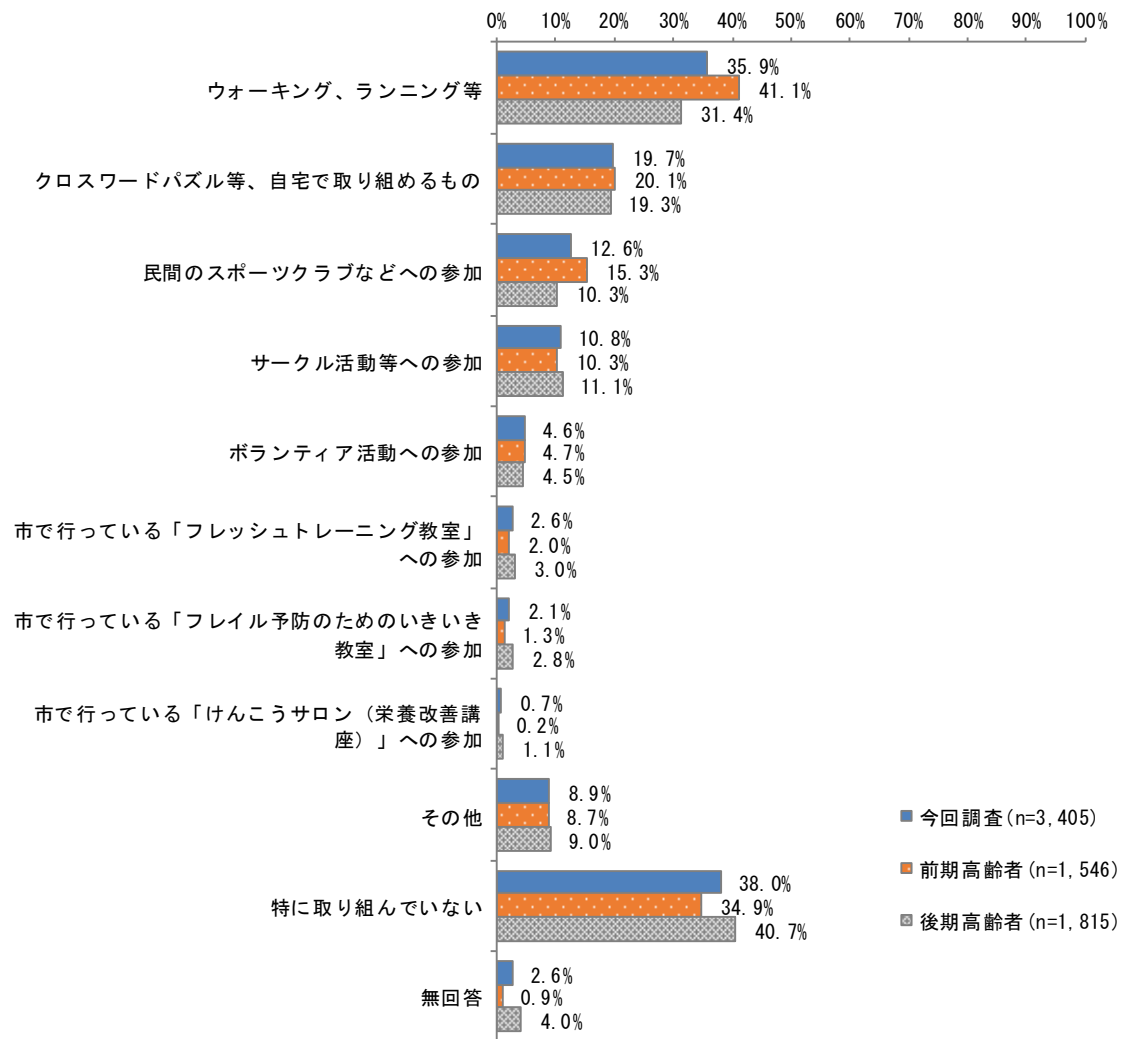
(1)自身で行っている取組はありますか。(いくつでも)

全体では、「特に取り組んでいない」38.0%が最も高く、次いで「ウォーキング、ランニング等」35.9%、「クロスワードパズル等、自宅で取り組めるもの」19.7%となっている。

性別で見ると、「特に取り組んでいない」、「ウォーキング、ランニング等」ではいずれも5.8ポイント以上男性が女性を上回る。一方で、「クロスワードパズル等、自宅で取り組めるもの」、「民間のスポーツクラブなどへの参加」、「サークル活動等への参加」ではいずれも5.4ポイント以上女性が男性より高くなっている。

年代別で見ると、「ウォーキング、ランニング等」では9.7ポイント前期高齢者が後期高齢者を上回る。一方で、「特に取り組んでいない」では5.8ポイント後期高齢者が前期高齢者より高くなっている。



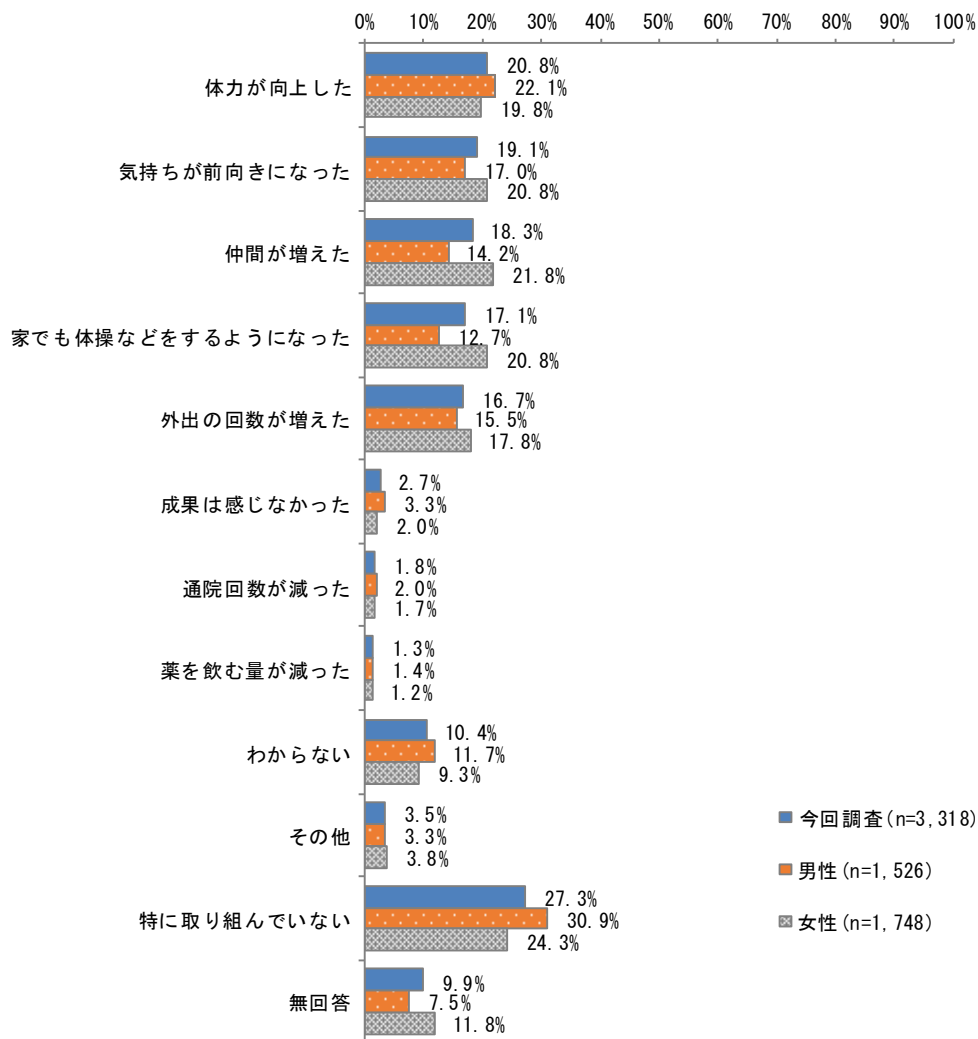


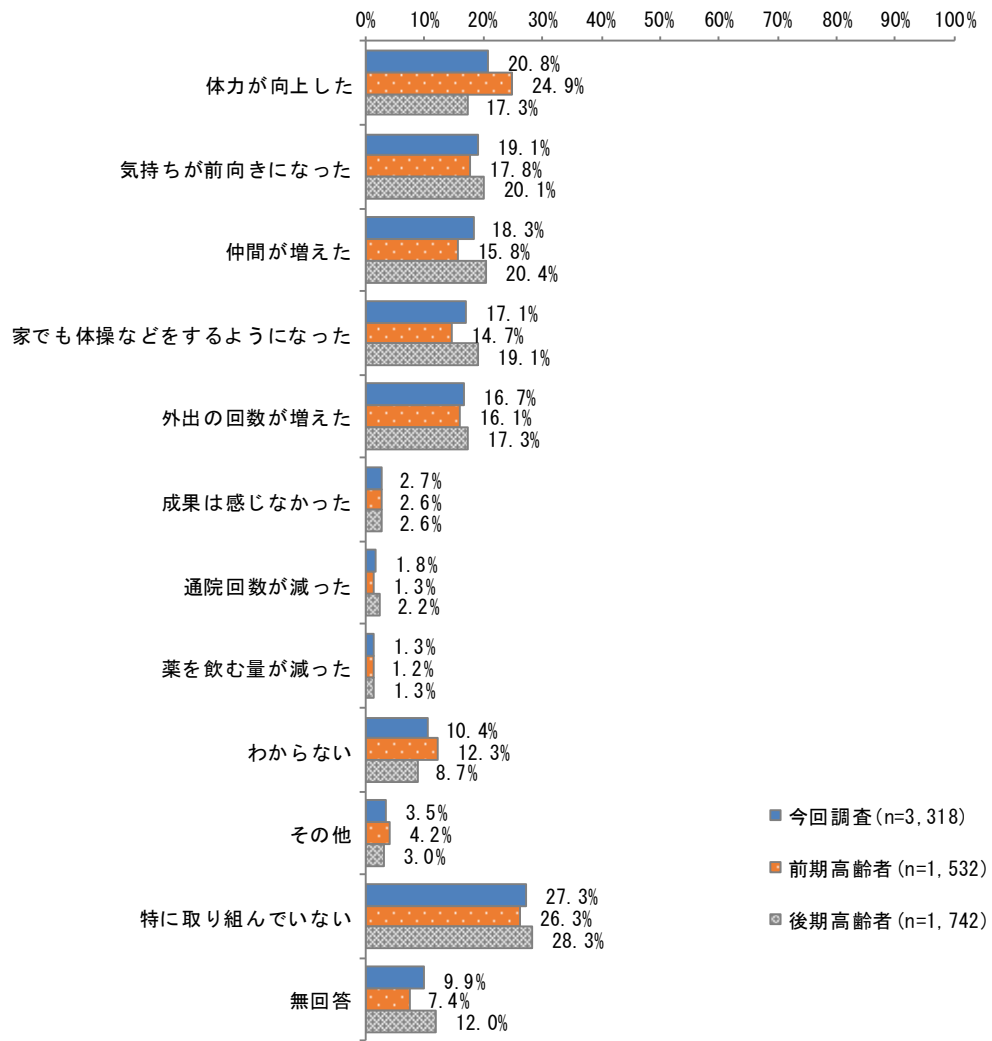
(2) (1)の取組によって、どんな成果や効果がありましたか。(いくつでも)

全体では、「特に取り組んでいない」27.3%が最も高く、次いで「体力が向上した」20.8%、「気持ちが前向きになった」19.1%となっている。

性別で見ると、「特に取り組んでいない」では6.6ポイント男性が女性を上回る。一方で、「仲間が増えた」、「家でも体操などをするようになった」ではいずれも7.6ポイント以上女性が男性より高くなっている。

年代別で見ると、「体力が向上した」では7.6ポイント前期高齢者が後期高齢者より高くなっている。



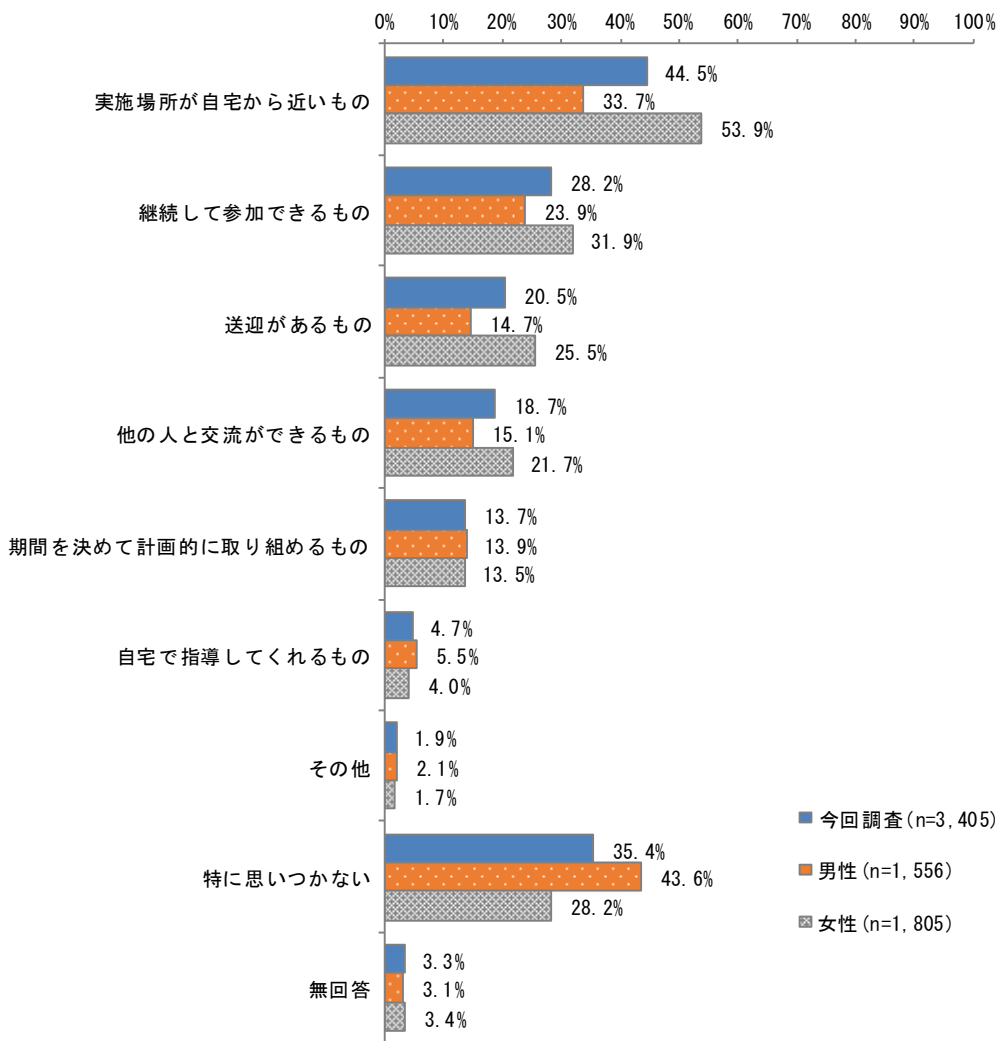


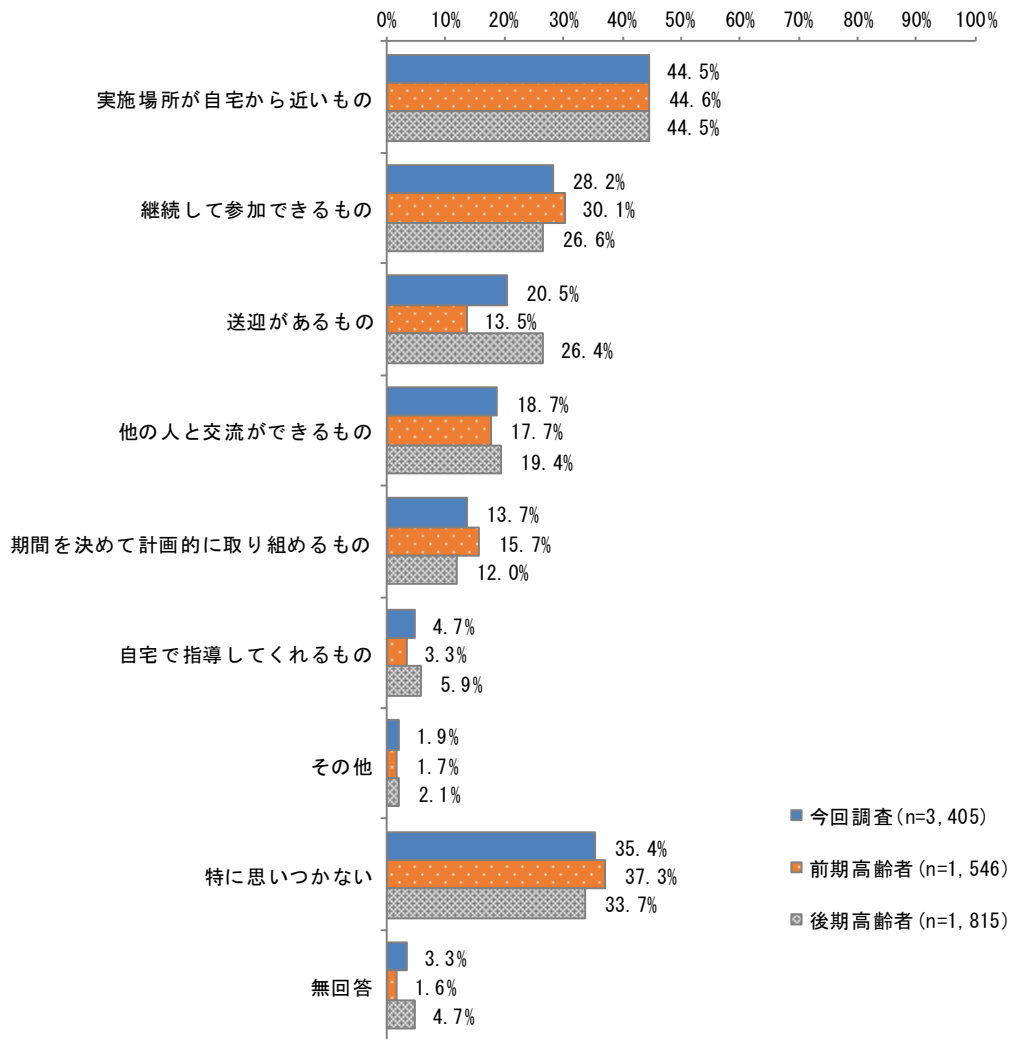
(3)どのような市の介護予防教室であれば、参加したいと思いますか(いくつでも)

全体では、「実施場所が自宅から近いもの」44.5%が最も高く、次いで「特に思いつかない」35.4%、「継続して参加できるもの」28.2%となっている。

性別で見ると、「実施場所が自宅から近いもの」、「継続して参加できるもの」、「送迎があるもの」、「他の人と交流ができるもの」では女性が男性を上回り、特に「実施場所が自宅から近いもの」は20.2ポイントと大きく上回る。一方で、「特に思いつかない」では15.4ポイント男性が女性より高くなっている。

年代別で見ると、「送迎があるもの」では12.9ポイント後期高齢者が前期高齢者より高くなっている。



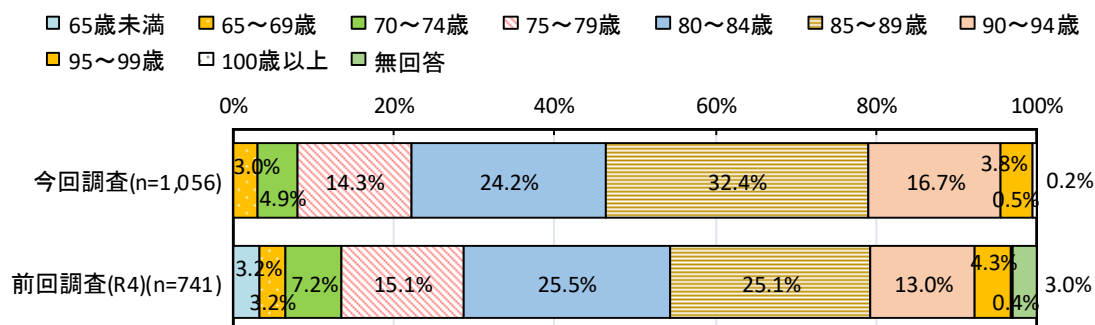


Ⅲ 調査結果【在宅介護実態調査】

【回答者の属性】

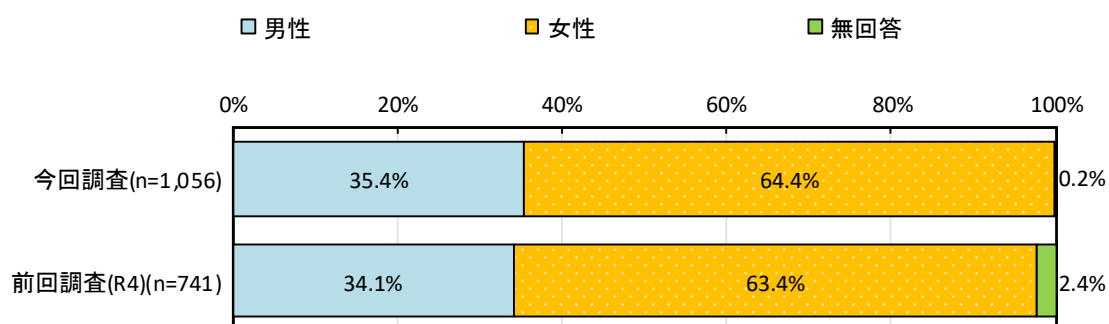
【年齢】

全体では、「85～89歳」32.4%が最も高く、次いで「80～84歳」24.2%、「90～94歳」16.7%となっている。



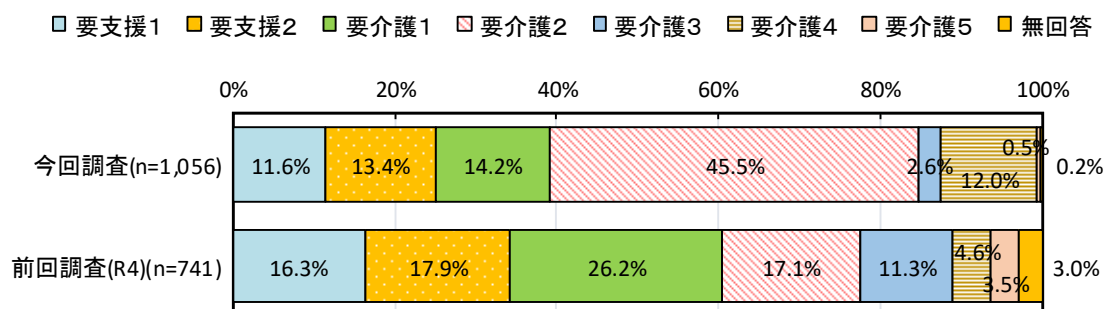
【性別】

全体では、「男性」35.4%、「女性」64.4%となっている。



【要介護度】

全体では、「要介護2」45.5%が最も高く、次いで「要介護1」14.2%、「要支援2」13.4%となっている。



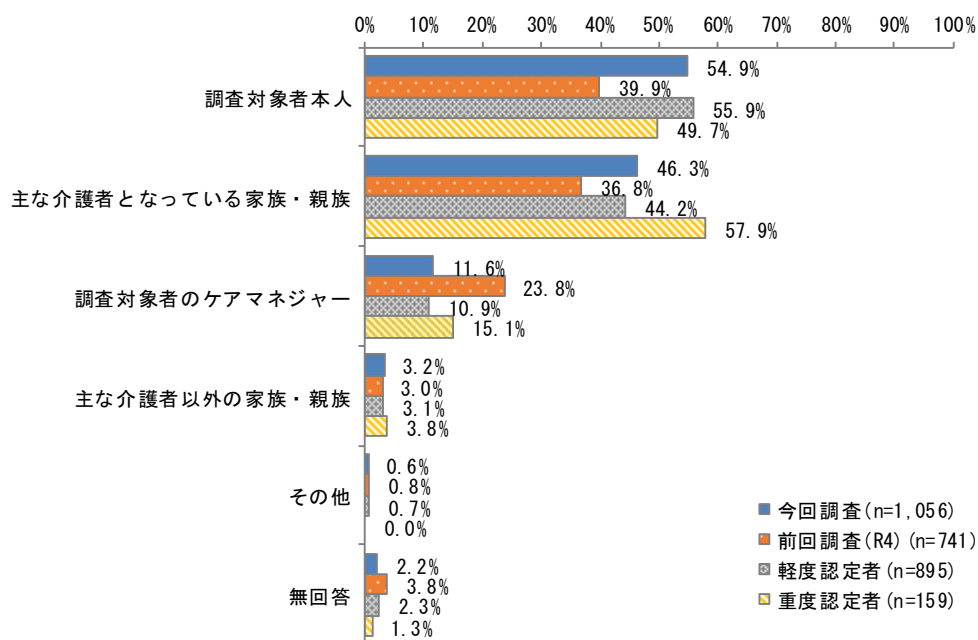
A票（対象者：介護を受けている方）

【A票を、ご回答いただく方は、どなたですか】 【複数選択可】

全体では、「調査対象者本人」54.9%が最も高く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」46.3%、「調査対象者のケアマネジャー」11.6%となっている。

前回調査と比較すると、「調査対象者のケアマネジャー」は12.2ポイント減少した一方で、「調査対象者本人」、「主な介護者となっている家族・親族」はいずれも9.5ポイント以上増加している。

要介護度別でみると、軽度認定者では「調査対象者本人」、重度認定者では「主な介護者となっている家族・親族」が最も高くなっている。

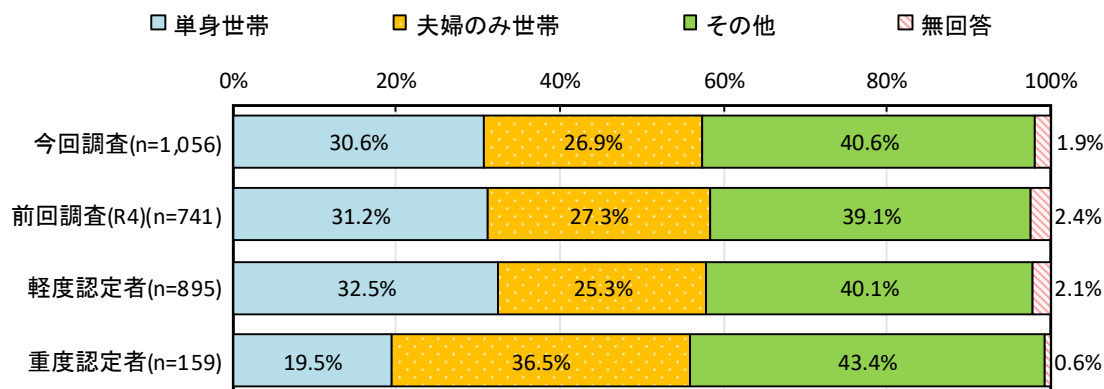


問1 世帯類型について、ご回答ください【1つを選択】

全体では、「その他」40.6%が最も高く、次いで「単身世帯」30.6%、「夫婦のみ世帯」26.9%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

要介護度別でみると、「単身世帯」では軽度認定者が重度認定者を13.0ポイント上回る。

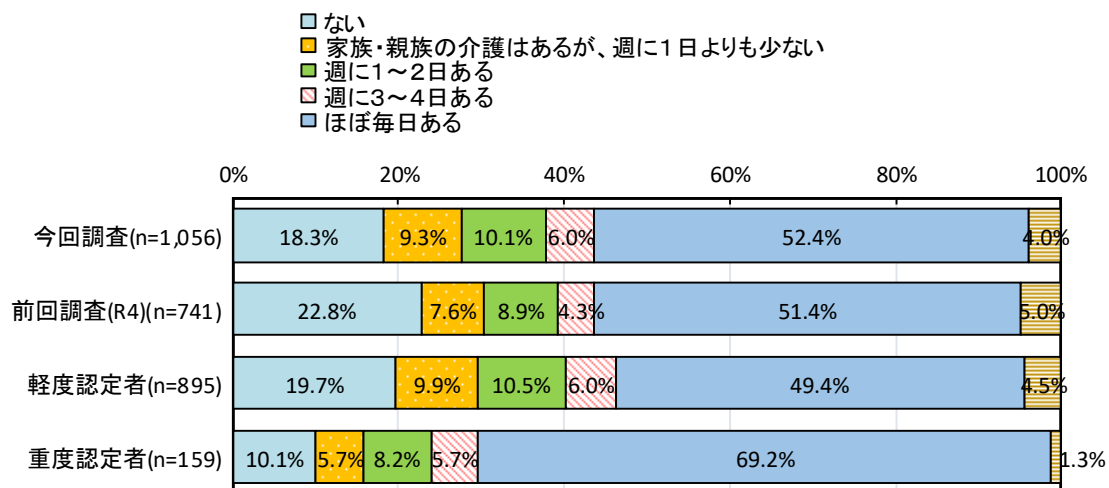


問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)【1つを選択】

全体では、「ほぼ毎日ある」52.4%が最も高く、次いで「ない」18.3%、「週に1～2日ある」10.1%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

要介護度別でみると、「ほぼ毎日ある」では重度認定者が軽度認定者を19.8ポイントと大きく上回り、69.2%を占めている。

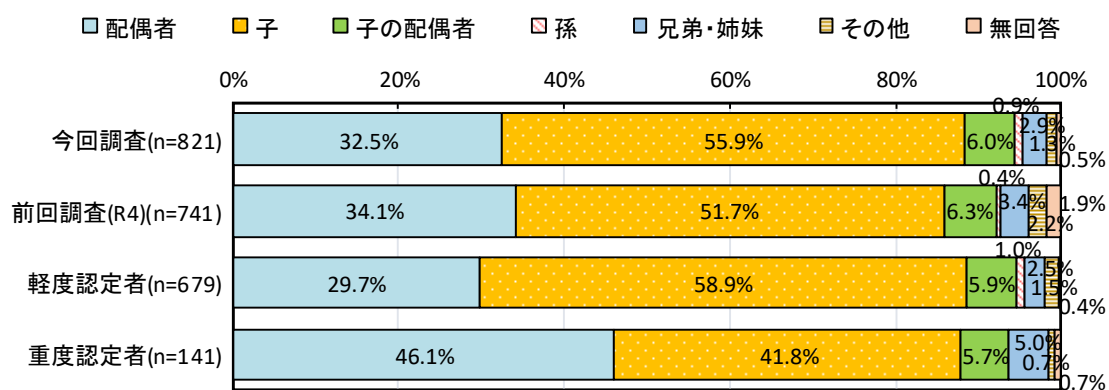


問3 主な介護者の方は、どなたですか【1つを選択】

全体では、「子」55.9%が最も高く、次いで「配偶者」32.5%、「子の配偶者」6.0%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

要介護度別でみると、「配偶者」では重度認定者が軽度認定者を16.4ポイントと大きく上回り、46.1%を占めている。

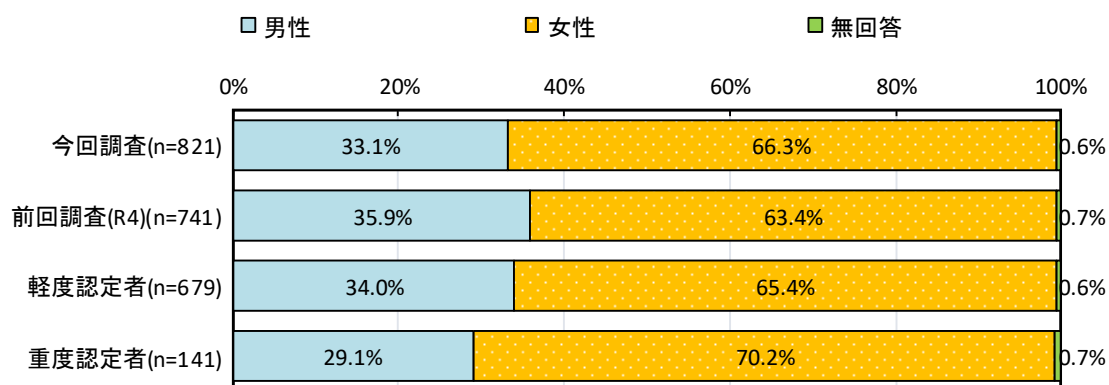


問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください【1つを選択】

全体では、「男性」33.1%、「女性」66.3%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

要介護度別でみると、「男性」では軽度認定者が重度認定者を4.9ポイント上回る。

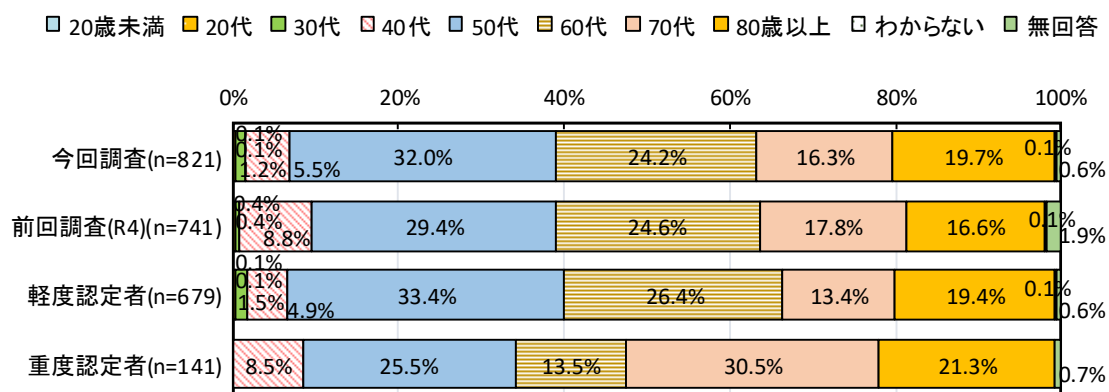


問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください【1つを選択】

全体では、「50代」32.0%が最も高く、次いで「60代」24.2%、「80歳以上」19.7%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

要介護度別でみると、「70代」では重度認定者が軽度認定者を17.1ポイントと大きく上回り、30.5%を占めている。

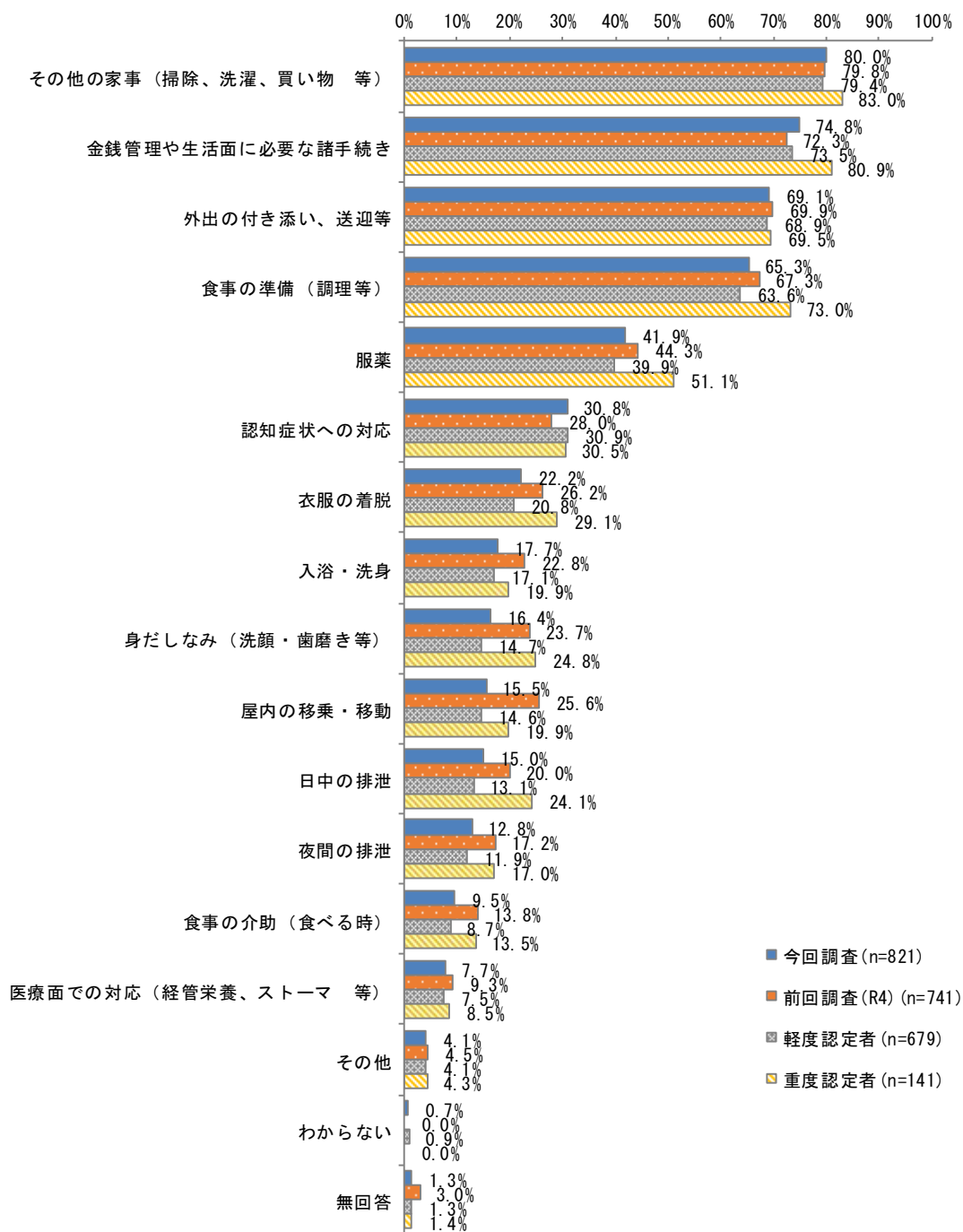


問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください【複数選択可】

全体では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」80.0%が最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」74.8%、「外出の付き添い、送迎等」69.1%となっている。

前回調査と比較すると、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「屋内の移乗・移動」、「日中の排泄」はいずれも5.0ポイント以上減少している。

要介護度別でみると、「認知症状への対応」、「わからない」を除く全ての項目で重度認定者が軽度認定者を上回り、特に「服薬」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「日中の排泄」ではいずれも10.1ポイント以上高くなっている。

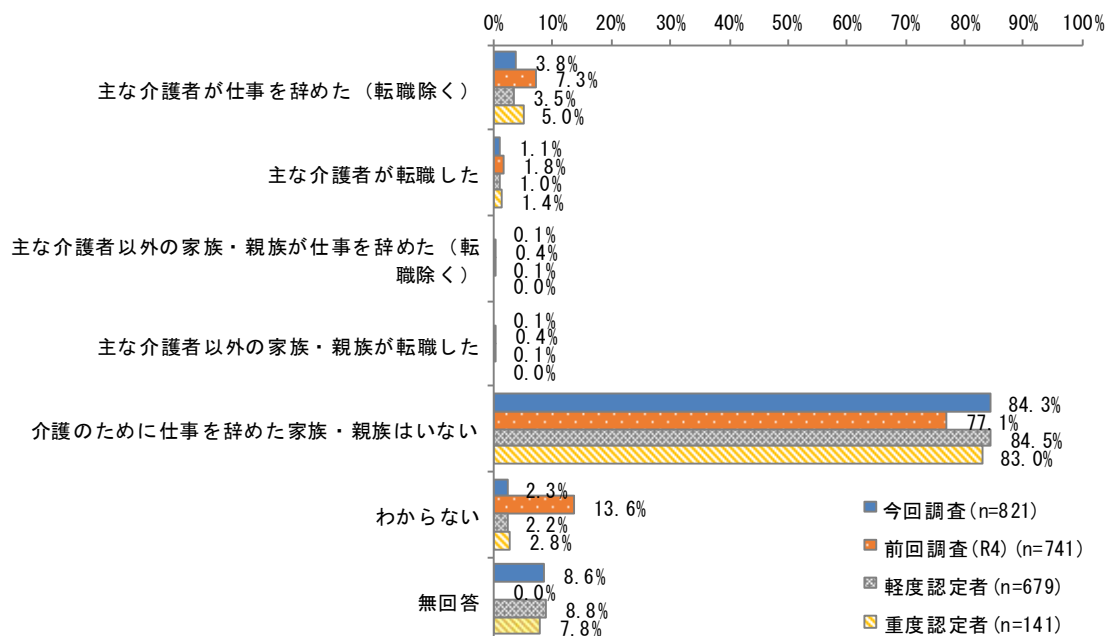


問7 ご家族やご親族の中で、ご本人(調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)
【複数選択可】

全体では、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」84.3%が最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」3.8%、「わからない」2.3%となっている。

前回調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」は7.2ポイント増加している。

要介護度別でみると、大きな差異はみられない。

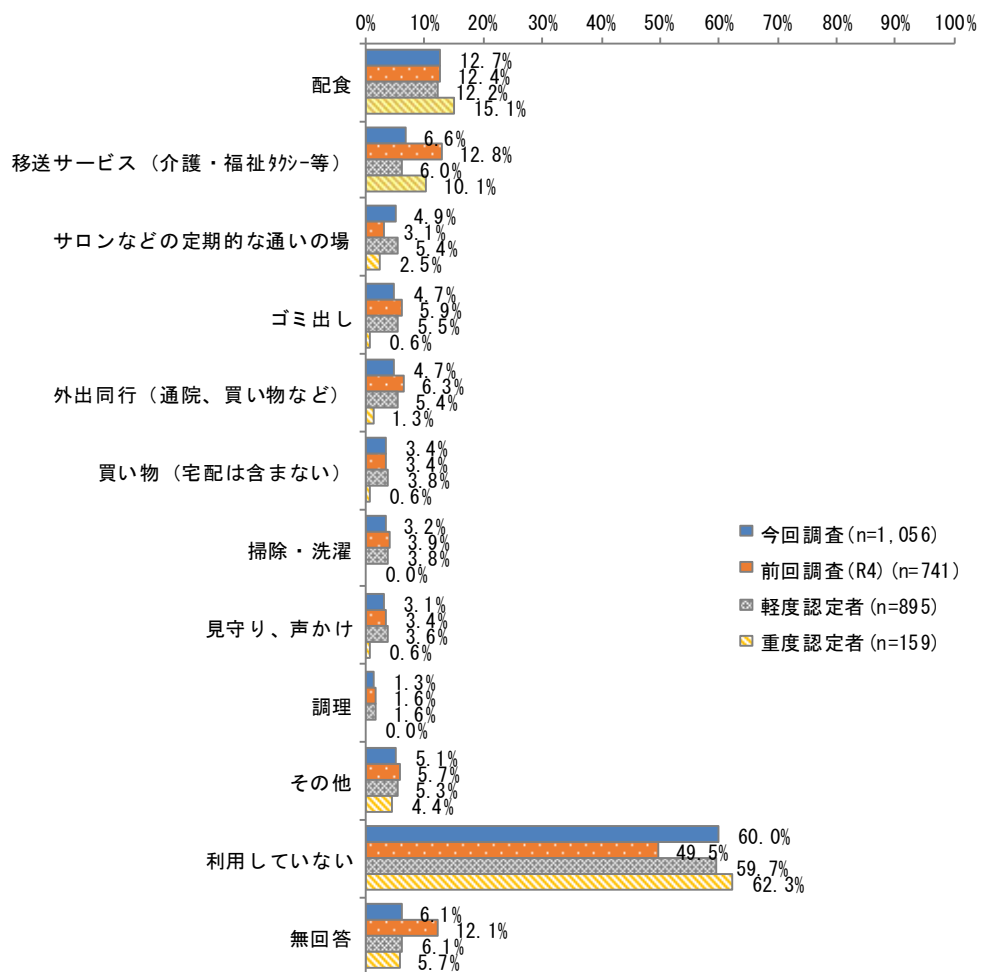


問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください
【複数選択可】

全体では、「利用していない」60.0%が最も高く、次いで「配食」12.7%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」6.6%となっている。

前回調査と比較すると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」は6.2ポイント減少した一方で、「利用していない」は10.5ポイント増加している。

要介護度別でみると、大きな差異はみられない。

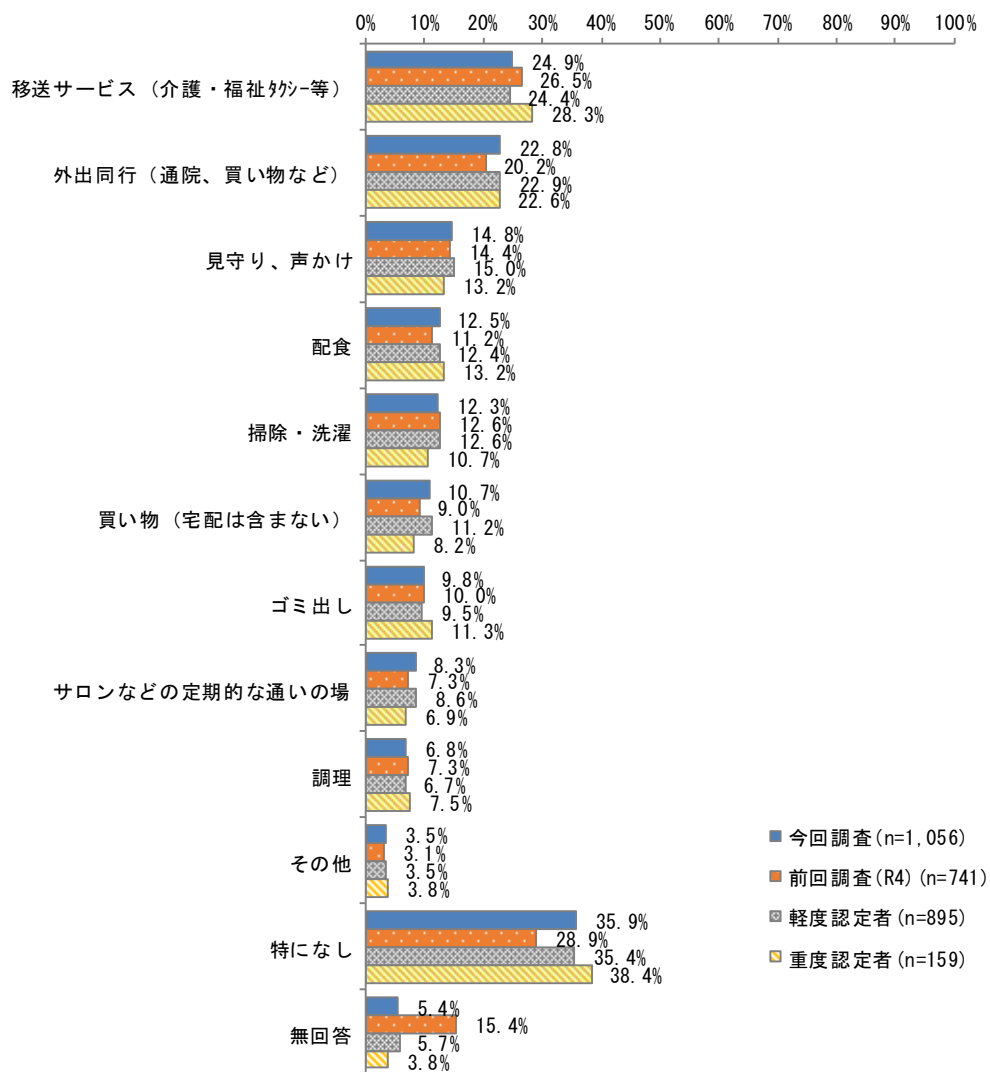


問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください【複数選択可】

全体では、「特になし」35.9%が最も高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」24.9%、「外出同行(通院、買い物など)」22.8%となっている。

前回調査と比較すると、「特になし」は7.0ポイント増加している。

要介護度別でみると、大きな差異はみられない。

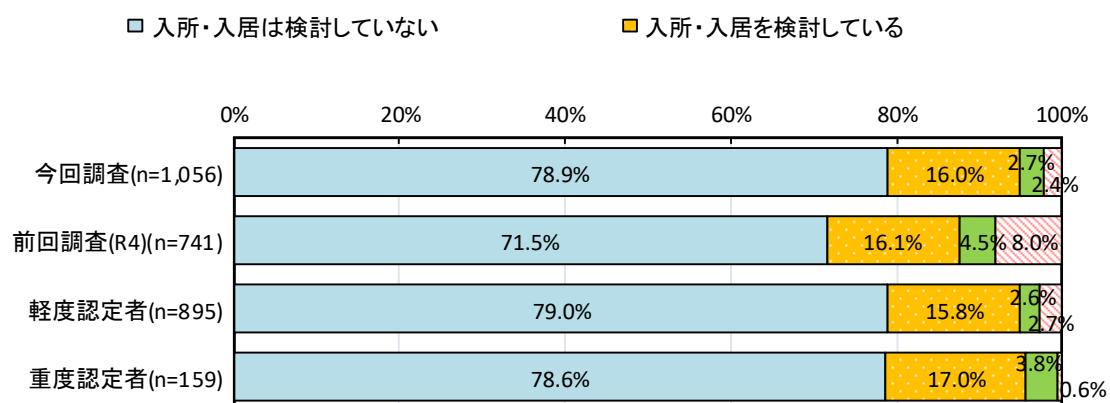


問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください【1つを選択】

全体では、「入所・入居は検討していない」78.9%が最も高く、次いで「入所・入居を検討している」16.0%、「すでに入所・入居申し込みをしている」2.7%となっている。

前回調査と比較すると、「入所・入居は検討していない」は7.4ポイント増加している。

要介護度別でみると、大きな差異はみられない。

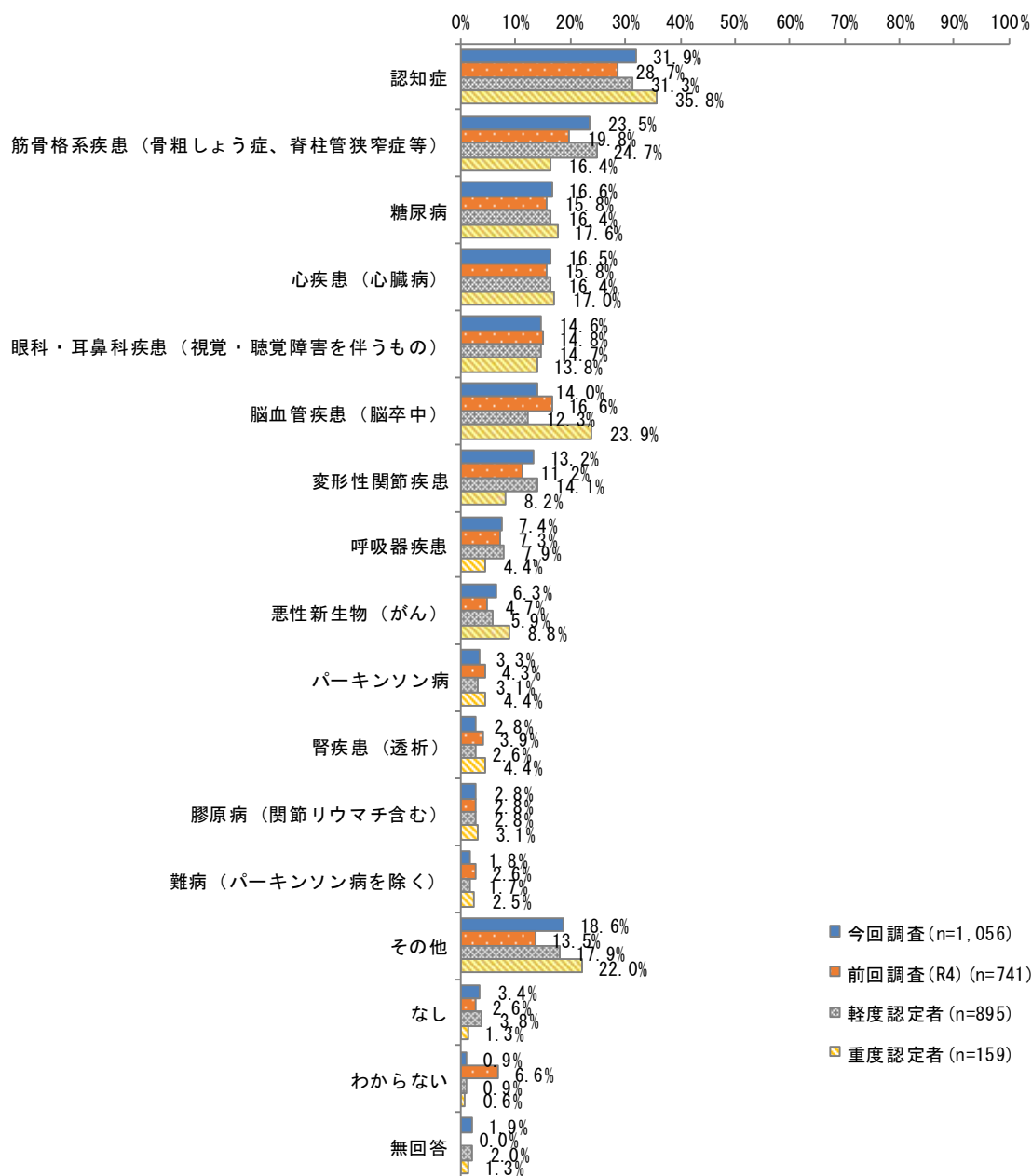


問11 ご本人(調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください【複数選択可】

全体では、「認知症」31.9%が最も高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」23.5%、「その他」18.6%となっている。

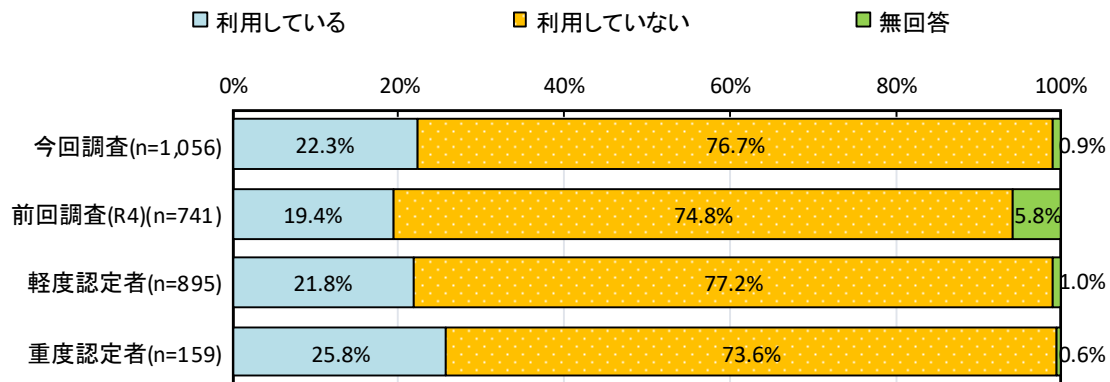
前回調査と比較すると、「その他」は5.1ポイント増加している。

要介護度別でみると、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、「変形性関節疾患」はいずれも軽度認定者が重度認定者を5.9ポイント以上上回る。一方で、「脳血管疾患（脳卒中）」では重度認定者が軽度認定者より11.6ポイント高くなっている。



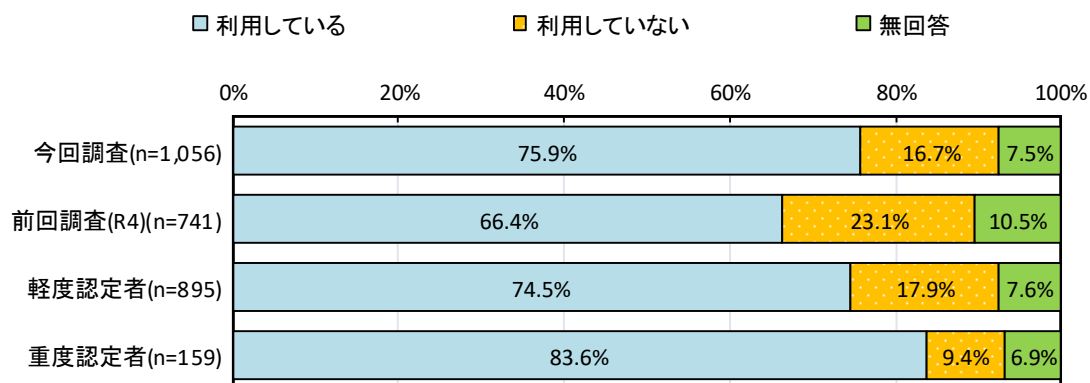
問12 ご本人(認定調査対象者)は、現在、訪問診療を利用していますか【1つを選択】

全体では、「利用している」22.3%、「利用していない」76.7%となっている。
 前回調査、要介護度別で比較して大きな差異はみられない。



問13 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用していますか【1つを選択】

全体では、「利用している」75.9%、「利用していない」16.7%となっている。
 前回調査と比較すると、「利用している」は9.5ポイント増加している。
 要介護度別で見ると、「利用している」では重度認定者が軽度認定者を9.1ポイント上回る。



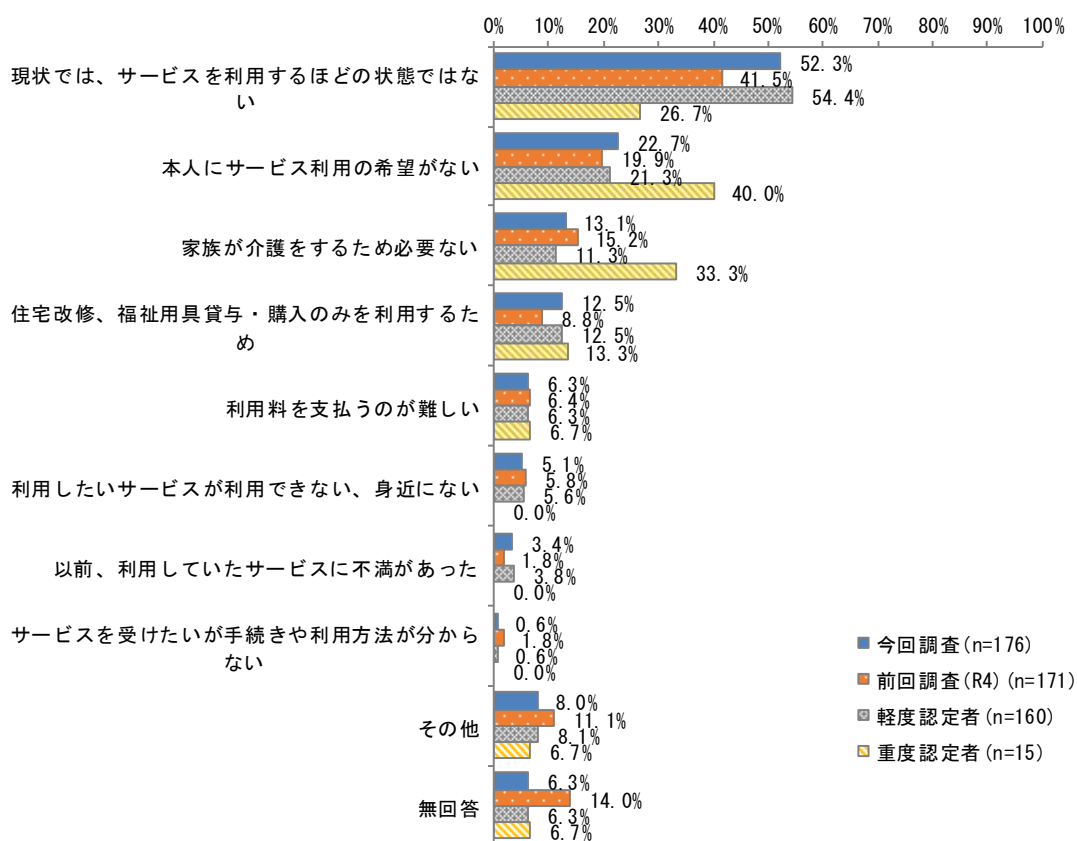
問14 【問13で「2.」を回答した場合は、問14もお答えください。】

介護保険サービスを利用していない理由は何ですか【複数選択可】

全体では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」52.3%が最も高く、次いで「本人にサービスの利用の希望がない」22.7%、「家族が介護をするため必要ない」13.1%となっている。

前回調査と比較すると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」は10.8ポイント増加している。

要介護度別でみると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」は軽度認定者が重度認定者を27.7ポイントと大きく上回る。一方で、「本人にサービスの利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」ではいずれも18.7ポイント以上重度認定者が軽度認定者より高くなっている。



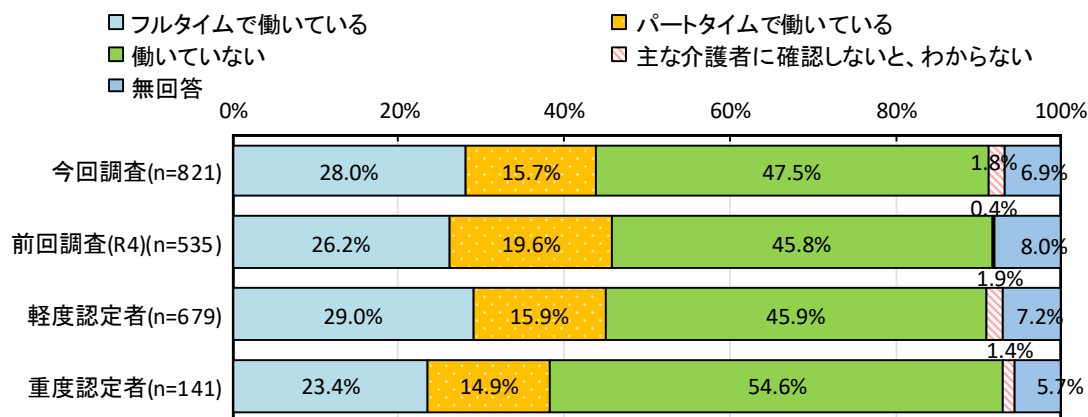
B票（対象者：介護をしている家族、親族）

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください【1つを選択】

全体では、「働いていない」47.5%が最も高く、次いで「フルタイムで働いている」28.0%、「パートタイムで働いている」15.7%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

要介護度別でみると、「働いていない」では重度認定者が軽度認定者を8.7ポイント上回り、54.6%を占めている。



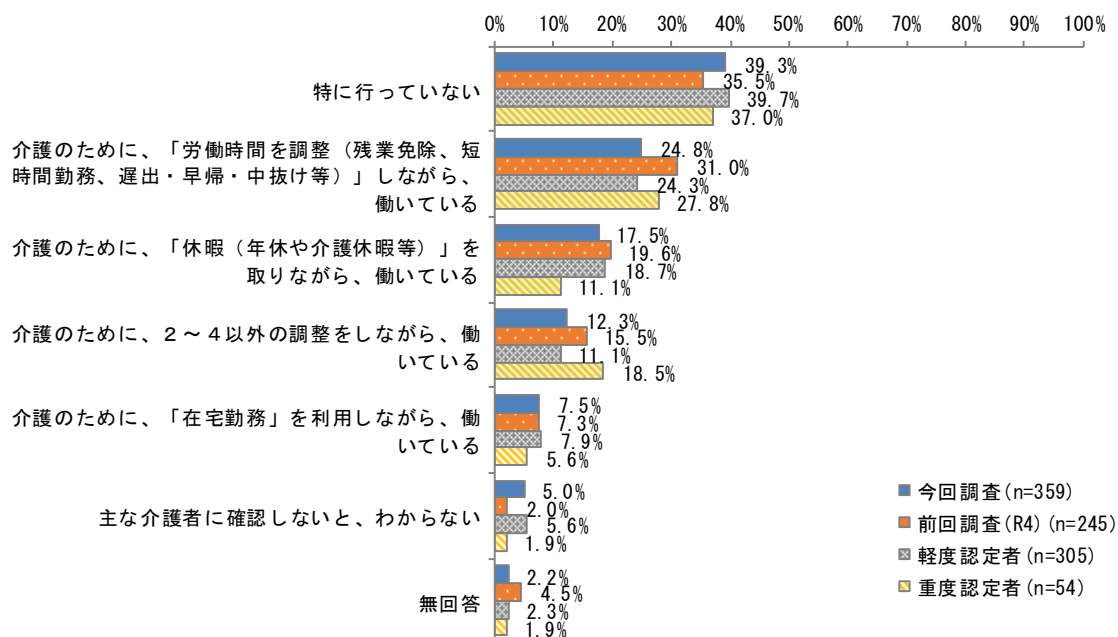
問2 【問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。】

主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか【複数選択可】

全体では、「特に行っていない」39.3%が最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出、早帰、中抜け等）」しながら、働いている」24.8%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」17.5%となっている。

前回調査と比較すると、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出、早帰、中抜け等）」しながら、働いている」は6.2ポイント減少している。

要介護度別でみると、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」では軽度認定者が重度認定者を7.6ポイント上回る一方で、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」では重度認定者が軽度認定者より7.4ポイント高くなっている。



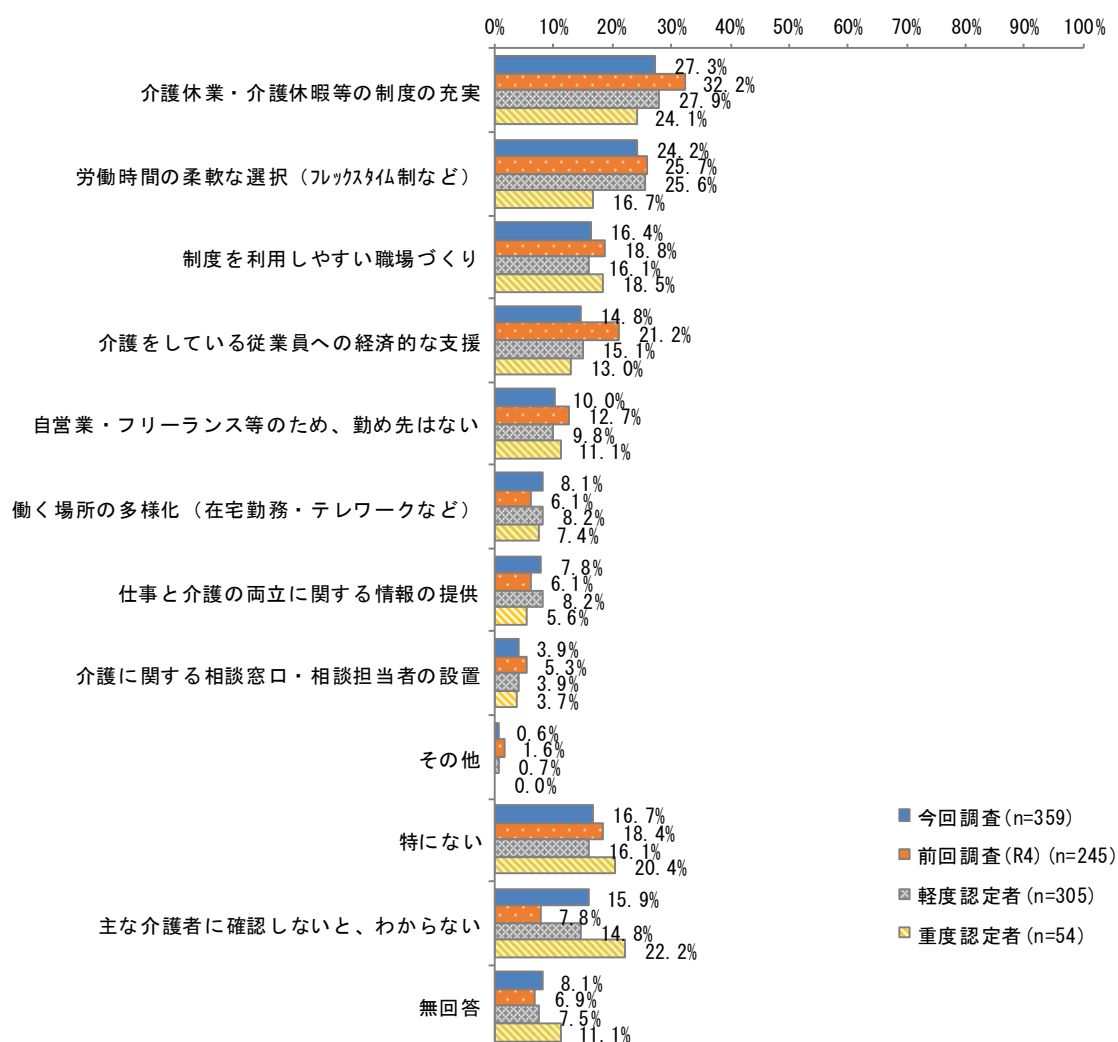
問3 【問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。】

主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか【3つまで選択可】

全体では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」27.3%が最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」24.2%、「特にない」16.7%となっている。

前回調査と比較すると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」は4.9ポイント、「介護をしている従業員への経済的な支援」は6.4ポイント減少した一方で、「主な介護者に確認しないと、わからない」は8.1ポイント増加している。

要介護度別でみると、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」では軽度認定者が重度認定者を8.9ポイント上回る。



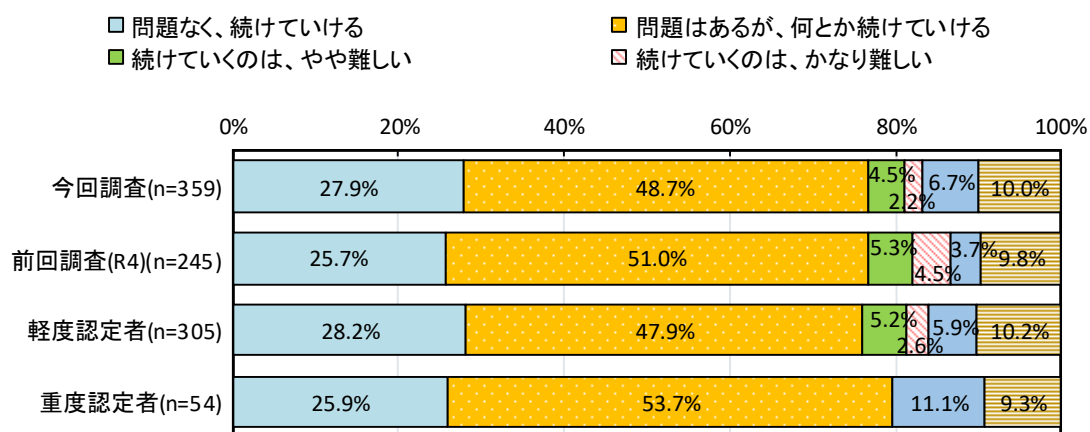
問4 【問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。】

主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか【1つを選択】

全体では、「問題はあるが、何とか続けていける」48.7%が最も高く、次いで「問題なく、続けていける」27.9%、「主な介護者に確認しないと、わからない」6.7%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

要介護度別でみると、「問題はあるが、何とか続けていける」は重度認定者が軽度認定者を5.8ポイント上回る。

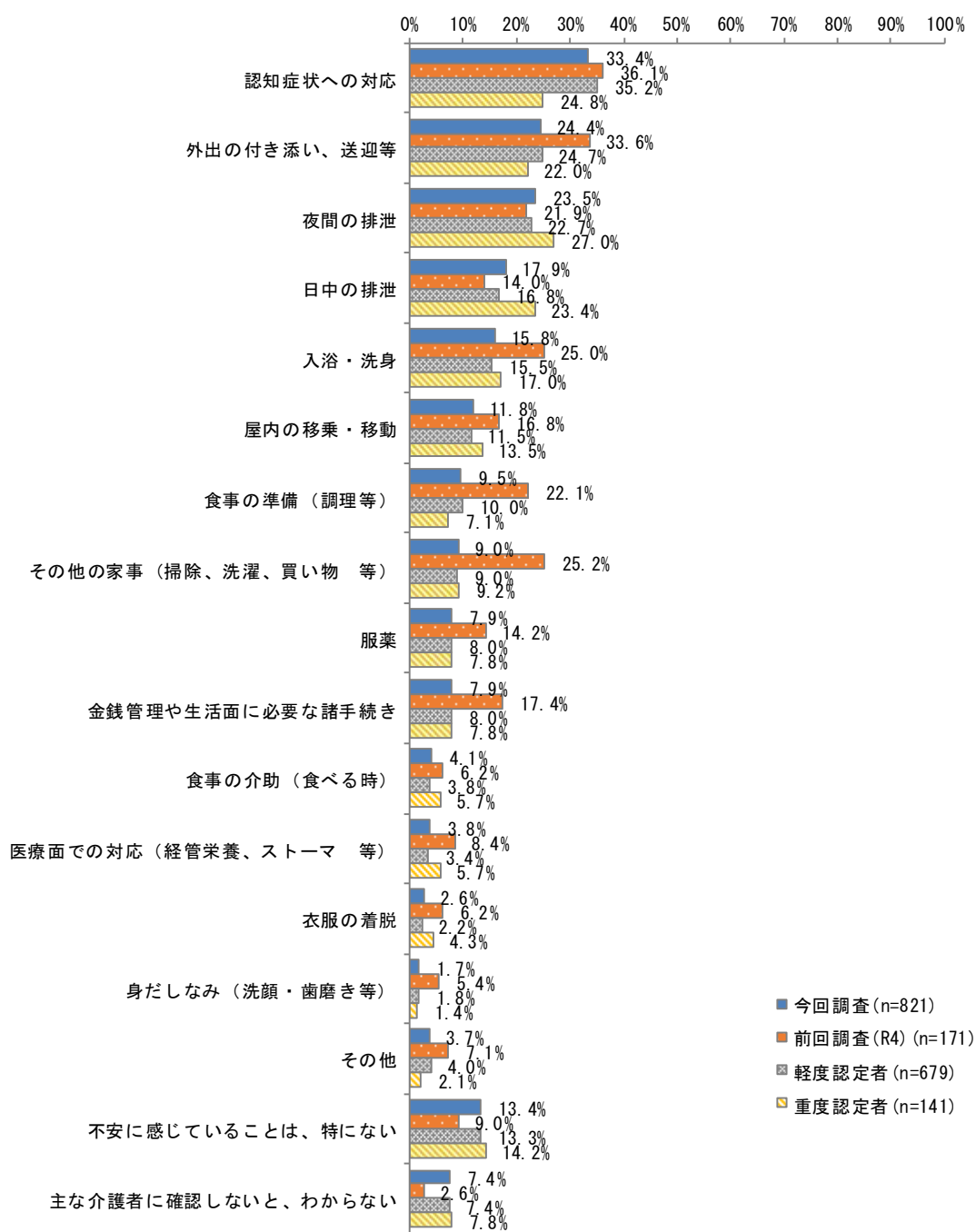


問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)【3つまで選択可】

全体では、「認知症状への対応」33.4%が最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」24.4%、「夜間の排泄」23.5%となっている。

前回調査と比較すると、「夜間の排泄」、「日中の排泄」、「不安を感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」を除く全ての項目で減少しており、特に「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」はいずれも12.6ポイント以上減少している。

要介護度別でみると、「認知症状への対応」では軽度認定者が重度認定者を10.4ポイント上回る。一方で、「日中の排泄」では重度認定者が軽度認定者より6.6ポイント高くなっている。

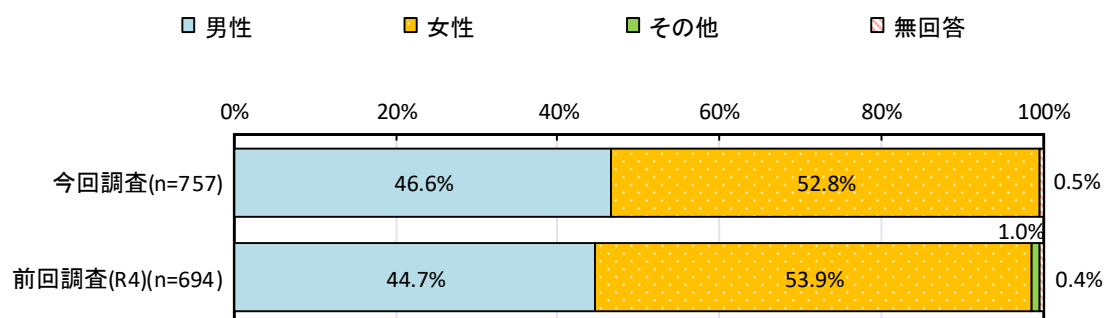


IV 調査結果【介護保険第2号被保険者】

【回答者の属性】

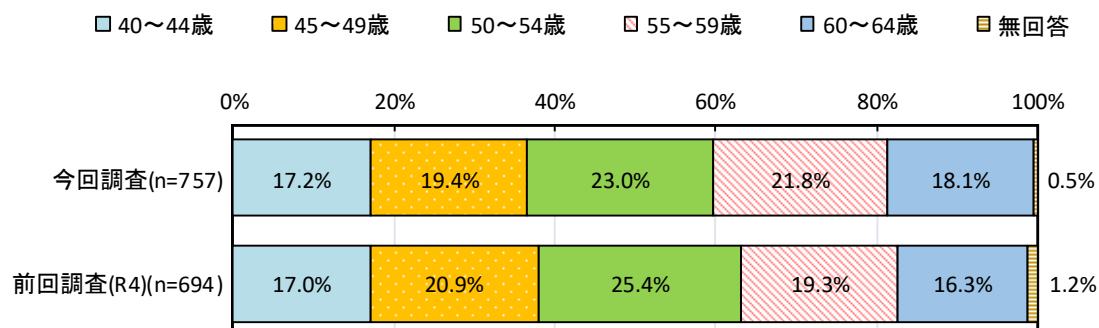
【性別】

全体では、「男性」46.6%、「女性」52.8%となっている。



【年齢】

全体では、「50～54歳」23.0%が最も高く、次いで「55～59歳」21.8%、「45～49歳」19.4%となっている。



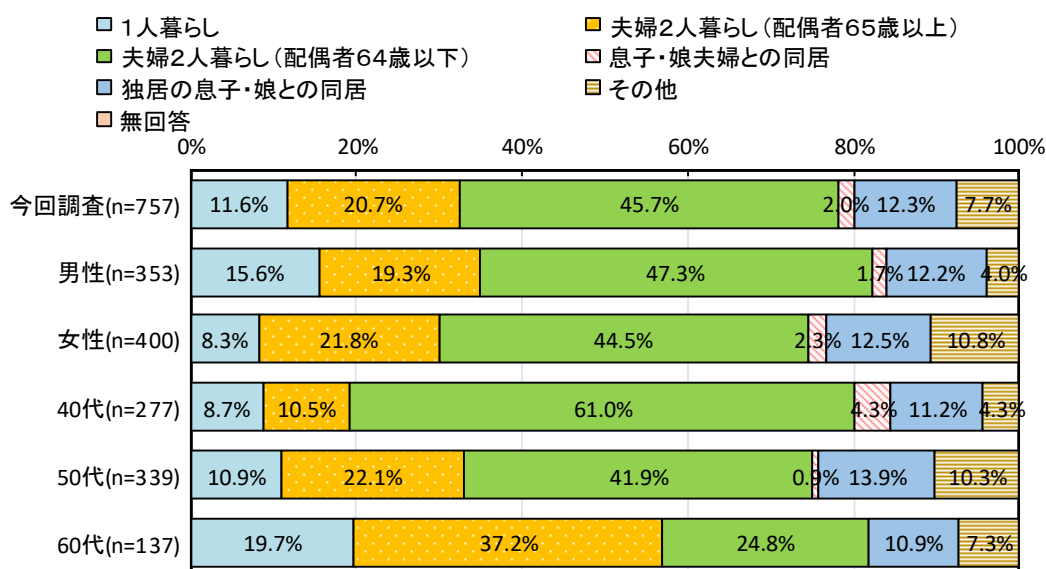
問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成についてお答えください。(○は1つ)

全体では、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」45.7%が最も高く、次いで「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」20.7%、「独居の息子・娘との同居」12.3%となっている。

性別で見ると、「1人暮らし」の割合は男性が女性を7.3ポイント上回る。

年代別で見ると、「1人暮らし」、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合はいずれも年代が上がるにつれて割合が高くなっている。



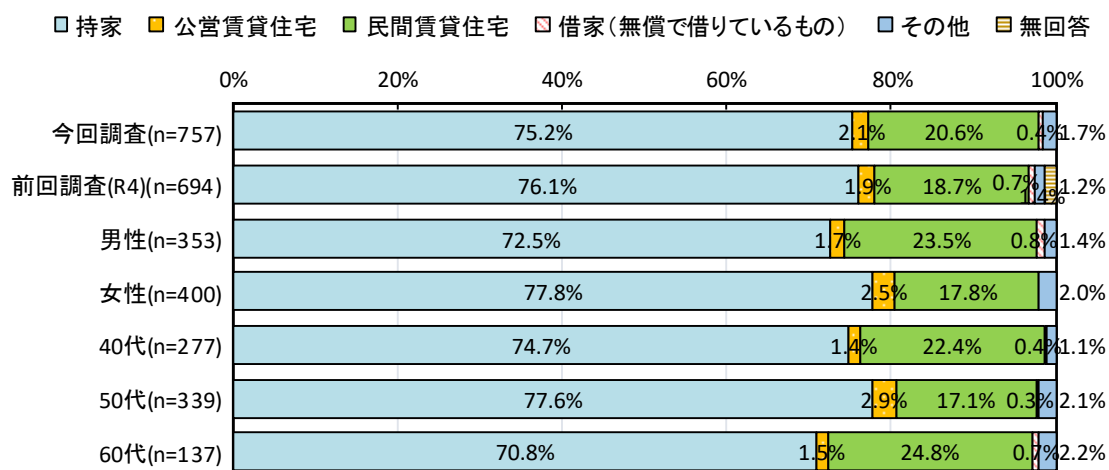
(2) お住まいは次のうちどれですか。(○は1つ)

全体では、「持家」75.2%が最も高く、次いで「民間賃貸住宅」20.6%、「公営賃貸住宅」2.1%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、「持家」の割合は女性が男性を5.3ポイント上回る。一方で、「民間賃貸住宅」は男性が女性より5.7ポイント高くなっている。

年代別で見ると、全ての年代で「持家」の割合が最も高く、7割以上を占めている。



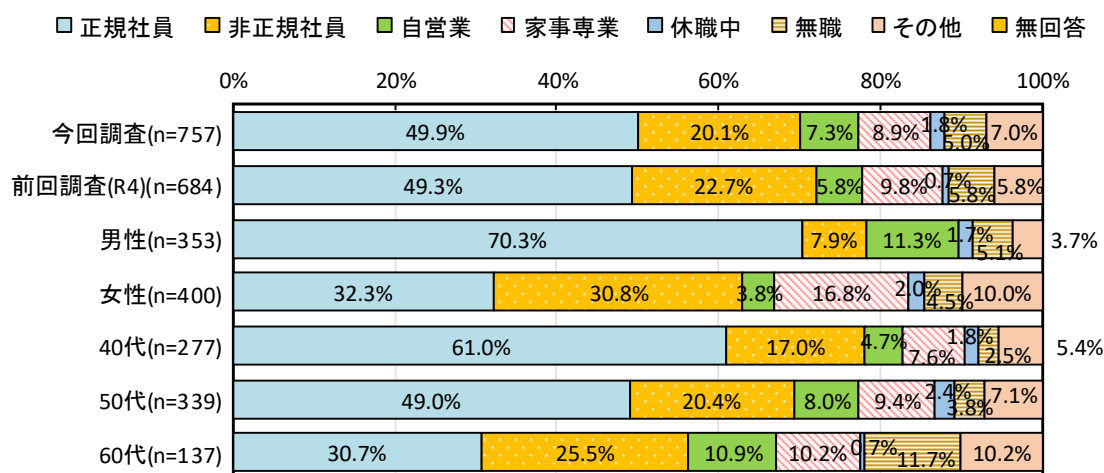
(3)お仕事は次のうちどれですか。(〇は1つ)

全体では、「正規社員」49.9%が最も高く、次いで「非正規社員」20.1%、「家事専業」8.9%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、「正規職員」の割合は男性が70.3%を占める一方で、女性は32.3%にとどまり、女性は「非正規職員」の割合が30.8%と男性より高くなっていることから、雇用形態には大きな男女差がみられる。

年代別で見ると、「正規職員」は40代で61.0%と最も高く、年代が上がるにつれて低下している。一方で、「非正規職員」は年代が上がるにつれて割合が高くなっており、年齢とともに雇用形態が変化する傾向がみられる。



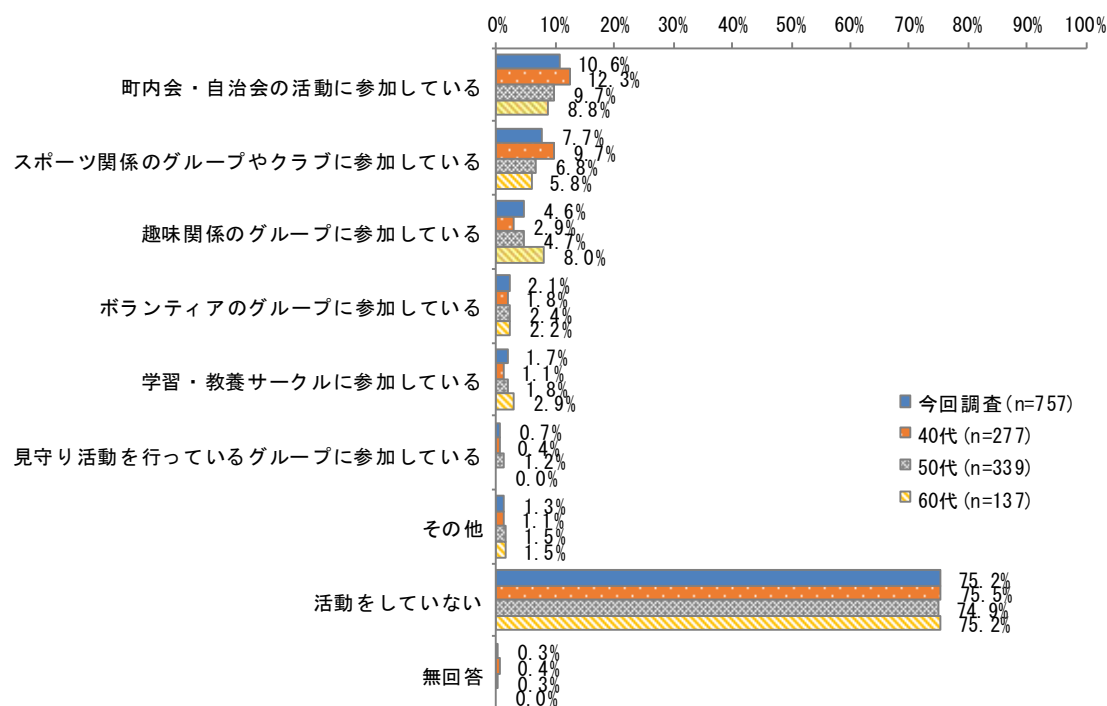
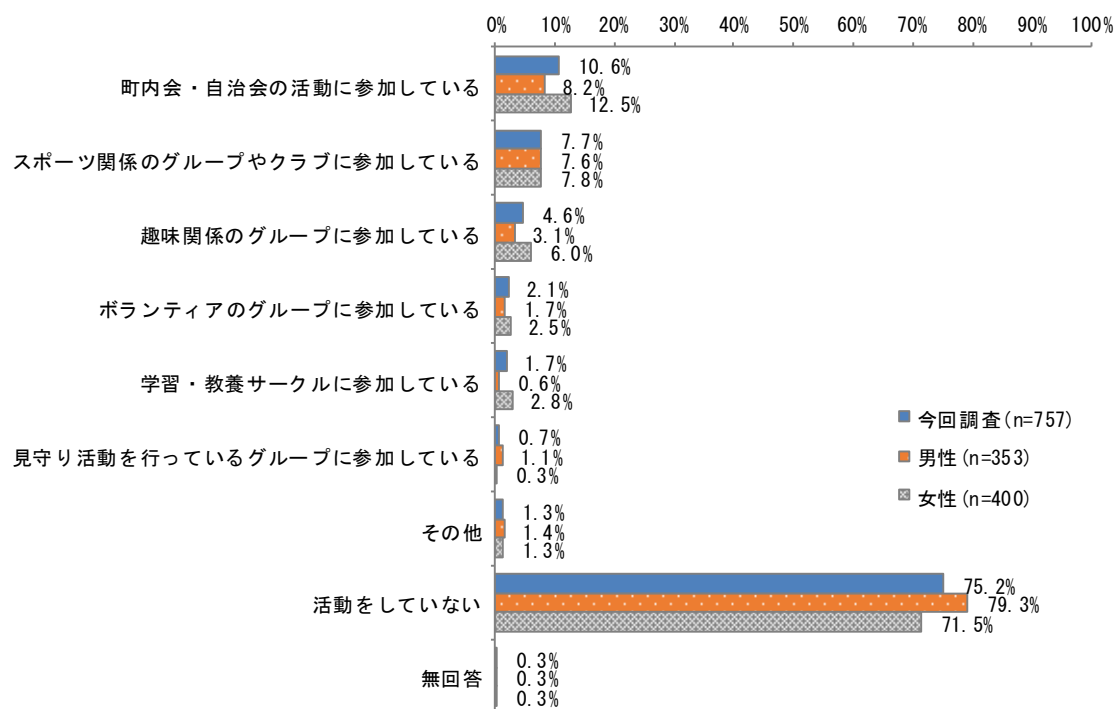
問2 地域の交流について

(1)地域での活動に参加していますか。(いくつでも)

全体では、「活動をしていない」75.2%が最も高く、次いで「町内会・自治会の活動に参加している」10.6%、「スポーツ関係のグループやクラブに参加している」7.7%となっている。

性別でみると、「活動をしていない」は男性が女性を7.8ポイント上回る。

年代別でみると、「町内会・自治会の活動に参加している」、「スポーツ関係のグループやクラブに参加している」はいずれも40代、「趣味関係のグループに参加している」は60代でやや割合が高くなっている。



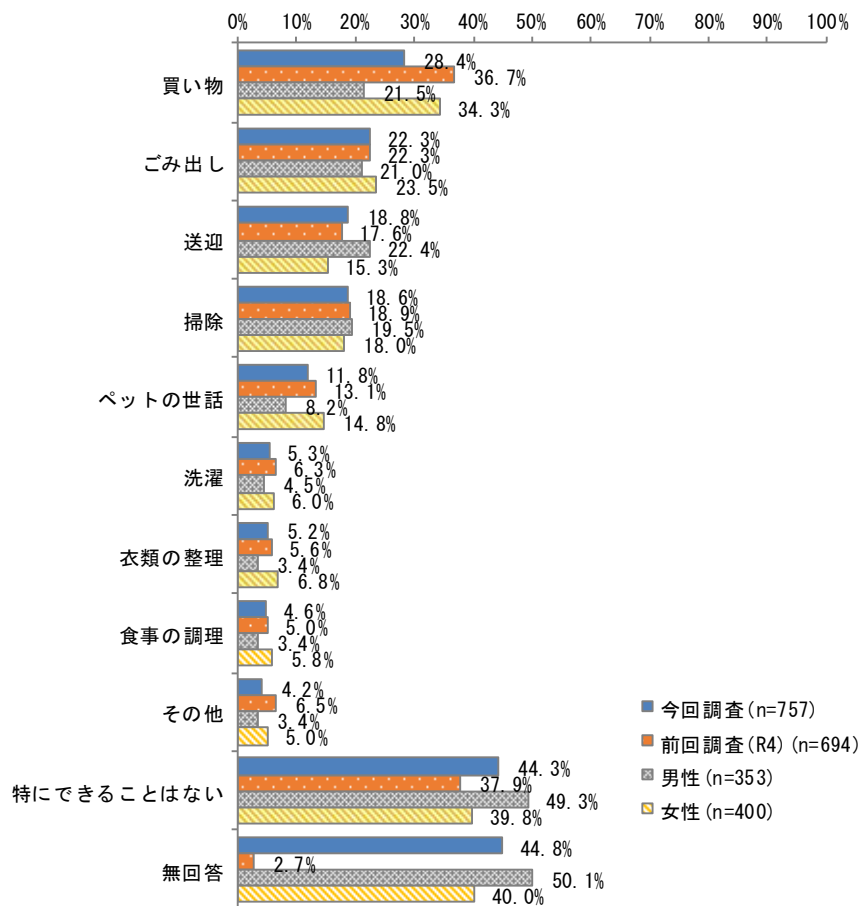
(2)日常生活で支援を必要とする方に対し、ボランティア活動等の一環として、手助けをしても良いと思えることはありますか。(いくつでも)

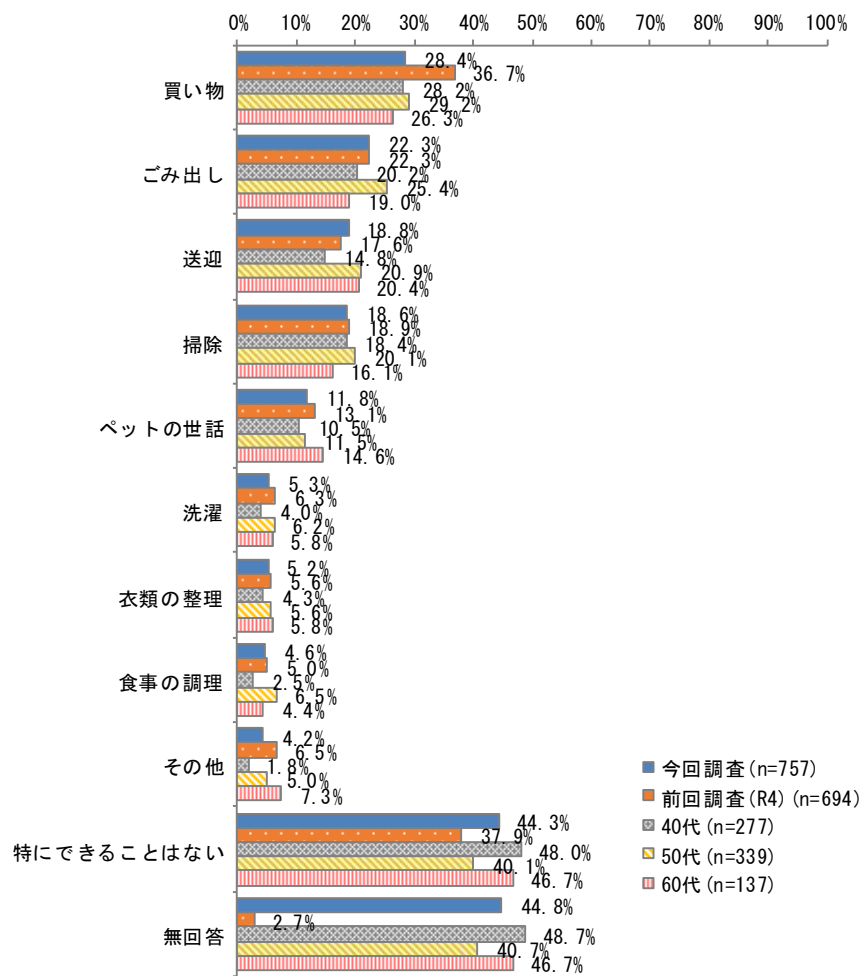
全体では、「特にできることはない」44.3%が最も高く、次いで「買い物」28.4%、「ごみ出し」22.3%となっている。

前回調査と比較すると、「買い物」は8.3ポイント減少した一方で、「特にできることはない」は6.4ポイント増加している。

性別で見ると、「送迎」、「特にできることはない」はいずれも男性が女性を7.1ポイント以上上回る。一方で、「買い物」、「ペットの世話」はいずれも女性が男性より6.6ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、「買い物」、「ごみ出し」、「送迎」を除く全ての項目で、40代は他の年代に比べて割合が低くなっている。一方で、「特にできることはない」は40代が48.0%と最も高く、他の年代を上回っている。





問3 あなたが介護をする場合について

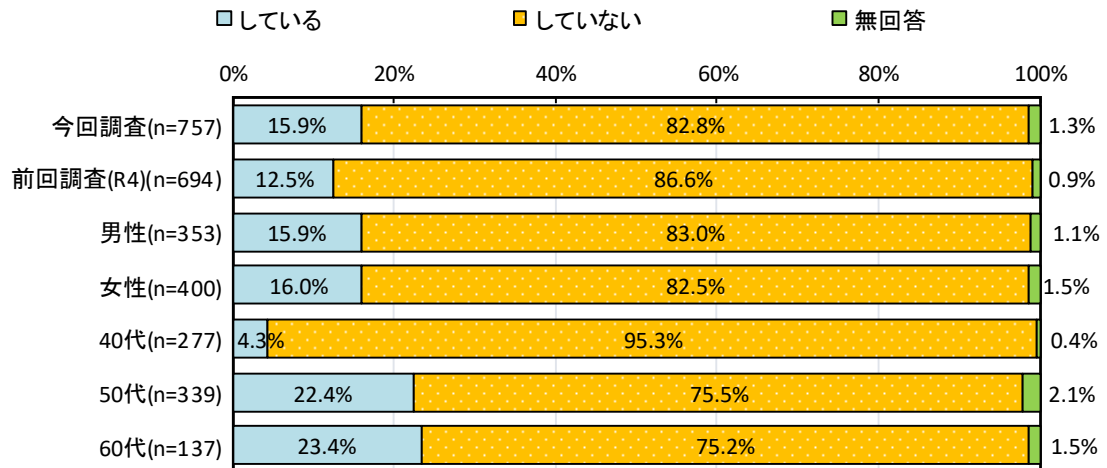
(1)現在、誰かの介護をしていますか。(○は1つ)※同居の有無に関わらず

全体では、「している」15.9%、「していない」82.8%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年代別で見ると、50代、60代ではいずれも「している」の割合が2割を占めている一方で、40代では4.3%にとどまっている。



【次の①～⑤は、(1)において「1. している」と回答した方のみ、ご回答ください。】

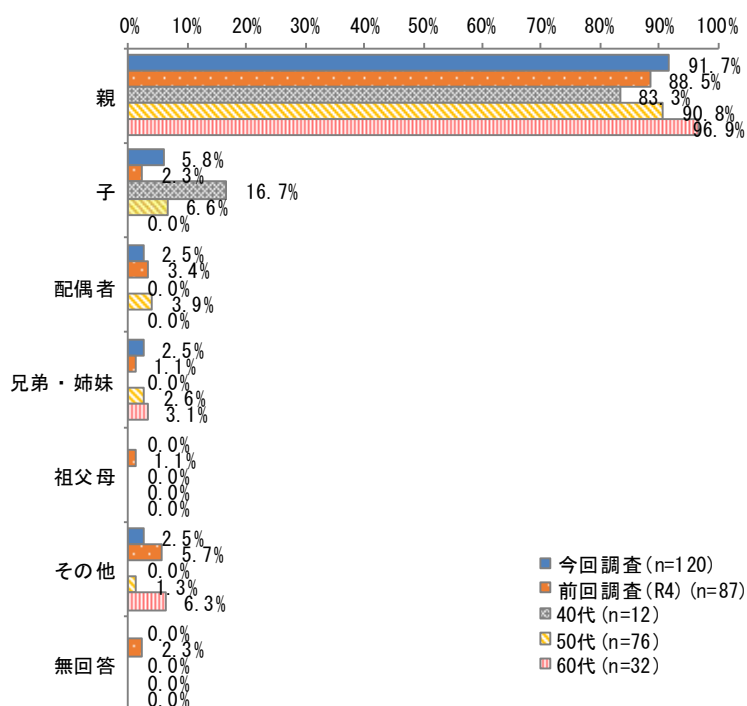
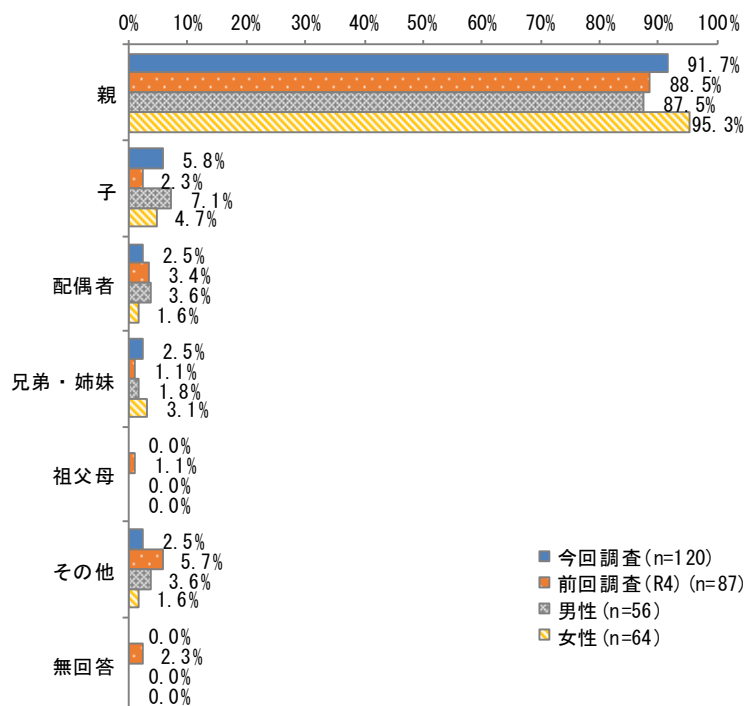
① 介護をしている相手はどなたですか。(いくつでも)

全体では、「親」91.7%が最も高く、次いで「子」5.8%、「配偶者」、「兄弟・姉妹」、「その他」がいずれも2.5%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、「親」の割合は女性が男性を7.8ポイント上回る。

年代別でみると、「親」は年代が上がるにつれて割合が高くなり、60代では96.9%を占めている。また、「子」は40代が16.7%と他の年代より高くなっている。



【次の①～⑤は、(1)において「1. している」と回答した方のみ、ご回答ください。】

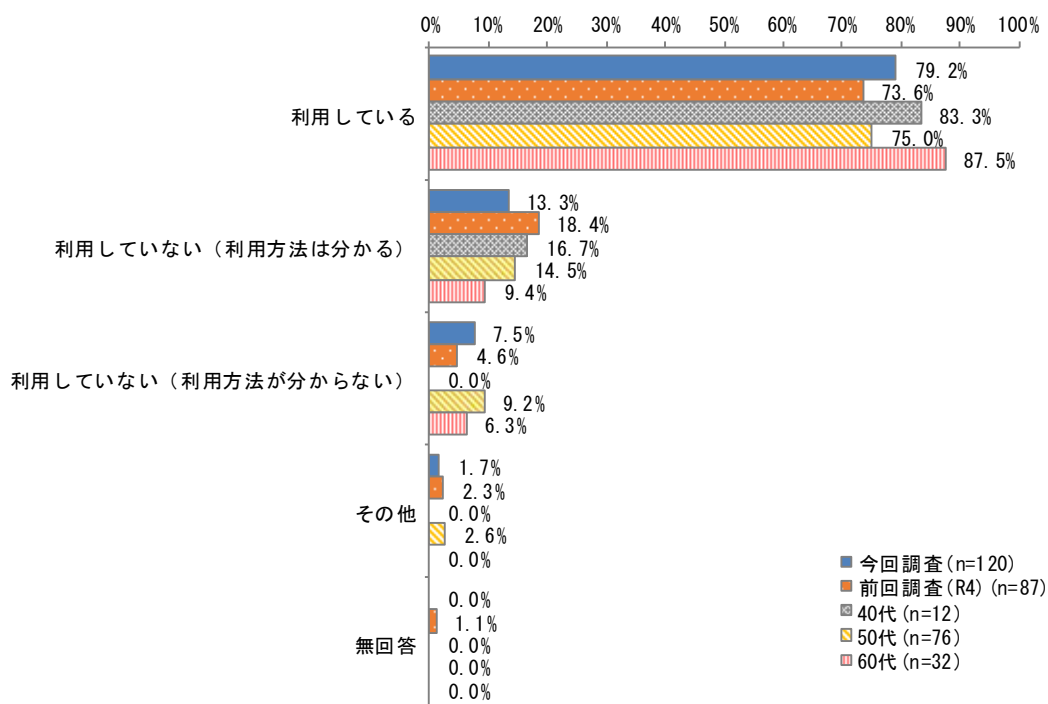
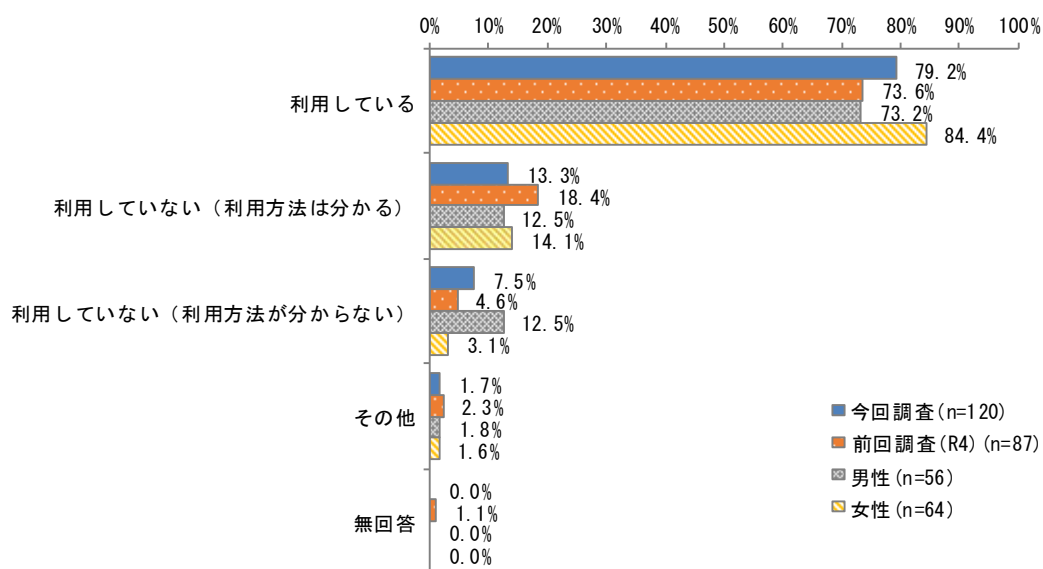
② 介護をしている相手は介護保険サービスを利用していますか。(いくつでも)

全体では、「利用している」79.2%が最も高く、次いで「利用していない(利用方法は分かる)」13.3%、「利用していない(利用方法が分からない)」7.5%となっている。

前回調査と比較すると、「利用していない(利用方法は分かる)」は5.1ポイント減少した一方で、「利用している」は5.6ポイント増加している。

性別でみると、「利用している」の割合は女性が男性を11.2ポイント上回る。一方で、「利用していない(利用方法が分からない)」は男性が女性より9.4ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「利用している」の割合は最も高く、40代、60代では8割以上を占めている。



【次の①～⑤は、(1)において「1. している」と回答した方のみ、ご回答ください。】

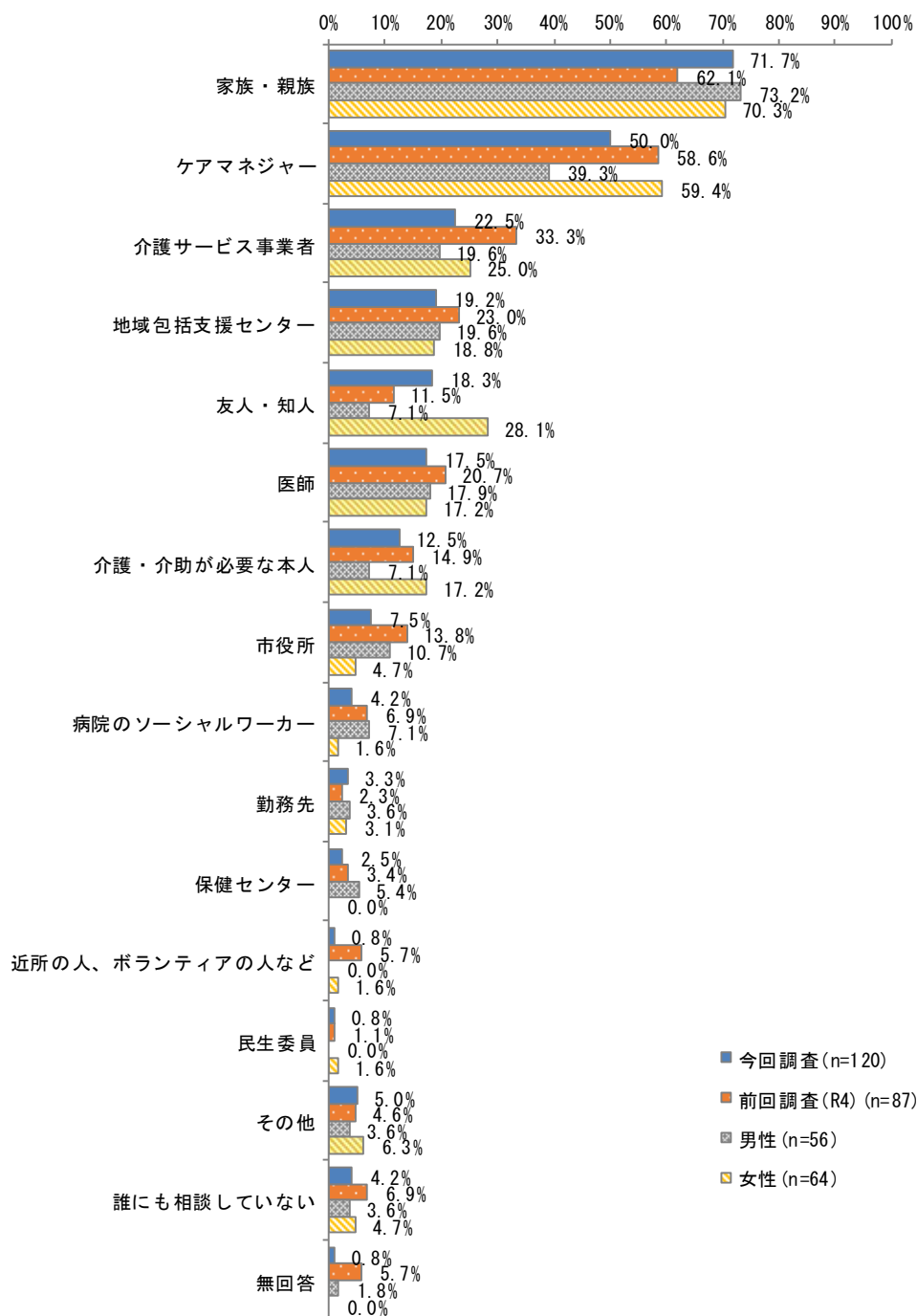
③ 今後の介護のことについて誰に相談していますか。(いくつでも)

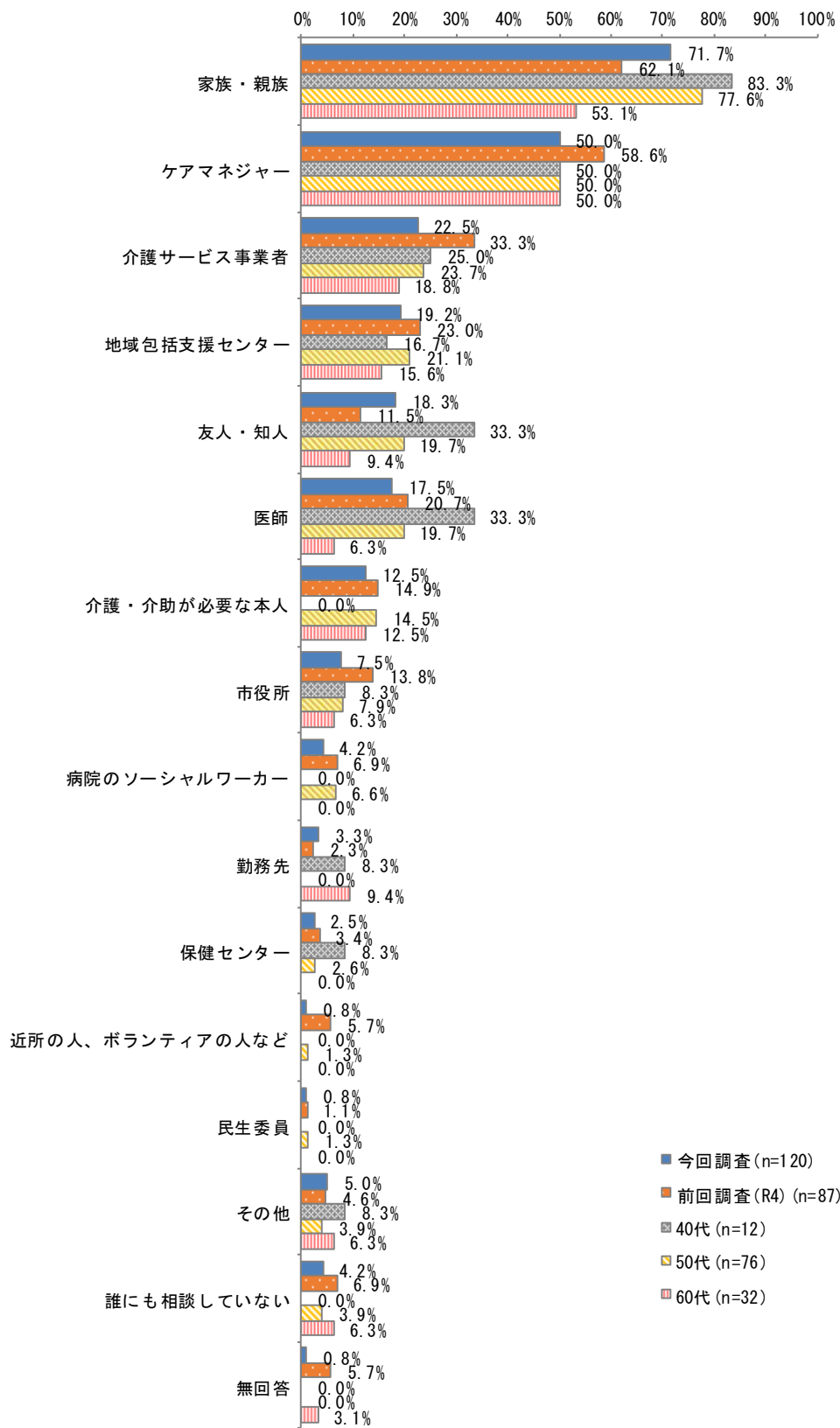
全体では、「家族・親族」71.7%が最も高く、次いで「ケアマネジャー」50.0%、「介護サービス事業者」22.5%となっている。

前回調査と比較すると、多くの項目で割合が減少している一方で、「家族・親族」、「友人・知人」ではいずれも6.8ポイント以上増加している。

性別でみると、「介護・介助が必要な本人」は10.1ポイント、「友人・知人」、「ケアマネジャー」ではいずれも20.1ポイント以上女性が男性より高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「家族・親族」の割合が最も高く、次いで「ケアマネジャー」となっている。40代では「友人・知人」、「医師」がいずれも他の年代より高くなっている。





【次の①～⑤は、(1)において「1. している」と回答した方のみ、ご回答ください。】

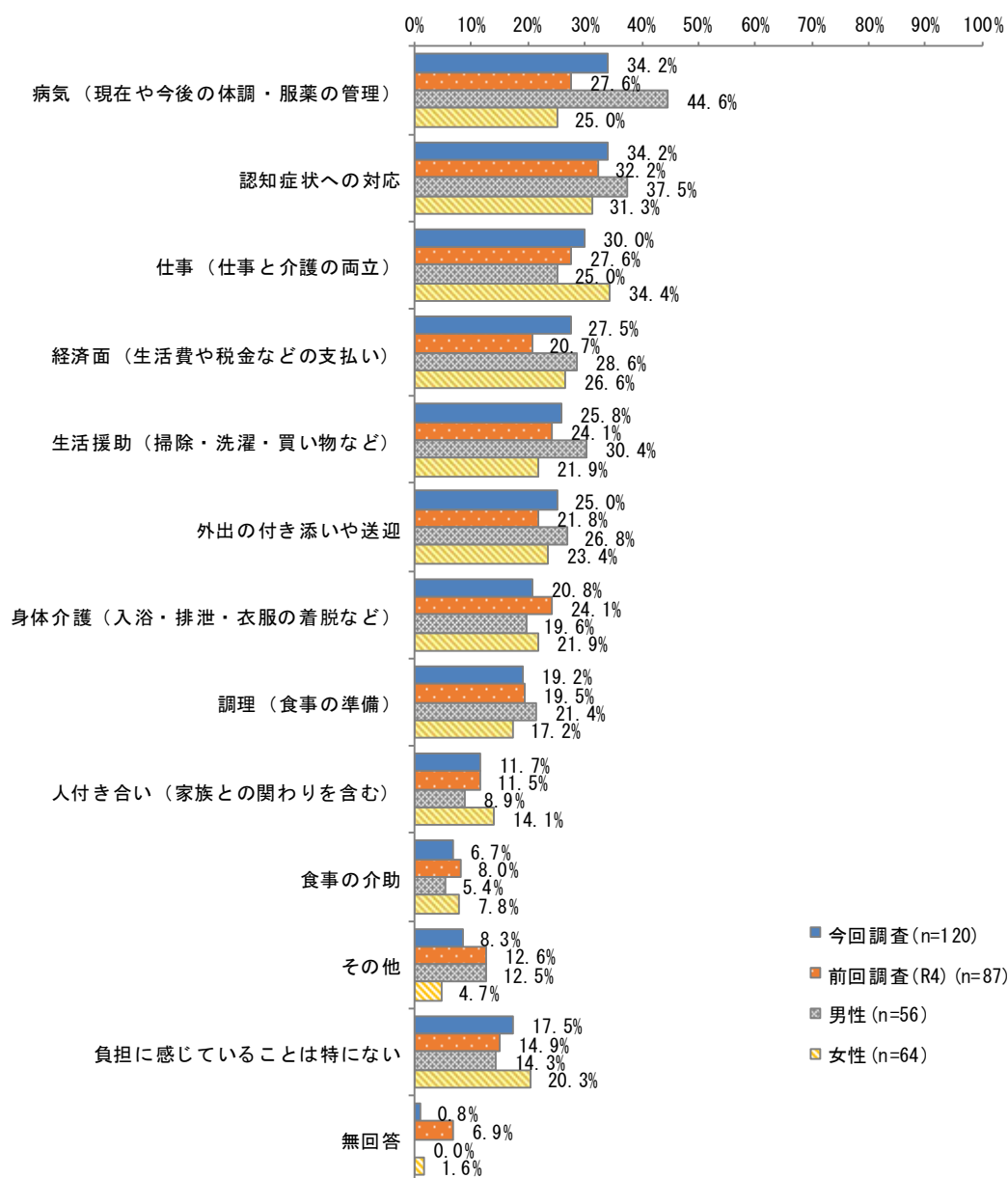
④ 現在、介護をしているなかで、負担に感じていることは何ですか。(いくつでも)

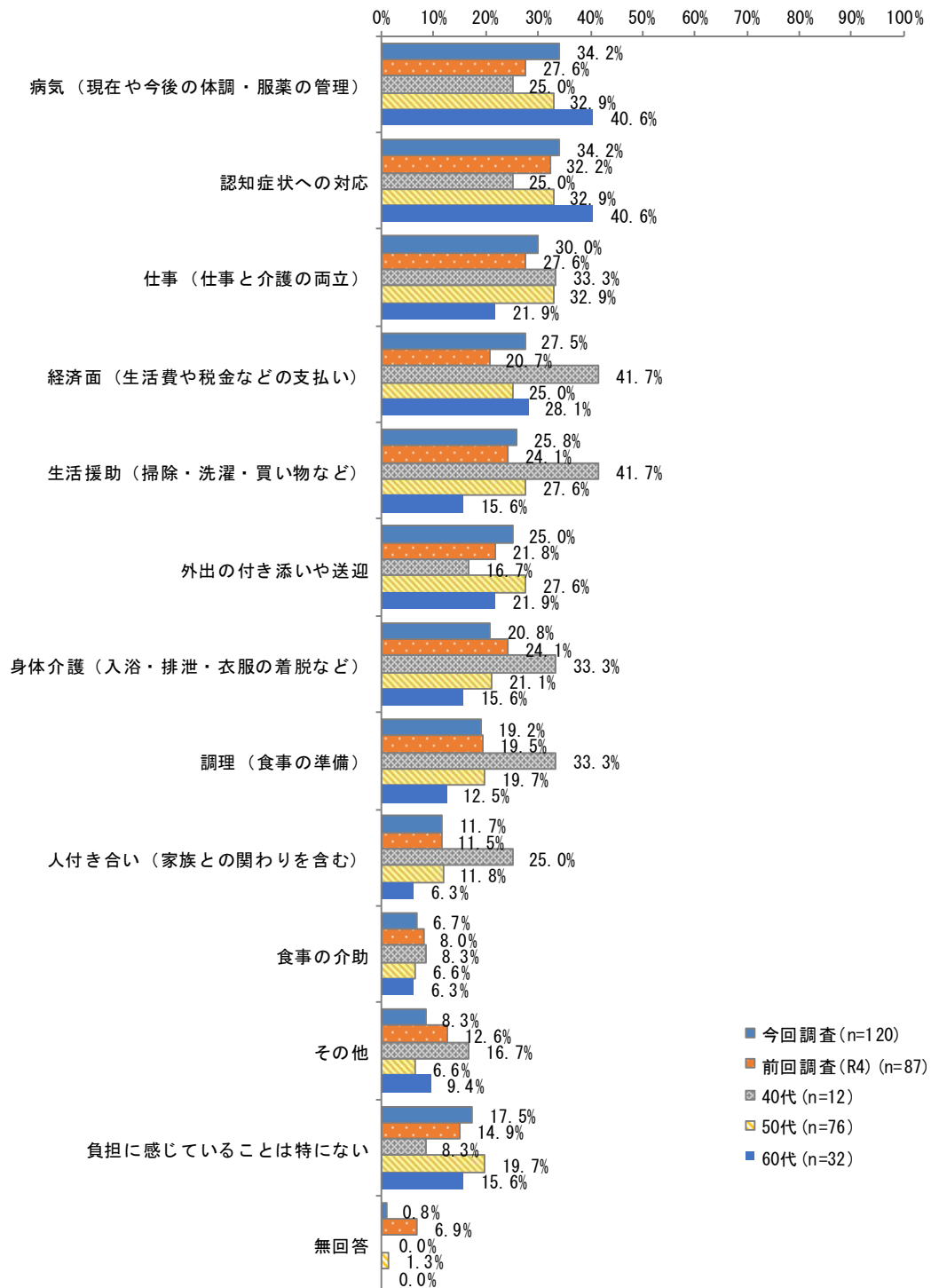
全体では、「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」、「認知症状への対応」がいずれも34.2%と最も高く、次いで「仕事（仕事と介護の両立）」30.0%、「経済面（生活費や税金などの支払い）」27.5%となっている。

前回調査と比較すると、「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」、「経済面（生活費や税金などの支払い）」はいずれも6.6ポイント以上増加している。

性別でみると、「認知症状への対応」、「生活援助（掃除・洗濯・買い物など）」、「その他」の割合はいずれも6.2ポイント以上、「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」は19.6ポイント男性が女性を上回る。一方で、「仕事（仕事と介護の両立）」、「負担に感じていることは特にない」ではいずれも女性が男性より6.0ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、40代では「生活援助（掃除・洗濯・買い物など）」、「経済面（生活費や税金などの支払い）」、50代、60代では「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」、「認知症状への対応」の割合が最も高くなっている。





【次の①～⑤は、(1)において「1. している」と回答した方のみ、ご回答ください。】

⑤ 介護をするに当たって、働き方について何か調整などをしてしていますか。(○は1つ)

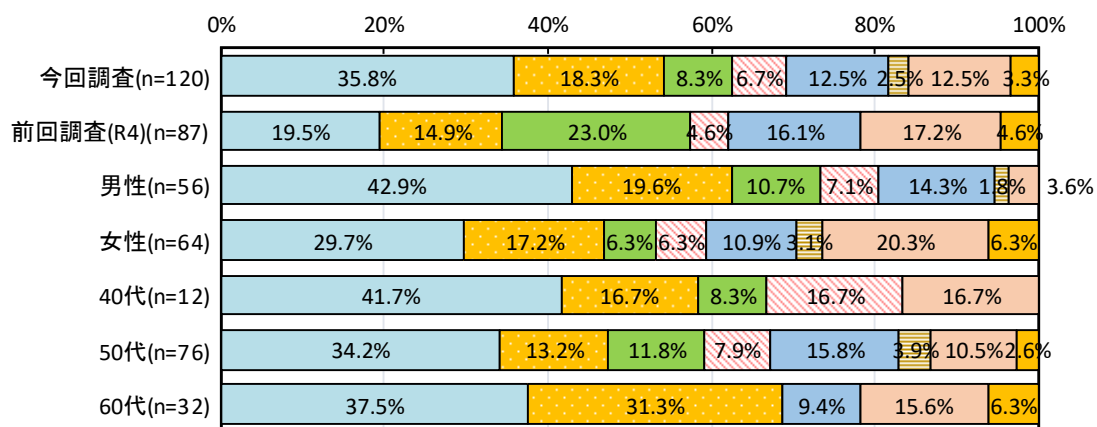
全体では、「特に行っていない」35.8%が最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている」18.3%、「介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている」、「働いていない」がいずれも12.5%となっている。

前回調査と比較すると、「介護のために、「休暇（有休や介護休暇など）」を取りながら、働いている」は14.7ポイント減少した一方で、「特に行っていない」は16.3ポイント増加している。

性別で見ると、「特に行っていない」また、就業を継続している人では男性が女性を上回っている。「介護のために、休職している」、「働いていない」、「介護のために退職をした」ではいずれも女性が男性より高く、特に「働いていない」では16.7ポイントの差がみられる。

年代別で見ると、60代では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている」の割合が31.3%と他の年代より高くなっている。

- 特に行っていない
- 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている
- 介護のために、「休暇（有休や介護休暇など）」を取りながら、働いている
- 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
- 介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている
- 介護のために、休職している
- 働いていない
- 介護のために退職をした
- 無回答



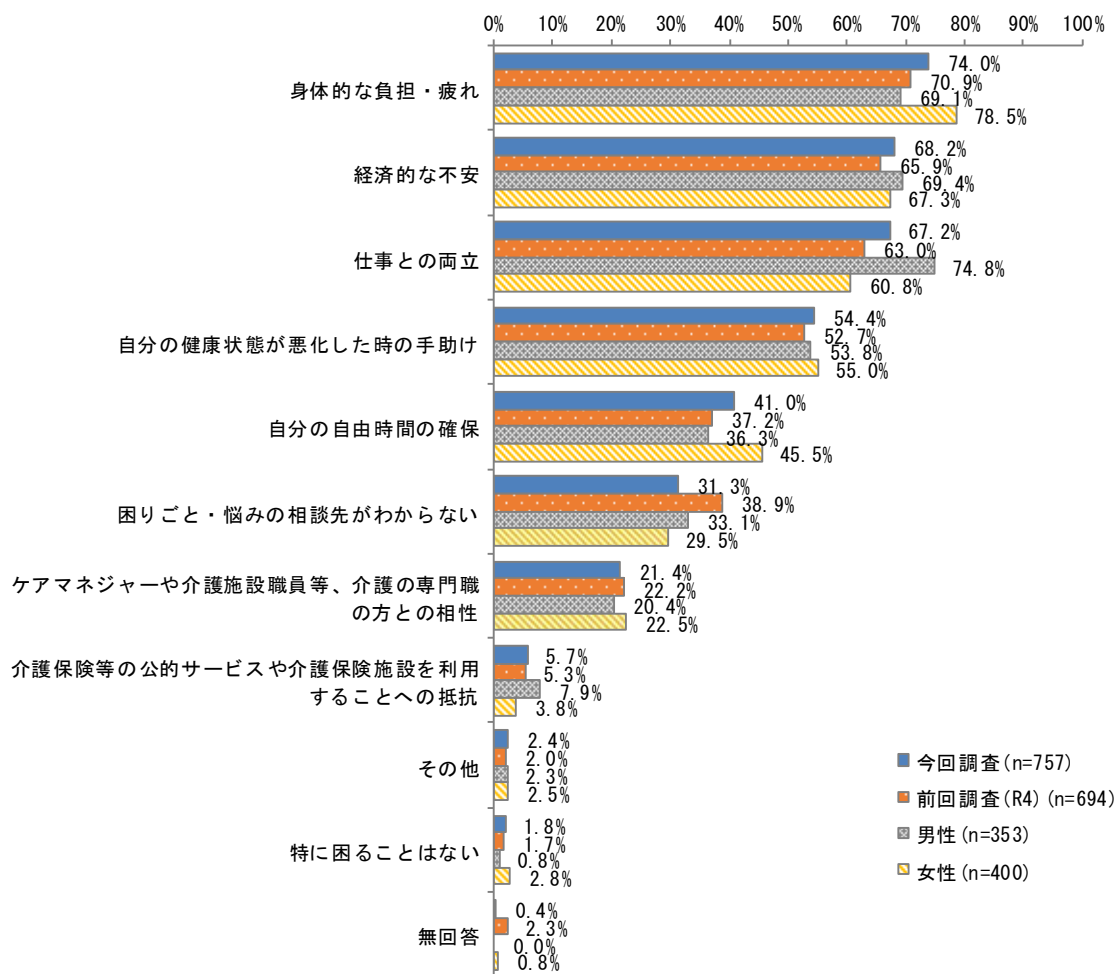
(2)あなたが介護をする側になった場合、この先の介護について不安に思うことは何ですか。
(いくつでも)

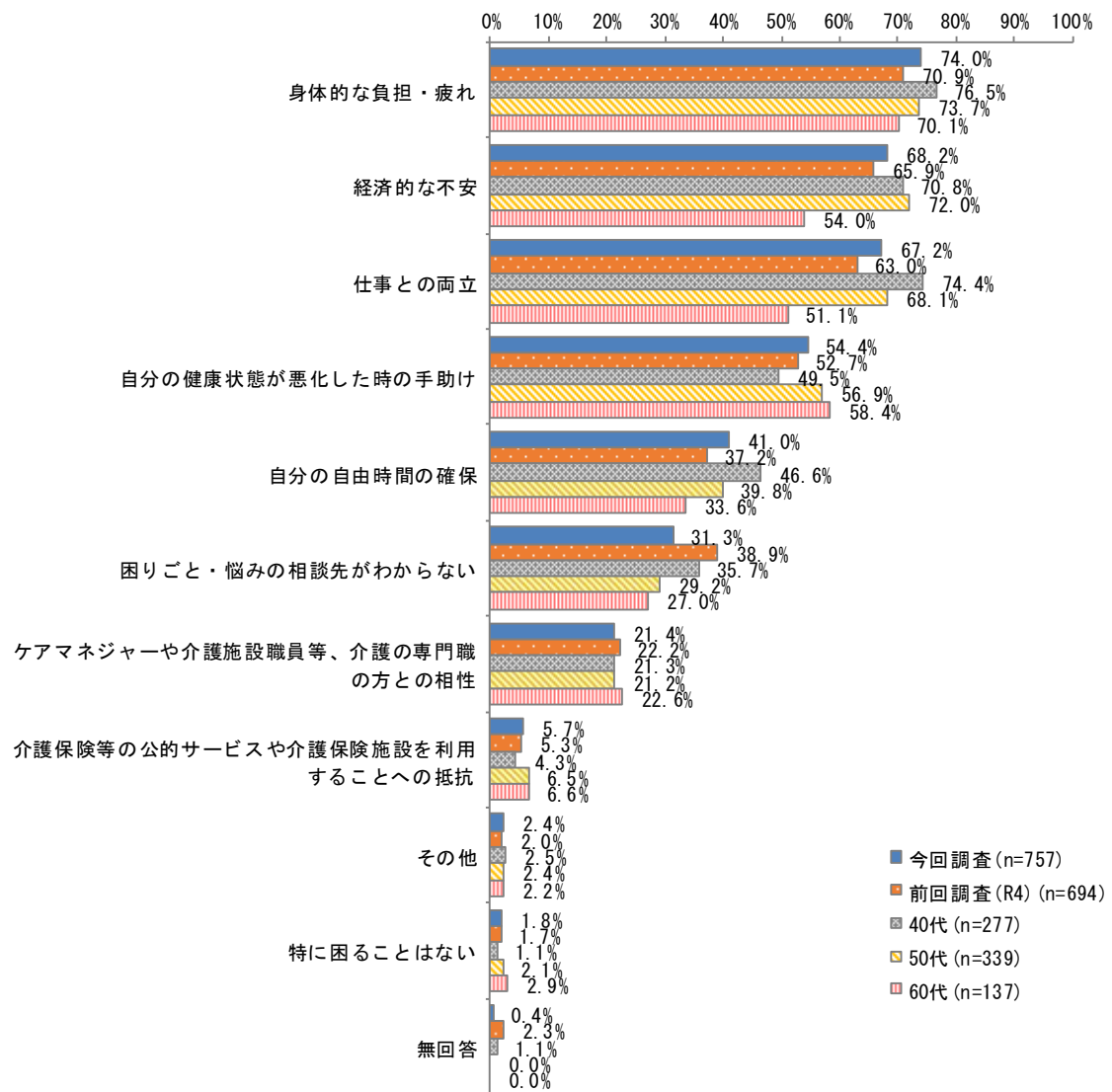
全体では、「身体的な負担・疲れ」74.0%が最も高く、次いで「経済的な不安」68.2%、「仕事との両立」67.2%となっている。

前回調査と比較すると、「困りごと・悩みの相談先がわからない」は7.6ポイント減少している。

性別で見ると、「仕事との両立」の割合は男性が女性を14.0ポイント上回る。一方で、「身体的な負担・疲れ」、「自分の自由時間の確保」ではいずれも9.2ポイント以上女性が男性より高くなっている。

年代別で見ると、全ての年代で「身体的な負担・疲れ」の割合が最も高く、次いで40代では「仕事との両立」、50代、60代では「経済的な不安」となっている。



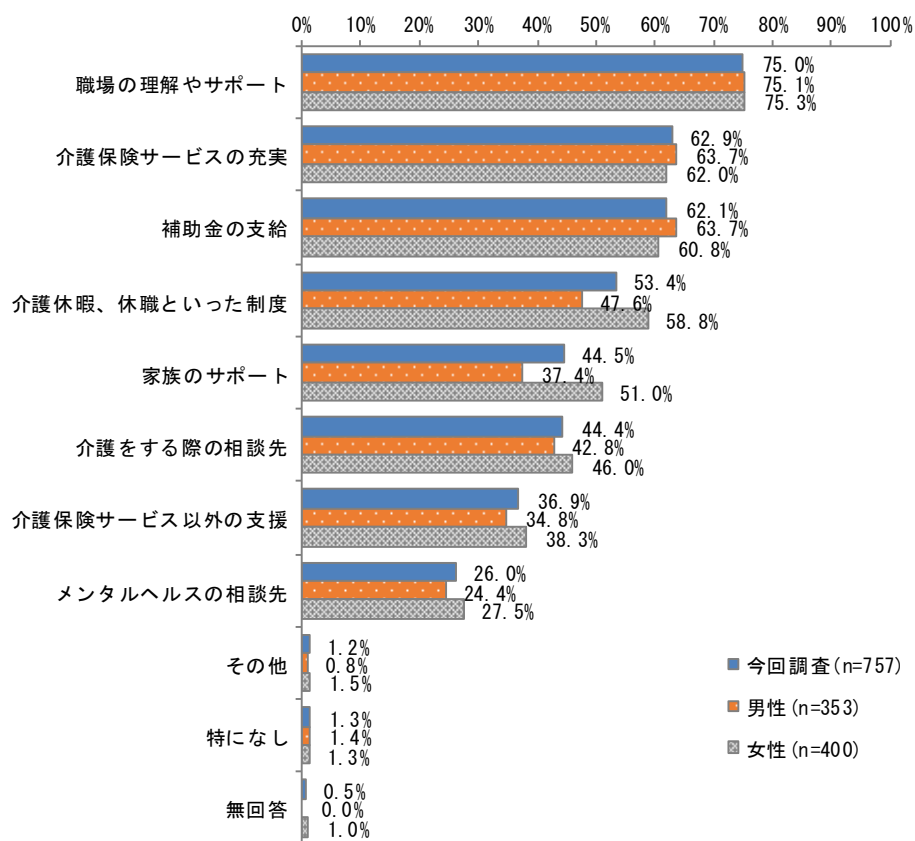


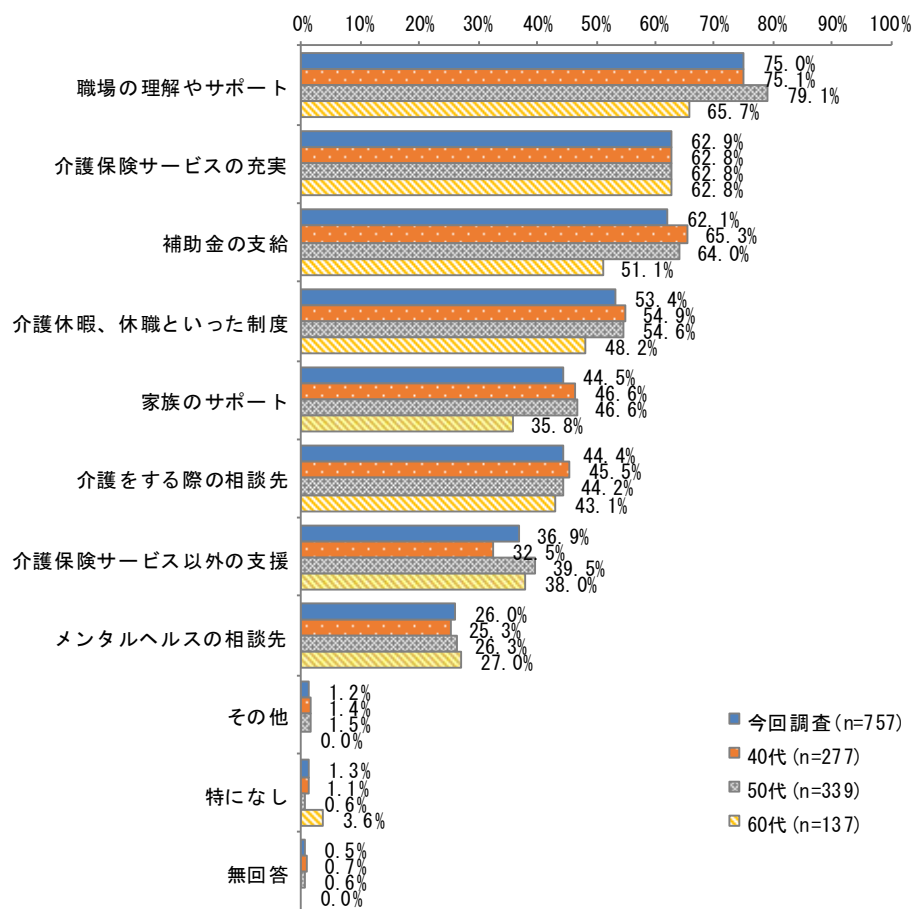
(3)介護を要因とした離職を防ぐためには何が必要だと思いますか。(いくつでも)

全体では、「職場の理解やサポート」75.0%が最も高く、次いで「介護保険サービスの充実」62.9%、「補助金の支給」62.1%となっている。

性別で見ると、「介護休暇、休職といった制度」、「家族のサポート」ではいずれも女性が男性を11.2ポイント以上上回る。

年代別で見ると、「職場の理解やサポート」では50代が他の年代に比べて高く、79.1%を占めている。





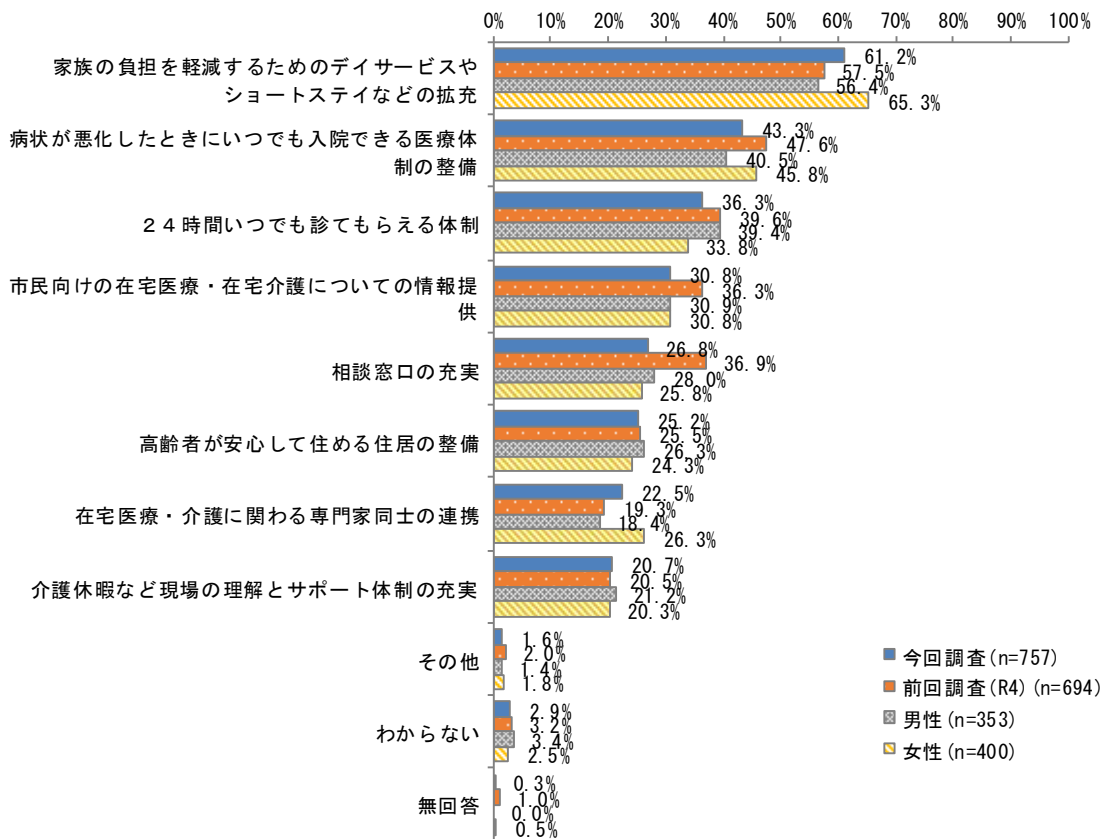
(4)介護が必要になった方が、在宅での生活を続けていくために特に必要と考えることは何ですか。(〇は3つまで)

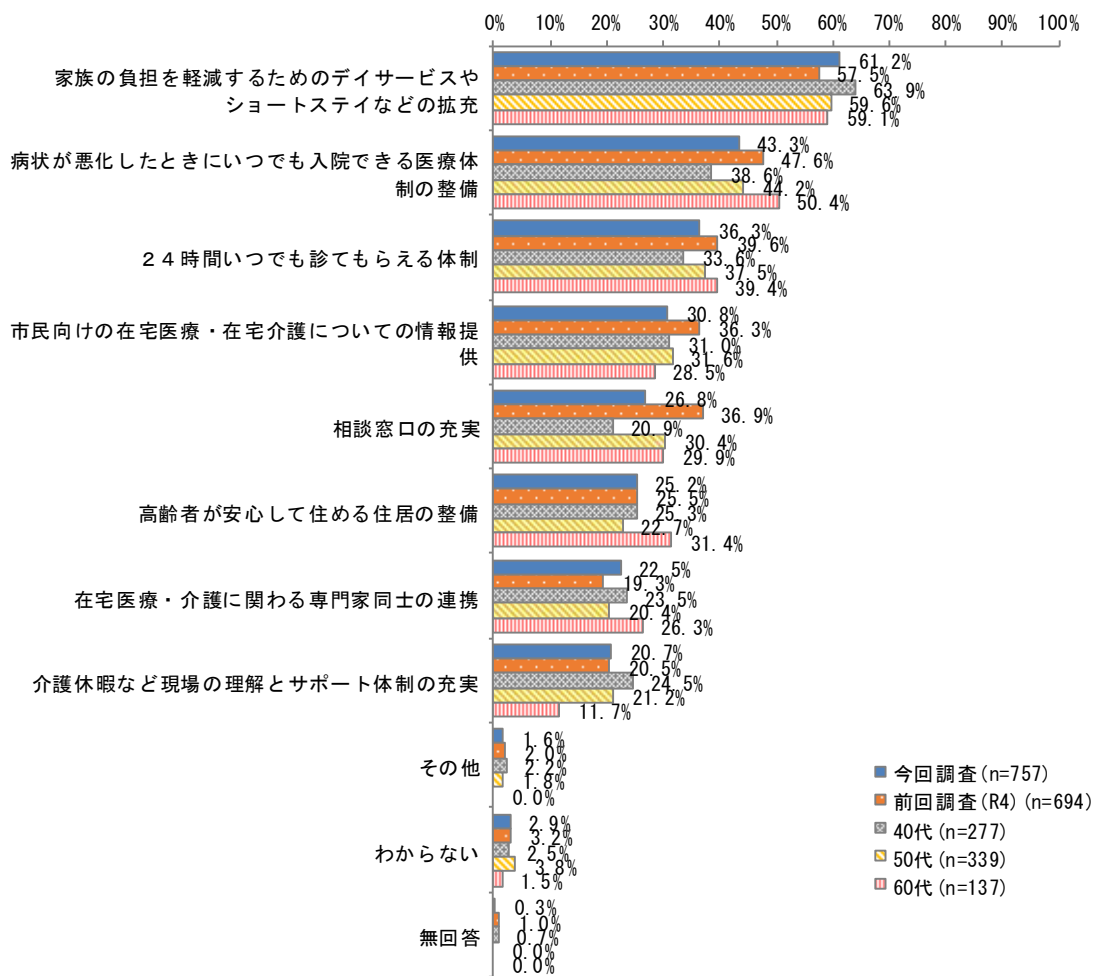
全体では、「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」61.2%が最も高く、次いで「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」43.3%、「24時間いつでも診てもらえる体制」36.3%となっている。

前回調査と比較すると、「市民向けの在宅医療・在宅介護についての情報提供」は5.5ポイント、「相談窓口の充実」は10.1ポイント減少している。

性別でみると、「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」、「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」、「在宅医療・介護に関わる専門家同士の連携」ではいずれも女性が男性を5.3ポイント以上上回る。一方で、「24時間いつでも診てもらえる体制」は男性が女性より5.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」の割合が最も高く、約6割を占めている。次いで「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」が高く、60代では50.4%と他の年代を上回っている。





問4 将来、あなたに介護が必要となった場合について

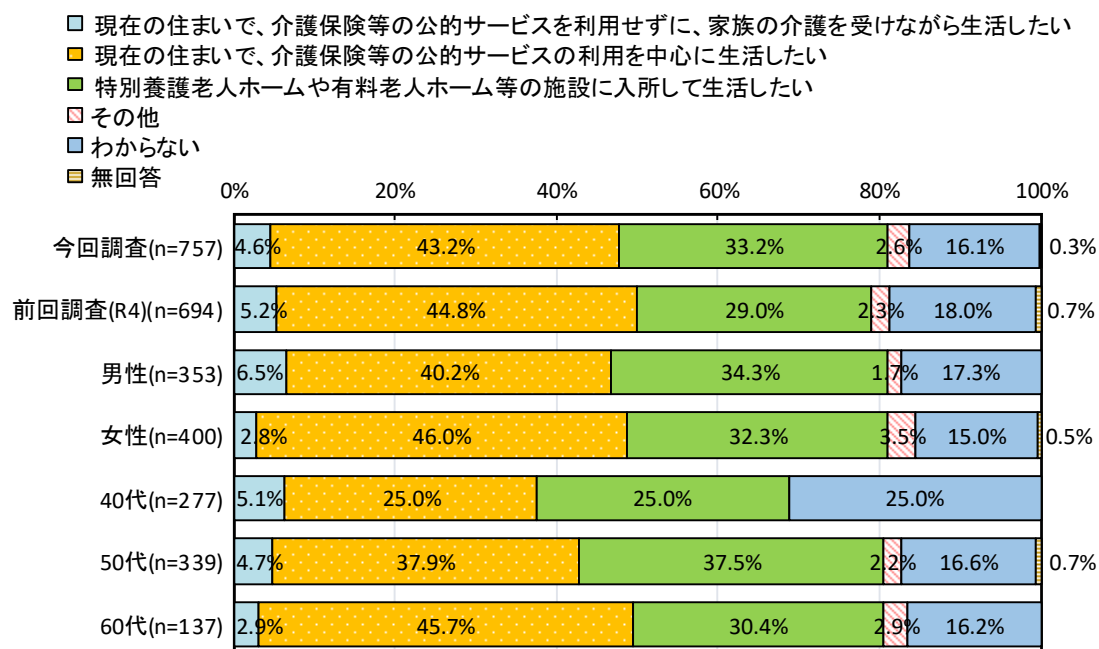
(1)あなたが介護を必要とする状態となった場合に、どのような生活を希望しますか。(〇は1つ)

全体では、「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」43.2%が最も高く、次いで「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設に入所して生活したい」33.2%、「わからない」16.1%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

性別でみると、「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」の割合は女性が男性を5.8ポイント上回る。

年代別でみると、「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」は60代で45.7%と最も高く、年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。



問5 認知症について

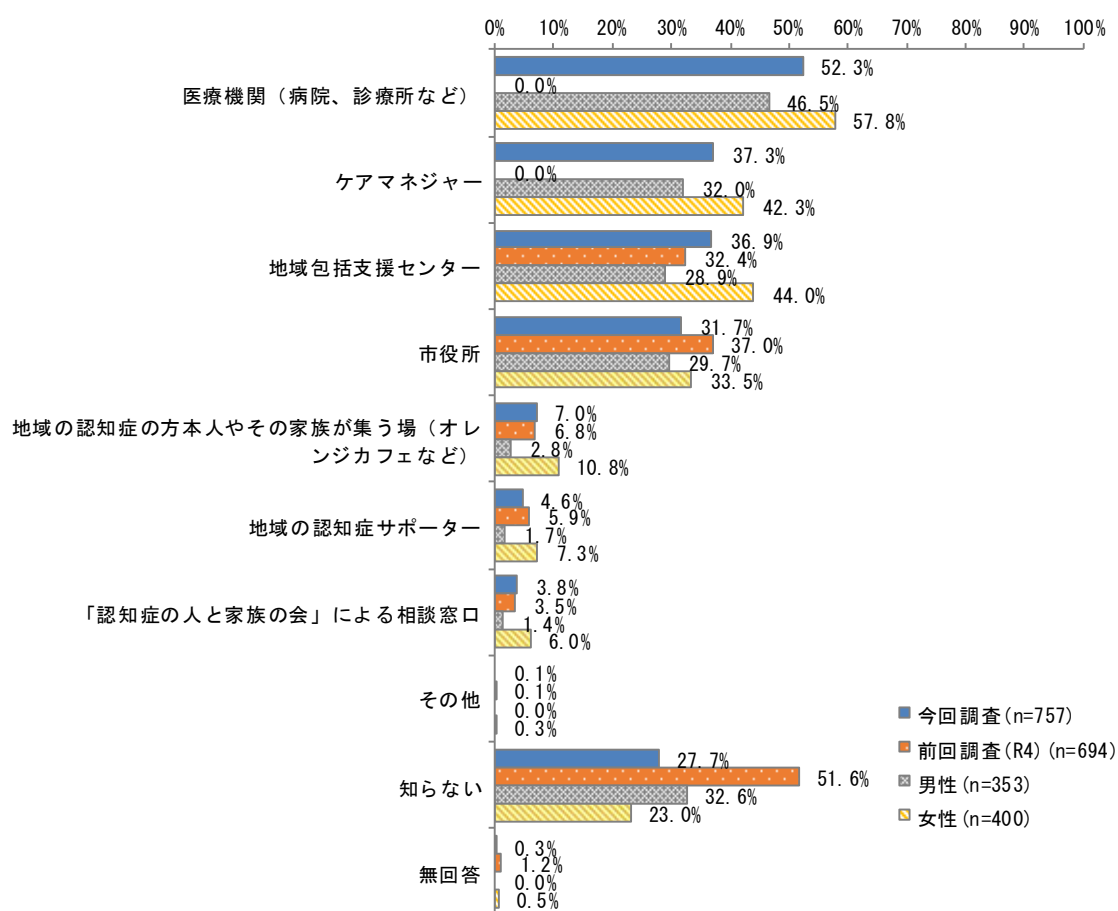
(1) 認知症に関する相談ができる相手のうち、知っているものはありますか。(いくつでも)

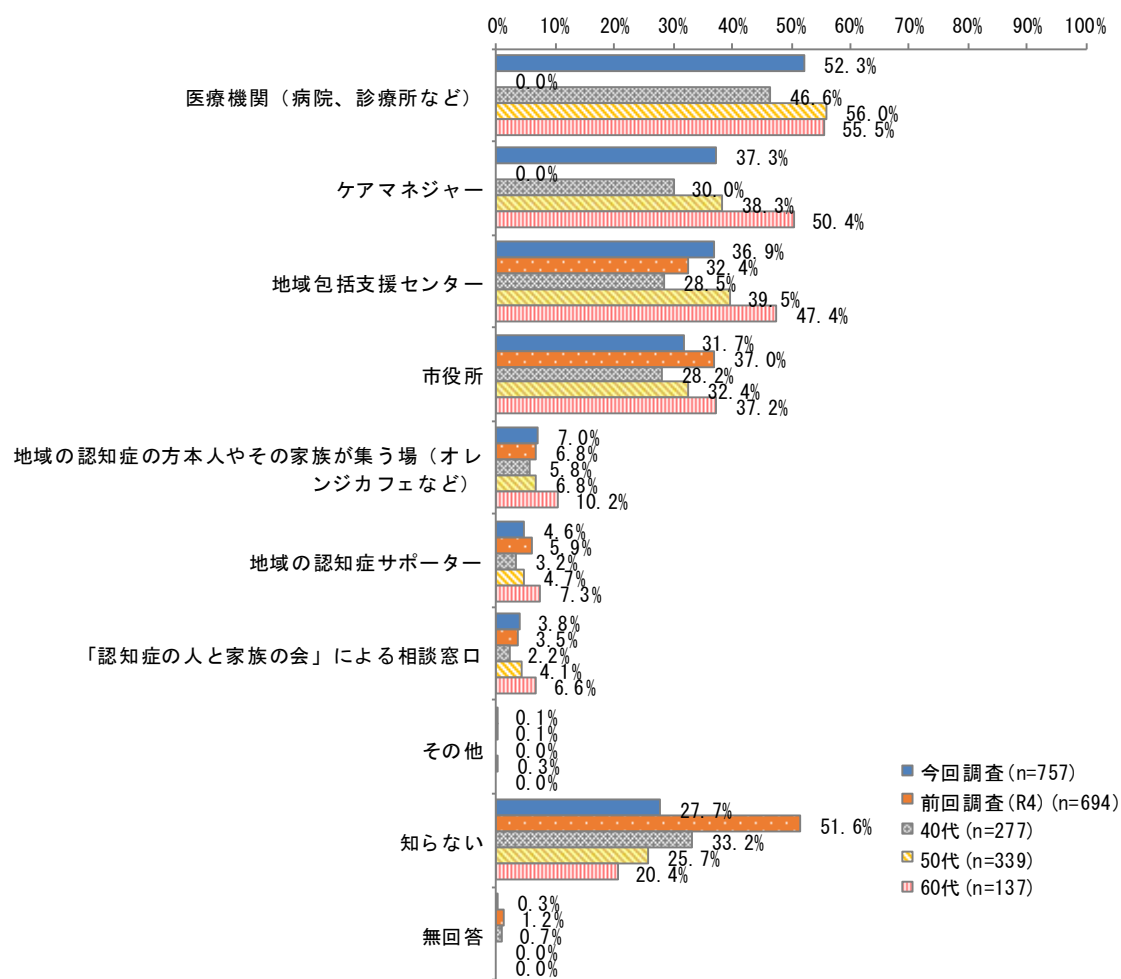
全体では、「医療機関（病院、診療所など）」52.3%が最も高く、次いで「ケアマネジャー」37.3%、「地域包括支援センター」36.9%となっている。

前回調査と比較すると、今回新たに追加された「医療機関（病院、診療所など）」、「ケアマネジャー」はいずれも高い割合を占める一方で、「知らない」は23.9ポイントと大きく減少している。

性別でみると、「知らない」の割合は男性が女性を9.6ポイント上回る。一方で、その他の全ての項目では女性が男性を上回り、特に「地域包括支援センター」では15.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「医療機関（病院、診療所など）」が最も高く、50代、60代では半数以上を占めている。





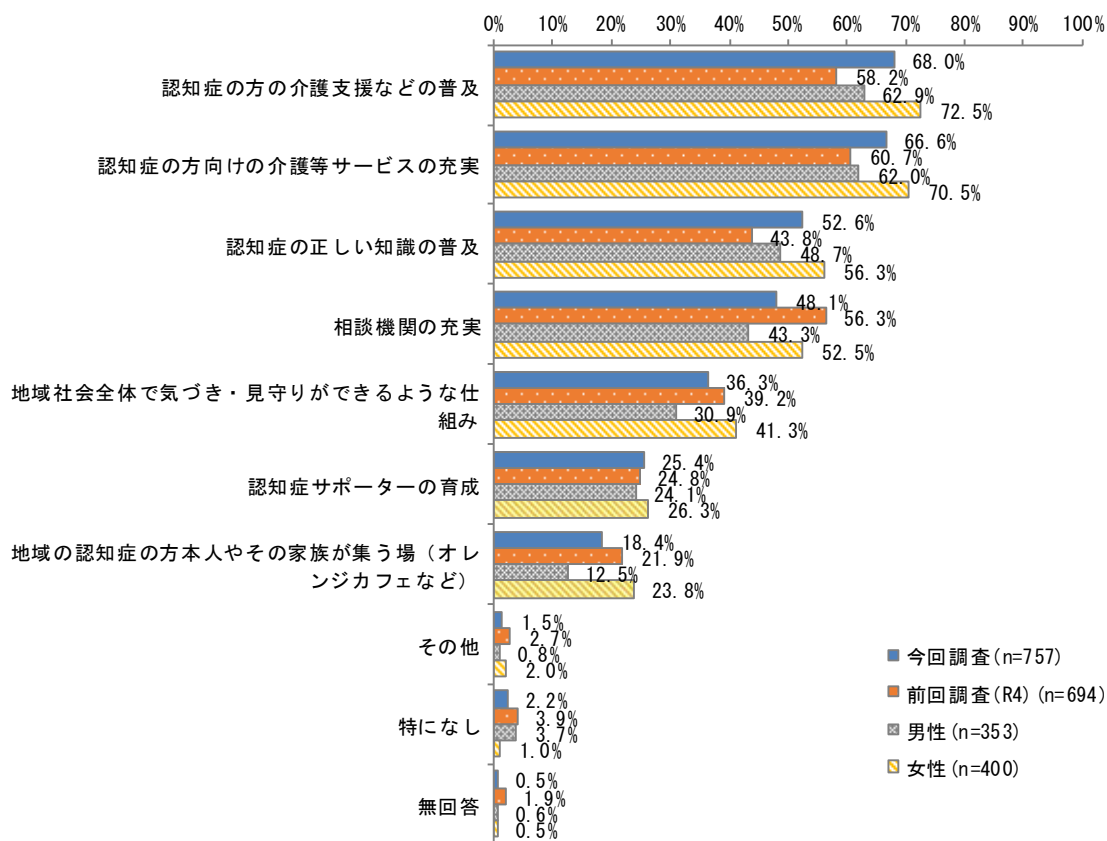
(2)認知症に対する取組として必要だと思うことはありますか。(いくつでも)

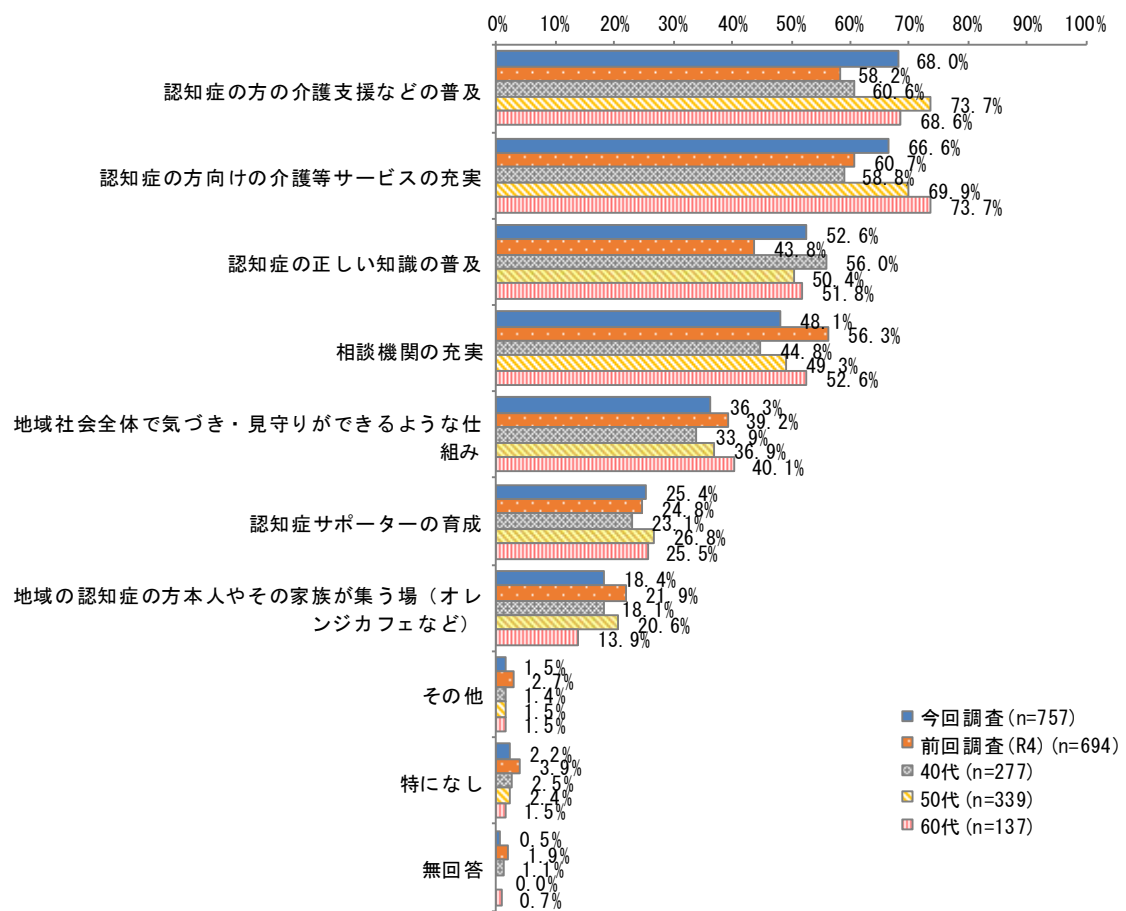
全体では、「認知症の方の介護支援などの普及」68.0%が最も高く、次いで「認知症の方向けの介護等サービスの充実」66.6%、「認知症の正しい知識の普及」52.6%となっている。

前回調査と比較すると、「認知症の方の介護支援などの普及」、「認知症の方向けの介護等サービスの充実」、「認知症の正しい知識の普及」ではいずれも5.9ポイント以上増加している一方で、「相談機関の充実」では8.2ポイント減少している。

性別でみると、「特になし」を除く全ての項目で女性が男性を上回り、特に「地域社会全体で気づき・見守りができるような仕組み」、「地域の認知症の方本人やその家族が集う場（オレンジカフェなど）」ではいずれも10.4ポイント以上高くなっている。

年代別でみると、40代、50代では「認知症の方の介護支援などの普及」、60代では「認知症の方向けの介護等サービスの充実」の割合が最も高くなっている。



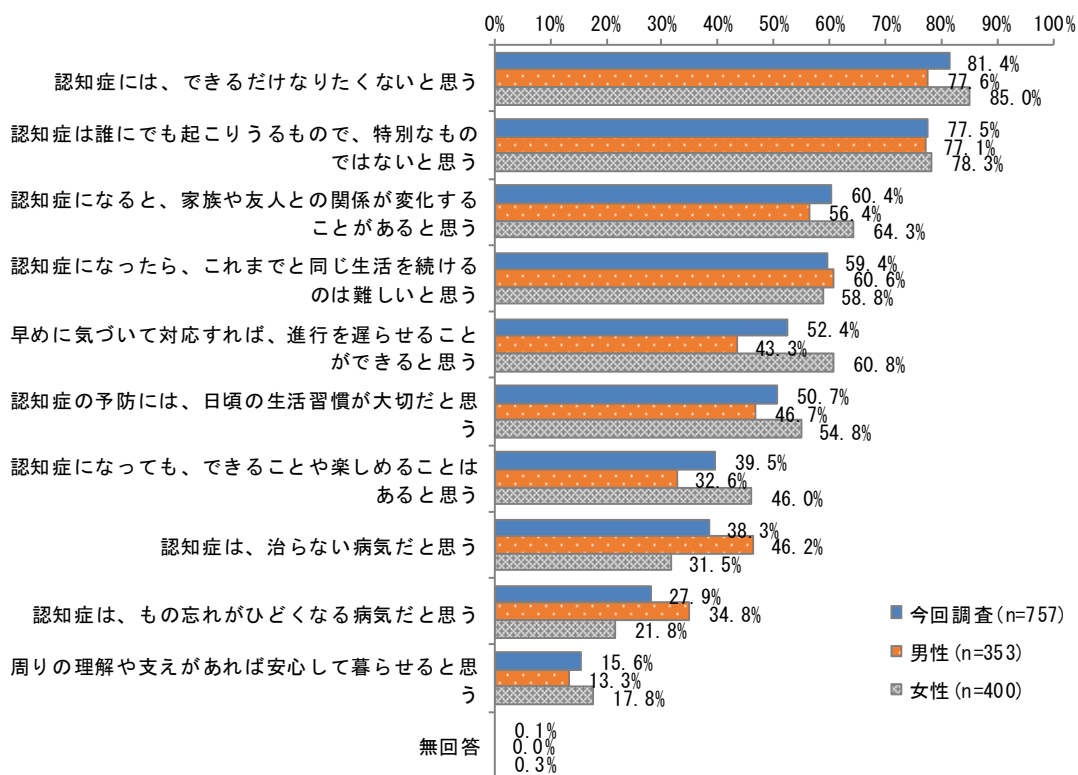


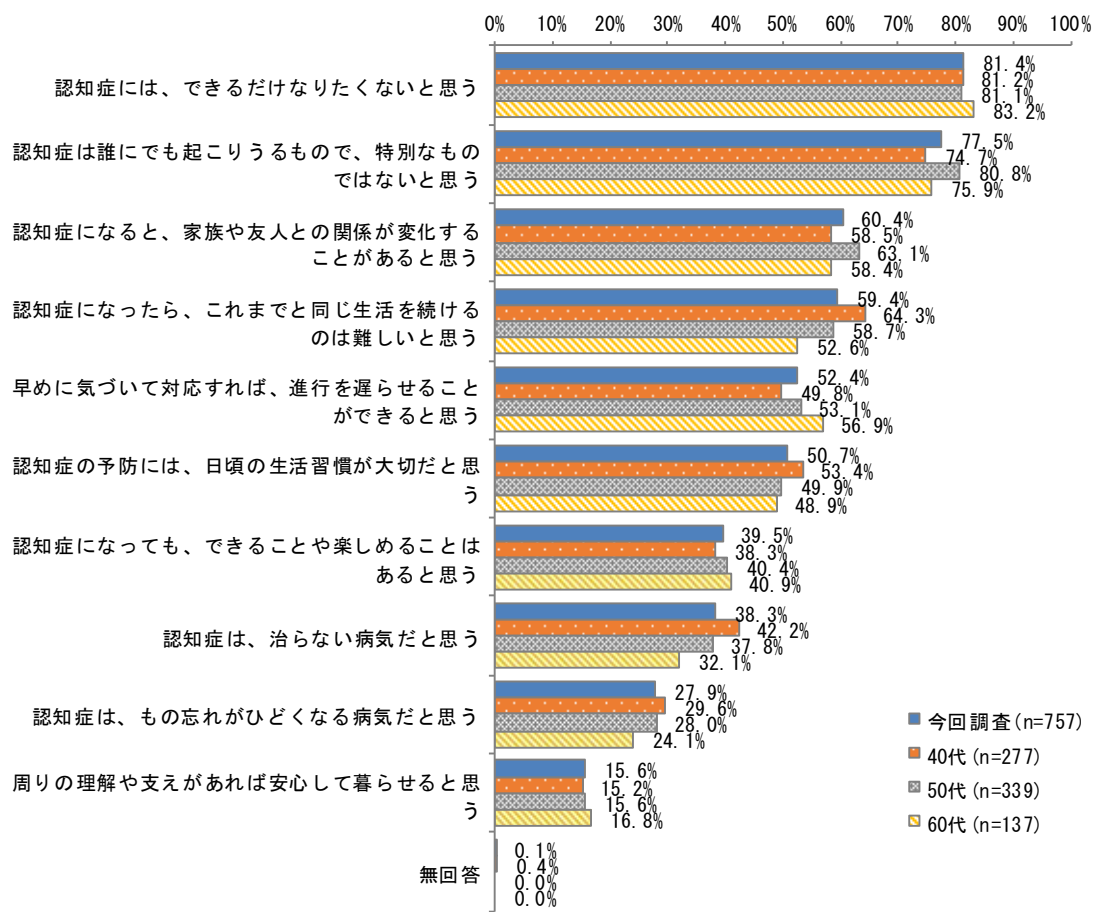
(3)あなたは認知症をどのように思いますか。(いくつでも)

全体では、「認知症には、できるだけなりたくないと思う」81.4%が最も高く、次いで「認知症は誰にでも起こりうるもので、特別なものではないと思う」77.5%、「認知症になると、家族や友人との関係が変化することがあると思う」60.4%となっている。

性別でみると、「認知症は、治らない病気だと思う」、「認知症は、もの忘れがひどくなる病気だと思う」はいずれも7.9ポイント以上男性が女性を上回る。その他の項目ではいずれも女性が男性を上回り、特に「早めに気づいて対応すれば、進行を遅らせることができると思う」では17.5ポイント高くとなっている。

年代別でみると、全ての年代で「認知症には、できるだけなりたくないと思う」の割合が最も高く、8割以上を占めている。



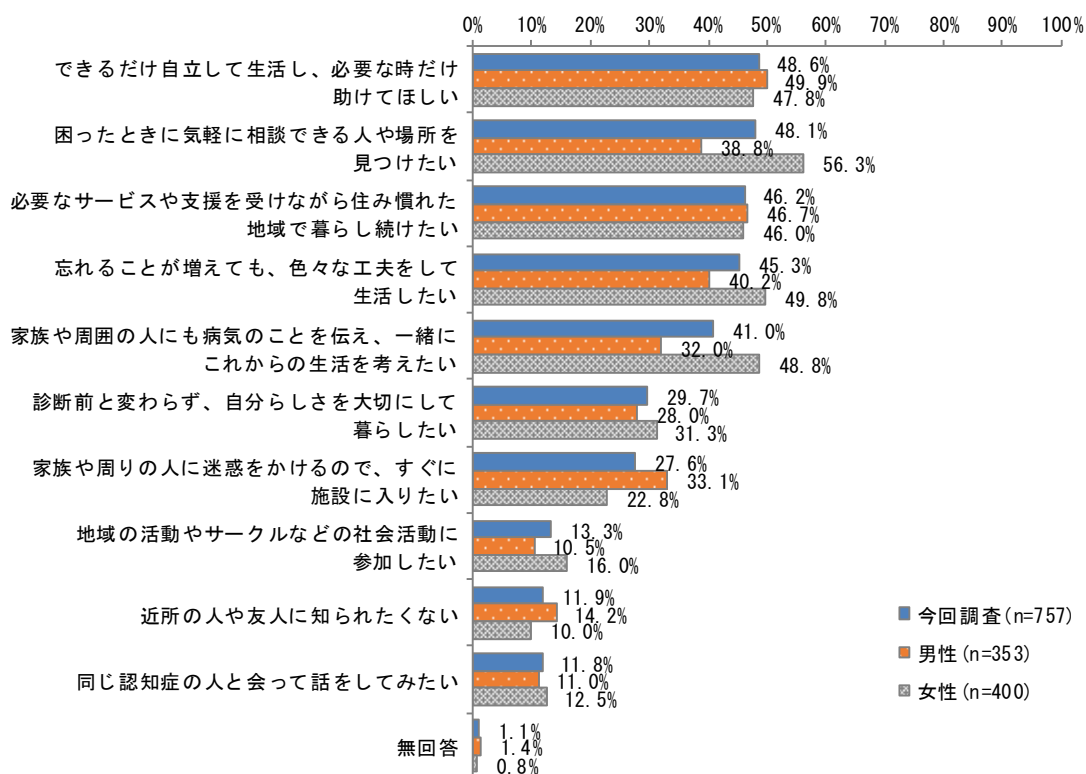


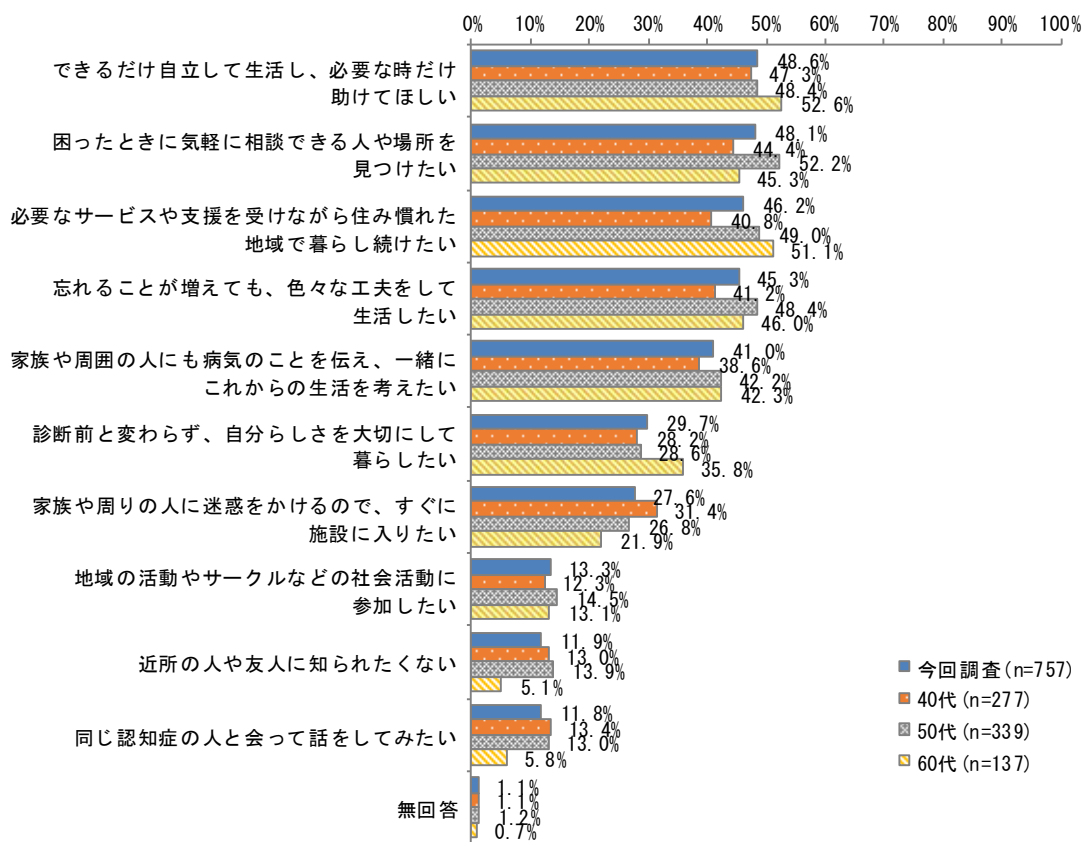
(4)あなたは認知症と診断されたら、その後どのように生活したいですか。(いくつでも)

全体では、「できるだけ自立して生活し、必要な時だけ助けてほしい」48.6%が最も高く、次いで「困ったときに気軽に相談できる人や場所を見つけない」48.1%、「必要なサービスや支援を受けながら住み慣れた地域で暮らし続けたい」46.2%となっている。

性別でみると、「忘れることが増えても、色々な工夫をして生活したい」、「地域の活動やサークルなどの社会活動に参加したい」ではいずれも5.5ポイント以上、「困ったときに気軽に相談できる人や場所を見つけない」、「家族や周囲の人にも病気のことを伝え、一緒にこれからの生活を考えたい」ではいずれも16.8ポイント以上女性が男性を上回る。一方で、「家族や周りの人に迷惑をかけるので、すぐに施設に入りたい」では男性が女性より10.3ポイント高くなっている。

年代別でみると、40代、60代では「できるだけ自立して生活し、必要な時だけ助けてほしい」、50代では「困ったときに気軽に相談できる人や場所を見つけない」の割合が最も高くなっている。



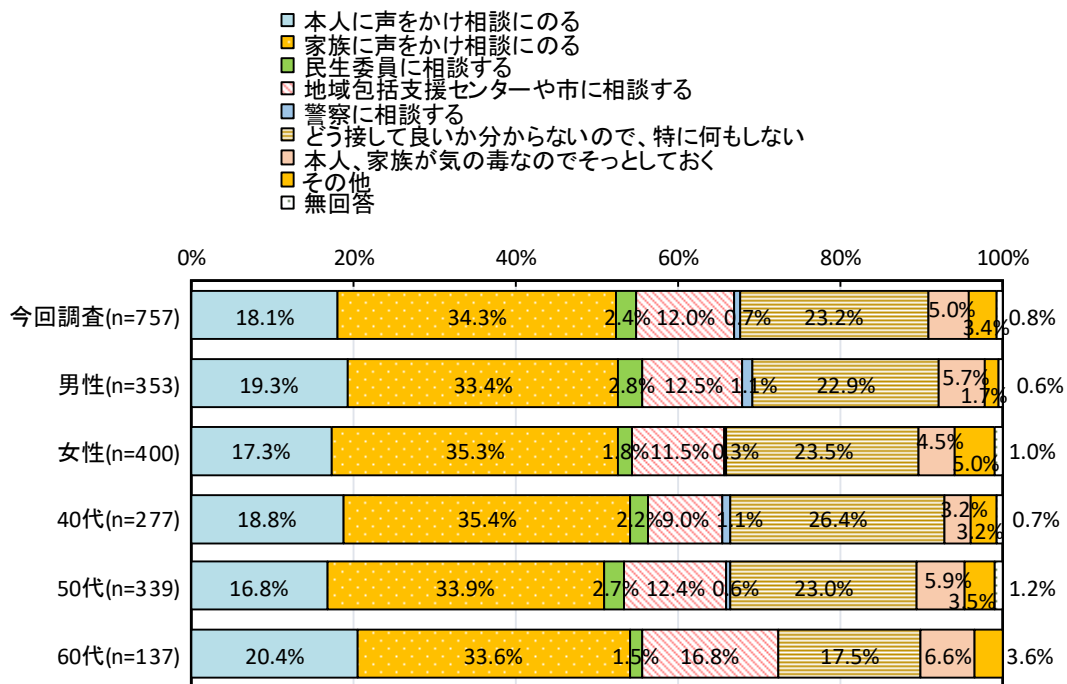


(5)あなたは、もし認知症と思われる方が知り合いにいたら、まずはどのように対応したいと思いますか。(〇は1つ)

全体では、「家族に声をかけ相談にのる」34.3%が最も高く、次いで「どう接して良いか分からないので、特に何もしない」23.2%、「本人に声をかけ相談にのる」18.1%となっている。

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年代別で見ると、全ての年代で「家族に声をかけ相談にのる」が最も高く3割以上を占める。「どう接して良いか分からないので、特に何もしない」では年代が若くなるにつれて割合は高くなり、40代では26.4%となっている。

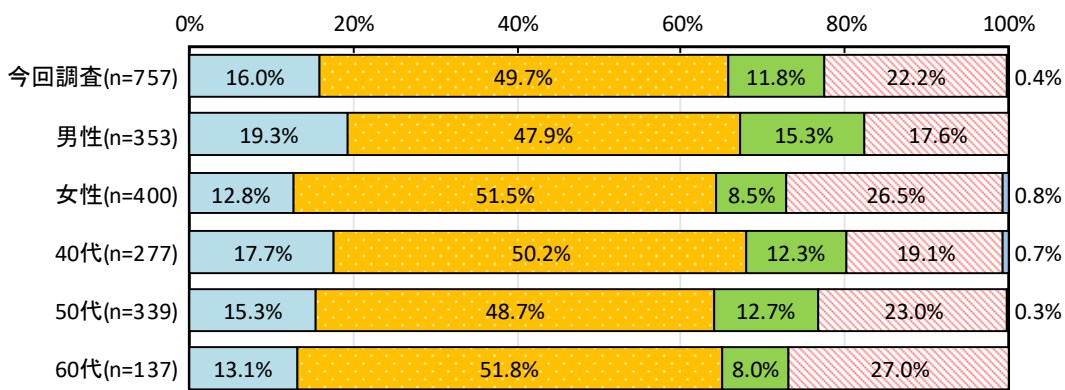


(6)あなたは、認知症になってからも住み慣れた地域で暮らし続けることができますか。
(○は1つ)

全体では、「どちらかという、そう思う」49.7%が最も高く、次いで「どちらかという、そう思わない」22.2%、「そう思う」16.0%となっている。『そう思う』（「そう思う」+「どちらかという、そう思う」）の割合は65.7%を占める。

性別で見ると、『そう思う』の割合は男性67.2%、女性64.3%となっている。
年代別で見ると、『そう思う』の割合は40代で最も高く67.9%となっている。

□ そう思う ■ どちらかという、そう思う ▨ そう思わない □ どちらかという、そう思わない ■ 無回答



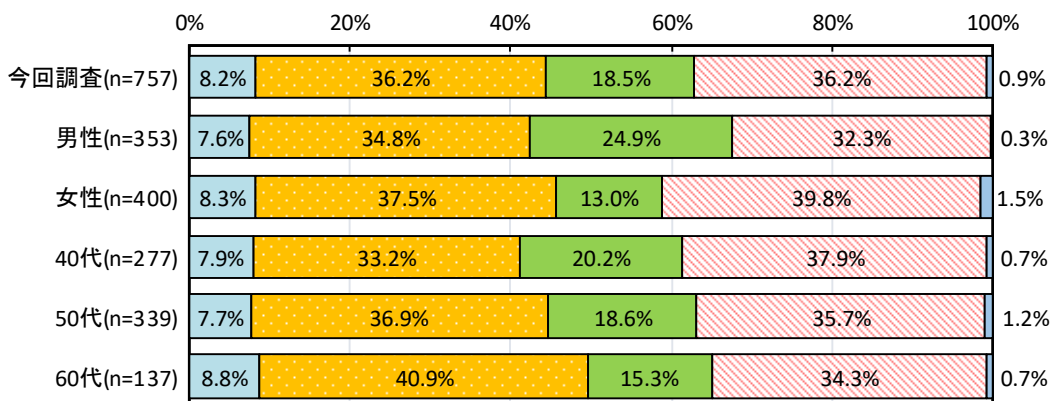
(7)あなたは、認知症になってからも希望を持って自分らしく暮らし続けることができますか。(○は1つ)

全体では、「どちらかという、そう思う」、「どちらかという、そう思わない」がいずれも36.2%と最も高く、次いで「そう思わない」18.5%、「そう思う」8.2%となっている。『そう思う』の割合は44.4%を占める。

性別で見ると、『そう思う』の割合は男性42.4%、女性45.8%と女性がやや高くなっている。

年代別で見ると、『そう思う』の割合は年代が上がるにつれて高くなっており、60代では49.7%となっている。

□ そう思う ■ どちらかという、そう思う ▨ そう思わない □ どちらかという、そう思わない ■ 無回答



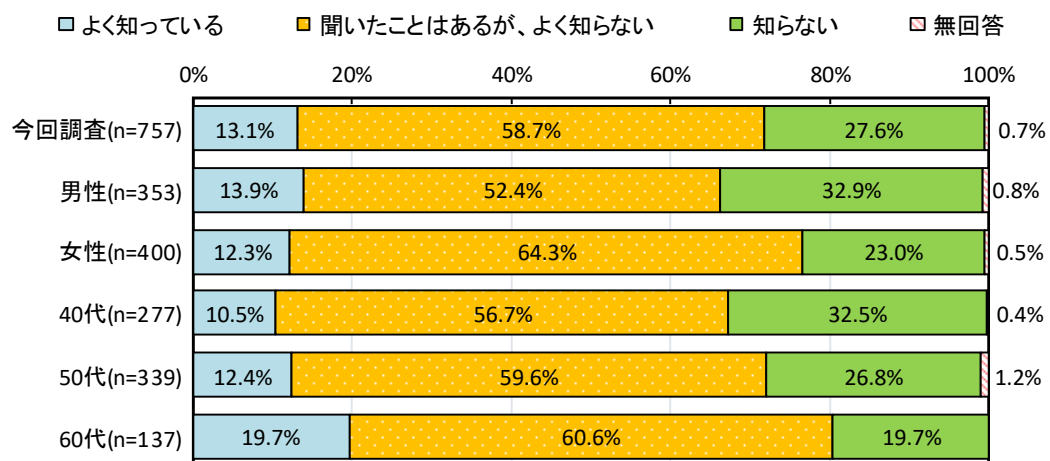
問6 成年後見制度について

(1)成年後見制度について、知っていますか。(○は1つ)

全体では、「聞いたことはあるが、よく知らない」58.7%が最も高く、次いで「知らない」27.6%、「よく知っている」13.1%となっている。

性別で見ると、「聞いたことはあるが、よく知らない」の割合は女性が男性より11.9ポイント高くなっている。

年代別で見ると、60代では「よく知っている」の割合が19.7%と他の年代に比べて高くなっている。

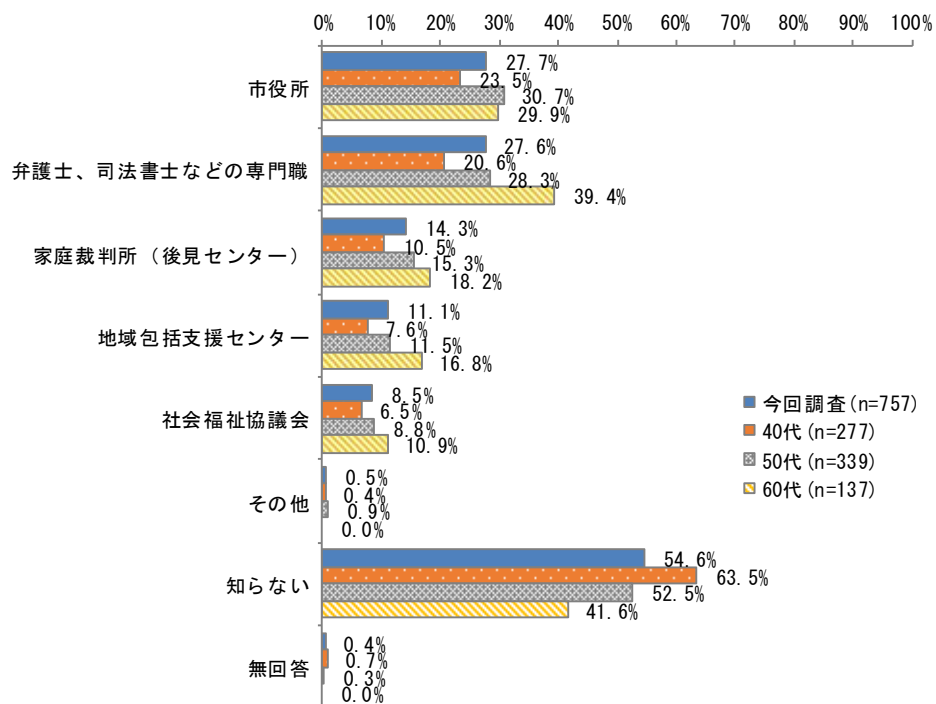
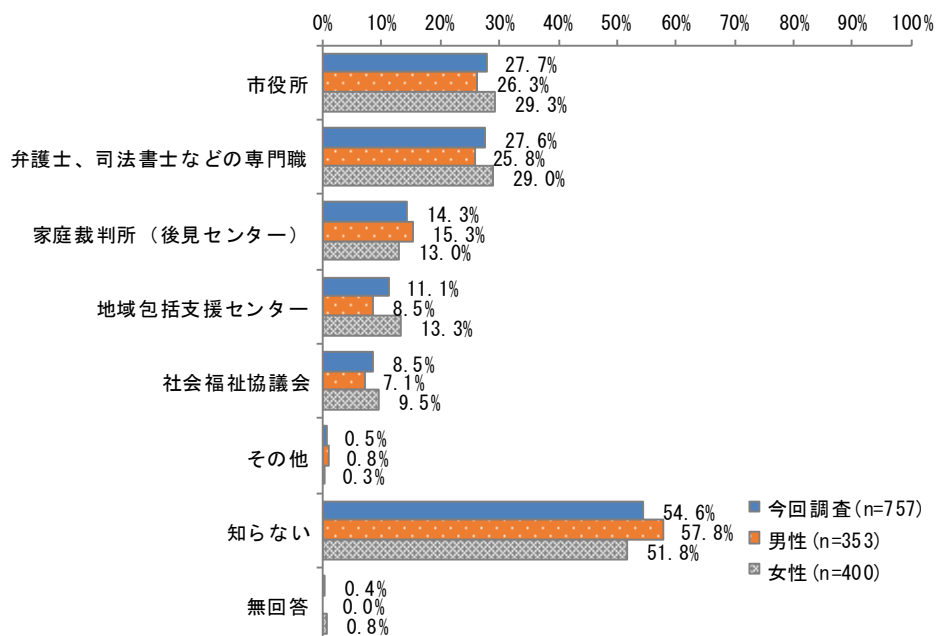


(2)成年後見制度に関する相談窓口のうち、知っているものはありますか。(いくつでも)

全体では、「知らない」54.6%が最も高く、次いで「市役所」27.7%、「弁護士、司法書士などの専門職」27.6%となっている。

性別でみると、「知らない」の割合は男性が女性を6.0ポイント上回る。

年代別でみると、全ての年代で「知らない」が最も高く、40代では63.5%を占めている。



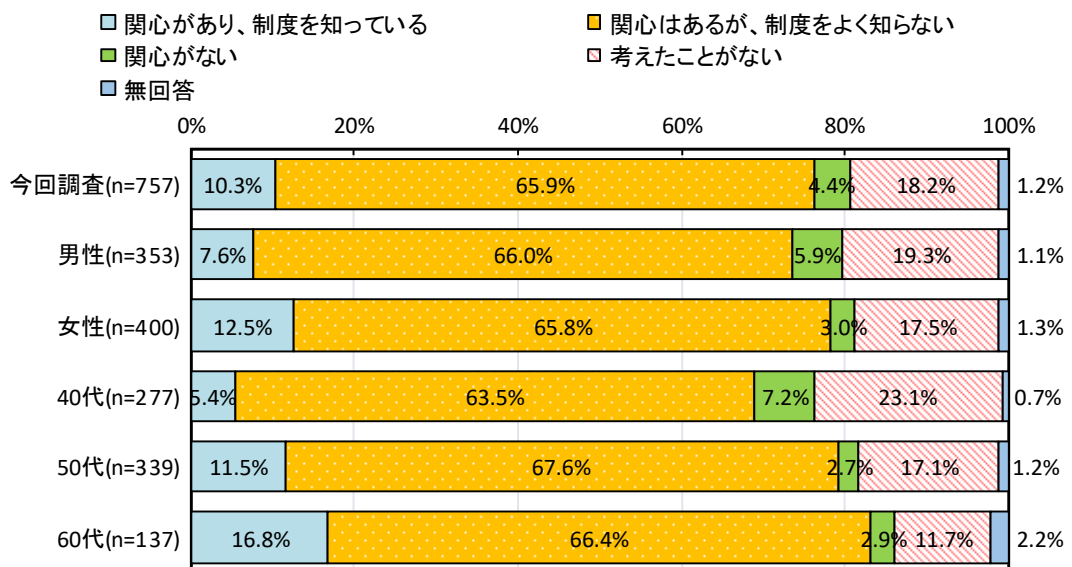
問7 高齢者福祉の支援等について

(1)介護や高齢者に関する福祉に、関心がありますか。(○は1つ)

全体では、「関心はあるが、制度をよく知らない」65.9%が最も高く、次いで「考えたことがない」18.2%、「関心があり、制度を知っている」10.3%となっている。

性別で見ると、「関心があり、制度を知っている」の割合は女性が男性を4.9ポイント上回る。

年代別で見ると、「関心があり、制度を知っている」は60代で16.8%と他の年代に比べて高くなっている。



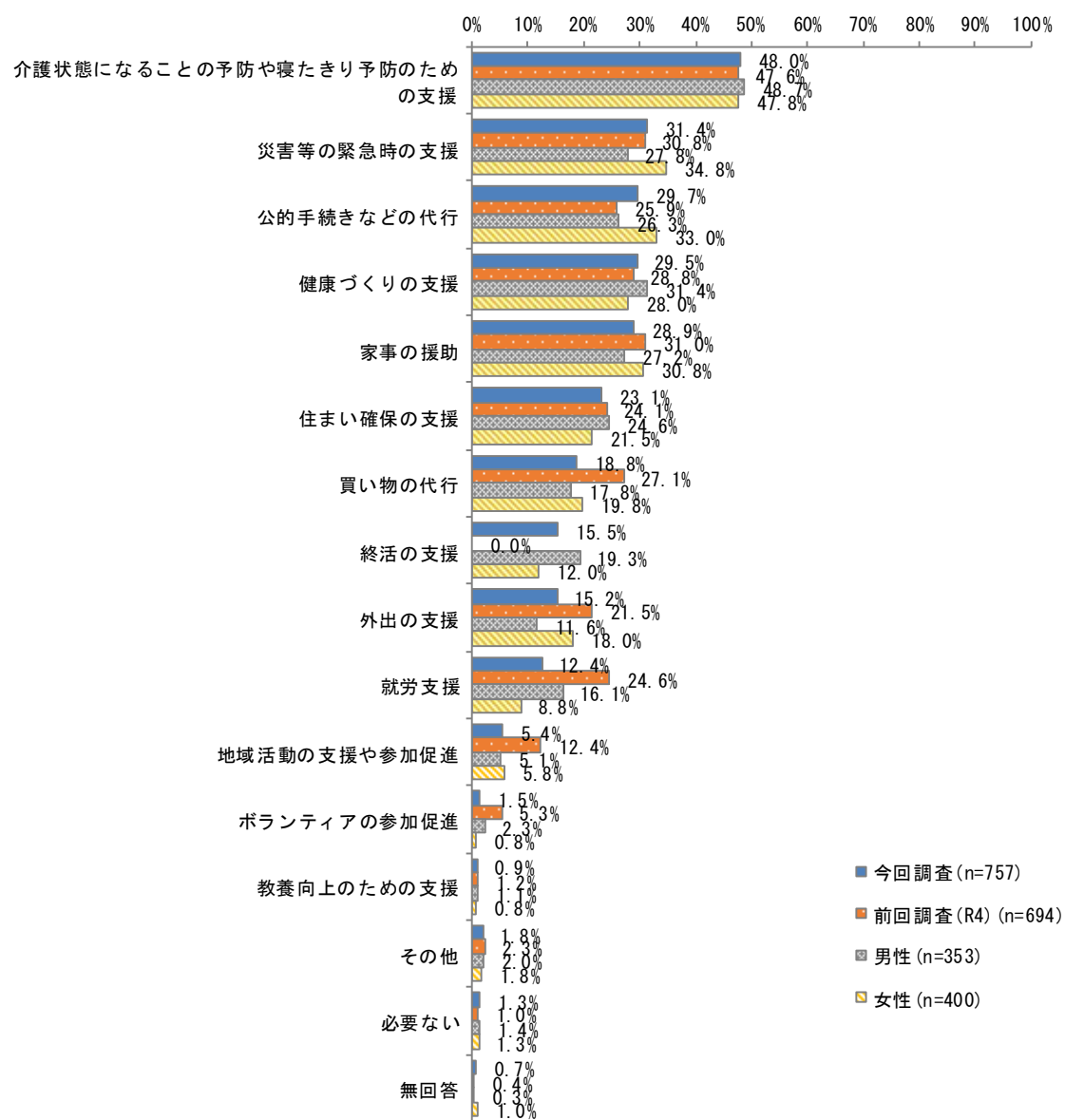
(2) 今後、自分が高齢者になったとき、どのような支援が特に必要だと思いますか。(〇は3つまで)

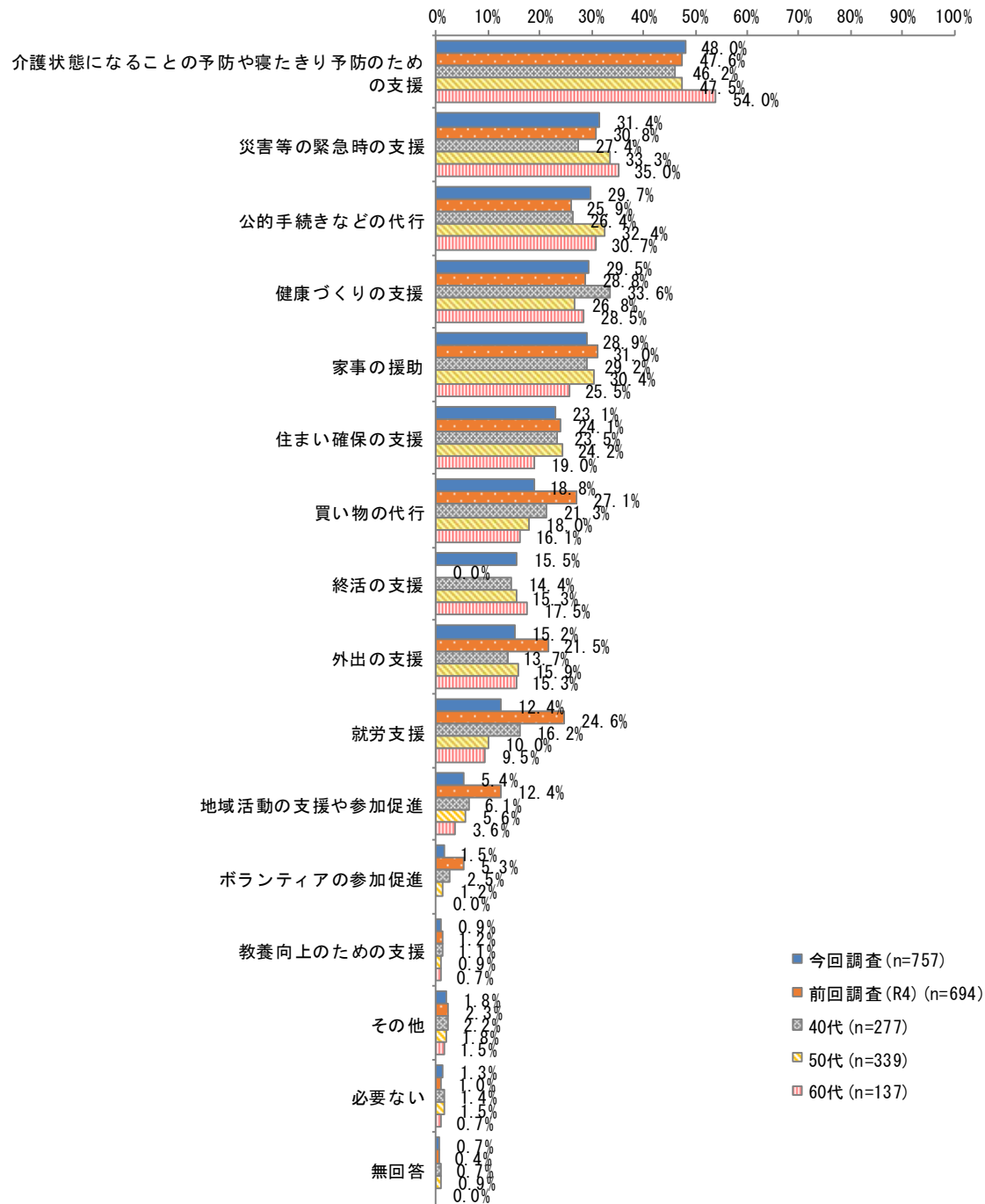
全体では、「介護状態になることの予防や寝たきり予防のための支援」48.0%が最も高く、次いで「災害等の緊急時の支援」31.4%、「公的手続きなどの代行」29.7%となっている。

前回調査と比較すると、「買い物の代行」、「外出の支援」、「地域活動の支援や参加促進」はいずれも6.3ポイント以上、「就労支援」は12.2ポイント減少した一方で、今回新たに追加された「終活の支援」は15.5%となっている。

性別でみると、「災害等の緊急時の支援」、「公的手続きなどの代行」、「外出の支援」はいずれも6.4ポイント以上女性が男性を上回る。一方で、「終活の支援」、「就労支援」ではいずれも男性が女性より7.3ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「介護状態になることの予防や寝たきり予防のための支援」の割合が最も高く、60代では54.0%を占めている。





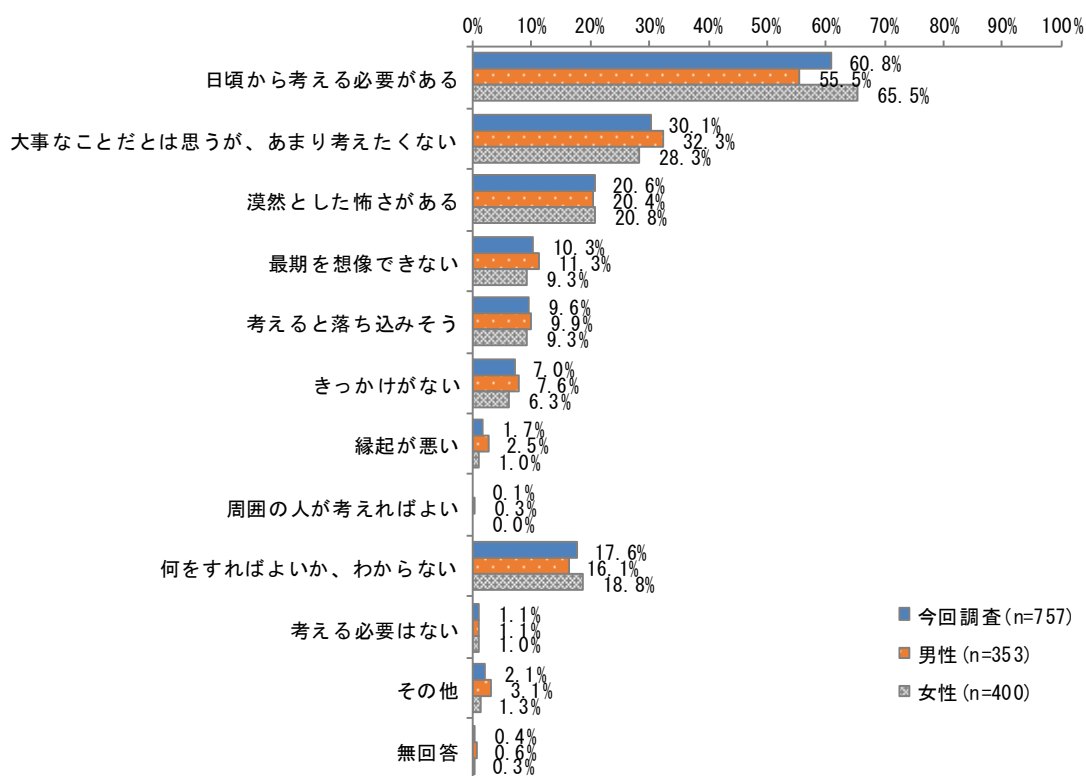
問8 人生会議（アドバンス・ケア・プランニング／ACP）について

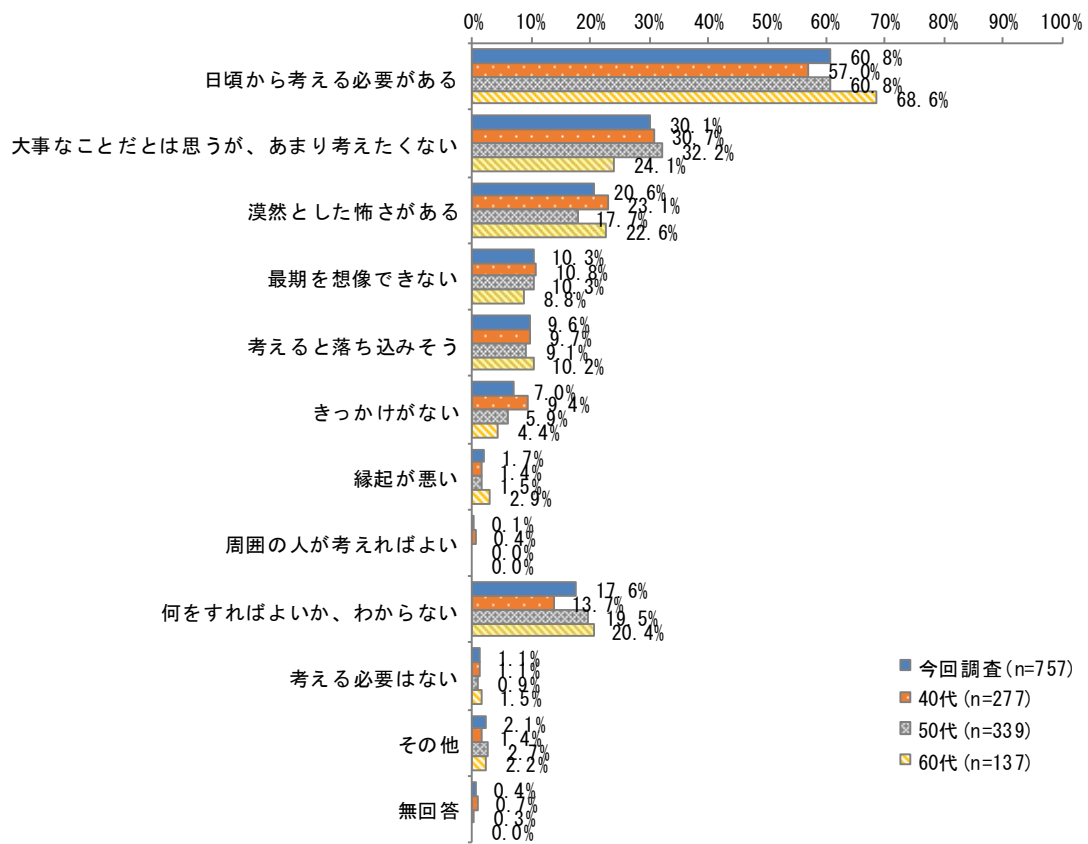
(1)あなたが、ご自身の人生の最期を早い段階から考えることについて、どのように思いますか。
(いくつでも)

全体では、「日頃から考える必要がある」60.8%が最も高く、次いで「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」30.1%、「漠然とした怖さがある」20.6%となっている。

性別で見ると、「日頃から考える必要がある」の割合は女性が男性を10.0ポイント上回る。

年代別で見ると、全ての年代で「日頃から考える必要がある」の割合が最も高く、60代では68.6%と他の年代に比べて高くなっている。



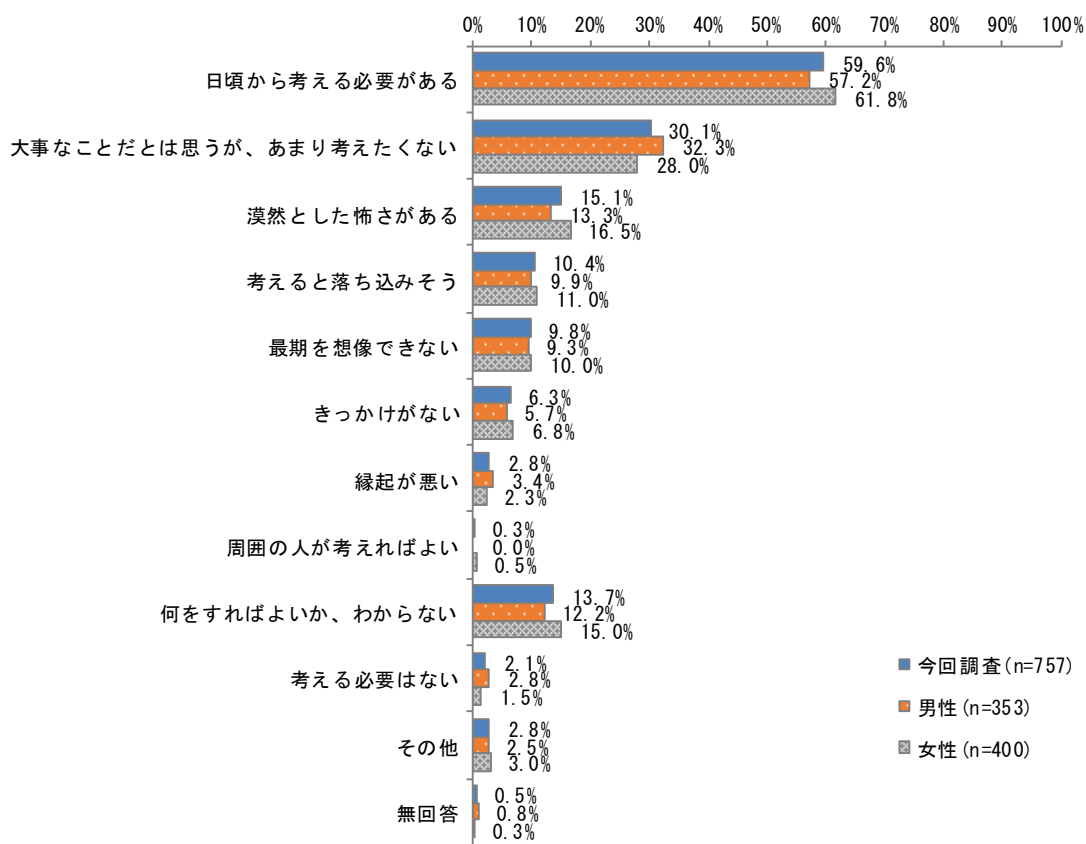


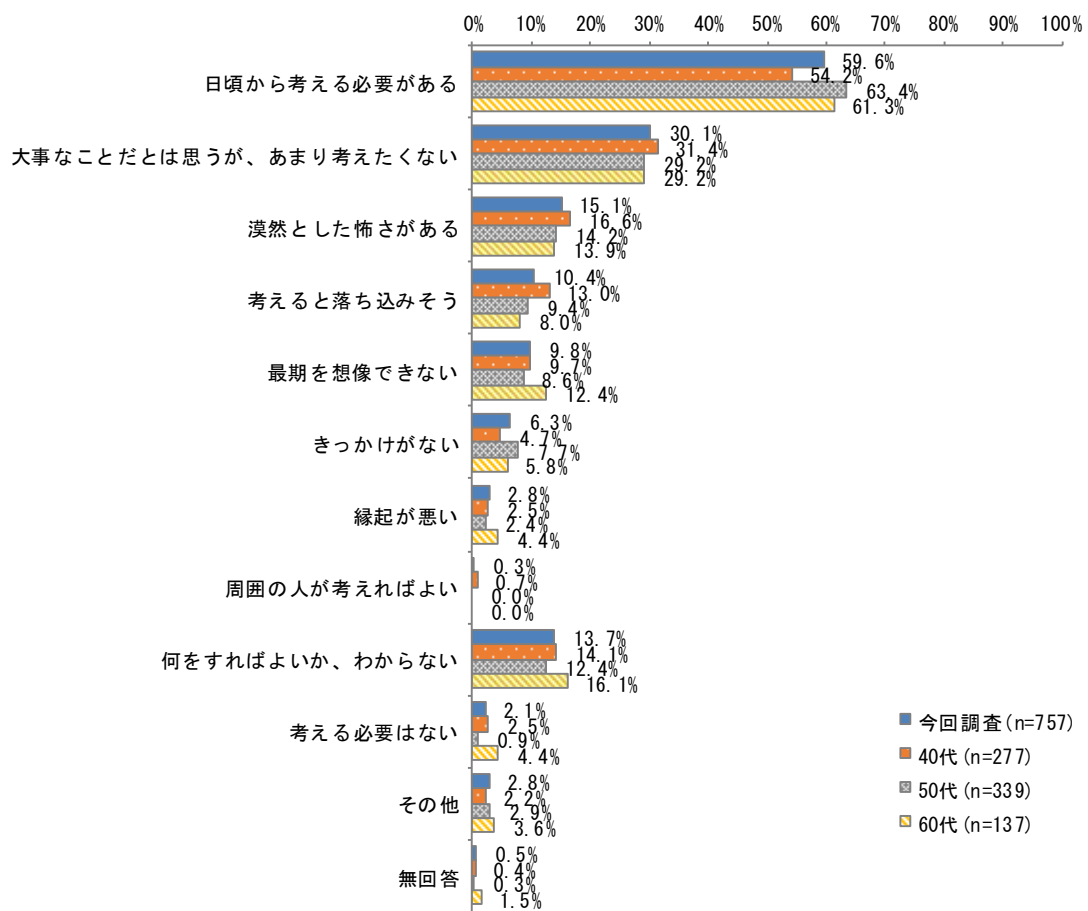
(2)あなたの家族が、それぞれの人生の最期を早い段階から考えることについて、どのように思いますか。(いくつでも)

全体では、「日頃から考える必要がある」59.6%が最も高く、次いで「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」30.1%、「漠然とした怖さがある」15.1%となっている。

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年代別で見ると、全ての年代で「日頃から考える必要がある」の割合が最も高く、50代、60代ではいずれも6割以上を占めている。



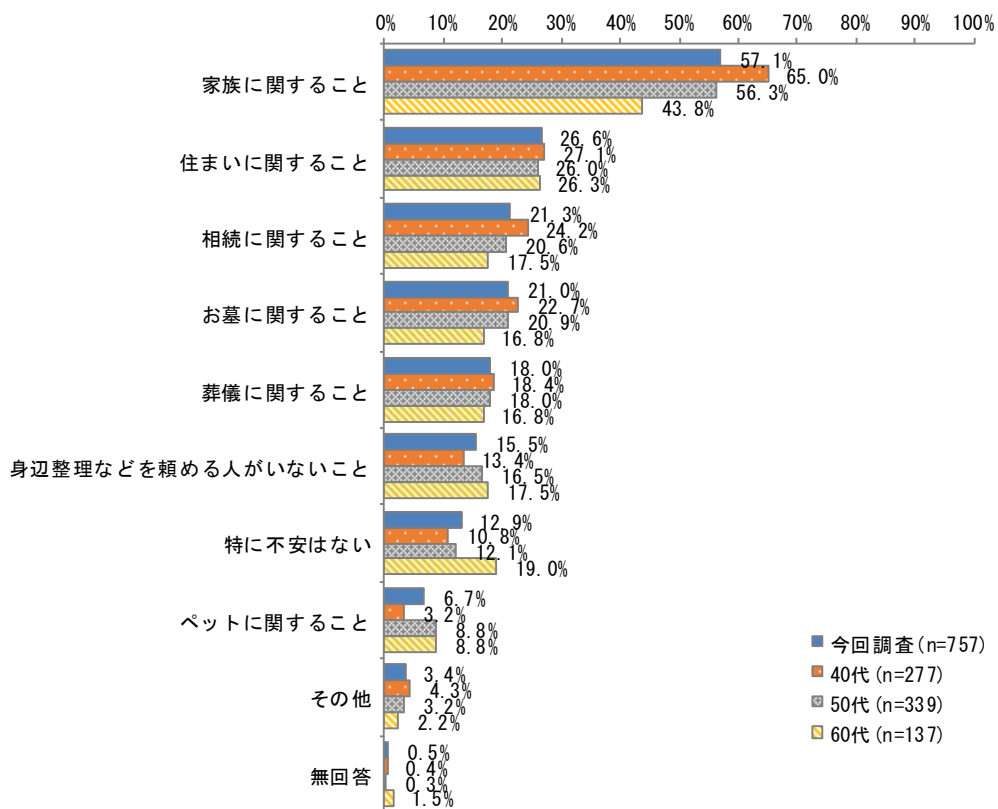
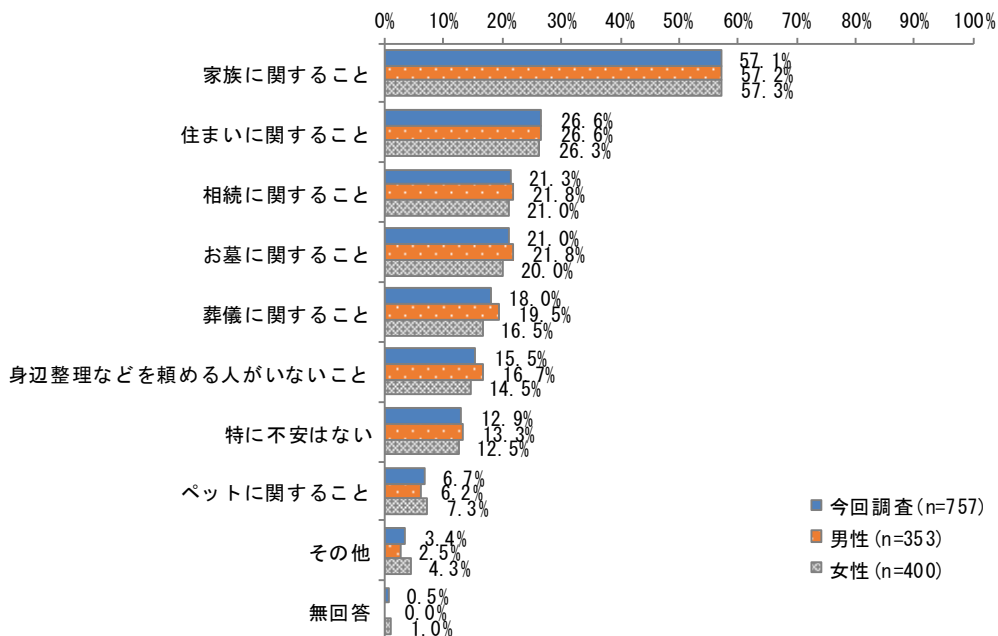


(3)あなたが人生の最終段階を考えたとき、どのようなことが不安ですか。(いくつでも)

全体では、「家族に関すること」57.1%が最も高く、次いで「住まいに関すること」26.6%、「相続に関すること」21.3%となっている。

性別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、全ての年代で「家族に関すること」の割合が最も高く、40代では65.0%と他の年代に比べて高くなっている。

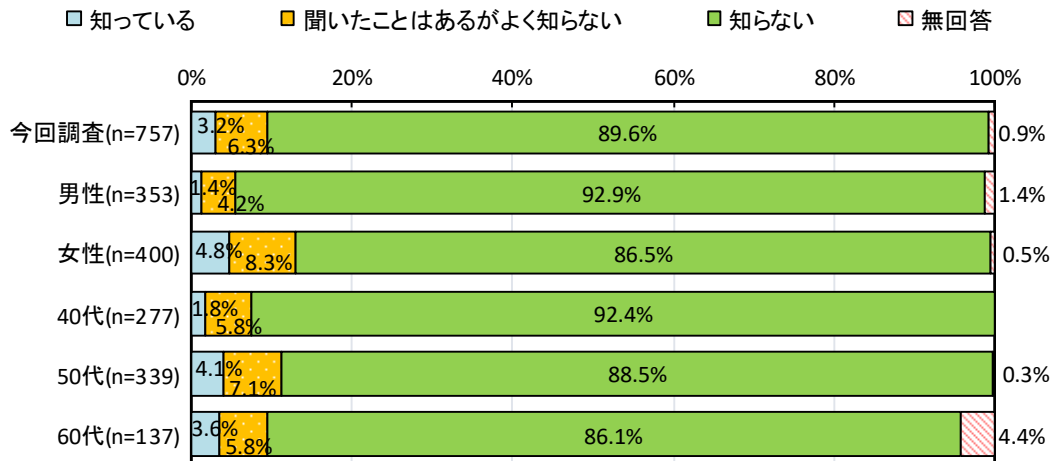


(4)あなたは、人生会議(アドバンス・ケア・プランニング/ACP)について、これまで知っていましたか。(〇は1つ)

全体では、「知らない」89.6%が最も高く、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」6.3%、「知っている」3.2%となっている。

性別で見ると、「知らない」の割合は男性が女性を6.4ポイント上回る。

年代別で見ると、全ての年代で「知らない」の割合が最も高く、40代では92.4%と他の年代に比べて高くなっている。

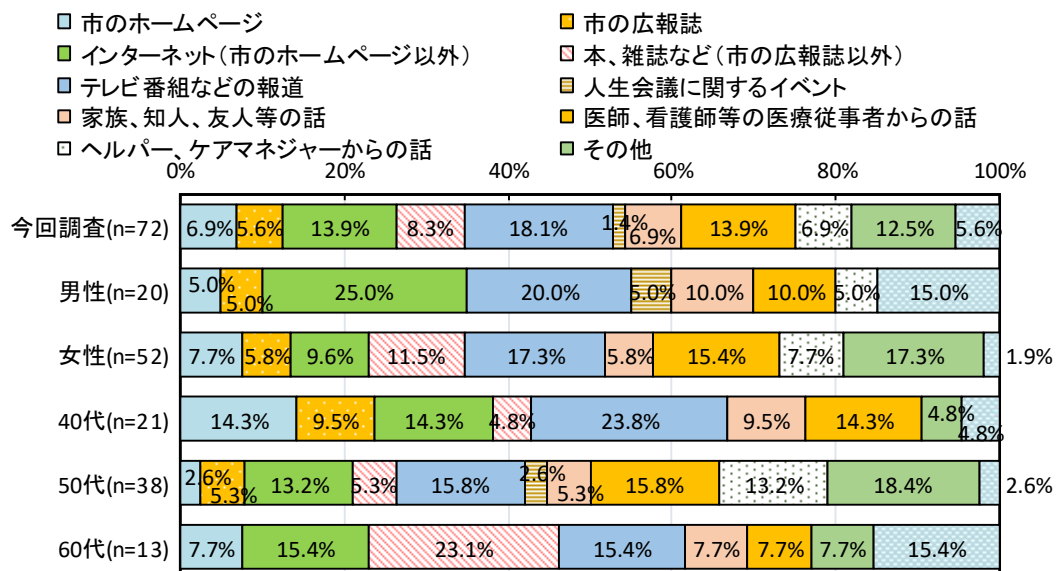


【(4)で「1. 知っている」「2. 聞いたことはあるがよく知らない」と回答した方のみ、ご回答ください】
① 人生会議を知ったきっかけは何ですか。(〇は1つ)

全体では、「テレビ番組などの報道」18.1%が最も高く、次いで「インターネット(市のホームページ以外)」、「医師、看護師等の医療従事者からの話」がいずれも13.9%、「その他」12.5%となっている。

性別で見ると、「インターネット(市のホームページ以外)」の割合は男性が女性を15.4ポイント上回る。一方で、「本、雑誌など(市の広報誌以外)」、「その他」はいずれも女性が男性より11.5ポイント以上高くなっている。

年代別で見ると、40代では「テレビ番組などの報道」が23.8%、50代では「その他」が18.4%、60代では「本、雑誌など(市の広報誌以外)」が23.1%と最も高くなっている。

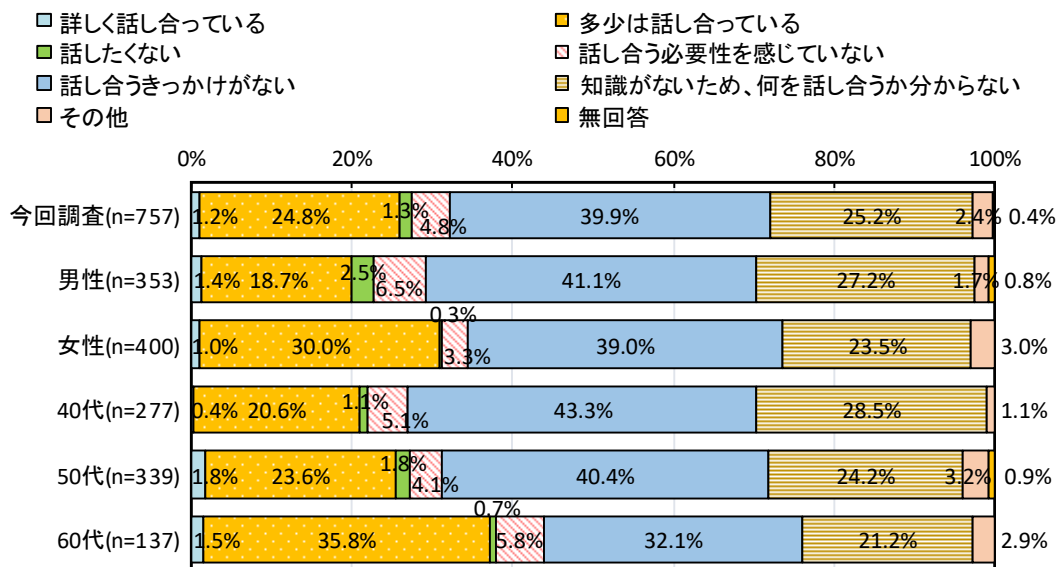


(5)あなたが人生の最終段階で受きたい、もしくは、受けたくない医療・ケアについて、ご家族等や医療・介護従事者と話し合っていますか。(〇は1つ)

全体では、「話し合うきっかけがない」39.9%が最も高く、次いで「知識がないため、何を話し合うか分からない」25.2%、「多少は話し合っている」24.8%となっている。『話し合っている』（「詳しく話し合っている」＋「多少は話し合っている」）の割合は26.0%を占める。

性別で見ると、『話し合っている』の割合は男性20.1%、女性31.0%と女性が10.9ポイント高くなっている。

年代別で見ると、『話し合っている』の割合は年代が上がるにつれて高くなっており、60代では35.8%となっている。

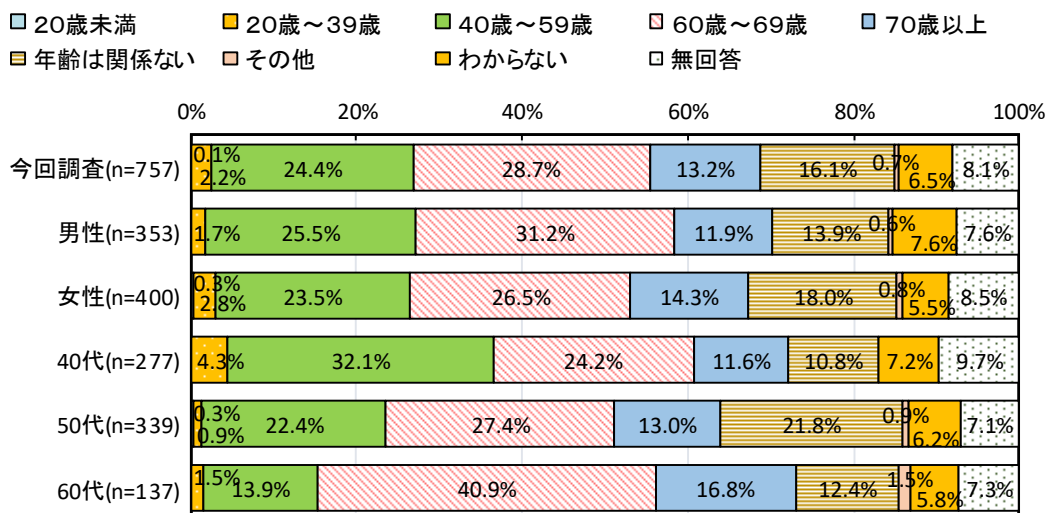


(6)ご家族等や医療・介護従事者と医療・ケアについて話し合う時期があるとする、いつ頃が良い年齢だと思いますか。
(5)で「1. 詳しく話し合っている」「2. 多少は話し合っている」と回答した方は、いつ頃でしたか。(〇は1つ)

全体では、「60歳～69歳」28.7%が最も高く、次いで「40歳～59歳」24.4%、「年齢は関係ない」16.1%となっている。

性別で見ると、大きな差異はみられない。

年代別で見ると、40代では「40歳～59歳」、50代、60代ではいずれも「60歳～69歳」の割合が最も高く、60代では40.9%となっている。



IV 調査結果【在宅生活改善調査】

【事業所票】

問1 貴事業所に所属するケアマネジャーの人数、及び利用者数について、御記入ください。

市内を拠点とする居宅介護支援サービスを展開する30事業所の状況を確認したところ、99人のケアマネジャーが活躍しています。また、居宅介護支援サービスの利用者は2,348人で、そのうち、「自宅等」にお住いの利用者が2,225人(94.8%)、「サービス付き高齢者住宅」及び「住宅型有料老人ホーム」及び「軽費老人ホーム」にお住まいの方が123人(5.2%)となっています。

単位：人・%

所属するケアマネジャーの人数	99
「自宅等（「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」を除く）」にお住まいの利用者数	2,225(94.8)
「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者数	123(5.2)

問2 貴事業所において、過去1年の間に「自宅等(サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く。)から、居場所を変更した要介護度別の利用者数」と「自宅等で死亡した利用者数」を御記入ください。

過去1年間に居所変更した利用者は362人で、利用者総数(2,348人)の15.4%を占めています。

居所変更した利用者を要介護度別で見ると、「要介護2」の方が84人(23.2%)と最も多く、次いで「要介護1」の方が82人(22.7%)となっており、「要介護1」と「要介護2」を合わせると全体の約5割となっています。

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明	合計
4人	13人	82人	84人	71人	58人	45人	5人	362人
1.1%	3.6%	22.7%	23.2%	19.6%	16.0%	12.4%	1.4%	-

問3 貴事業所において、過去1年間の間に「自宅等(サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く。) から、居場所を変更した利用者数」を行先別に御記入ください。

過去1年の間に居所変更された利用者の行き先では、「病院・診療所(※一時的な入院を除く。)」が85人(15.4%)と最も多く、次いで「介護老人保健施設」が56人(10.1%)となっています。また、搬送先や行き先で亡くなられた方は192人(34.7%)となっています。

単位：人・%

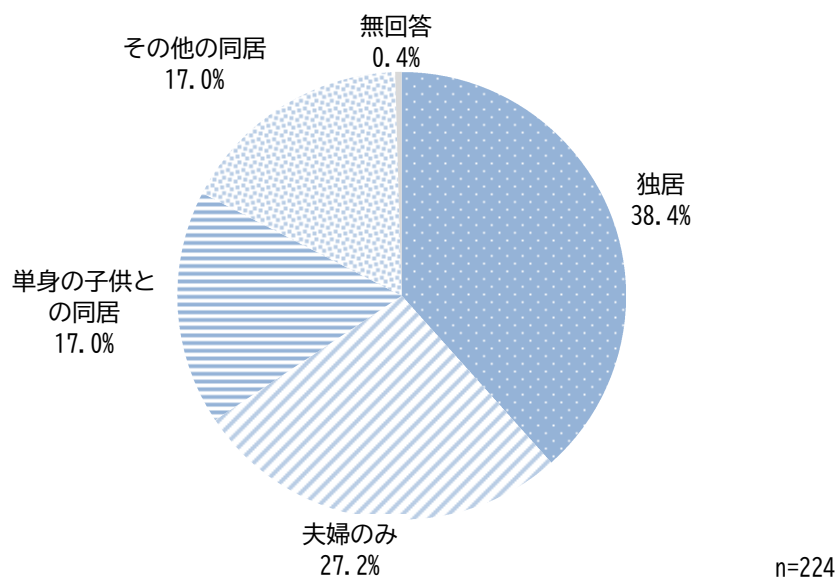
項目	市内	市外	合計	
	人数	人数	人数	割合
兄弟・子ども・親戚等の家	1	8	9	1.6
住宅型有料老人ホーム	17	28	45	8.1
軽費老人ホーム(特定施設除く)	0	1	1	0.2
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	9	19	28	5.1
グループホーム	16	1	17	3.1
特定施設	18	26	44	8.0
地域密着型特定施設	0	0	0	0.0
介護老人保健施設	47	9	56	10.1
介護医療院	0	1	1	0.2
特別養護老人ホーム	39	16	55	9.9
地域密着型特別養護老人ホーム	1	0	1	0.2
病院・診療所(※一時的な入院を除く)	48	37	85	15.4
その他	4	4	8	1.4
行先を把握していない	-	-	11	2.0
自宅等での死亡(※搬送先での死亡を含む)	-	-	192	34.7
合計	200	150	553	-

【利用者票】

問1 対象となる利用者の状況等

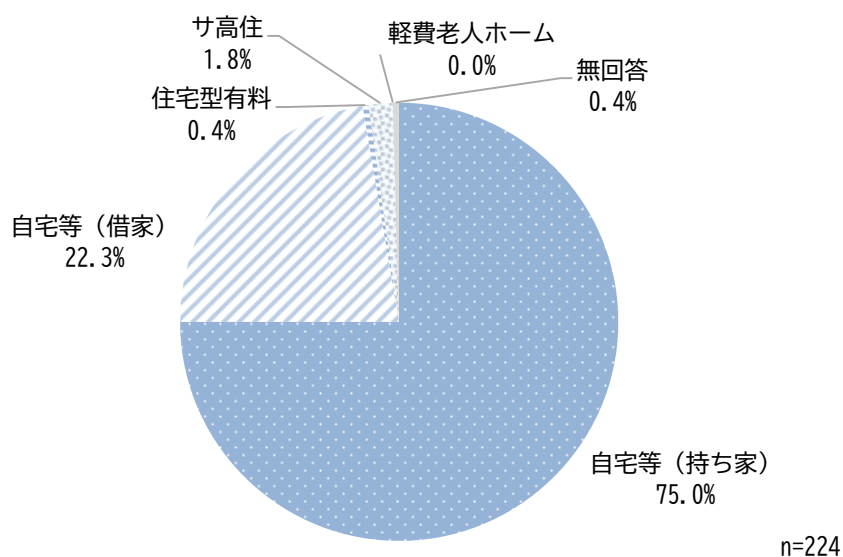
(1) 世帯類型

世帯類型では、「独居」が38.4%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が27.2%、「単身の子供との同居」「その他の同居」が17.0%となっています。



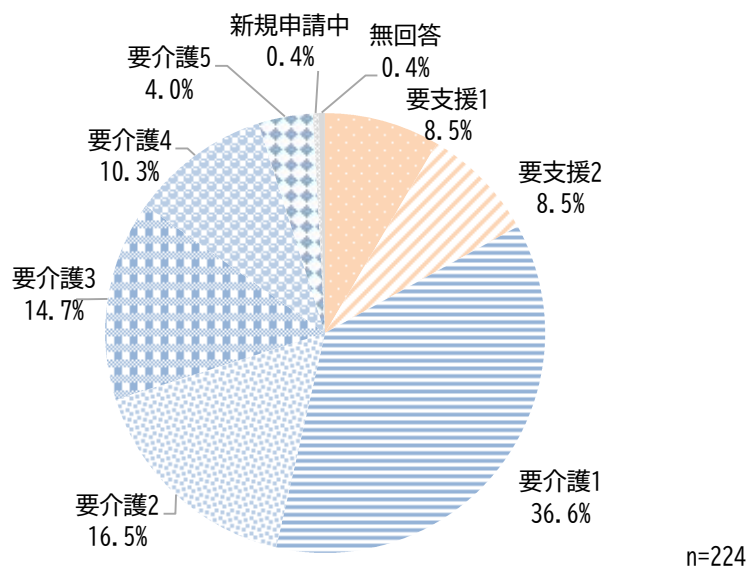
(2) 現在の居所

現在の居所では、「自宅等（持ち家）」が75.0%と最も高く、次いで「自宅等（借家）」が22.3%、「サ高住」が1.8%となっています。



(3) 要支援・要介護度

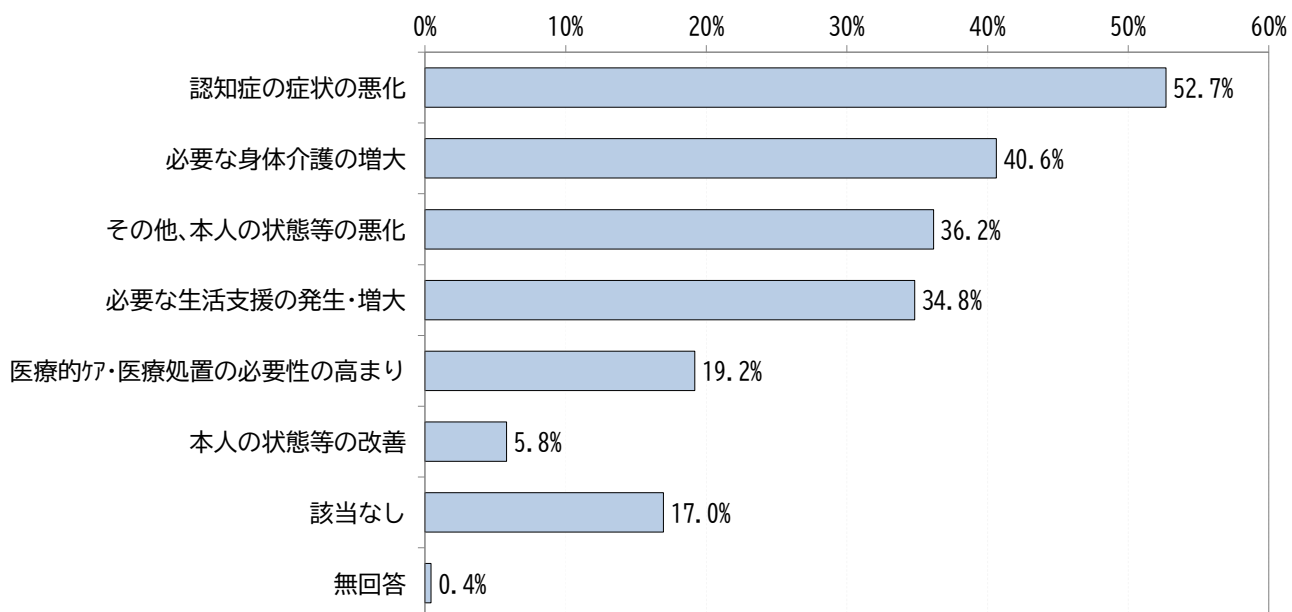
要支援・要介護度では、「要介護1」が36.6%と最も高く、次いで「要介護2」が16.5%、「要介護3」が14.7%となっています。



問2 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由

(1) 本人の状態等に属する理由

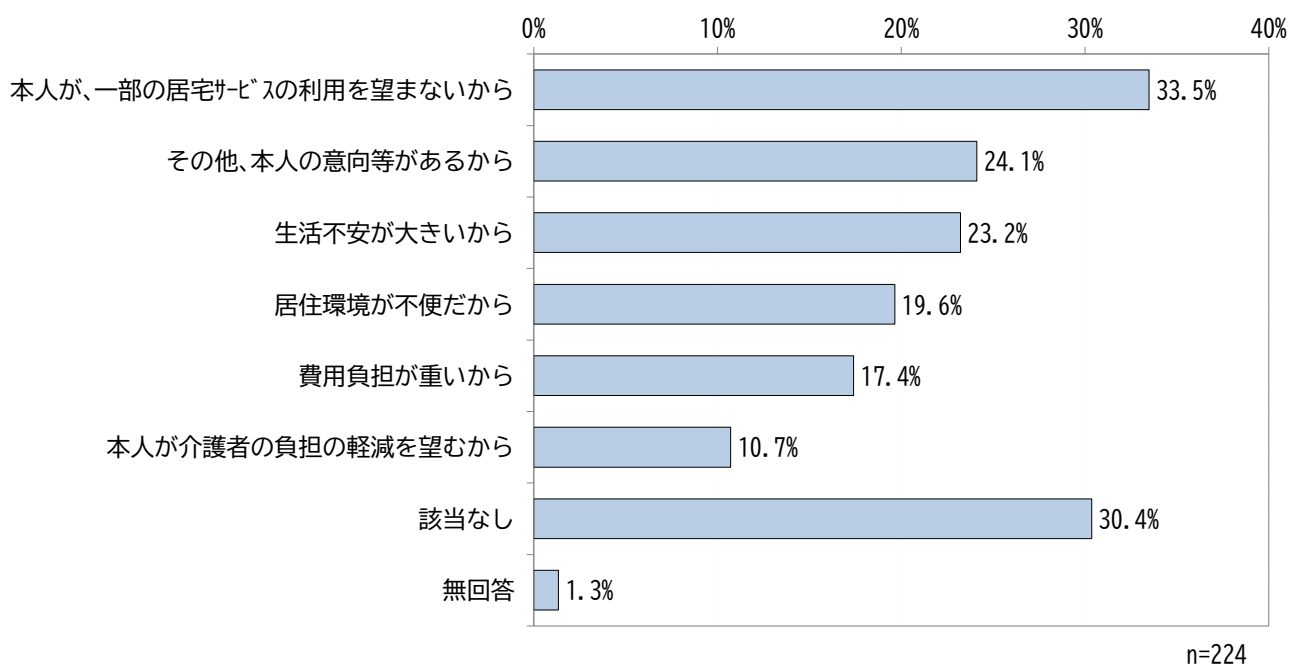
本人の状態等に属する理由では、「認知症の症状の悪化」が52.7%と最も高く、次いで「必要な身体介護の増大」が40.6%、「その他、本人の状態等の悪化」が36.2%となっています。



n=224

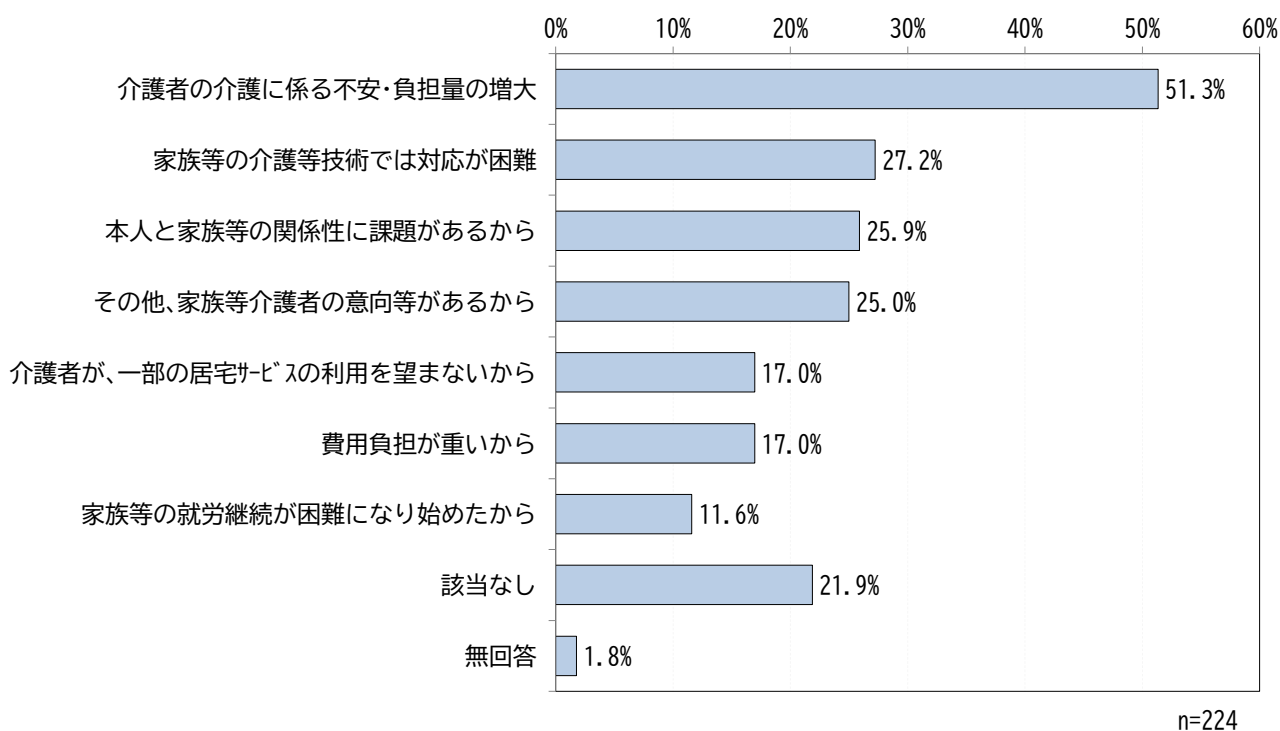
(2) 主に本人の意向等に属する理由

主に本人の意向等に属する理由では、「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」が33.5%と最も高く、次いで「該当なし」が30.4%、「その他、本人の意向等があるから」が24.1%となっています。



(3) 主に家族等介護者の意向・負担等に属する理由

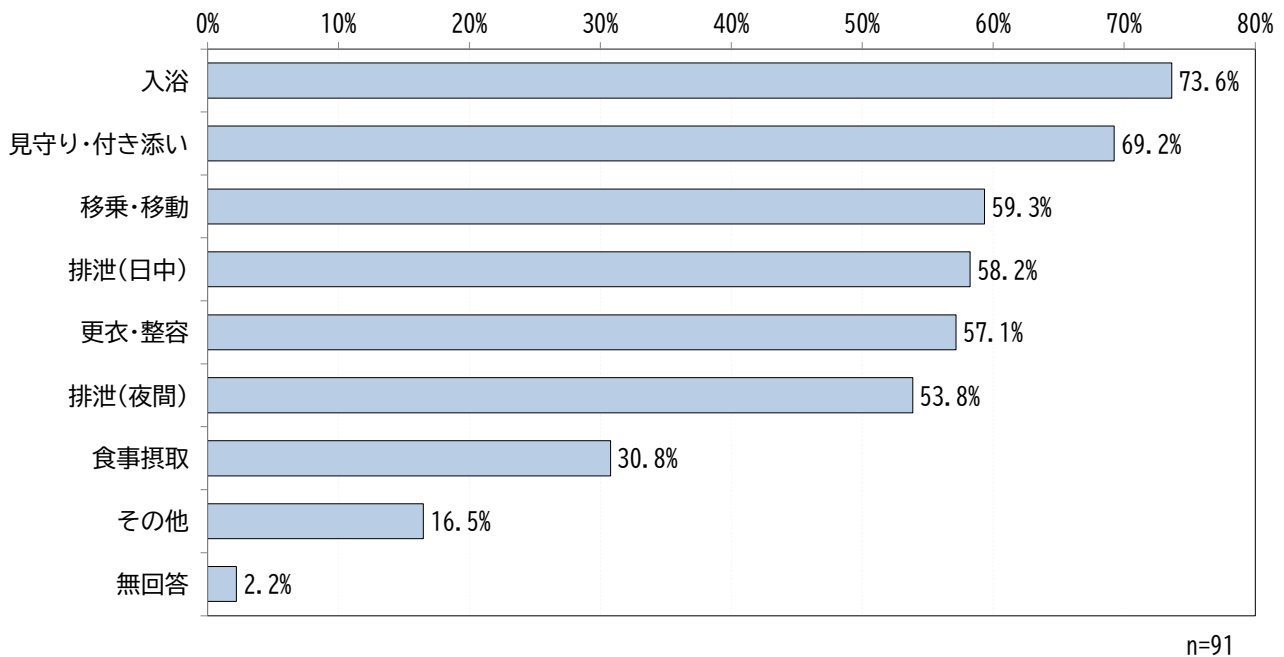
主に家族等介護者の意向・負担等に属する理由では、「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が51.3%と最も高く、次いで「家族等の介護等技術では対応が困難」が27.2%、「本人と家族等の関係性に課題があるから」が25.9%となっています。



【問2(1)で「必要な身体介護の増大」を選択の場合】

(4) 理由となる、具体的な「身体介護」

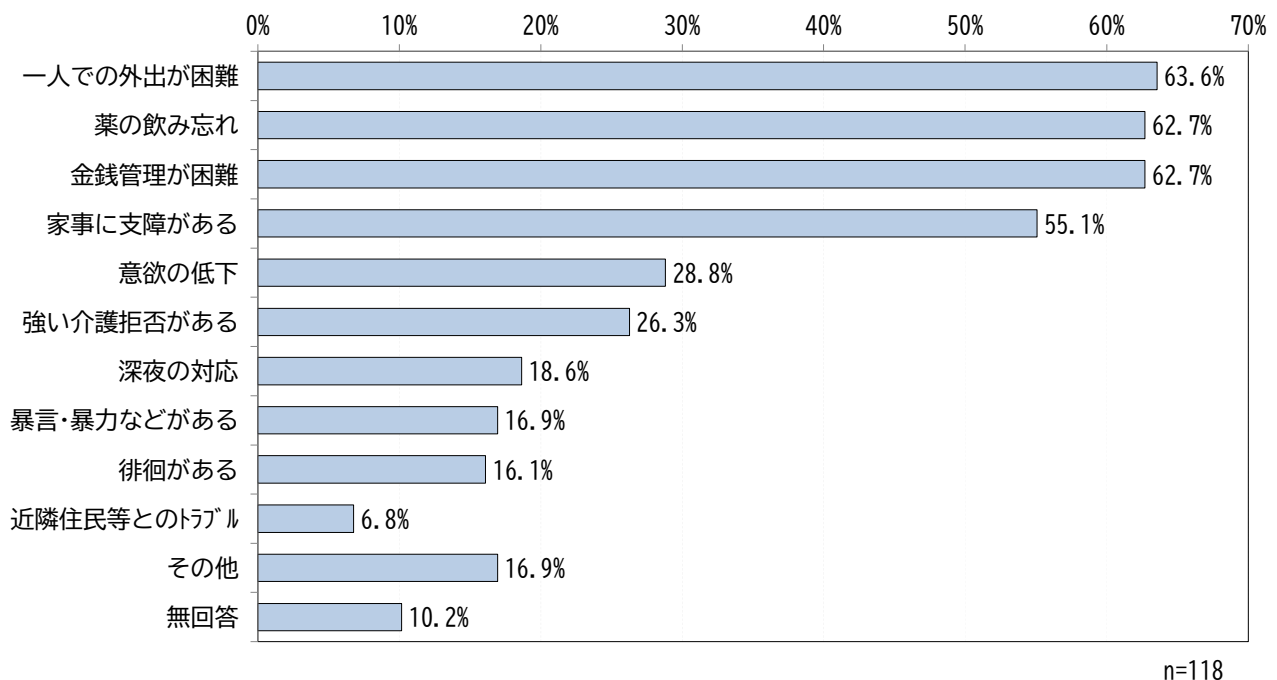
具体的な身体介護では、「入浴」が73.6%と最も高く、次いで「見守り・付き添い」が69.2%、「移乗・移動」が59.3%となっています。



【問2(1)で「認知症の症状の悪化」を選択の場合】

(5) 理由となる、具体的な「認知症の症状」

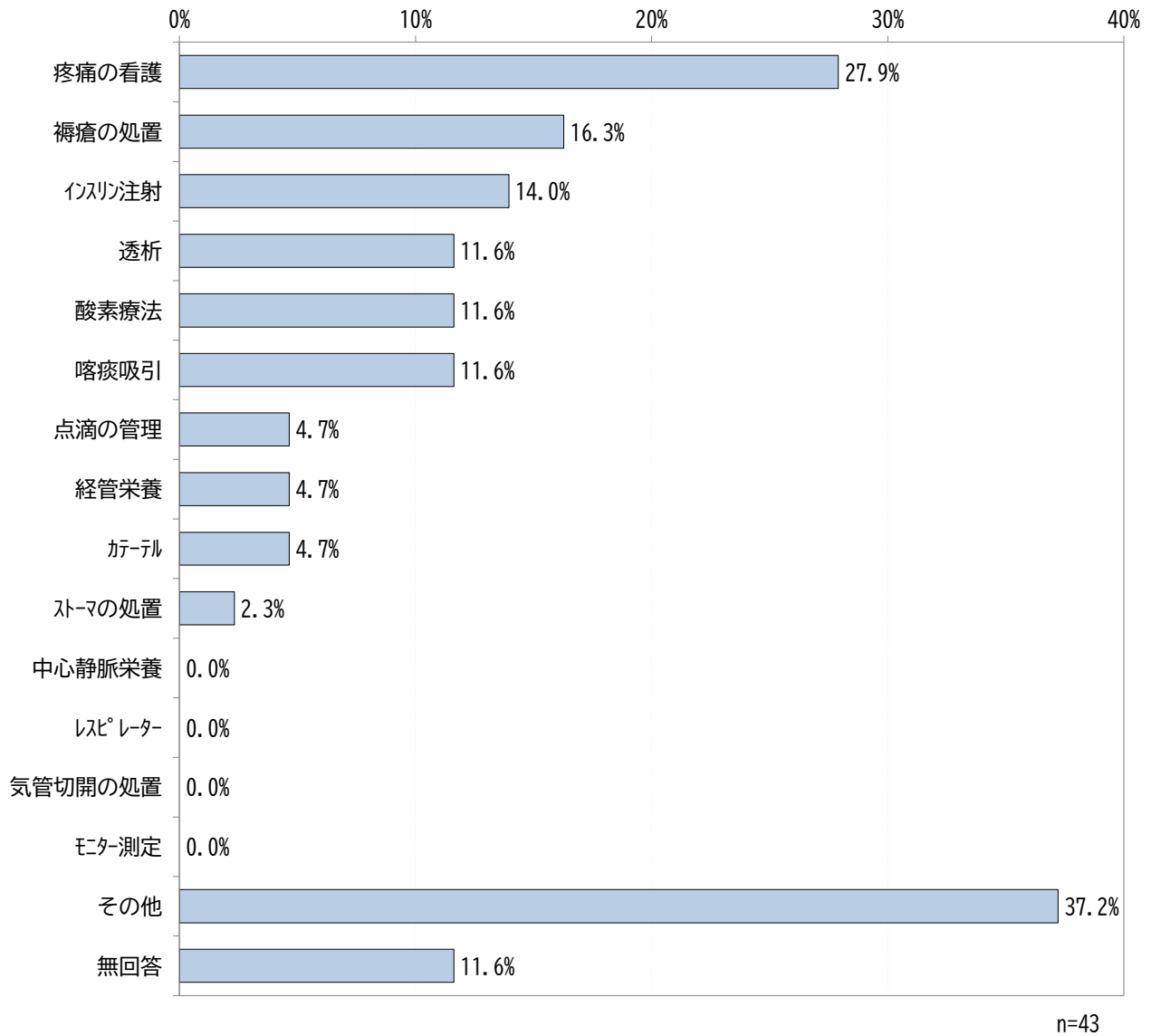
具体的な認知症の症状では、「一人での外出が困難」が63.6%と最も高く、次いで「薬の飲み忘れ」「金銭管理が困難」が62.7%、「家事に支障がある」が55.1%となっています。



【問2(1)で「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」を選択の場合】

(6) 理由となる、具体的な「医療的ケア」、「医療処置」

具体的な医療的ケア、医療処置では、「その他」が37.2%と最も高く、次いで「疼痛の看護」が27.9%、「褥瘡の処置」が16.3%となっています。



問3 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況を改善するためのサービス利用の変更等

(1) どのようなサービスに変更することで改善できると思うか

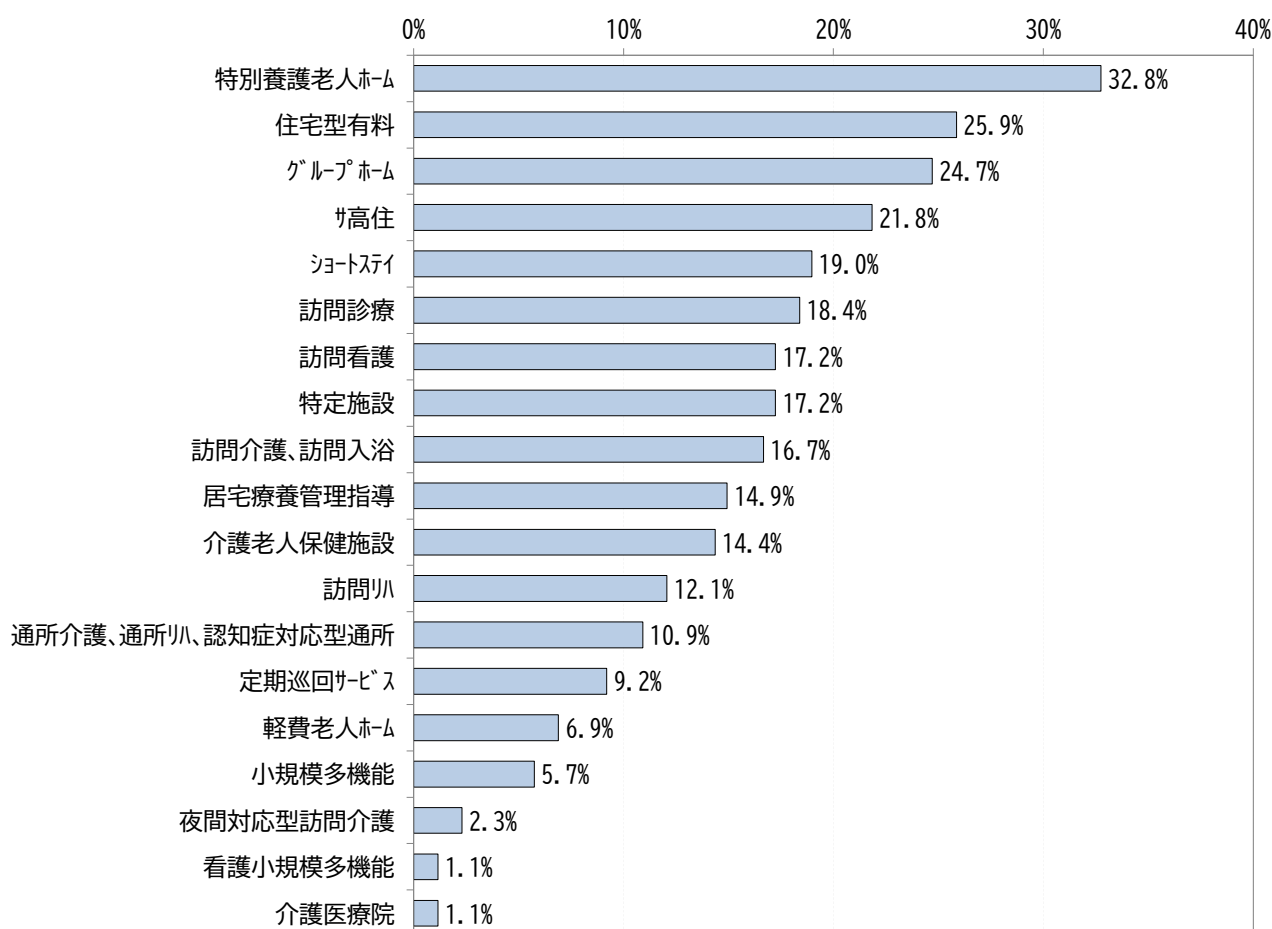
主に家族等介護者の意向・負担等に属する理由では、「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が51.3%と最も高く、次いで「家族等の介護等技術では対応が困難」が27.2%、「本人と家族等の関係性に課題があるから」が25.9%となっています。

単位：人・%

項目	人数	割合
より適切な「在宅サービス」に変更する	29	15.6
より適切な「住まい・施設等」に変更する	104	55.9
より適切な「在宅サービス」もしくは「住まい・施設等」に変更する	41	22.0
上記では改善は難しいと思う	12	6.5

(2) 問3(1)で選択したサービス利用の変更について、本来であればより適切と思われる具体的なサービス

適切と思われる具体的なサービスでは、「特別養護老人ホーム」が32.8%と最も高く、次いで「住宅型有料」が25.9%、「グループホーム」が24.7%となっています。

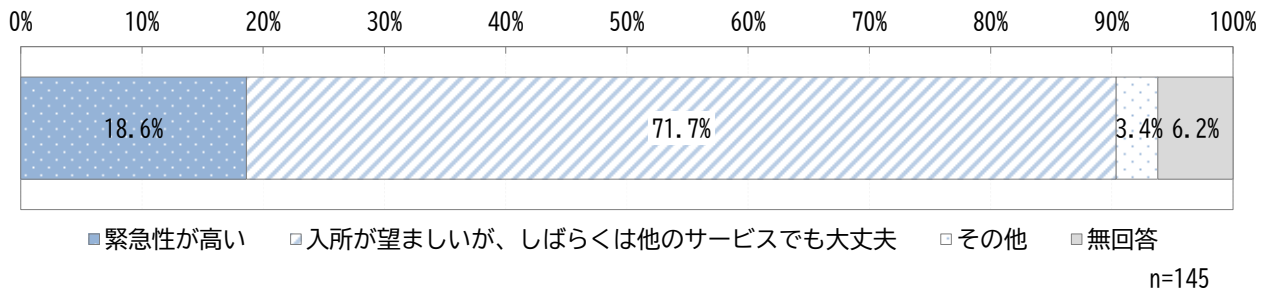


n=174

【問3(2)で「住まい・施設等」を選択の場合】

(3) 利用者の入所・入居の緊急度

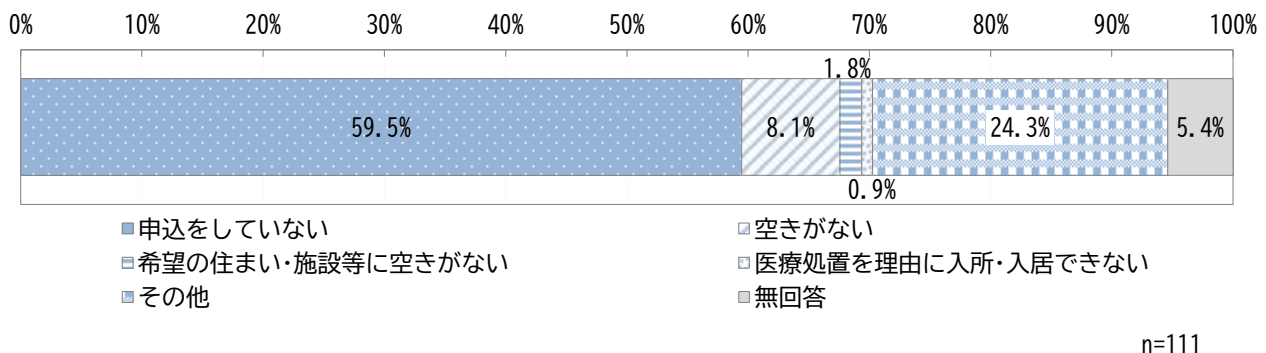
「住まい・施設等」へのサービス変更の緊急度では、「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」が71.7%と最も高く、次いで「緊急性が高い」が18.6%、「その他」が3.4%となっています。



【問3(2)で「住まい・施設等」(※特別養護老人ホーム以外)を選択の場合】

(4) 入所・入居できていない理由

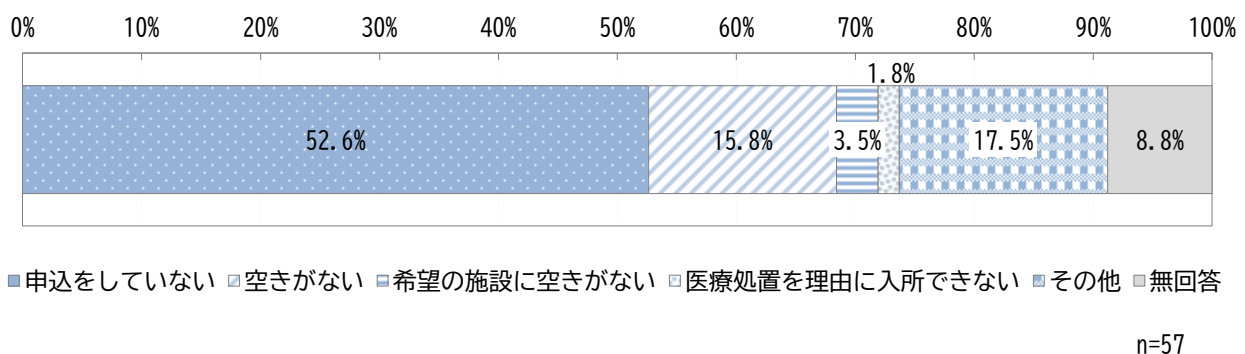
特養を除く「住まい・施設等」へ入所・入居できていない理由では、「申請をしていない」が59.5%と最も高く、次いで「その他」が24.3%、「空きがない」が8.1%となっています。



【問3(2)で「特別養護老人ホーム」を選択の場合】

(5) 特養に入所できていない理由

特養を除く「住まい・施設等」へ入所・入居できていない理由では、「申請をしていない」が52.6%と最も高く、次いで「その他」が17.5%、「空きがない」が15.8%となっています。



V 調査結果【居所変更実態調査】

問1 該当するサービス種別

回答した事業所のサービス種別は、「特定施設」が8事業所（26.7%）と最も多くなっています。

単位：事業所・%

サービス種別	事業所数	割合
住宅型有料老人ホーム	5	16.7
軽費老人ホーム（特定施設除く）	0	0.0
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	3	10.0
グループホーム	5	16.7
特定施設	8	26.7
地域密着型特定施設	0	0.0
介護老人保健施設	3	10.0
介護医療院	0	0.0
特別養護老人ホーム	5	16.7
地域密着型特別養護老人ホーム	1	3.3
合計	30	-

問2 貴施設等の概要

回答した事業所には、1,570人の方が入所・入居しており、30事業所の定員数に対する入居者数は92.4%となっています。その一方で、491人の方が待機者となっています。また、特別養護老人ホーム以外の施設から特別養護老人ホームへの待機者数（申込者数）は10人となっています。

単位：人

定員数など	1,530人・76戸・92室/計1,700
入所・入居者数	1,570
（貴施設等の）待機者数	491
特別養護老人ホームの待機者数（申込者数）	10

注）定員数は1戸＝1名、1室＝1名として算定しています。

問3 現在の入所・入居者の要支援・要介護度

施設の入所・入居者の要介護度は、「要介護4」が23.7%と最も高く、次いで「要介護3」が19.5%、「要介護1」が17.4%となっています。

自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明	合計
16人	40人	28人	278人	275人	311人	379人	264人	7人	1,598人
1.0%	2.5%	1.8%	17.4%	17.2%	19.5%	23.7%	16.5%	0.4%	-

注) 自立とは、歩行や起き上がりなどの日常生活上の基本的動作を自分で行うことが可能であり、かつ、薬の内服、電話の利用などの手段的日常生活動作を行う能力もある状態をさします。

申請中・不明とは、要介護認定の申請中または要支援・要介護度が不明であることをさします。

問4 以下の医療処置が必要な利用者の受入れは可能か

受入れ可能な医療処置は、「褥瘡の処置」が66.7%と最も高く、次いで「酸素療法」が50.0%、「ストーマの処置」「喀痰吸引」が46.7%となっています。

単位：事業所・%

種別	事業所数	割合
点滴の管理	11	36.7
中心静脈栄養	2	6.7
透析	7	23.3
ストーマの処置	14	46.7
酸素療法	15	50.0
レスピレーター	0	0.0
気管切開の処置	1	3.3
疼痛の看護	10	33.3
経管栄養	13	43.3
モニター測定	2	6.7
褥瘡の処置	20	66.7
カテーテル	10	33.3
喀痰吸引	14	46.7
インスリン注射	12	40.0
対応可能な医療処置はない	5	16.7
無回答	4	13.3
合計	30	-

問5 医療処置を受けている入所・入居者の合計人数

医療処置を受けている入所・入居者の合計人数は、154人となっています。

問6 過去1年間(令和6年11月1日～令和7年10月31日)に、貴施設等に新規で入所・入居した人の人数

過去1年間の各施設への新規入所・入居者数は、合計で768人となっています。

問7 問6の過去1年間の新規の入所・入居者について、入所・入居する前の居場所別の人数

入所・入居する前の居場所をみると、市内が62.9%、市外が39.6%となっています。市内・市外ともに「病院・診療所（※一時的な入院を除く）」が最も多く、次いで「自宅（兄弟・子ども・親戚等の家を含む）」、「介護老人保健施設」となっています。

単位：人・%

項目	市内		市外	
	人数	割合	人数	割合
自宅（兄弟・子ども・親戚等の家を含む）	151	19.7	68	8.9
住宅型有料老人ホーム	2	0.3	2	0.3
軽費老人ホーム（特定施設除く）	0	0.0	0	0.0
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	1	0.1	6	0.8
グループホーム	13	1.7	1	0.1
特定施設	2	0.3	15	2.0
地域密着型特定施設	0	0.0	2	0.3
介護老人保健施設	65	8.5	29	3.8
介護医療院	0	0.0	0	0.0
特別養護老人ホーム	2	0.3	4	0.5
地域密着型特別養護老人ホーム	0	0.0	0	0.0
病院・診療所（※一時的な入院を除く）	216	28.1	172	22.4
その他	12	1.6	5	0.7
入居・入所する前の居場所を把握していない	0(0.0)			
合計	768(-)			

問8 過去1年間(令和6年11月1日～令和7年10月31日)に、貴施設等を退去した人の人数

過去1年間の各施設から退去・退所した人数は、合計で686人となっています。

問9 問8の過去1年間の退去者について、要介護度別の人数

過去1年間の退去者の要介護度は、「要介護4」が16.8%と最も高く、次いで「要介護3」が14.1%、「要介護2」が9.9%となっています。

自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	新規申請中	死亡	合計
0人	0人	3人	52人	68人	97人	115人	66人	3人	282人	686人
0.0%	0.0%	0.4%	7.6%	9.9%	14.1%	16.8%	9.6%	0.4%	41.1%	-

注) 新規申請中とは、要介護認定の新規申請中であることをさします。

問10 問8の過去1年間の退去者について、退去先別の人数

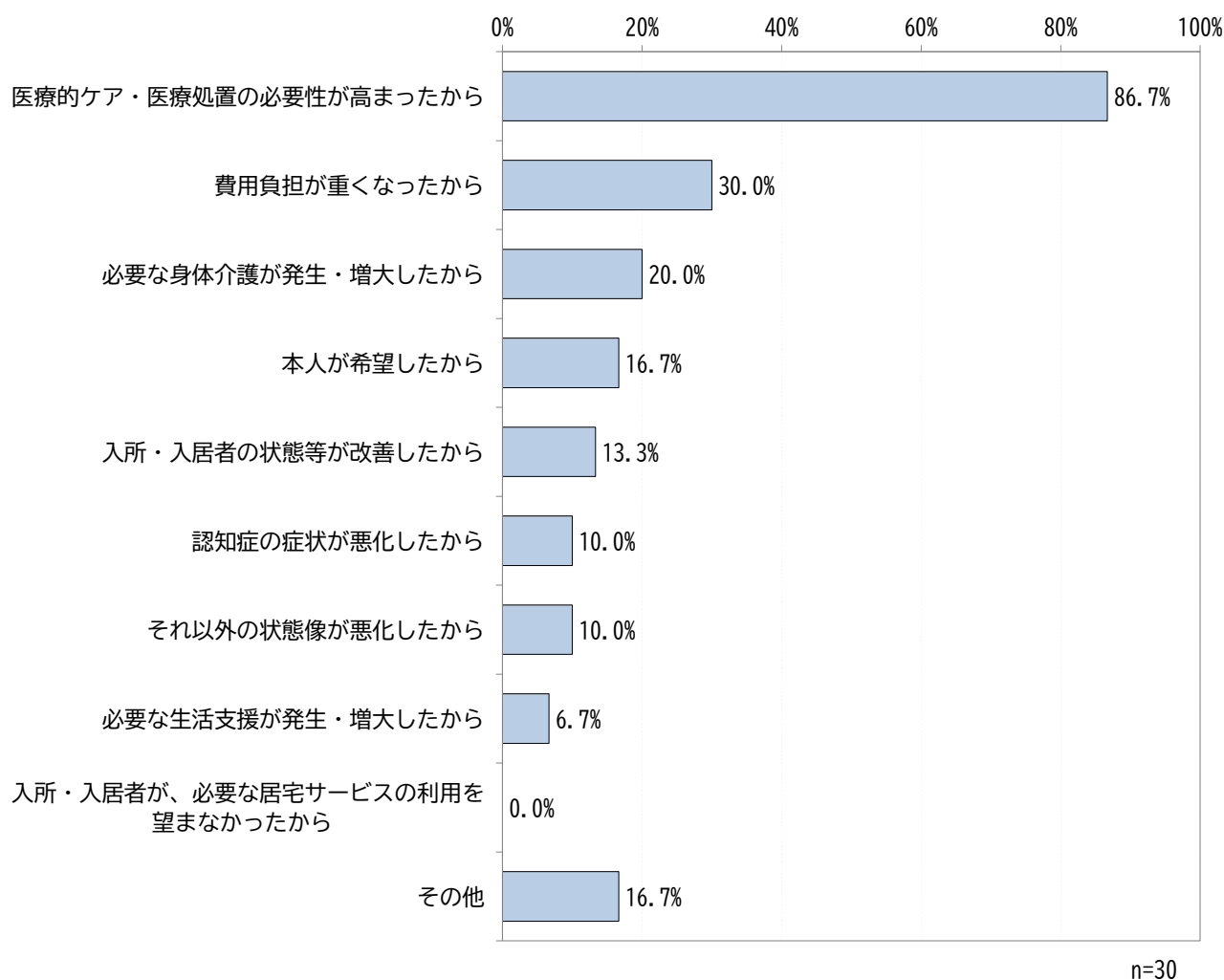
退去先の市内・市外が判明している200人のうち、市内は57.3%、市外は42.8%となっています。市内、市外のいずれも、「病院・診療所(※一時的な入院を除く)」が最も多くなっています。

単位：人・%

項目	市内		市外	
	人数	割合	人数	割合
自宅(兄弟・子ども・親戚等の家を含む)	50	7.3	39	5.7
住宅型有料老人ホーム	7	1.0	14	2.0
軽費老人ホーム(特定施設除く)	0	0.0	0	0.0
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	7	1.0	6	0.9
グループホーム	7	1.0	6	0.9
特定施設	7	1.0	4	0.6
地域密着型特定施設	0	0.0	0	0.0
介護老人保健施設	12	1.7	9	1.3
介護医療院	0	0.0	0	0.0
病院・診療所(※一時的な入院を除く)	104	15.2	66	9.6
特別養護老人ホーム	32	4.7	25	3.6
地域密着型特別養護老人ホーム	0	0.0	0	0.0
その他	3	0.4	2	0.3
行先を把握していない	4(0.6)			
死亡(搬送先での死亡を含む)	282(41.1)			
合計	686(-)			

問 11 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由(3つまで)

退去理由は、「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が86.7%と最も高く、次いで「費用負担が重くなったから」が30.0%、「必要な身体介護が発生・増大したから」20.0%となっています。



VI 調査結果【介護人材実態調査】

【事業所票】

問1 該当するサービス種別

回答した事業所のサービス種別は、「施設・居住系」が28事業所（48.3%）で最も多く、次いで「通所系」が19事業所（31.7%）、「訪問系」が13事業所（21.7%）となっています。

単位：事業所・%

サービスの種類	事業所	
	事業所数	割合
施設・居住系	28	48.3
通所系	19	31.7
訪問系	13	21.7
合計	60	-

問2 貴事業所に所属する介護職員について

（1）介護職員の人数

回答した事業所の職員総数は732人となっており、正規職員が61.2%、非正規職員が38.8%となっています。

単位：人・%

サービスの種類	職員数					
	正規職員		非正規職員		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	322	69.1	144	30.9	466	-
通所系	58	48.3	62	51.7	120	-
訪問系	68	46.6	78	53.4	146	-
合計	448	61.2	284	38.8	732	-

（2）開設から1年以上経過しているか

回答した事業所のうち、1年以上経過が59事業所、1年未満が1事業所となっています。

【問2(2)で「開設から1年以上」の場合】

(3) 過去1年間の介護職員の採用者数と離職者数

サービス種別でみると、施設・居住系サービス及び訪問系サービスは採用者数が離職者数を上回っていますが、通称系サービスについては離職者数が採用者数を上回っている状況となっております。

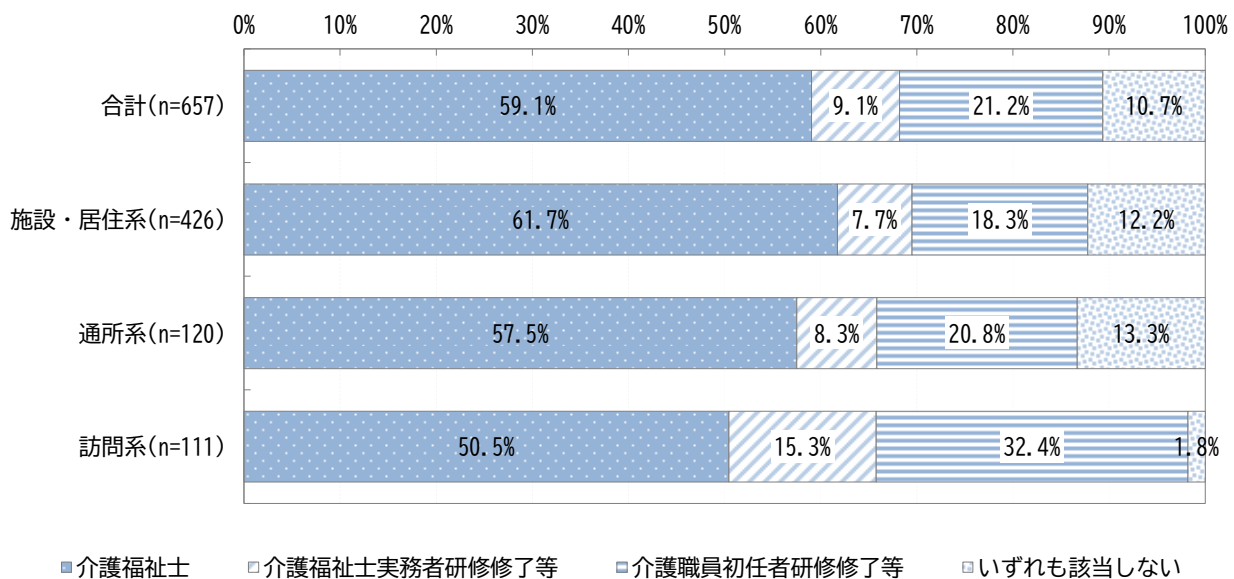
単位：人

サービスの種類	採用者数		離職者数		合計	
	正規	非正規	正規	非正規	採用者数	離職者数
施設・居住系	70	43	62	39	113	101
通所系	7	16	11	15	23	26
訪問系	18	16	14	15	34	29
合計	170		156		+14	

問3 所属している介護職員全員(非常勤含む。ボランティアの方を除く)について

(1) 資格の取得、研修の修了の状況

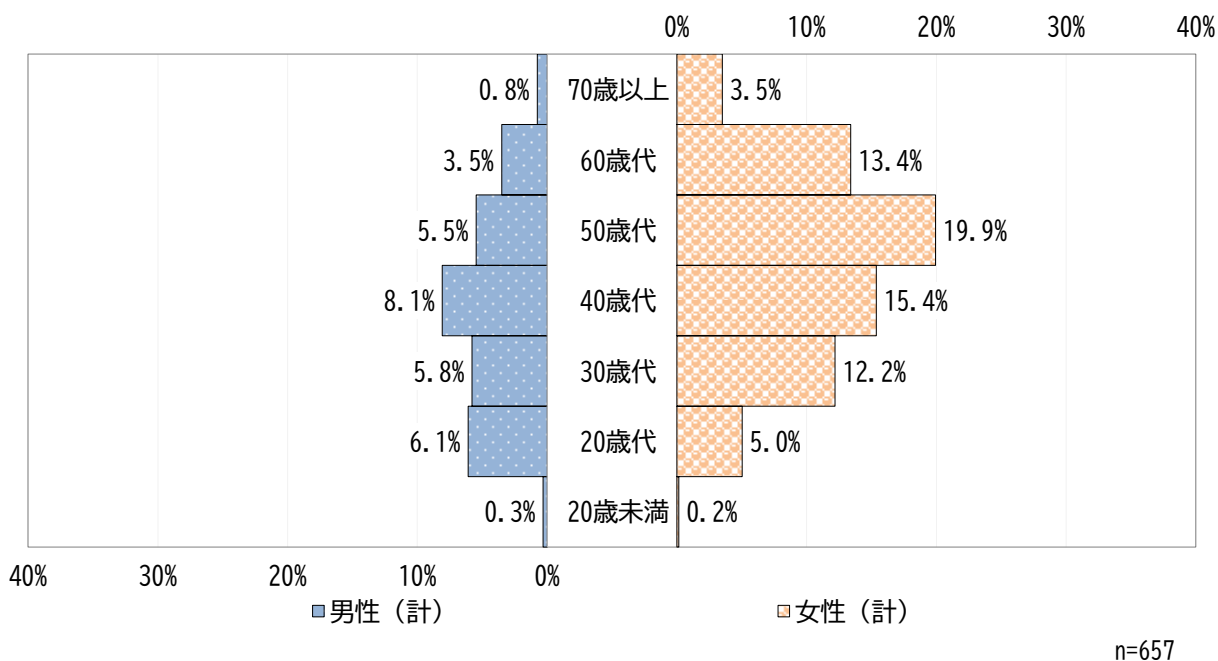
サービス種別でみると、施設・居住系、通所系、訪問系ともに「介護福祉士(認定介護福祉士含む)」がそれぞれ61.7%、57.5%、50.5%と最も高くなっています。



(2) 介護職員の性年齢別構成

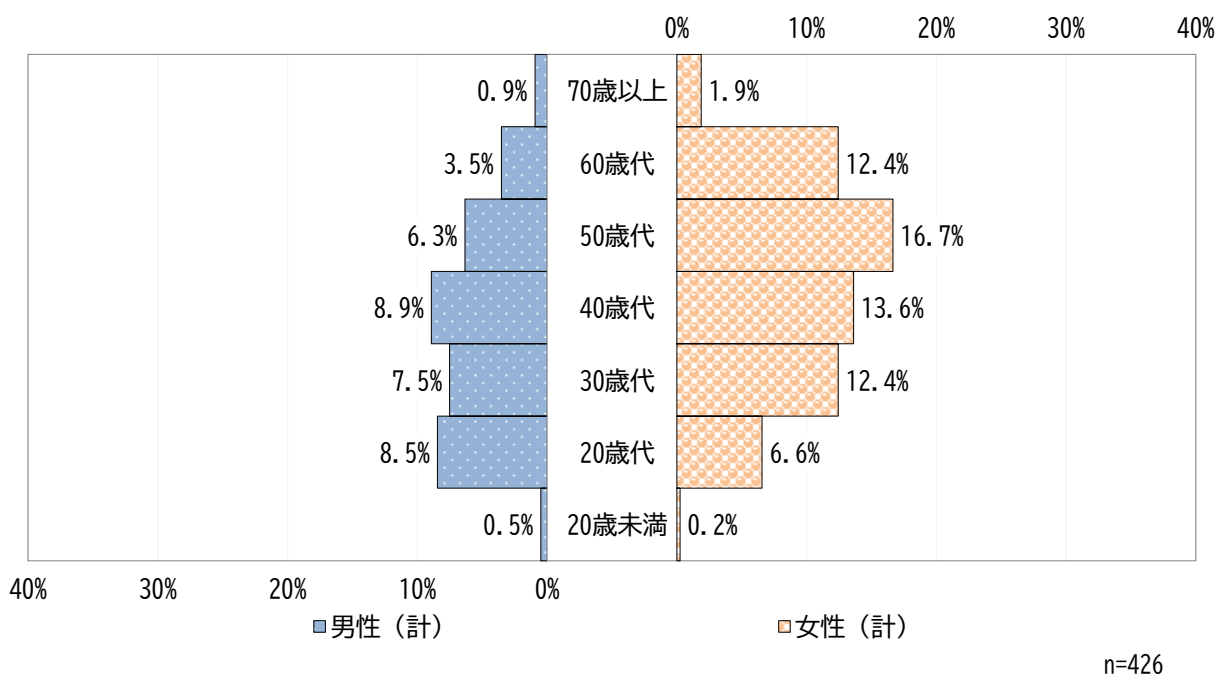
①全サービス系統

全サービス系統でみると、「50歳代女性」が19.9%で最も高く、次いで「40歳代女性」15.4%、「60歳代女性」13.4%となっています。



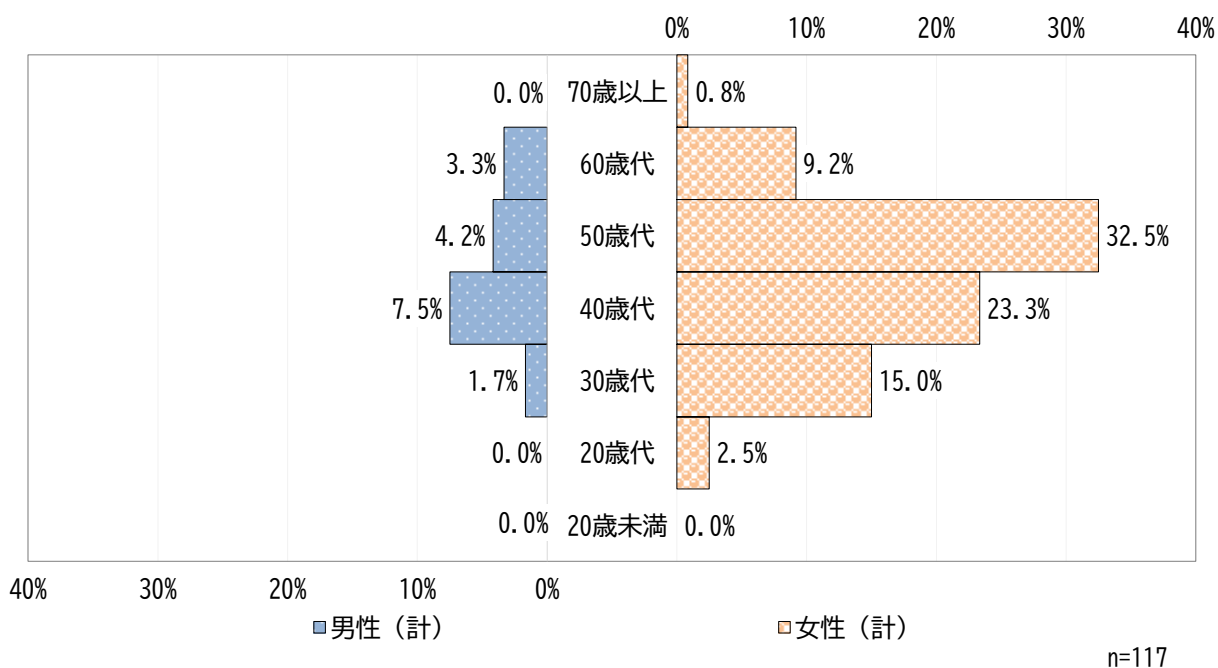
②施設・居住系

施設・居住系でみると、「50歳代女性」が16.7%で最も高く、次いで「40歳代女性」13.6%、「60歳代女性」「30歳代女性」12.4%となっています。



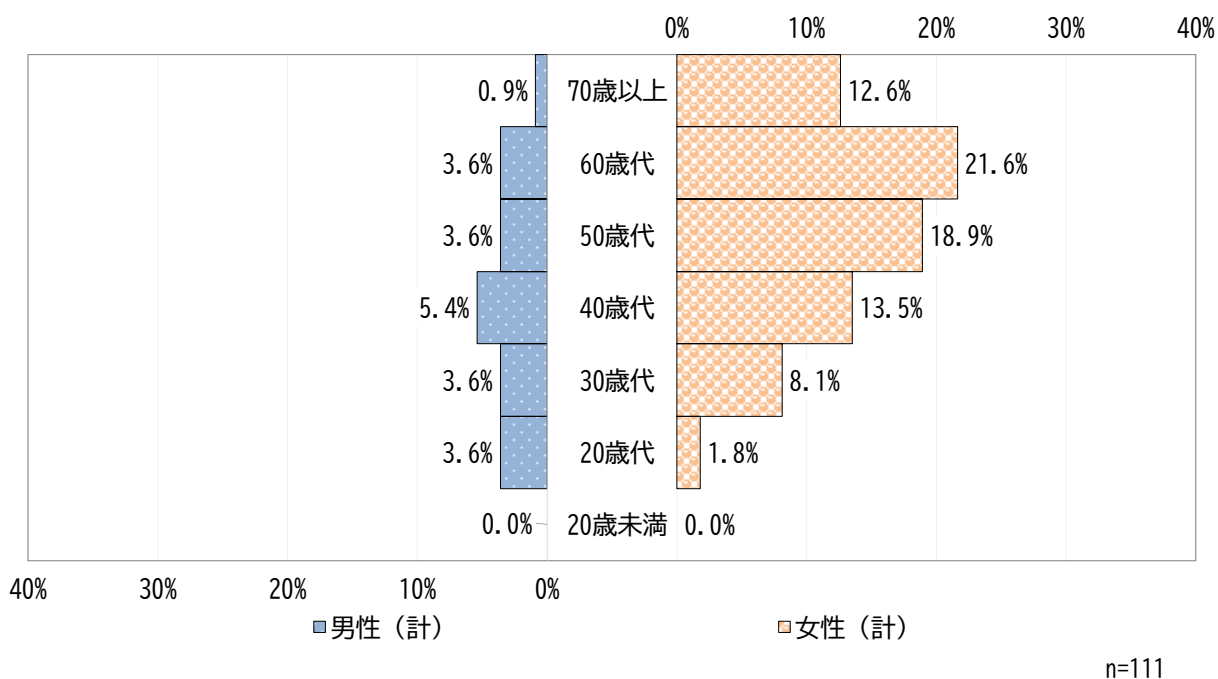
③通所系

通所系で見ると、「50歳代女性」が32.5%で最も高く、次いで「40歳代女性」23.3%、「30歳代女性」15.0%となっています。



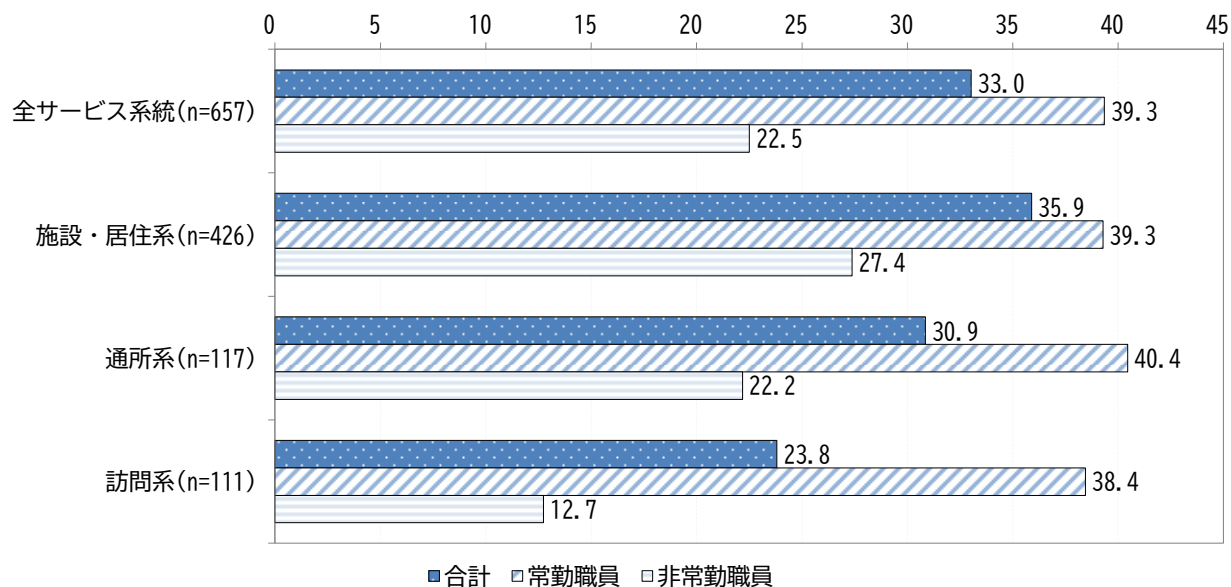
④訪問系

通所系で見ると、「60歳代女性」が21.6%で最も高く、次いで「50歳代女性」18.9%、「40歳代女性」13.5%となっています。



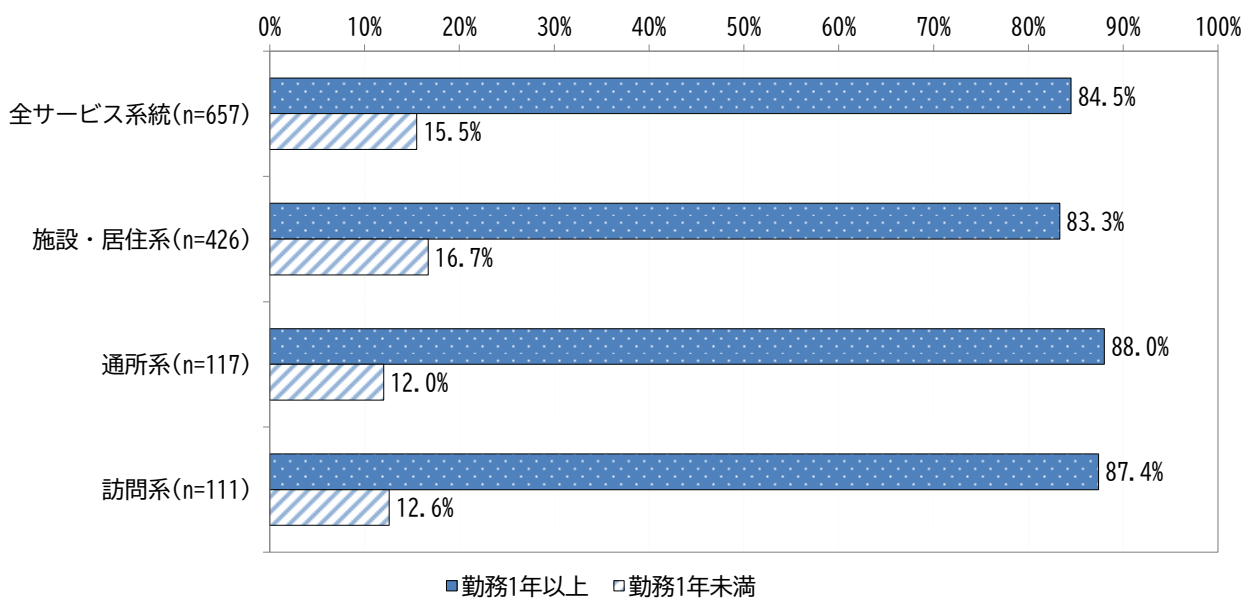
(3) 職員 1 人当たりの 1 週間の勤務時間

職員 1 人当たりの 1 週間の勤務時間を見ると、全サービス系統で 33.0 時間、施設・居住系で 35.9 時間、通所系で 30.9 時間、訪問系で 23.8 時間となっています。



(4) 現在の施設等での勤務年数

現在の施設等での勤務年数を見ると、全サービス系統で「勤務 1 年以上」が 84.5%、「勤務 1 年未満」が 15.5%となっています。



【訪問系職員票】

(1) 介護給付による訪問の状況

介護給付による訪問で身体介護を提供した時間は平均 448.9 分、生活援助を提供した時間は「買い物」が平均 31.6 分、「調理・配膳」が平均 30.5 分、「掃除」が平均 72.8 分、「その他の生活援助」が平均 13.7 分となっています。

単位：分

曜日	身体介護	生活援助			
		買い物	調理・配膳	掃除	その他
月曜日	71.2	4.2	4.2	10.0	2.3
火曜日	83.7	3.5	5.4	13.7	2.1
水曜日	67.1	3.7	5.2	12.9	2.5
木曜日	73.8	5.7	4.4	12.6	1.8
金曜日	75.9	5.9	4.0	14.2	2.4
土曜日	44.5	4.2	4.1	6.0	1.4
日曜日	32.7	4.4	3.2	3.4	1.2
週の合計	448.9	31.6	30.5	72.8	13.7

(2) 介護予防給付・総合事業による訪問の状況

介護予防給付・総合事業による訪問で身体介護を提供した時間は平均 5.5 分、生活援助を提供した時間は「買い物」が平均 7.6 分、「調理・配膳」が平均 0.8 分、「掃除」が平均 20.6 分、「その他の生活援助」が平均 2.0 分となっています。

単位：分

曜日	身体介護	生活援助			
		買い物	調理・配膳	掃除	その他
月曜日	0.4	0.7	0.0	3.8	0.5
火曜日	0.8	1.4	0.4	4.4	0.2
水曜日	1.5	2.0	0.0	4.1	0.0
木曜日	1.4	0.8	0.4	5.8	0.5
金曜日	0.8	2.7	0.0	2.1	0.2
土曜日	0.7	0.0	0.0	0.5	0.6
日曜日	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
週の合計	5.5	7.6	0.8	20.6	2.0

第10期 朝霞市
高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定に
向けたアンケート調査結果報告書

令和8年3月

発行・編集

朝霞市 福祉部 長寿はつらつ課
〒351-8501 埼玉県朝霞市本町1-1-1
TEL 048-463-1111 (代表)

第10期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に係る ヒアリング調査 結果概要

1 目的

「第10期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」に当たり、日頃朝霞市で地域活動を行っている各協議体・活動団体の方々から様々な意見や地域の現状等について御意見を伺い、計画の参考とすることを目的とし、ヒアリング調査を実施しました。

ヒアリング調査では、対象者・対象団体ごとにヒアリングテーマを設けて、「課題、意見等」を洗い出しました。

2 対象

(1) 第2層協議体：全6圏域6団体

圏域	団体名
第1圏域	和みの会
第2圏域	楽しみ隊
第3圏域	あ・さかつなぎ
第4圏域	お助け隊
第5圏域	よろず屋
第6圏域	黒目川つながり倶楽部

(2) 住民主体の高齢者の通いの場・集いの場：各日常生活圏域から2団体

圏域	団体名
第1圏域	いきいきサロンはつらつ
	ノルディックあじさい
第2圏域	ふじよし
	パークの会
第3圏域	溝沼サロン
	切り絵あじさい会
第4圏域	けんこう体操
	ゆうゆう会
第5圏域	うららの会
	黒目の太陽
第6圏域	たんぽぽの会
	向山サロン

(3) ケアマネジャー：無作為抽出した市内事業所のケアマネジャーから11名

(4) 民生委員：各地区（6地区）の代表者各2名 計12名

3 ヒアリングの主なテーマ

(1) 第2層協議体

- ①地域資源で不足しているもの
- ②協議体への参加動機

(2) 住民主体の高齢者の通いの場・集いの場

【団体の参加者個人を対象】

- ①活動を続けていく上で工夫していることや課題に感じていること
- ②活動への参加動機

【団体の代表者を対象】

- ①団体を立ち上げる際のサポートとして必要と感ずること
- ②団体を継続することに関する課題

(3) ケアマネジャー

- ①利用者の日常生活の困りごと
- ②高齢者福祉サービスに対する意見
- ③利用者家族で介護離職をした人、しそうな人がいればその状況。どんな支援があれば、介護離職を防止できそうか

(4) 民生委員

- ①地域の課題として感じていること
- ②民生委員として高齢者福祉に関して協力いただけること

4. ヒアリング調査結果概要

(1) 第2層協議体ヒアリング結果（回答人数 45人）

①活動年数
「5年以上」が20人で最も多く、次いで、「1年～3年」13人、「1年未満」9人となっています。
②参加のきっかけ
「その他（市講演会・フォーラム）」が16人で最も多く、次いで、「友人・知人」14人、「SC（生活支援コーディネーター）」12人となっています。
③参加して良かった点（複数回答）
「色々な人とつながることができた」が18人で最も多く、次いで、「地域を知る、関心を持つことができた」12人、「人の役に立てた(立ちたい)」11人となっています。
④協議体活動における課題（複数回答）
「協議体活動の方向性を統一させること」、「活動の認知度が低いこと」、「結果が出ず、成果が感じられないこと」が9人で最も多く、次いで、「もっと地域を知ること」5人、「若年層の参加がなく、高齢化が進んでいること」4人となっています。
⑤メンバーを増やすために必要な取組（複数回答）
「チラシ・インスタ・広報による周知」が16人で最も多く、次いで、「地域の方に声掛けする」8人、「メンバーが活動内容を熟知し、周囲に広める」4人となっています。
⑥不足している地域資源（複数回答）
「活動場所」が13人で最も多く、次いで、「情報ネットワーク」11人、「人材確保（市議会・町内会など）」9人となっています。
⑦活用しきれていない地域資源（複数回答）
「場所と情報」が3人で最も多く、次いで、「公共施設の活用」、「空き家の活用」2人となっています。



総括
地域活動を通じて着実なつながりや達成感を得ている一方で、活動について「活動の見える化」や「活動の成果の可視化」、地域資源について「地域の高齢者の通いの場の活動場所の確保」に課題を感じている状況となっています。今後は、広報手段の強化とあわせて、他団体・地域組織とのネットワーク構築を支援することが、協議体の活性化につながると考えられます。

(2) 住民主体の高齢者の通いの場・集いの場

①あなたの団体への参加状況
ア) 活動開始からの期間 <p>創設当初から、あるいは10年以上にわたり活動を続けているメンバーが一定数存在します。中には20年以上継続しているケースや、高齢（96歳）でも現役で活動に参加している事例が見受けられます。</p> <p>一方で、直近数か月で新規参加者が10名程度増えた団体があり、活動歴が1年未満の参加者も各団体に散見されます。</p> <p>2000年（平成12年）発足の団体から、2021年（令和3年）や2025年（令和7年）に立ち上がった新しい活動まで、団体の歴史には幅があります。</p>
イ) 参加頻度 <p>多くの団体で「毎回参加」が基本となっており、体調不良を除けば欠席者がほとんどいないという高い参加意欲が確認されました。</p> <p>月1回から月4～5回まで団体により異なりますが、月2回程度の活動が多くなっています。</p> <p>コロナ禍以前は月3回活動していた団体が、現在は月1～2回に減少しているなど、外部環境の変化による活動頻度を見直した団体も見受けられました。</p>
②団体に参加した動機
1 他者からの紹介・誘い <p>友人、町内会のメンバー、同じ団地やマンションの住民など、身近な人からの直接的な声掛けが参加の最大のきっかけとなっています。また、地域包括支援センターや社会福祉協議会（社協）、自治会役員など、公的機関や地域のリーダーからの紹介も重要な役割を果たしており、特に孤立を防ぐための後押しとして機能しています。</p>
2 情報媒体による認知 <p>広報誌、回覧板、チラシ、ポスターなどの紙媒体を通じて活動を知るケースが多く見られます。また、活動場所（団地の集会所など）を通りがかり、様子を見て参加を決めるケースもあります。</p>
3 個人のニーズ・目的 <p>体力づくり、健康維持、もの忘れ（認知症）予防、体を動かしたいといった健康志向のニーズや友人作り、仲間づくり、家族を亡くした喪失感や独居による寂しさの解消、話し相手の確保、仕事を退職した後の時間活用や、介護疲れのリフレッシュ、相談場所の確保などが挙げられています。</p>
③活動していて良かったと思う点
1 心身の健康維持・向上 <p>身体機能や認知機能の維持、健康意識の向上</p>
2 社会的つながりと孤立の防止 <p>外出の動機づけ、孤独感の解消、地域ネットワークの構築</p>
3 情報交換と学びの場 <p>有益な情報共有、多様な体験</p>
4 心理的充足感と幸福度の向上 <p>居場所の提供、相互扶助の芽生え</p>

④課題に感じていること
<p>1 参加者の減少と高齢化・健康問題</p> <p>高齢化に伴う体力の低下や病気・怪我により、自力での参加が困難になっている。コロナ禍以降、参加者数が減少したまま回復していない。移動手段の欠如（特に交通不便地域）や悪天候時の移動が大きな障壁となっている。健康状態の維持や転倒リスクへの不安が活動継続の重荷となっている。</p> <p>2 運営体制と担い手不足</p> <p>次期リーダーや運営スタッフの確保が極めて困難である。事務作業（資料作成や補助金申請など）を担える人材が不足している。「ボランティアで人を集めること」そのものの難しさに直面している。</p> <p>3 活動環境の維持と確保</p> <p>安定した活動場所の確保が難しく、公共施設の予約について抽選で落ちてしまった場合、予定していた活動が中止になる等の不安定さがある。また、会場費などの資金面、公団施設等における利用制限（居住者限定など）が活動の制約となっている。</p> <p>4 参加者の拡大と人間関係の構築</p> <p>若い世代や男性の参加者が増えない。既存メンバーの結束が強い一方で、新規参加者が馴染みにくいという閉鎖性への懸念がある。周知不足や活動内容の誤解により、入会に至っていないケースもある。</p> <p>5 支援・連携に関するニーズ</p> <p>活動内容のマンネリ化を防ぐための新たなメニューやレクリエーションの紹介を求めている。地域包括支援センター等の専門機関に対し、より深い理解やコーディネート機能の強化を期待している。健康診断の機会提供や初心者向け講習など、行政や社協による直接的な支援を求める声がある。</p>
⑤メンバーを増やすために必要だと思うこと
<p>1 口コミによるつながり</p> <p>最も信頼性が高く、効果的であると認識されている。既存メンバーや参加者からの紹介、男性参加者による広報などが重要視されている。</p> <p>2 地域ネットワークの活用</p> <p>町内会や自治会を通じた回覧板での周知、民生委員による声かけなど、既存の地域コミュニティとの連携が不可欠である。</p> <p>3 自由度の高い環境づくり</p> <p>「欠席時のみ連絡すれば良い」といった気軽に参加できる雰囲気や自由度の高い運営体制が、参加者の心理的ハードルを下げている。</p>
⑥団体を管理・運営している方への質問
団体を立ち上げる上で必要だと思うサポート
<p>1 活動場所の確保</p> <p>多くの回答者が活動場所の確保を最大の課題として挙げています。「近く、安定して使える場所があることが創設のきっかけになる」との指摘があり、場所の有無が活動の成否を分ける要因となっています。特に「無償または低廉な利用料」への要望が強く、現在の利用料負担が団体の財政を圧迫している現状が示唆されました</p> <p>2 行政・社協による伴走型支援</p> <p>立ち上げ当初の事務手続きや参加者集めのノウハウ不足を補うため、地域包括支援センターや社協による専門的なサポートが求められています。「どうしてよいかわからない」という不安を取り除くための、職員</p>

による継続的な伴走支援が重要です。

3 財政的支援

補助金の活用は団体運営において必須の要素です。場所代の負担軽減に加え、既存の補助制度の拡充や、より柔軟な財政支援が求められています。

4 実践的な機会と意識づけ

「おためし講習会」のような、活動の楽しさを体験した上で立ち上げを検討できる仕組みが有効との意見があります。また、活動開始に当たっては、「自分のためにやる」という意識の醸成や、複数名での運営体制づくりといったソフト面の支援も重要視されています。

⑦団体を管理・運営している方への質問

団体を継続していく上で必要だと思うサポート

1 経済的支援

活動資金そのものの補助や増額。コピー代、用紙代、備品購入費などの運営経費に対する補助。レクリエーションや外出活動のための費用支援

2 活動場所の確保と環境整備

公共施設について、会場予約手続きの簡素化（長期予約の導入など）や利用しやすい施設環境の整備（和室の椅子設置、フローリング化、駐車スペースの確保）。公民館等の利用調整の見直し（少人数での広範囲占有の是正）。空調の効いた室内など、季節に応じた適切な活動場所の提供

3 移動・アクセスのサポート

高齢者や遠方からの参加者のための移動手段（送迎バス、カーボランティア等）の確保。外出を促すための休憩スポット（まちなかベンチや民間施設との連携）の整備

4 人材確保と広報・連携強化

運営を支える若い世代（60代等）のボランティア人材の確保。広報誌への掲載支援やチラシ配布の協力など、参加者を増やすための広報サポート。包括支援センター、民生委員、行政担当課との連携・交流の強化

総括

1 活動の現状

活動歴は数か月から20年以上と幅広く、高齢者の交流や健康維持、認知症予防の場として機能しています。近隣住民や友人からの誘い、広報やチラシを見ての参加が多く、孤立防止や「外に出るきっかけ」を求めている参加者が大半です。体操や脳トレ、会話を通じた交流により、参加者の心身の健康維持、地域情報の共有、生きがいつくり大きく貢献しています。

2 運営上の課題

公共施設等の予約の煩雑さ、会場の広さやバリアフリー対応（段差、椅子）、空調設備、駐車スペースの確保に苦慮しています。高齢化に伴う運営メンバーの不足、後継者不在、事務作業（補助金申請や資料作成）の負担が重くなっています。活動の趣旨の誤解や、移動手段の欠如（自力歩行困難者の不参加）が新規参加の壁となっています。物価高騰に伴う活動資金の不足や、チラシ等の広報にかかる経費（コピー代等）の自己負担が課題です。

3 求められる支援・要望

運営ノウハウの提供や伴走支援、担当者との定期的な交流を強く求めています。その他の要望としては、

活動資金の補助金増額、コピー代の助成、備品購入への補助、施設使用料の無償化、安心して継続できる場所の確保、移動支援（送迎や休憩場所の整備）、車いす等の高齢者にも優しい会場づくり、市の広報誌を活用した周知や、地域団体（町内会・民生委員等）との連携強化が挙げられました。

(3) ケアマネジャー

①利用者から受ける日常生活の困りごと

1 認知症および身体機能の低下に伴う生活支援の限界

認知症による服薬管理の困難、金銭管理の喪失、排泄や入浴の拒否、意欲低下などの事例が挙げられました。これらに伴い、家族の介護負担が増大し、在宅介護の継続が困難になるケースもあります。

2 移動手段と経済的困窮

通院等のための移動手段（介護タクシー等）が不足していることや高額であることや、物価高の影響で医療費や施設入居費が捻出できないといった経済的困窮の事例が見られました。

3 社会的孤立と身元保証の問題

身寄りのない高齢者や家族関係が希薄なケースにおいて、施設入所や入院時の身元保証人確保、死後の手続きにケアマネジャーが対応しきれない場合があります。

4 サービス利用のミスマッチと調整の困難さ

医療的ケア（インスリン、胃ろう等）が必要な方の受け入れ施設不足や、急なショートステイ依頼への対応が挙げられました。デジタル機器（スマホ・Wi-Fi）や固定電話がない家庭の緊急連絡体制や、病院の相談員との連携がスムーズに行えていないケースもあります。

5 手続きの複雑化と支援の必要性

各種行政手続き（マイナンバーカード、確定申告等）や書類整理が本人・家族のみでは困難であり、包括的な支援を求める声が寄せられています。

②市の高齢者福祉サービスについての利用者からの感想

1 移送サービス

安価で使いやすく、先の日付まで予約できる点や丁寧な対応が大変好評。介護保険の第2号被保険者も利用できる点が評価されている。

2 配食サービス

安否確認の機能は家族にとって安心感がある。課題としては、メニューの質や味、量の低下に対する不満。医療食（腎臓食等）の価格負担が大きいこと。対象者の拡大や、1日複数食への対応を求める声がある。

3 紙おむつ支給

制度の利用者は助かっている。課題としては、所得制限（非課税世帯限定）により、経済的に困窮している課税世帯が利用できず、負担感を感じている。

4 その他サービス

訪問理美容やねたきり老人等手当については、感謝の声が挙がっている。見守りシールについては、実用面（身につけるものへの貼付の難しさ）での課題があり、GPS等の代替手段を求める声がある。

③市の高齢者福祉サービスについて、拡充・改善の要望

1 サービス対象要件の緩和・拡充

- ・紙おむつ支給：対象世帯の拡大（課税世帯への対象拡大や経済的に余裕のない課税者への配慮）を求める声が多い。
- ・配食サービス：「日中独居」や「同居家族がいる世帯」に対する柔軟な対応および栄養改善を主目的とし

た基準緩和を希望

- ・移送サービス：利用要件の緩和を求める意見がある。

2 サービスの質の向上・体制強化

- ・生活支援員：業者の不足や事業所数の少なさが課題
- ・移送サービスの信頼性：予約した車両が来ないといったトラブルへの改善要望
- ・配食サービスの多様化：メニューのバリエーション増加を希望

3 新規施策及び制度的な支援

- ・経済的支援：低所得者に対する介護サービス利用時の助成制度の創設（他自治体の事例を参考に、費用負担を理由としたサービス利用拒否を防ぐ仕組み）
- ・専門的支援：成年後見申立て中の支援サービスの整備
- ・見守り施策：「ひとり歩き高齢者見守りシール」の認知度向上や実効性の高い代替手段の検討

④介護離職をした方、または、介護離職をしそうな方の状況

1 離職に至るケース

認知症の親を介護するために遠方から転居してくる事例やデイサービス等の利用が困難になり訪問介護へ切り替えるタイミングで退職する事例が見られます。また、介護者が「自分が看取るべき」という強い使命感から、自ら離職を選択するケースもあります。

2 離職の予兆とリスク

通院付き添いによる休暇の増加や対象者の急変に対応するための突発的な欠勤が重なり、精神的負担から休職・離職に至るケースが報告されています。なお、介護離職者は、孤立やストレスから対象者への虐待リスクが高まる懸念も指摘されています。

3 働き方の調整

離職を回避するため、時短勤務やシフト減で対応する家庭がある一方、社内制度（時短勤務の期間制限など）の限界により、将来的な離職が懸念されるケースも存在します。

4 罪悪感と周囲の目

施設やショートステイの利用に対し「家族がやるべき」という罪悪感を抱きやすい傾向があります。また、近隣住民からの無理解な声かけが介護者を追い詰める要因となっています。

5 複合的な困難

認知症による徘徊などで警察への対応が必要となり、仕事を抜けざるを得ない状況が離職を加速させています。

6 離職後の健康リスク

介護終了後に介護者がうつ病を発症するケースなど、離職が必ずしも介護者本人にとって最善の選択になっていない側面もあります。

⑤どんな支援があれば、介護離職の防止につながる感じるか

1 サービス提供の柔軟性と質の向上

- ・夜間・突発対応の強化：小規模多機能型居宅介護の充実や、夜間ヘルパーの増員、緊急時の代行支援体制の構築が求められている。
- ・融通の利く支援：決まった曜日や時間だけでなく、家族の勤務体制に合わせた柔軟な利用や買い物・見守り等のプラスアルファの支援を望む声が多い。
- ・制度の弾力化：行政の対応がマニュアル重視で融通が利かないケースがあり、現場の実情に即した柔軟な

運用が求められている。

2 行政体制の連携と相談支援

- ・部署間連携の強化：障害福祉、生活保護、介護保険など、市役所内の課をまたいだ横のつながりを強化し、たらい回しを防ぐ体制が必要である。
- ・周知啓発：近隣住民からの理解が得られずトラブルになるケースもあり、介護サービスに対する地域への啓発活動が必要である。

3 新たな支援制度の検討

- ・子育て支援モデルの活用：病児保育やファミリーサポートセンターのような、安価で緊急時に対応できる介護版の支援体制が求められている。
- ・新たな担い手の確保：既存のヘルパー利用に抵抗がある世帯に対し、顔見知りの近隣住民が支援を行う際、公的な報酬が出るような仕組みを望む声がある。

4 経済的負担の軽減

介護費用が高額になることが離職の引き金となるため、安価に利用できるサービスの充実が必要。

5 介護者の孤立防止

介護者が「介護以外の活動」を継続できるよう、休息や見守りを通じたケアが必要である。また、介護休暇制度を育児休業並みに普及させる必要がある。

総括

1 利用者の主な困りごと

認知症・身体機能低下、移動・生活支援、社会的な孤立・経済困窮、制度の狭間の問題が挙げられています。

2 市の福祉サービスへの評価と要望

紙おむつ支給については、所得制限が厳しく、課税世帯でも経済的困窮がある家庭への支援拡充を強く求める声が多い。配食サービスについては、安否確認としては有用だが、メニューの質の向上、対象範囲（日中独居など）の拡大、利用のしやすさを求める声が目立つ。移送サービスについては、安価で便利である一方、利用要件の緩和や予約対応の改善が求められている。行政対応への不満については、担当者によって判断基準が異なることや、部署間の連携不足（たらい回し）に対する改善要望がある。

3 介護離職の現状と防止対策

離職の実態としては、家族の介護負担（突発的な呼び出し、通院付き添い等）により、定年を待たずに退職を余儀なくされるケースがある。周囲からの無理解や精神的追い詰めも要因となっている。

防止策への提言としては、柔軟なサービスの提供、経済的・制度的支援、相談体制の強化、新たな支援モデルが挙げられています。

(4) 民生委員

①高齢者の方からの相談内容
1 日常生活の支援・困りごと ・家事・生活支援: ゴミ出し、家事代行、庭木の剪定、独居生活への不安や孤独感 ・経済・権利: 成年後見制度の利用、家族関係の悩み、年金受給額が少なく生活が困窮している（生活保護の要件には該当しない層）。
2 移動・交通手段の課題 ・交通インフラ: 通院・買い物時の交通手段の不足、市内循環バスの運行本数不足、自宅からバス停までの距離が遠い。 ・買い物環境: スーパーが遠く、移動販売（とくし丸）の頻度では不十分。直接店舗で買い物をしたいというニーズ
3 住環境・安全性 ・生活環境: 自宅前の排水不良、大型車両の通行による騒音・振動・道路の破損 ・災害対策: 災害時の避難方法への不安
4 デジタル格差と行政サービスへのアクセス ・デジタル対応: 行政サービスの電子申請において、スマートフォンが使えない高齢者が取り残されている。また、事務手続き（通帳コピーや切手購入など）のために窓口や店舗へ行くこと自体が困難なケースがある。 ・心理的障壁: 公共サービスの利用に対して抵抗感を持つ層への対応
②高齢者の方からの相談を受けて、対応が難しかった事例
1 認知症・精神疾患に関連する課題 ・認知症による判断能力の低下や、それに伴うお金の管理（暗証番号管理、預金引き出し等）への対応 ・精神疾患を抱える家族の存在が、本人の心労や支援者（民生委員・ケアマネジャー）の介入の障壁となるケース ・認知機能低下による家族との価値観の不一致から生じる家庭内孤立
2 消費者トラブル・詐欺的被害 ・悪質な業者による不必要な屋根修理や高額請求 ・詐欺には該当しないまでも、契約時に不要なオプションを付加され、ライフライン維持費が不当に高額化するケース
3 権利擁護及び孤立死への対応 ・近隣トラブルへの介入の難しさ。 ・孤独死発生時における、親族との連絡が困難な状況下での身元確認対応（民生委員が警察と連携して対応せざるを得ない事態）
③担当している地域について、どのような支援のニーズがあると感じるか
1 実態把握と情報共有の改善 ・台帳上の同居実態と実際の居住状況に乖離があるため、正確な把握が必要である。 ・介護認定を受けておらず、近隣との交流もない孤立状態にある高齢者の情報共有を求めている。
2 日中独居世帯および要支援者への対応 ・75歳以上で、家族と同居していても日中は独居となる高齢者に対する見守りや支援の強化 ・介護認定未取得であっても、単独行動に支障がある高齢者へのサポート体制の構築

<p>3 生活支援・移動支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴支援へのニーズが高い。 ・バス路線がない地域の移動手段確保や、自力での買い物支援 ・デジタル（QRコード等）中心の周知方法を見直し、高齢者に配慮した文書ベースでの情報提供の徹底
<p>④高齢者の方からの相談を受ける際、長寿はつらつ課などの市の関係部署や地域包括支援センターから、どういった支援があれば、相談の解決に近づくか。</p>
<p>1 サービス・活動の充実と創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援の拡充: 買い物や通院時の付き添いボランティアの募集（学童ボランティアのような仕組み）や既存の生活支援サービス（社協「あいはあと」）の即時対応化など、利便性の向上 ・居場所・交流の促進: 老人会食の開催、地域のサロンの充実、集会所など気軽に相談・話し合いができる場所の紹介 ・啓発・ニーズ把握: 介護予防の啓発活動や、市民アンケートに基づいた個別の支援対応 <p>2 相談対応の仕組みづくりと連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応指針（マニュアル）の策定: 日常生活の困りごと（買い物や庭木の選定など）が発生した際、どの部署や機関（長寿はつらつ課、地域包括支援センター、社協など）へつなぐべきか、大筋の対応フローを明確化すること。 ・役割分担の明確化: 民生委員の業務範囲には限界があるため、どこまで対応すべきかというガイドラインの提示



総括
<p>1 高齢者からの主な相談内容</p> <p>生活全般の困りごとが多く、ゴミ出し、家事支援、通院・買い物手段の確保、独居への不安などが挙げられます。また、経済的な困窮や、道路の老朽化・交通振動といった生活環境に関する相談、デジタル化（電子申請・スマホ利用）への対応に苦慮する声も多く寄せられています。</p> <p>2 今後の支援ニーズ</p> <p>実態と台帳情報の乖離（独居の実態など）の解消や、未認定者への情報提供が求められています。また、移動支援や買い物支援、介護認定前のサポート、デジタルに依存しないアナログな情報発信（文書配布など）への要望が強くあります。</p> <p>3 行政・地域包括支援センターへの要望</p> <p>解決に向けた具体的な指針（対応の境界線や相談先フローの明確化）の作成の要望があります。また、買い物や通院のボランティア確保、地域のサロンや交流の場の充実、既存サービス（社協など）の即時対応化といった支援を求めています。</p>

第10期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に係る 市民ワークショップ 結果概要

1 実施目的

「第10期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」策定に当たり、市民の方々から様々な意見やアイデアを直接出していただき、参考とすることを目的とし、市民ワークショップを開催しました。

ワークショップでは、2つのテーマを設け、朝霞市に対して感じている「課題・意見」を洗い出しました。

2 開催日時・場所・参加者数

「朝霞市の高齢者福祉を考える市民ワークショップ」と題し、主に日常生活圏域ごとに各1回、合計6回開催しました。開催日時、場所及び参加者数は、以下のとおりです。

開催日時	開催場所	参加者数
令和8年2月4日（水） 午前10時～午前11時30分	産業文化センター 研修室兼集会室 第1	8名
令和8年2月4日（水） 午後2時～午後3時30分	宮戸市民センター ホール	4名
令和8年2月6日（金） 午前10時～午前11時30分	膝折市民センター ホール	5名
令和8年2月6日（金） 午後2時～午後3時30分	弁財市民センター ホール	5名
令和8年2月8日（日） 午前10時～午前11時30分	朝霞市役所 401会議室	9名
令和8年2月8日（日） 午後2時～午後3時30分	朝霞市役所 401会議室	4名
合計		35名

3 実施方法

以下の流れでワークショップを実施しました。

1) 開会

2) 朝霞市の現状について説明

参加者の方々に市の高齢化についての現状を報告しました。

3) テーマごとについての意見交換

以下の各テーマに沿って「課題・意見」についてグループ内で話し合いました。

《2つのテーマ》

- ① 自分が年を重ねたとき、または年を重ねた今、どんなことがしたいか、どんな風に暮らしたいか
- ② 高齢者や認知症の方、ご自身を含めた誰もが地域で自分らしく暮らし続けるための具体的なアイデアや必要と考える支援策

4) グループとして発表する内容のまとめ

グループ内で「課題・意見」とそれに係る「取組・アイデア」をまとめた上で、グループごとに発表しました。

5) 閉会

4. ワークショップ開催結果概要

◎各テーマの意見集約

テーマ①「自分が年を重ねたとき、または年を重ねた今、どんなことがしたいか、どんな風に暮らしたいか」についての意見

高齢者は単なる「介護の対象」ではなく、生きがいを持ち、社会と関わりながら能動的に生活を送る主体であることが重要であるとの意見が多くありました。主な意見は以下のとおりです。

●健康維持と自立した生活

- ・健康寿命の延伸が大切
- ・「ピンピンコロリ」が理想的
- ・日々の散歩や運動、バランスの取れた食事が重要
- ・認知症への不安はあるが、可能な限り自宅で自立して生活したい。

●生きがいと自己実現

- ・趣味（音楽、絵画、園芸、料理等）や旅行、学び直し（プログラミング等）などをしていきたい。
- ・「今日行くところがある」、「用事がある」といった社会参加を伴う活動を行っていきたい。

●社会とのつながりと居場所づくり

- ・孤立を防ぐため、他者との交流を続けていきたい。
- ・サロン運営、ボランティア活動、多世代（特に若者や子ども）との交流など、地域に貢献しながら相互に支え合う関係性を築いていきたい。
- ・地域活動における役割負担感や気軽に集える場所の情報不足が課題である。

●生活環境と移動手段の確保

- ・住み慣れた地域で暮らし続けるためには、ハード面の整備が不可欠
- ・「移動手段の確保」は生活の質を左右する最重要課題
- ・コミュニティバスの増便や移動販売に期待する。
- ・車椅子の通行を想定した道路のバリアフリー化
- ・w i - f i 環境の整備、公園の照明改善

テーマ①「自分が年を重ねたとき、または年を重ねた今、どんなことがしたいか、どんな風に暮らしたいか」における課題・ニーズ

市民が地域で自分らしく暮らし続けるためには、日常的な困りごとの解消からコミュニティ形成まで、包括的なアプローチが必要となっています。具体的には以下のとおりです。

1 生活支援の強化

家事代行や移動手段の確保など、身体的・物理的なサポート体制の構築が求められています。

2 交流機会の創出

地域の方や近所の方、多世代が交流できるイベント（ボッチャ、ノルディックウォーキング等）の実施が求められています。

3 健康増進の推進

フレイル予防教室の普及や、日常的な運動環境の整備が求められています。

4 インフラと施設の充実

デイサービスや訪問医療の拡充や誰もが気軽に立ち寄れる安価なカフェや居場所の整備が求められています。

ワークショップ参加者は、高齢期においても社会の一員として「貢献し、つながり、学び続けること」を望んでいました。行政としては、高齢者の意欲を尊重し、ハード・ソフト両面から「孤立させない、孤立しない」環境を整備することが重要であると思われます。また、日常のちょっとした困りごとを解消しつつ、多世代が共生できる地域づくりを推進することが、住みよい朝霞の実現につながるものと考えられます。

テーマ②「高齢者や認知症の方、ご自身を含めた誰もが地域で自分らしく暮らし続けるための具体的なアイデアや必要と考える支援策」についての意見

物理的なインフラ整備から、精神的な孤立防止、地域コミュニティの再構築まで、多角的な視点からの意見が多くありました。主な意見は以下のとおりです。

●生活インフラと移動支援

- ・歩道のバリアフリー化やトイレの改善
- ・免許返納を見据えた乗合タクシーの拡充や公共交通機関の経済的支援など、外出を促進するための移動手段の多様化

●居場所とコミュニティの形成

- ・「シルバーカフェ」や空き家を活用したサロンの活性化
- ・安価で気軽に立ち寄れる居場所が必要
- ・孤立防止や介護予防、災害時の安否確認の拠点となる居場所の拡充

●見守りと支え合いの仕組み

- ・近隣住民によるゴミ出し確認や挨拶といった日常的な「お互い様」の関係構築が重要
- ・民生委員や町会との連携を維持しつつ、デジタル技術を活用した安否確認が必要

●認知症への理解と支援

- ・認知症を特別視しない。
- ・小中学生への認知症に関する教育や正しい知識の普及を通じて、地域全体で支える環境づくりが求められる。
- ・相談窓口のワンストップ化が求められる。
- ・個別の状態に応じた継続的なフォローアップ体制の構築が求められる。

●行政への期待と連携

- ・行政の個々のライフスタイルや自立度に応じた細やかな支援が求められる。
- ・情報の一元化や分かりやすい資料提供
- ・行政と市民・専門職との連携強化が求められる。

テーマ②「高齢者や認知症の方、ご自身を含めた誰もが地域で自分らしく暮らし続けるための具体的なアイデアや必要と考える支援策」における課題・ニーズ

支援のあり方は、「行政による一方的なサービス提供」ではなく「行政と市民の協働による環境づくり」が重要であるとの意見が多くありました。主な意見は以下のとおりです。

1 環境整備の推進

- ・インフラ整備や活動拠点の提供が必要
- ・健康づくりツールの提供の充実

2 個別支援の充実

- ・高齢者を一括りにせず、個別対応することが重要
- ・家族構成やニーズ（自立重視か、サポート重視か）に応じたパーソナライズされた支援パッケージの検討が重要

3 情報アクセスの改善

- ・複雑な福祉・医療情報を分かりやすく情報提供することが必要
- ・住民が迷わずに必要な支援へアクセスできる仕組みの構築が重要

地域で暮らし続けるための支援策には、ハード・ソフトの両面からのアプローチが不可欠であるとの意見が多数ありました。特に、「人を頼ることは恥ではない」という意識変革を促す啓発活動と、それを支える具体的な地域ネットワークの構築を同時に進めることで、誰もが安心して歳を重ねられるまちづくりを目指すべきであるとの意見が多くありました。

令和8年度における介護保険制度及び高齢者施策の予定について

(1) 令和7年度税制改正に伴う介護保険料の標準段階に係る基準の見直し

【朝霞市介護保険条例の一部を改正する条例が令和8年4月1日に施行】

内容：令和7年度の税制改正において給与所得控除の最低保障額が見直されたことを踏まえ、保険者の想定しない保険料収入不足を可能な限り防ぐ観点から介護保険法施行令の一部が改正されることにともない、令和8年度介護保険料の算定に関する、合計所得金額の算定方法及び市町村民税の課税・非課税の判定基準について特例を設けるもの

(2) 介護保険料等における基準額の見直し

【介護保険法施行令の一部を改正する政令が令和8年4月1日に施行】

内容：介護保険料の標準段階について、令和7年度の年金額改定により、令和7年中の老齢基礎年金の満額支給額が82万6,464円となり、現状の80万9,000円を超えることを踏まえ、基準が見直され、第1段階及び第4段階の所得基準の一部について、80万9,000円から82万6,500円に基準所得金額を見直すもの。

(3) 介護報酬の改定

「介護職員等処遇改善加算の拡充、基準費用額（食費）の見直し」

・介護職員等処遇改善加算…【令和8年6月予定】

内容：令和9年度介護報酬改定を待たずに期中改定を実施するもの。

「介護職員等処遇改善加算」は対象者の拡大や介護職員1人当たり最大で月1.9万円の賃上げとなる見込み。

・基準費用額（食費）の見直し…【令和8年8月予定】

内容：基準費用額（食費）が1日あたり1,445円から1,545円に引き上がる見込み。

(4) 看護小規模多機能型居宅介護の整備

【令和8年度の取組】

内容：令和8年3月23日（月）までの公募期間内の応募には至らなかった状況。なお、令和8年度の埼玉県補助金については、令和8年3月27日（金）までに事業者が確定していない事業については、内示をしないという内容の通知があった。

(5) 外出支援の充実に係る取組状況

【令和8年度の予定】

地域公共交通協議会の福祉部会での議論の結果、新たな移動支援としてデマンド交通（タクシー補助）の具体的な検討を行う方向性とし、令和8年度は実証実験を行う。

また、デマンド交通（タクシー補助）が検討されたことから、外出が困難な高齢者などを対象とした補助制度へ財源を集中させるため、バス・鉄道共通カードチャージ料給付事業については、令和7年度末をもって廃止とする。

参考:デマンド交通(タクシー補助)概要

- ・交通施策推進事業として実施する。
- ・令和8年7月～令和9年3月までの9カ月間、実証実験として実施。
- ・利用回数は月4回、年48回を上限とする。
- ・市補助額は、タクシー利用料金の半額(上限 700 円)とする。

(利用例)

迎車料金 + 初乗り運賃 + 加算運賃 = タクシー料金 ⇒ 市補助額
(500 円) (500 円) (500 円) (1,500 円) (700 円)

※タクシー料金から市補助額を差し引いた金額(800 円)が利用者負担となる。

資料5

令和8年4月行政組織機構改革 組織図比較表

令和7年4月1日現在

福祉部
福祉部長
福祉相談課
課長・補佐
地域福祉係
福祉相談係
生活援護課
課長・補佐
生活援護総務係
生活援護第1係
生活援護第2係
生活援護第3係
障害福祉課
課長・補佐
障害給付係
障害福祉係
長寿はつらつ課
課長・補佐
高齢者支援係
地域包括ケア推進係
介護保険係
介護認定係
ねんりんピック室
室長
ねんりんピック係

令和8年4月1日現在

福祉部
福祉部長
地域共生社会課
課長・補佐
地域共生推進係
福祉相談支援係
高齢者・地域福祉課
課長・補佐
社会福祉係
高齢者あんしん係
ねんりんピック室
室長
ねんりんピック係
障害福祉課
課長・補佐
障害給付係
障害者支援係
生活援護課
課長・補佐
生活援護総務係
生活援護第1係
生活援護第2係
生活援護第3係
生活援護第4係

令和7年4月1日現在

こども・健康部
こども・健康部長
こども未来課
課長・補佐
こども未来係
こども給付係
保育課
課長・補佐
保育総務係
保育支援係
保育係
保育園計
浜崎保育園
東朝霞保育園
溝沼保育園
本町保育園
根岸台保育園
北朝霞保育園
北朝霞保育園分園
栄町保育園
泉水保育園
さくら保育園
健康づくり課
課長・補佐
健康推進係
予防係
こども家庭センター
室長・補佐
母子保健係
こども相談係
保険年金課
課長・補佐
国民健康保険係
高齢者医療係
保健事業係
国民年金係

令和8年4月1日現在

健康部
健康部長
健康づくり課
課長・補佐
健康推進係
保健事業係
予防係
国保年金課
課長・補佐
国保給付係
国保賦課係
高齢者医療係
国民年金係
介護保険課
課長・補佐
介護保険係
介護認定係
こども部
こども部長
こども未来課
課長・補佐
こども支援係
こども育成係
こども給付係
こども家庭課
課長・補佐
こども家庭総務係
こども相談係
こども保健係
保育課
課長・補佐
保育総務係
保育入所係
施設給付係
保育園
浜崎保育園
東朝霞保育園
溝沼保育園
本町保育園
根岸台保育園
北朝霞保育園
北朝霞保育園分園
栄町保育園
泉水保育園
さくら保育園

令和7年4月1日現在

都市建設部
都市建設部長
まちづくり推進課
課長・補佐
都市計画係
区画整理係
交通政策係

以下、略

令和8年4月1日現在

都市建設部
都市建設部長
まちづくり推進課
課長・補佐
都市計画係
交通政策係
ウォークアブル推進係

以下、略

令和7年4月1日現在

市長公室
市長公室長
政策企画課
課長・補佐
政策企画係

以下、略

令和8年4月1日現在

市長公室
市長公室長
政策企画課
課長・補佐
政策企画係
ファミリアマネジメント推進室
室長
ファミリアマネジメント推進係

以下、略

令和8年度のスケジュール及び審議内容について

■ 令和8年度のスケジュール

☞ 第10期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（計画期間：令和9年度～11年度）を令和7年度・令和8年度の2か年で策定

年 月	令和8年										令和9年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
推進会議				第1回			第2回	第3回			第4回		
計画策定に向けた 具体的な取組	日常生活圏域ごとの分析等 第9期計画期間の事業総括				介護給付費の推計 介護保険料の検討				市民 コメント				
計画策定の予定	骨子案作成				素案作成					計画(案) 確定		計画確定	
その他				国の基本指針 (案)提示						国の基本 指針公示			

■ 推進会議の審議内容（予定）

推進会議	日程（目安）	内容
第1回	令和8年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・計画（骨子案）について ・第9期計画の振り返りについて（事業総括） ・国の基本指針（案）について
第2回	令和8年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・計画（素案）について
第3回	令和8年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・計画（案）について ・保険料率（案）について
第4回	令和9年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・計画（案）の確定について ・市民コメントの結果等について